カトリック
福岡教区報

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

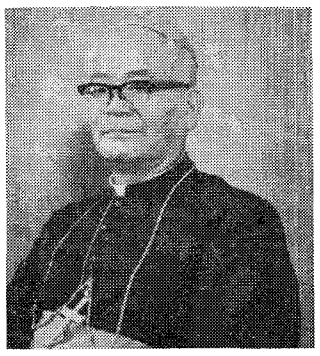
今月のみことば

愛は
決して滅びない
（Ⅰコリント13・8）
茶山教会　堤要吉神父

幼少年への信仰教育の強化

「家族での祈り」の復活を

カテキスタの養成も課題


年頭のあいさつを述べる教区長の平田三郎司教

年頭メッセージ（全文は2面に掲載）が発表された。

この中で司教は、今年の教区目標を「教区のすべての信者、わけても幼少年の信仰教育の強化」においている。

教書はこの中で、まず信仰教育弱体化の原因にふれ、大人社会は、急速な産業化や都市化によってますます多忙になり、信者の家庭でも信仰教育の為の時間を作りだすことが難しくなっていると分析。

この影響は幼少年の世界にまで及び、テレビが子供たちに与える問題として、物質的なものへの関心が、神に向かう心を失わせていると指摘。また、学校での「部活」の問題について、「特に、土曜、日曜に行われる部活は、若者の自由な時間と神に向かう性行を奪い、信仰教育への興味を削いでいる」と注意を喚起している。

つぎに、このような状態を改善するために、まず、「家庭の福音化」をあげている。それは、「家族としての喜びや悲しみを共に体験し、共に祈ること」が基本であるという。

最後に、家庭での信仰教育の充実と補完関係にある教会での「要理教育」にボランティア・カテキスタの養成を論じている。

現代の子供たちに合った「要理教育」を実践するため、聖書を中心にすえたカリキュラム、児童心理学や視聴覚教材を応用、活用するための研修会、講座を教区あるいは地区レベルで実施するよう促している。

教区の青年が合同練成会

教会の将来に希望

「愛・きづく」をテーマに教区の青年たちが合同練成会を行った。

11月26（土）、27日（日）の二日間、会場のカテドラル・センターは、福岡、北九州、筑後、佐賀、熊本の各ブロックから、またサン・スルピス大神学院の21名の神学生を含めておよそ一二〇名の若者で熱気を帯びていた。

開会式の後、映画「マザーテレサとその世界」を鑑賞。懇談会に移ってからは、各ブロックが準備したゲーム、音楽、寸劇などが披露され、会場はなごやかな雰囲気に包まれていた。

翌日午前9時には、平田司教も青年たちの激励に駆けつけ、励ましの言葉と祝福を贈った。

ついで、昨年5月に教区青少年担当司祭団が主催した「日韓カトリック青年交流会」の参加者の一人、牧山典子さん（佐賀教会）が韓国の民族衣装チョゴリを着て、体験を報告。

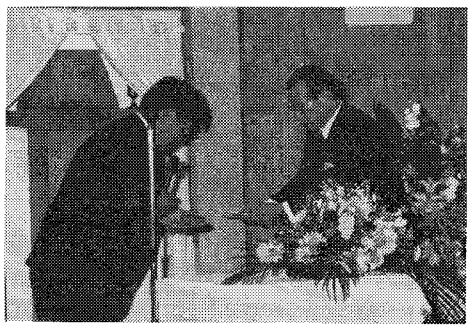
つづいて、信仰、友人、男女関係、など12のテーマに分かれ、小グループでの分かち合いをし、率直な意見の交換が行われた。

しめくくりのミサの中で、森山信三師（大名町）は「若者のパワーをおもいっきり教会にぶつけてください」と訴えていた。

青木悟師（教区青少年担当司祭）の話　テーマが全体として漠然としていたきらいもあったが、この二日間、青年たちの形の分かち合いがなされ、共に喜び合うことができたことを天の御父に感謝します。

小郡教会創立二十五周年記念

市の福祉事業に寄付


山田市長（右）に寄付金を贈呈する信徒会会長の平田武光氏

創立二十五周年を迎えた小郡教会（主任渡辺隆義師）の記念式典が11月27日、小郡市長の山田幸雄氏ら教会外の招待者も交え盛大に挙行された。

第一部のミサでは、堅信の秘跡を受ける中学生7名、大人8名、計15名が、平田三郎司教、岩永義人（二日市）、堤敏雄（本郷）、平田敬（久留米）師らと入堂。

受堅者は、司教の質問に緊張した面持ちであったが、無事パス。堅信の秘跡を受けた。

第二部では、歴代の主任司祭の二日間、会場のカテドラル・センターは、福岡、北九州、筑後、佐賀、熊本の各ブロックから、またサン・スルピス大神学院の21名の神学生を含めておよそ一二〇名の若者で熱気を帯びていた。

開会式の後、映画「マザーテレサとその世界」を鑑賞。懇談会に移ってからは、各ブ

時の話題

吉来熊生

昭和四十六年の秋、大分教区宮崎地区恒例の信徒大会があり、大会決議として名古屋に本部がある「愛の実行運動」への参加がきめられた。

その翌年の春、その実施についての反省会が開かれた。延々三時間におよぶ反省会が終わってふと一つのことに気がついた。

それは、愛とは何か、実行とはどうすればよいかというような議論に終始していた。ガラス戸をへだてて外は冷たい三月の風。内は暖房でぬくぬくとしているので外の寒さがわからない。教会と社会は何の関係もない別世界である。

そのときふと、県内の土呂久・松尾両鉱山のヒ素汚染に気がついた。

教会はこのような災害に無関心であってもよいのか。

地域の教会は主イエズス・キリストからその地域に派遣されたのだ。その地域の人々をわれらはイエズスから託されたのだ。彼らは社会から切り離された抽象的人間ではない。社会に密着した具体的人間なのだ。かれらを苦しめているのは公害という社会的事件なのだ。

公害被害者はイエズスから与えられた小さい兄弟なのだ。かれらこそわれらの隣人である。

私はカトリックを標榜（ひょうぼう）して鉱毒事件にとびこんだ。四十八年の社研のセミナーで支援を訴えるとたちまち全国からカンパが集まった。

あれから一七年。いまではカリタス・ジャパンの大口の援助のほか、約二〇〇の修道院と、ほぼ同数の個人から愛の献金を受けている。

長年月の支援運動と裁判闘争はカトリックを主力とするカンパ活動によって支えられている。

（西南学院大学講師　西新教会所属）

愛の社会化

主の御降誕と新年のお慶びを申し上げます

一九八九年元旦

福岡教区長　平田三郎司教

〈福岡地区〉
司教館　平田惣五郎、牧山藤房、牧山重光、川口康頼、青木保、森山信三、粟本昭夫、泉類治
大名町　浄水通　P・ブランガン
西新　山川辰幸、堤要吉、
笹丘　茶山　赤倉稔、T・ドワイヤー
高宮　須賀沢公男、春山勝美
大楠　鵜野泰年、畠山七郎、B・シュルツ
美野島　吉塚　箱崎　T・リシャール
老司　竹森勇、光ケ丘　山田成章、古賀　F・ハーン
二日市　乾盛夫、岩永義人、
小郡　渡辺隆義、本郷　堤敏雄、
今村　糸永一、久留米　糸永武男、平田敬、
大牟田　三村邦明、呼子　下町豊重、
馬渡島　西田邦洋、田川清美、伊東誠二
大神学院　高木善行、J・P・ラベル、J・ツルデル、A・ラブラント、Z・イェール
小神学校　山内清海、中浜一男、高見三明、松井忠之、塚本孝夫、杉原寛信、鈴木忠一、畠基幸、M・ヴェッター、G・ブレシュト、K・ウーリック
聖パウロ会　黙想の家　イエズス会　須賀沢公男、生熊秀夫、草野純英、小崎次郎、塩谷恵策、S・オチョア、西山和男、牛尾幸生、S・ライル
皿山FC　八王寺
〈北九州地区〉
L・デシャンブ、M・ボンカズ、徳山登、E・モーゼ、J・ガイヤール、C・バスチ、山元真、平田三好、平田寛、浦俊雄、M・コース、L・ベリオン
門司港　門司　小倉　湯川、戸畑、若松、水巻
黒崎　J・バイヨ、H・キニュ、E・ラバルタ、浦口均、J・ノーリス、L・グロージャン、平田正喜、川上惣一、深堀勝人、
天神　直方　飯塚　田川　新田原　行橋
〈佐賀地区〉
鳥栖　佐賀　R・マグリン、A・ディベロ、A・アレグリーニ、山下正、A・スカットロン、F・サルデイ、C・ガッザルデイ、A・テンペリーニ、C・ミケレーナ
唐津　武雄　伊万里・多久　鹿島　トラピスト
〈熊本地区〉
玉名　手取　W・グリン、B・ジョー、V・ヤンキャンプ、J・オブライエン、青木悟、J・ベラス、A・ベルトラン、W・カリー、M・コニリー、K・オマホニ、牧山勝美、B・フォード、H・オカロール、黒川博、V・ヤンキャンプ、J・ベラス、F・カロール、H・ハンター、P・ダイアモンド、S・フランコ、L・ベリオン
健軍　島崎　島崎修道院　荒尾　帯山　菊池　武蔵ケ丘　八代　人吉　水俣　本渡　大江　崎津
交流センター　海外留学　桜井尚明

みちくさ

師走のある夜、食後の片付けをしながら、ふと、「この一年、すごく恵まれていたなあ」としみじみ思った。食べるもの、着るもの、住む場所に事欠いたことはなかった。なにより、いろんな問題もあったけど、そのつど神さまは適当な助け手を与えてくださり、乗り越えさせてくださった▼でも、こんな幸せが続くとは思ってもいないし、望んでもいない。そのワケは、自分の幸せが、他の人の痛みへの共感を鈍くさせるのでは、と恐れるから。ただ、もし神さまが大きな試練の前の栄光の時として、今を与えておられるなら喜んでお受けしよう。ぜいたくな悩みだろうか▼昨年も一人〝みちくさ〟をくいながら、『貧しい人』『小さな人』と何度つぶやいたことだろう。自分では、決してその一人になれなかったのに。ときどき、「私のことを言われているようで……」という声を聞いた。もうずっと前にお断りしておいたことだが、〝みちくさ〟は、他人様のことをとやかく言える柄ではないことを十分に自覚している。ひたすらに自問自答しているだけである▼皆んな必至に自分の人生を生きている。司祭も信徒も修道者も皆んな必至に自分の信仰を生きようとしている。それでいいではないか。他の人に自分と同じ考え、行動を要求するからイライラするし、頭にもくる。いつも善意を持って関わり、信じることを学ぼう。そのあとのことはもう神さまにまかせよう。神さまの領域だから▼今年もまた、一緒に旅に出よう。どんな出会いが待ち受けているのか、誰にも分からない。ただひとつだけ分かっていること、それは、全てのことに意味があること。自分のためには、「よい年でありますように」とは祈らない。ただ、「一つひとつの出来事、人との出会いの中で、誠実に神さまの御旨を生きることができますように」と祈りたい。

年頭の願い

ペトロ平田三郎

新しい恵みの年一九八九年を迎え、神の平和の祝福が、教区の司祭・修道者・信徒一同の上に豊かに注がれるよう祈ります。

救い主キリストの降誕二千周年を間近に控えている今年の私の願いは、教区のすべての信者、わけても幼少年の信仰教育の強化です。

社会の急激な変化に伴い、大切な信仰の遺産の伝授はむずかしくなり、明日の教会はどうなるのか、一抹の不安を抱かせるような状態にあるからです。

この危機をどうしたら切り抜けることができるか、教区の皆さまと一緒に、その方策を考えてみたいと思います。

Ⅰ 信仰教育弱体化の原因

人生の根本問題に光を当て、信者としての歩みを確固なものにする信仰教育は、社会構造の変化、教育風潮の変遷、科学技術の進歩とそれに伴う価値観の転換などによって、ますます困難になってきました。

卑近な例として、テレビの影響や学校での「部活」などをあげることができましょう。毎日、長時間にわたって視聴覚に訴えるなまなましい映像は、地上の物質的なものにあまりにも関心をもたせ、キリストのメッセージに心を開き、神に近づく心を育てません。また、土曜、日曜に行われる「部活」は、若者の自由な時間と神に向かう性向を奪い、信仰教育への興味を削(そ)いでいます。

また、世俗化された世に生きる家族の生活も現世的になり、以前あった家庭の宗教的雰囲気は薄らぎ、それに伴う家庭倫理の低下により、「幼少年の信仰教育の第一の責任者は親である」ことが実感されないようになりました。

多くの人々は、現代の産業化や都市化により、ますます忙しくなり、信仰教育のために十分な時間を充てることができなくなりました。

このような状況にあって、信仰教育のための専任カテキスタを雇うことは、今日の教会の経済状態では不可能になってきました。

小さな教会の司祭は、ハウスキーパーさえ雇うことができず、自炊を余儀なくされるということになってきております。

韓国やアフリカの教会の隆盛の原因の一つが、多くのカテキスタの働きによっていることを思うとき、経済大国となった日本の教会の現状は皮肉とも思えるのです。

Ⅱ 問題の解決策

このような状態にある信仰教育を、どうしたら建て直すことができるのか。

この問題は、将来の日本の教会の重大な課題として、京都での全国会議でも取り上げられました。

世俗主義や現世主義の流れの中にあって、キリストを受け入れ、その教えを実生活の中で喜んで実践できるよう導く使命はまず両親、家庭にあります。子供の安定感と信頼感、聖なるものに対しての感受性、良心形成の土台は、家庭生活の中で築かれて行きます。家庭に起る喜びや悲しみを共に体験して、共に祈ることなどは、順序立てて理論的に教えることよりも、子供に信仰を植えつけ、育てるのに役に立ちます。

要するに、家庭の福音化は、幼少年の信仰教育の根底をなすものでしょう。

たしかに、家庭の集合体である小教区での信仰教育の大きな責任の一端は司祭にあります。しかし、その教育は年齢層に応じて施す必要があります。このため、特に、大きな小教区では、子供の数も多く、ひとりやふたりの司祭では手に負えず、一般信徒の助けを必要としています。

フル・タイムのカテキスタを雇う経済力のない現在の教会にとって、多くのボランティア・カテキスタの援助が必要なのです。

Ⅲ ボランティア・カテキスタの養成

信仰とは何か、その内容をどのような順序で、どのような方法で教えるかをよく心得ていないと、信仰は喜びどころか、窮屈な道徳ずくめのものとなり、養成するよりはむしろ、宗教心をゆがめることにもなりかねません。

一昔前、自分が受けた要理を、同じ方法で、そのまま教えようとしても、現代の子供には無理です。かえって、いやな教育の場には行きたくないために、教会離れの原因にもなることを考えねばならないと思います。

また、知識としての信仰だけでなく、心に感じ、喜んで実践に向かわせる信仰、キリストの招きに、個人的な決断を下して応える信仰、自分が住んでいる国・地方の宗教文化に応じて、キリストのメッセージをよりよく理解させるような信仰教育が求められます。

こういうわけで、幼少年の信仰教育者となるカテキスタのための養成と準備が必要であります。

むすび

教区の司祭評議会と司牧評議会は、急を要するこのボランティア・カテキスタの教区レベル、小教区レベルでの養成の必要を感じ、信仰教育委員会を設置して、その組織造りに乗り出しました。

この委員会には、定期的にカテキスタ養成のための研修会、講座を開いていただきたいと思います。

そこでは、キリスト教信仰の正確な知識を身につけ、とくに、人類に対する神の使信である聖書を学び、児童心理学や視聴覚教材を使った実践的教育を体得し、秘跡を中心とした深い霊的生活を自らも体験し、人にも体験させて信仰の喜びを伝えることなどが中心となるでしょう。

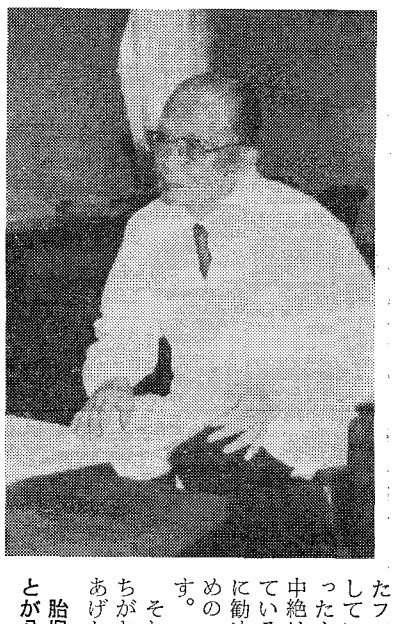
信徒の使徒職としてのこのような重大な使命が、教区の信者一同によく理解され、多くのボランティア・カテキスタがその招きに応え、大切な幼少年の信仰教育に献身されるよう切に祈ります。

新春インタビュー

井手一郎氏に聞く

(久留米聖マリア病院院長)

きき手　編集部



昨年は叙勲おめでとうございます。叙勲の対象となったものは何でしょうか。

それは医療面で私どもが国際協力に前向きに取り組んできたからだと思います。

うちからは、これまで、ネパール、パキスタン、エジプトなどに看護婦さんを派遣しています。外国からの研修生も受け入れています。

たしかに、国などで外国への医療チーム派遣のため全国から募集すれば医者は集まるのですが、看護婦さんとか検査技師はなかなか思うようにならないのが実情です。

ところがうちの病院では、皆よく理解してくれていて大変協力的ですよ。

医者になろうとされた動機をお聞かせください。

私の親父は医者でしたが、貧しい人たちには薬代なんかを減額しておりましてね。母が帳簿をつけておりましたね。そのために蔵は建たなかったのですが……。その分、私の弟、従兄弟の速見さんなど4人の医者をつくりました。

親父は、カテキスタになるつもりで長崎に行ったのですが、どういうわけか医専を卒業しました。そして久留米の私立の病院の内科部長を務め、大正4年に辞めて聖マリア病院を開業したのです。

親父のそばでずーっと見ていたものですから、旧制の高等学校の時から医者にならにゃいかんと思うとりましたね。医者はもう運命づけられておったんです。

医者になられて50年だそうですが、医療もだいぶ変ってきているでしょうね。

そうです。医学はボンボン進んできました。それも研究室での科学的な理論がすぐ実践に移されるでしょ。

ところが、日本の医療の世界ではまだ宗教の力が弱いのです。だからそこらあたりでは、十分気をつける必要がありますね。

医者の根本的な心構えというのは何でしょうか。

特に、生命についていうなら、無理やり機械を使って生命を延長する必要はないでしょう。本人が延命処置を受けたくないならそういう処置はすべきではないでしょうね。

いずれにしろ、生命を虫けらみたいに眺めたり、扱ったりしたらいかんということですよ。

それから、中絶は絶対に。法律が許可していてもこれはもう嬰児殺しです。聖マリア病院では絶対にしません。

中絶の相談に来られた方にはどうされますか。

産婦人科の医者が相談にのりますが「せっかく妊娠したのだから産むように」と説得します。

以前にこんなこともありました。日本に出稼ぎにきていたフィリピン人女性が、妊娠している子をおろしたいといったんで、「カトリックでは中絶はせんということを知っているでしょう」と産むように勧めたのですが、出産のためのお金がないというのです。

それでうちの看護婦さんたちがお金を出し合って助けてあげたこともありますよ。

胎児が障害を持っていることが分かっていてもですか。

こんなケースがありましたね。胎児が水頭症であることが分かって、産婦人科と脳神経外科の医者が真剣に話し合っているうち「やっぱり中絶せんと一生苦労することになる」という流れになっていましたが、産婦人科の医者をしているうちの娘が強硬に反対して「赤ちゃんにはなんの罪もないのだから産ませるべきだ。もし、あとが困るようだったら自分が養子として引き取る」といったんです。それで、脳神経外科の先生もその子のために精一杯のことをして産ませたのです。

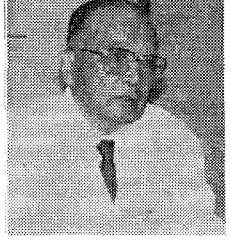
カトリックの医者にはこれくらいの覚悟が要求されます。

聖マリア病院は、未熟児の医療実績でよく知られていますが。

未熟児をやり始めましたのは、昭和32年ごろです。

看護婦さんたちを九州大学や国立病院の小児科に研修のため派遣して協力してやりました。

そのころは死亡率が80%ぐらいあったでしょうか。



看護婦さんたちがベソかいてですね。「先生、もういくら頑張っても、どうしても助かりません。自分たちにはもう出来ません」っていって来たんです。ここでわたしが引きさがったらもうおしまいと思ったので「あなた方が断ったら、その子は必ず死ぬぞ。受け入れてもらえるところはないのだから」と叱た激励しましたよ。

そのうち、だんだん死亡率もさがって来ました。

今世界で一番大きな未熟児センターはうちの一二〇床です。

外国では、アメリカのトロント大学の未熟児センターの六〇床が一番大きいといわれています。

このため、隣の佐賀県や長崎からも運ばれてきます。時には、未熟児は取り扱いが難しいので、消防署のほうからお宅の救急車で迎えにきてください、ということもね。

新年の抱負を一言

今やっていることをそのまま伸ばしていきたいですね。

救急医療。未熟児も収容するし、公衆衛生活動では集団検診もやるし、そういう国内的なことを全部やりながら、国際協力を本格的に伸ばしていきたい、そんなことを考えています。

自由席

マリア様に涙で感謝

波佐(はざ)　栄子

長い飛行機の道程を終えて寒いはずのルルドの空港は春の陽だまりのような気候の中に降りたちました。

洞窟への参道を神父様畠山さんの先導の裡にめでたしをくりかえしながらのマリア様への道でした。写真で感じてはおりましたものの洞内の荘厳さ又皆様の粛々とした雰囲気はまさにマリア様によりたのむ、言葉そのものでした。

ルルドを終えて夜行寝台列車に乗りかえそしてファチマへ。壮大な教会とその前庭にいざりながらロザリオをつまぐる黒人の親子、夜はローソク行列でアヴェマリアを何百人もの人々が天まで届けと大合唱をする時私の感激は頂点に達し強い風のために途切れがちなローソクの火の様に私のアヴェマリアの歌声も涙のために途切れるのでした。

巡礼はお恵であると最初の会合の時に何気なしに聞いていた私でしたが、毎日由緒ある巡礼地でのミサ時の表現し難い内的充実、もつれにもつれた綾の糸が全部解けて、お恵がすべて表面に出た私の巡礼の旅でございました。(二日市教会)

共に祈る集いに参加して

山本

カルメル会で祈り会があることを知り、気が重かったが参加してみた。聖書や説教を聴くこと祈ることが真の謙遜(無力)さへそして主に向かう誠実な心の姿勢を、自分の中に与えてくれないのなら、また生きる原動力にならないのなら、そんな祈りは、自己満足と欺瞞な平安をむさぼるだけのものでしかないのではないか。なあんて考えているから、ダメなんだと思い直して参加したのだった。

終わってからの松村神父さんのお話にすばらしいものを感じた。アジアの貧しい国で、プロテスタントの医者や牧師とカトリックのシスターや神父が、一致している姿を見てこられた体験からで、主の愛(神のみ旨)を行おうとするところ、あらゆるところに一致が生まれキリストの平和が訪れるのだということであった。

さて、大名カトリック教会では、昨年から野宿労働者への、越冬炊き出し活動を続けて来られたが、今年からは、教区全体に、協力と援助を呼びかけることにしているらしい。私もこころで回心して、できるだけ精一杯の協力を申し出てみようかなと思っている。そうすれば、一致のうちに希望と平和の主がきてくださる……きっと、かもね。マラナタの賛美歌を心の中で歌ってみた。(笹丘教会)

福岡黙想の家
御受難修道会 宗像修道院 (院長:畠 基幸)
1989年4月オープン予定
連絡先:宗像東郵便局私書箱5号 ☎0940(32)3222
〒811-41 宗像市大字名残字立山1056
(JR赤間駅からバスで10分;若宮インターから10分)

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 096—352—3306
096—352—8622

式典・花
木下株式会社
福岡 (712) 8022　久留米 (33) 7401
佐賀 (30) 4040　小郡 (72) 3482

二地区で福音宣教を学ぶ集まり
『家庭の福音化』が急務

北九州地区

北九州地区での福音宣教の活性化を目指す地区信徒協主催の研修会が、11月27日、戸畑教会で行われた。

今回は、昨年に続く第2回目で、参加者は司祭7名、修道女4名、信徒73名。

講師の山元真師（小倉教会）の話を踏まえて、8つのグループに分かれ話し合う分散会形式で行った。

メインテーマは、〝人々と共に、人々の中で〟。分散会では①小教区（教会）と地域社会②職場での証し③家族、親族の問題④カトリック学校の問題⑤子供の教育が取り上げられた。

分散会で出された意見の記録は、近くまとめられて地区内の各小教区に配布されることになっている。

山元神父の講演要旨

開かれた教会とは、まず自分を開くことである。他を認め、受け入れること、すなわち回心のことであり、最終的には神によって私たちがかえられることである。

新しい教会づくりは、古いということにも通じ、それは、限りなくキリストに近づくことである。

まず、回心により自分自身が開かれ、新しくなることが大切です。福音書を読み、イエズス様を知ることによって愛に満ちた教会にならなければなりません。

本当に来たい人が来れる教会、苦しんでいる人が来れる教会づくりに努めていきましょう。

佐賀地区

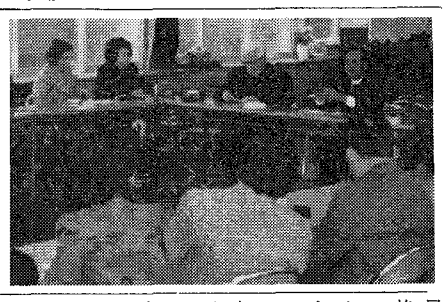
佐賀地区の信徒協主催の「一日研修会」は、11月27日に県内の各教会から司祭、修道女、信徒ら百余名が参加して佐賀教会で行われた。

午前9時のミサに引き続いて、福岡サン・スルピス大神学院教授の山内清海師が「福音宣教」で基調講演。

山内師は、「日常生活が忙しくて福音宣教のための暇がない、自分には福音宣教の能力がない、という人は福音宣教がなんであるのか十分理解していない」と述べたあと、福音宣教について(1)福音宣教のためには、まず自己回心し、キリストの生命に生きなければならない(2)各自が生きた〝からし種〟〝キリストの神秘体〟として成長しなければならない、と語った。

そして、「家庭こそ宣教の最初の場であり、実践の場である。宣教には、祈り、努力、勉強が何より大切である」と説いた。

午後からは分科会を行い、①家庭の福音化（特に子供の信仰教育）②日常生活における福音化の進め方③全員参加の教会づくり④他宗教との関わり合い、について活発な意見を約1時間半にわたって交換した。



分科会では、各自がテーマを選んで参加する形式をとったが、④の他宗教の人たちとの関わりのテーマを選んだ人が最も多く、日常生活で、信徒が抱えている問題として注目される。

また③の全員参加では、佐賀地区が進めている〝一人一役運動〟を今後どう推進していくか、具体的提案もいくつか出された。

信徒協会長の牧山敏浩さん（佐賀教会）は、「多くの人が福音宣教について終日熱心に語り合うことができました。分科会で出されたさまざまな意見、分かち合いのまとめも全体会で報告され、有意義な研修を終えることができました」と喜んでいた。

ここが聞きたい シリーズ

滞日アジア女性問題③

いつの間にか加害者に

日本人よりも、彼女たちの方にこそ問題がある、と思いますが。

私が『滞日アジア女性の問題を考える会』結成にかかわる契機となったのは、一九八五年春頃、ポール・マッカーティン神父が北九州のフィリピンから出稼ぎ女性9名を救出する事件の相談を受けたときからでした。

私はその時、第三者的立場で一般的アドバイスをしました。

その後、ポール神父から「この問題はあなたたち日本人の問題ですよ」といわれました。その一言が胸に突き刺さり、私はこの問題を自分自身の問題として受け止め、この会の結成にかかわりました。

ところで、先日、リサ・ゴーさん（フィリピン問題資料センター）を迎え、シンポジウムを開催しました。

リサさんは、日本におけるさまざまな人権侵害者の実例を告発され、「日本の矛盾をアジアの女性たちに負わせないで」と訴えられました。

これに対して、参加者から、「日本人の中にも善い人がいる」「彼女たちの方にも問題がある」「フィリピンも韓国のように、努力して工業国になればよい」という意見が出され、これをめぐって活発な討議がなされました。

このような善意の第三者的立場が大半の日本人の意識だと思います。

しかし、彼女たちへの人権侵害や差別の責任は、彼女たちにはなく、加害行為をなす人及びそれを容認、黙認している私たち日本人の側にあるのではないでしょうか。

ポール神父は、「彼女たちへの救援活動を通して救われるのは、彼女たちではなく、むしろ、あなたたち日本人なのです」とも言われました。

回答者　中島真一郎（滞日アジア女性の問題を考える熊本の会）

公開短期キリスト教講座
一般市民にも好評

熊本

福音宣教の具体的な実践として熊本地区で短期キリスト教講座が開かれた。

これは、二年前に発足した同地区の福音宣教運営委員会の中の宣教実行委員会の企画によるもの。

教会を地域に開かれたものとするため、小教区の枠を超えて地区長を中心に市内の司祭、修道者、信徒の協力のもと、熊本県福祉会館で行われた。

同実行委員会では、各小教区の宣教の実情と志向の調査や、人材、視聴覚ソフトのリストアップを行うなど、名実ともに宣教の牽引の役割を果たしている。

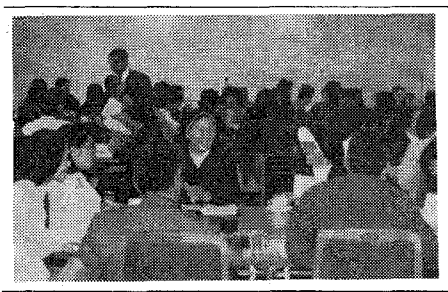
今回の講座は、このような実績の中から社会の人々のニードを分析、日頃の生活で直面する様々な問題の解決に糸口を与えるための手助けになろうとの考えから生まれた。

受講者は、はじめの予想を上回る午前、午後合わせて約百二十名を数え、毎回の出席率も80%を超え、関係者を喜ばせた。

内容は、①人とのつながり②性の尊さと愛③家庭生活④病気・老齢化・死⑤豊かさと貧しさなど8つのテーマ。司祭、修道者など8人の講師で、一般の人の関心事にも配慮した。

人吉教会の信徒で同委員会のメンバーの佐無田斌さんは、「信仰の種子が受講者のこころに一粒でも蒔かれることを願いながら、参加した人たちに感想を聞き、次回の講座に活かしていきたい」と語っている。

児童施設研修会
「子供たちは神の選びの器」と講話



カトリック児童福祉施設で働く九州ブロックの職員研修会が、11月21、22の両日、KR博多を会場に、約70名が参加して開催された。

講師の渡辺隆義師（小郡教会）は、「聖母マリアから学ぶ—職員の使命」のテーマで「聖母は、貧しい者、見捨てられた者、いわゆる小さい者の側に立たれた。その聖母の眼差しを大切に」「貧しい者に世の変革（福音化）の使命を与える神は、痛みを体験している施設の子供たちをご自分の道具、働き人として選び、養成する」と話し、「職員は、この重要な使命に与る者」と激励した。

講話後のグループの分かち合いでは、「子供たちから教えられることが多い」「子供たちとする祈りが機械的になっている」などの声とともに「男性職員と女性職員の関わりが子供たちの将来に大きな影響を与える」との意見も聞かれた。

ミサ（6）

山元神父のワンポイント教会法

新年、あけましておめでとうございます。今年はへび年。日日新たに『脱皮』していきたいものです。「新しさ」はキリストを信じる者の特徴です。

今年もまた「ワンポイント教会法」を続けます。

法王ヨハネ・パウロ二世は、新教会法を公布するにあたって、「サクレ・ディシプリーネ・レージェス」という使徒憲章を著しました。その憲章は、次の言葉で結ばれています。

「敬愛するすべての信者が、誠実な精神と善意をもってこの新しい法律を守るように勧め、新たにされた力をもつ規律が教会のなかによみがえり、教会の母おとめマリアの保護のもとに人びとの救いがいっそう易しくなることを望みます。」

ここでまた、教会法の目的も確認しておきましょう。それは、法王も言っているように「人々の救い」にあります。教会の最大の関心事は「人々の救い」であり、「魂の救い」が常に教会の最高の法でした。（第一七五二条）

この点を忘れずに、今年も教会法を学んでいきましょう。よろしく。

先月は、両形態（両形色）による聖体拝領について見ました。続きです。

典礼憲章には「一般信徒にも、司教の判断によって（両形態で）授けることができる」と規定されています。この規定は、その後に出された「ローマ・ミサ典書の総則」で具体化されました。総則の二四〇番以降に、両形態による拝領の項目があります。それによると、御血をいただける十四の場合が定められていますが、それ以外に、日本の司教協議会は次のような場合を認めています。

「参加者一同が両形態の聖体拝領の意味をよく理解しており、支障なく全員に両形態で授けることができると司式司祭が判断した場合」に、両形態の拝領を認めています。（ミサ典書総則参照）

（小倉教会）

大神学院祭に一六〇名集う

11月17日(木)、福岡市城南区松山の聖スルピス大神学院で恒例の「神学院祭」が催された。

この催しは、11月21日「聖マリアの奉献の祝日」が「神学院聖堂献堂記念日」であることを祝うためである。

今年は、九州各教区と広島教区から6名の司教を始め、この大神学院で学んだ司祭約90名が参集し、後輩の大神学生を含めて約一六五名の荘厳なミサと祝賀式が行われた。

長年、神学校に奉仕している「幼きイエズス会」のシスター方によって準備された祝賀式は、さながら同窓会の様相で「元気ですか」「神父さまの教会はどうですか」といった会話が飛び交っていた。

BOOK 読みま専科

☆畑に隠された宝

フランシスコ会員　静一志　著

マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネのオメリア集。全部ではなく抜粋で各々短い解説があり、日々の黙想の道案内として最適である。

「マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネという四つの畑には、宝物が埋まっています。掘る人によって見いだす宝も違っていて、別の味わいがあります」と著者が前書きで述べているように、み言葉の中に込められている真理を発見していくことが、どんなに喜びに満ちたことかを語り、その喜びを味わうよう誘う。

（女子パウロ会　一二〇〇円）

☆キリスト教への道

——出会いから洗礼まで——

加賀　乙彦　著

一九八八年五月八日、東京カテドラル大聖堂でされた特別講演、「はじめて語るキリスト教への道」を、そのまま集録したものである。

丹下健三氏の設計になる大きな聖堂の祭壇の前で語るのは、はじめてとことわりながらも、戦後の焼け野原で送った少年時代や、キリスト教に傾倒していくきっかけとなった死刑囚・正田昭との出会い、受洗のときの感動など、二時間近くを一気に語られている。

（みくに書房　一〇〇〇円）

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺　勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3—2—9　TEL 092-531—1231

祭壇・洗礼盤他
素材 石 理 影 大 御 石 石 の 他 そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

一月の行事

※□チックは司教日程

1日　元旦世界平和祈願ミサ　午前10時
10日　教区全司祭新年ミサ・祝賀会　午前11時
12日　福岡地区婦人会委員会　午前10時30分
15日　教区修道女連盟研修会（司教館）　午前10時30分
15～16日　祈りの集い（ウルスラ会）
16日　行橋幼稚園落成式　午後2時
22日　成人式ミサ　カテドラル　午後3時
29日　福岡地区信徒協　午後1時30分
佐賀地区信徒協　午前10時30分
ムジゲの会（韓国語の勉強会）　午後4時30分
2月7日　司祭評議会（1）　午前10時30分

一九八九年度結婚セミナー

福岡
会場　福岡市中央区大名2　カテドラルセンター
時間　午後7時～9時15分
申込　☎092―541―6207

熊本
会場　熊本市上通町3―33　カトリック手取教会
時間　午後7時～9時15分
申込　☎096―352―3030

	福岡会場	熊本会場
第一回	1月19日(木) 21日(土) 26日(木) 28日(土) 2月2日(木) 4日(土) 9日(木)	1月18日(水) 23日(月) 25日(水) 30日(月) 2月1日(水) 6日(月) 8日(水)
第二回	4月6日(木) 8日(土) 13日(木) 15日(土) 20日(木) 22日(土) 27日(木)	4月5日(水) 10日(月) 12日(水) 17日(月) 19日(水) 24日(月) 26日(水)
第三回	9月7日(木) 9日(土) 14日(木) 16日(土) 21日(木) 28日(土) 30日(木)	9月6日(水) 11日(月) 13日(水) 18日(月) 20日(水) 25日(月) 27日(水)

☆　互いに愛し合い、しあわせな家庭を築こうとしていらっしゃるお二人……あなた方の豊かな対話・実りある明日をねがって、このセミナーはひらかれます。
婚約者・最近結婚した人。宗教は不問。カトリック教会で結婚式を挙げることもできます。お二人でご参加下さい。

1989年度の教区行事

3月7日(火)　教区全司祭の集会
3月23日(木)　聖香油聖別ミサ
5月21日(日)　教区「家庭の日」大会
6月25日(日)　司教様の司祭叙階金祝、祝賀
8月15日(火)　墓地ミサ
11月1日(水)　墓地ミサ
11月22日～23日　教区全司祭の研修会

祈りのつどい

場　所：聖心のウルスラ宣教女修道会　福岡修道院
日　時：1月15日（日）午後1時半より　1月16日（月）午後4時解散（1泊2日）
指導司祭：佐々木良晴師（イエズス会）
参加対象：未婚の女性信徒
会費　：　3,000円
＊申込みは　12月30日（金）までに、電話又はハガキで下記へ。
聖心のウルスラ宣教女修道会
〒815 福岡市南区塩原 4-25-20
☎ 092-512-0033

一月命日の司祭

＊ジェームス・ドノフ師（聖コロンバン会）一九八五年一月二日元菊池教会主任
＊ジャンマリ・マルタン師（パリ外国宣教会）一九七五年一月一八日元大牟田教会主任
＊グスターブ・ロー師（パリ外国宣教会）一九五〇年一月一日元人吉教会主任
＊アウグスチン・ハルブ師（パリ外国宣教会）一九四五年一月一四日元崎津教会主任
＊ルドビコ・ガルニエ師（パリ外国宣教会）一九四一年一月一九日元大江教会主任
＊ジョゼフ・フレスノン師（パリ外国宣教会）一九二九年一月元久留米教会主任

幸せのかおり

徳山　登

元旦には「幸せな年でありますように！」という挨拶がどこの国でも交わされます。

ラジオ放送で〝日本の消費生活について〟四人の人が話し合っていました。

「日本人は、たいへん恵まれていますが、感動がありません」と一人が発言すると、他の三人も異口同音に「そうね、物質的な面で豊かになりましたが、確かに生活に感動がうすれて来ましたね」というようなことを口にします。

みんな幸せを求めていますが、深い幸せを簡単につかまえることは出来ないようです。

〝ある山鹿の話〟

ある種の鹿にこんなめずらしいことがあります。その鹿は、腹の部分に袋があって、その中にたいへん香りの高い水を持っているのです。

印度の山の中にこの種の小鹿がいて、彼は自分の周りに漂うこの香りが自分から出るものとは知りませんでした。そして「このよい香りはどこから来るのだろう、突き止めたい」と考えました。彼は香りを追って、力のかぎりあちこち探し歩きました。小鹿は、もうすっかり疲れはて、全身の力は抜け切ってしまいました。そして、ついに高い崖から足を滑らせ、落ちてしまいました。苦しい息の中で、自分を哀れみ、小鹿は自分の腹をなめようとしました。するとどうでしょう。腹の袋は破れ、しとしとと香り高いその水が流れ落ちているではありませんか。このときやっと小鹿は、気づいたのです。しかしもう遅かったのです。あえぎながらもそのよい香りを求める小鹿の息は絶えてしまったのです。

思いがけないところに「私は幸せだ」と心から思っている人がいます。

鎌倉で出会った人に、リュウマチのために手も足も自由につかえない障害者がいます。彼は私に次のように話してくれました。

「死にたいと思ったこともあります。今日だけ生きるのだったら、嬉しいのですが、明日からもずうっとと考えると憂うつになります……。健康な人とってに何でもない事が私にとっては大仕事なのです。たとえばボタンを掛けること、窓の開け閉めなどの日常の小さな作業が苦労なことで、努力と忍耐のいる大作業となるのです。ボタン一つ掛けるのに五分、あるときは十分もかかるのです。それをやり遂げると大勝利を得たような喜びを味わうのです。私のような重傷の障害者の生活には健康な人々の生活にはない感動と幸せがあることに気づきました」と。

確かに幸せになるには誰も努力が必要です。しかしながらひとりでは幸せにはなれません。金持ちの青年（マルコ10・17～22）が自分の財産で自分の幸せをつくろうと神とのかかわりも人とのかかわりも拒みました。「私についてきなさい」という言葉を受け入れられなかったのです。

「富の力に頼る人は神の国に入りにくい……貧しい人、幸せ」。

水野源三さん。この方も十歳の時より脳性麻ひによる、全身麻ひの重症です。彼が次のように詩っています。

「沈丁花の香り
庭の暗闇から漂ってる
沈丁花の香り
目には見えないが
私を包む、キリストの愛」

軽率な小鹿のように幸せの香りを外にうろうろ探さないように。

幸せな泉は私たちの中に降りて、とどまってくださるキリスト様です。キリスト様は私たちひとりひとりの中に生きておられます。

「今年こそ私についてきなさい」と呼びかけられるキリストを信頼して、キリストの手を取って、共に幸せの道を雄々しく歩き出しましょう。

貧しい人、幸せ！持っているもの、持ちたいものに執着せず、自由の心をもって深い愛の生活をおくる人、そういう人こそキリストについて行く、最も幸せな人！

（パリ・ミッション会司祭　八王寺教会）

編集室から

▽新しい年をいかがお迎えでしょうか。

旧年中は読者の皆さまからの温かい励まし、ありがとうございました。

また、本紙に寄稿してくださいました多くの方々に厚く御礼申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

▽ただ今、編集員も3名で、細々と頑張っています。お手伝いいただける方を、小さな声で募集中です。

▽今年の編集方針は、と聞かれて、ハタと考え込んでしまいました。井手一郎先生にならって「今までのことを今まで以上に」という心境です。

▽寒さに弱いので、暖房費がかさみます。

冬本番を楽しんでおられる方には申し訳ないですが、もう〝春〟を待ちわびているのは、誰でしょう。

▽今号から、読者のご要望がありました毎月の命日の神父様方を4面に掲載します。ご要望、アイデアなどお知らせください。

▽読者の投稿欄『自由席』は座席が空いています。どうぞご利用ください。

教会学校での子供たちの『作文』、その他の作品も歓迎です。

編集長　渡辺隆義（小郡）
編集員　田町節子（笹丘）
深堀邦枝（大名町）

かのときのことのは

森山　敬三

庸（よう）才の作品は大作にもせよ、必ず窓のない部屋に似ている。人生の展望は少しも利（き）かない。

芥川　龍之介

『侏儒の言葉』に所収。学生のころこれを読んで、人生の展望というのが耳に残った。そして、いつのまにか、文学作品を価値づけるのに、これを規準とするならわしが身についていることに気付いた。よい文学作品を読めば、人生の展望がひらける、と何回も考えた。三十五歳で自殺した彼の部屋には、聖書が開かれたままであった。『西方の人』につづいて『続西方の人』は彼の遺稿となった。それを読むと、彼の聖書解釈は全く我流で、デタラメというほかはないが、とにかく、大正時代の最高のインテリが、最後までキリストと格闘した、哀しいまでの記録である。彼は漱石の直系であったが、彼の流れは太宰治に受けつがれ、『如是我聞』となっていく。

パリー外国宣教会司祭　丸剛良家（マルコボンカズ）著　絶讃発売中　定価 1200円
人間は何のために生きるのか
真にこの問題について知り、解決を求めたい人のために！
人生95年　心のなかに生き続けた神が不思議な声となって今、私の魂に語りかける
――書き下し信仰と人生を語る座右の書
聖母の騎士社　〒850 長崎市本河内町196　☎0958-24-2080

ナオミ・コミュニケーション
ビデオ、スライド、映画など
＊カトリックのも取り揃えています。
〒383-01　小郡市東町330-10番地（小郡キリスト教会内）
☎ 0942(72)0909

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2―0646
行橋市駅前5秒店　☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922―5637

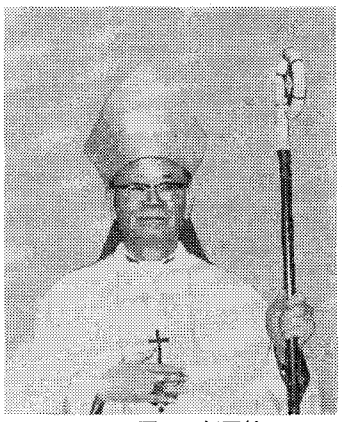
未来へ――安心を創（つく）る
FUJKi　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092―521―0568

カトリック福岡教区報

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

元旦平和祈願ミサ
平和は相手への尊敬から
民族、文化、宗教への理解促す


ペトロ平田三郎司教

司教はミサ中「一人ひとりの心の平和、家庭、教区、国家、世界の平和を願いましょう」と呼びかけ、『平和のために働く人は幸い』というキリストの価値をもたらすため、平和のために働く人となる努力をしましょう」と語った。

また、「教皇さまは、一月一日『世界平和の日』にあたり『少数民族を尊敬することなしに、世界平和は来ない』というテーマのメッセージを出されました」と語り、その要約を話した。

「スリランカで紛争中の二つの勢力、アルメニアとアバルジャンなどの対立は全て宗教の自由を認め合えないところにあると思います。日本のように単一語を話す国の中でも、在日韓国民族やアイヌ民族に対する差別があり、これは少数民族の文化の軽視にあたります。

どんな民族も神に創られた人類であるから自国民族の文化に誇りを持つことが大切なように、他民族の文化、宗教を認めることが大切です。

また、自分が持っていた文化から他の文化へ変わった人人の感情や思いを認め、大切にしなければなりません」とも述べた。

カテドラル

世界に翔け！新成人

新成人を祝う福岡地区のミサと祝賀会が、1月22日午後3時、カテドラル・センターで行われ、各小教区から24名の新成人、企画した福岡ブロックの先輩青年や家族など約百名が参列した。

平田司教は、「キリスト者らしい国際人になってください」と青年たちを激励した。

式の後、青年会手づくりの祝賀会が催されたが、新成人男性のひとりは「家族っぽい式にとっても感激しました」と喜びを語っていた。

今月のみことば
キリストの御体
われを救い、御血
われを酔わしめ給え
（聖イグナチオ）
聖パウロ会　塚本孝夫神父

新年を告げる教会の鐘の音
大名町教会

司教ミサに先立ち、元旦の午前〇時十五分、森山信三師の司式による新年のミサが一七〇名ほどの信徒と共に捧げられた。

午前〇時、ネオン一つない暗闇のビル街にアンジェラスが響き、暖かい光に包まれた聖堂には「新しい歌を主にうたえ」と聖歌が高らかに響き渡った。

ミサを終えて帰る車の中には「〇〇神社には二十万人の参拝人……」と、この一年の平和を願う人々の群れを伝えるラジオの声が聞こえた。

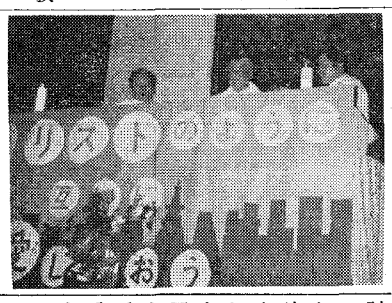
元旦〇時ミサに三百五十名参加
小倉教会

元旦、午前〇時から小倉教会の新年のミサが行われた。

この深夜ミサは十年以上前から行われている。

日本人の新年を祝う特殊な心情に即すべく、土着化の意図をもって始まったが、年々参加する信者が増え、すっかり定着したようである。

当夜は、折悪しく降りしきる雨の中、集まった信者は約三百五十人。いつもより改まった雰囲気の中で、背広、ネクタイ姿の中高年男性の姿が目立った。



「皆さん、おめでとうございます」と始まった主任司祭の挨拶も、説教も「キリストのように互いに愛し合おう」という今年のメインテーマに、そって、愛と平和の恵みを私たちがどう受け取り、生かし、まだキリストを知らない隣人にどう伝えるか。この地に信者があらわれて以来四百年近い今、未来に向かって新しい気持ちで進もうといった内容だった。

第3回司牧評議会
教区「家庭の日」大会（5月21日）で作文・絵・書道・写真など募集

昨年12月18日、第3回司牧評議会が開かれた。冒頭平田三郎司教は、司教会議の報告として「信徒の生涯教育に先立ち、司祭の生涯教育が急がれるという意見が出ている」と語った。また、今年10月に韓国で開催される『世界聖体大会』への参加巡礼団についての説明もなされた。

つづいて、前回より審議中の各種委員会の件が審議、検討された。

平田司教からは各種委員会を運営する司祭、修道者、信徒の推薦を依頼されていたが審議の結果、「委員長を推薦し他のメンバーは司教より任命を受けた委員長が推薦して司教の任命を受ける」という方針が打ち出された。これを受けて各委員会とも、複数の委員長候補を推薦し司教に答申した。

次に、教区優先課題Ⅰとして「幼少青年の信仰教育とその指導者の養成」について活発な意見の交換がなされた。

その中で「信仰教育委員会を早急に発足させるべきだ」という意見が強く出された。

また養成者のティームを作って、各地を移動する。ビデオの講座を作製して各小教区に配ってはどうかなどの意見にも同意者が多かった。

また、これらの審議に先立ち、5月21日に教区行事として取り組むことになっている『家庭の日』の実行委員長S・ライル師（皿山ファミリーセンター）から協力の要請が出された。

「現代社会における家族の生き方」——共に家庭生活を振り返って未来を展望しよう——というテーマで5月21日（日）午後一時よりカテドラルにおいて開催する。カテドラルセンターは入場数に限度がある。また、一日だけの行事にするのでなく、この一年を教区一丸となって『家庭』を考える年にするため、各地、各小教区へ協力を願いたいということであった。

具体的には①「家庭の日の祈り」を印刷し配布するので家庭や教会で祈ってほしい。②家庭を中心にアンケート調査を計画しているので依頼を受けた方は是非、応えてほしい。③「家庭の日」の意識浸透のため作文、絵など公募するので参加協力をお願いしたいということであった。

教区修道女連盟
松永司教（長崎）を講師に霊性を学ぶ

教区の修道女連盟の研修会が、1月15日、長崎教区の松永久次郎補佐司教を講師に迎えて、司教館で開催された。

この日のテーマは「修道者の霊性」。

長崎の女子修道会の指導司祭としての長い豊かな経験をもとにした神学的示唆にとむ講師の話に参加者は熱心に聞きいっていた。

松永司教は講演の中で、「霊性とは霊的生き方のあじわいを意味し、ダイナミックに切り開いていく力を示している」と指摘。「修道者と信徒の霊性を分離する傾向が一部にあるが、本来は一つのものである。なぜなら、『天の父が完全であるようにあなたたちも完全になりなさい』というキリストの言葉はすべての人にたいするものである」とし、「キリスト者の霊性を清貧、貞潔、従順の三つの誓願をとおして徹底して生きるのが修道者の霊性である」とその特徴を語った。

一方、講演にさきだち、平田司教は「今年の教区の目標である幼少年の信仰教育のために、教区としては、ボランティアカテキスタの養成に取り組む」と修道女連盟に協力を要請し、「開かれた教会づくりのために修道会が果たす役割は大きく、また、現代社会において修道会は大きな存在である。第2バチカン公会議が求めた開かれた修道会であるために、社会との関わりを大切にすべきである」と社会との対話を促した。

幼きイエズス会
実践学習発表会

「キリストの平和を人々に」の年間テーマをかかげ、地域、福祉施設、公害病患者などとの関わりで深めてきた幼きイエズス会の修道女たちが、1月15・16の両日、久留米信愛短期大学で同会会員への体験発表会と勉強会を行った。今回の催しは、同会が社会の中で小さな人々を優先させる姿勢を明確に示したものとして注目される。

時の話題
吉来生熊

土呂久鉱害問題がおこると、いち早く日本科学者会議宮崎支部のメンバーは調査班を組織して、土壌・水・ズリ（亜ヒ酸を取ったあとの焼殻）などのヒ素および重金属類の含量や、亜ヒ焼の影響をあらわす植物群落や、亜ヒ焼きが始まると一時絶滅した土呂久川の魚類の閉山後10年目の復活情況などを調べた。

それから八か月後の昭和47年7月のある晩、科学者会議の調査班は土呂久の民家で調査結果を発表した。

それはマスコミよりも先に土呂久の住民に報告すべきだという配慮からである。土呂久川や沢水、ズリを潜った水、全戸の飲料水、鉱山付近の土壌などに含まれるヒ素および重金属類の数値の統計表が部屋いっぱいに張りめぐらされた。科学調査を実施した助教授は、山の人たちにもわかるように噛みくだいて説明をした。

発表が終わったとき時計はすでに10時をまわっていたが一行は数台の車に分乗して夜の闇に消えて行った。これから一五〇キロの道のりをとばして宮崎に帰るのである。

足のない私はひとり山里の住民の中にとり残された。焼酎とじゃが薯とたくわんがふるまわれた。張り残された部屋いっぱいのPPMの中で、皆黙って腕組みしている。その中の一人が思いつめたあげく私に向かって「こりゃえらいこっちゃが先生、どげすりゃいいとじゃろかね」と訊いた。しかし私には、わらにも縋りたい住民の気持に応えるすべがなかった。私は科学者でも、医者でも、法律家でもない。公害問題に役立つような、いかなる専門家でもない。いましがた、ショッキングな発表をして、終わるや否や、さっと引き揚げて行った身のこなしに比べてこの私のかっこわるさ。

その時ふと、住民と私との間に共通点があることに気がついた。それは「わからない」ということである。わからないからいっしょに考えましょう。いっしょに迷いましょう。いっしょにあれやこれや、やってみましょう。いっしょに喜ぶ日が来るまで苦しみましょう。「笑う人とともに笑い、泣く人とともに泣け」。そうだ、私に出来る事は友だちになること。こうして私は土呂久のみなさんと16年おつきあいをして来た。

（西南学院大学講師　西新教会所属）

みちくさ

天皇陛下が逝去された一月七日とその翌日、マスコミは天皇追悼一色に塗りつぶされた。ウンザリしながら二日間テレビと付き合ったが、それでもいくつかの番組には啓蒙された。戦時中に兵士を馬上から激励する故天皇の姿をみて複雑な思いにかられる。天皇は歴史をつくった偉大な方というより、歴史の流れの中でほんろうされた人々の中の一人に思えた▼今、天皇制の存在そのものにいろんな議論があるが、故天皇が戦争責任を負う日本の象徴に見えたのは、筆者が戦後生まれのせいだろうか。司教団は、「人間を神格化したり、人がつくった制度を絶対化してはならない」との声明を発表した。自由な論議の中で、よりよいものを見出していきたい▼個人的には、新天皇が軍事大国日本の象徴ではなく、平和を希求する国の象徴となれるように祈っている。だが、この平和建設の使命は、天皇の使命である以上に私たちキリスト者の使命であることを忘れてはならないと思う。そのためにも平和への福音的戦略を考えなくてはならない▼しかし、平和とは何だろうか。筆者が福音書をとおして知る平和は、〝ぬくもり、慈しみ〟である。〝キリストの平和〟とはまさに〝キリストのぬくもり〟なのだと思う。平和は、かかわりのなかで建設されていく。自己満足の心の平和ではなく、人とのかかわりの中で痛みを分かち合いながら、神と共に創造していく平和でありたい▼平和の実現を妨げる国家、民族、富める者と貧しい者、皇室と国民、さらには教会と社会、聖職者と信徒の間にある人間がつくった壁を壊さなければならない。なぜなら、まず神ご自身がご自分と人類との壁を取り払ってくださったのだから。さまざまな隔ての壁を取り除く役割を果たす者が、「平和を実現する者」（マタイ5の9）と呼ばれるのではないだろうか。

Sr. ジョージ川口（聖母訪問会）に聞く

移動信徒の受け入れは小教区全員の仕事です

聞き手　編集部

国内移動担当者のひとりになられたいきさつを聞かせてください。

今から10年前に、司教団のほうから「福岡教区にも是非事務所を作ってほしい」という申し入れがあって、竹森勇神父様（老司教会）が担当になられたのです。

私は、たまたまそのころ平田司教様と雑談してた折、移動青年信徒の話になり、司教様が「じゃ、あなたがしてくれないか」といわれたのです。それで私は、「私共の総長はすごく教会を助けたいという意向を持っていますので多分いいかもしれません」と申し上げたつもりだったのですが、司教様が修道女連盟の集まりで、「こんど聖母訪問会が手伝ってくれることになりました」と発表してしまわれたのです。

院長も私もびっくりしたのですが。それがもうそのままになって。でも、今から考えると御摂理だったのかもしれません。

実際にはどんな仕事をしておられるのですか。

毎年一回二月頃に全国の担当者が長崎教区に行って、一週間から十日かけて五島や長崎の教会を回って、転入する子たちに会うのです。あらかじめ福岡教区で所属する小教区を教えておくためです。

そして、4月には長崎のカトリック・センターからあらためて名簿が送って来ますので、それを持って福岡教区の各小教区を回り、「神父様こういう方が来ていますでしょうか」とたずねて回るんですよ。

もちろん、教会などで、むこうのほうから「シスター来ましたよ」と声をかけられることもあります。こういう時は、時間をつくって一緒にお茶を飲みながら、こちらでの様子を聞いたりして励ましています。

福岡に来てすぐの子でしたが、自分の寮への帰り道が分からなくなって、それでたまたまそこにいあわせた大名町教会の青年に送ってもらったこともありましたね。

それから、こちらに働きにきた青年たちの職場訪問の仕事もあります。自動車工場の社長さんや美容室の店長さんに会って「よろしくお願いします」と挨拶にいったりもします。

移動信徒もだいぶ様変りしたのではないでしょうか。

そうですね、10年前は、中学卒業生が多かったのですが、今はもうほとんど高校卒業になりました。社会もずいぶん変って、すぐ自動車を乗り回しています。

そもそもの始まりは、集団就職で都会に出てくる子供たちのためだったようです。でも、昨年の全国会議では、移動信徒を幅広くとらえて、職を求めて各地を転々としている人やアジアから働きに来ている人たちも含める傾向になってきています。

受け入れる小教区側への希望がおありですか。

よく移動してきた青年から聞く声は「教会に入りにくい」ということです。私は、教会の窓口の大切さを痛感してます。「ようこそ」と声をかけてあげる役割をもつ人がどの小教区にも必要ですね。

一番工夫してほしいなと思うのは、ミサのときです。死者の名前は発表してくれますが、今ここにいる新しい人については無関心のようで残念です。

福岡教区に転入してくる青年たちは毎年九〇人にのぼっているのですよ。これにセンターなどを通さないで来る人たちを入れると百人以上にはなるでしょうね。

これでもお分かりのようにもう三人の移動担当者だけではどうにもならないのです。小教区の信者さん全体で取り組んでほしいですね。

移動信徒、とくに青年とはどんな関わりをしておられますか。

私は、毎年、クリスマス・カードとか暑中見舞を80通くらい出します。ほんのわずかですが返事をもらうととても嬉しいですね。

それから、ミサは何時にありますとか教会の電話番号や教会までの地図を書いて送ったりします。たしか6年くらい前に、福岡教区では、教区内の全小教区の所在地の地図とミサの時間を書いたパンフレットを作ったのですが、少し訂正も必要になってきました。

あるとき、転入してきてまもない青年から電話があって、ある人から「いいところがあるから来んね、といわれて話聞きに行ったら本を2冊とお守りを買わされた」というんですね。自分でも変だと思って電話してきたのでしょうか。こういう体験のなかで信仰を失っていく青年たちは結構いるのではないかという気がします。

どんな形での協力が可能でしょうか。

たとえば名古屋教区では、教区全体で移動信徒特に青年の受け入れ体制づくりに力を入れています。

これまでの全国の移動信徒担当者の集まりでも、実際に青年を呼んで実情を聞いたこともありますし、婦人会の人人と協力の方法を話し合ったこともあります。

人が来ているのにしらん顔をしている……。そんな教会では青年たちだけでなく、転入者も入りにくいでしょう。ある教会では、かならず新しい方の紹介をしていますが、必要なことだと思いますよ。

今は、神父様方はお一人で大変だから、一人ひとりの人とゆっくり話す時間もないようですので、小教区に移動信徒のお世話する信徒の方がひとりでもできたらいいですね。

子供を送り出す教会や親はその子の信仰について大変心配しているのですから、そこらあたりのことを分かってあげて、もっと協力すべきではないでしょうか。

あたたかい心で受け入れること。自己満足の信仰ではいけないと思いますよ。

たしかに、中には教会からやっと自由になれると思っている人もいますが、そういう方のフォローという意味でも信徒の皆さんの協力が必要なんです。

結婚の頃また教会に戻ってくるケースが多い、と聞いたことがあります。でもこのような状況になるのは、本人が受けた信仰教育とか受け入れ側のどこかに問題があるわけで、そこのところを見極めるべきでしょうね。

もちろんこのような人であっても教会はあたたく迎えるべきだと思います。

幼少年期の信仰教育の見直しも大切ではありませんか。

それはありますね。暗記させる会の青年たちは、たいてい自分で信仰内容のまとめの作業が十分にできていませんので、自分は親ゆずりの信仰をよく守っていても、新しい土地、環境の中で、自分の子供たちに教えることができないのですね。せっかくのすばらしい信仰、もったいないと思います。

ある教会では、周りがみんな信者だから否応なしに教会に行かされる。でも都会に行ったらそんなのないでしょう。近くに教会はないし、そうなれば自分で自発的に教会に行くという習慣ができていない青年は、これさいわいに教会に行かなくなるようですね。

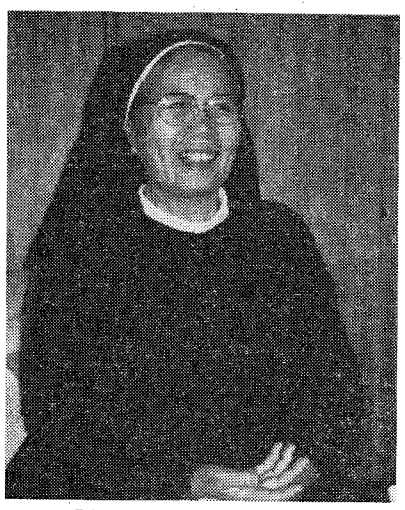
実際に福岡教区でも、東京など都会からの信者さんはたいてい自分から教会を探し出して来ますが、残念ながら伝統的に信仰が強いと思われている教会の信者さんの場合はそれに比べると少ないようですよ。

私は最近、信仰は、体で覚えて頭で整理するという一連の作業をすることによって深まっていくのではないかという気がしています。

移動信徒を受け入れる側として、また自分もいつか自分の子供たちを送り出す立場にもなるわけですから、信仰教育の内容、自分の信仰をどのように深めるかということがこれからますます重要な課題になってくると思います。

移動信徒担当者

竹森勇神父　老司教会
☎092-566-2323
シスター尾崎　礼拝会
☎092-751-2578
シスター川口　聖母訪問会
☎092-741-4250



「あたたかい心で迎えて」と訴える Sr. ジョージ川口

青年の仲間のみんなに感謝

松熊　覚

新しい年をどのように迎えられたでしょうか。

私は、昨年の11月26・27の両日、教区青年合同練成会を無事に終了できましたことを、仲間の皆さんに、また応援してくださった神父様方に感謝しています。

4年前の青年大会、一昨年の体育祭では、一年もしくはそれ以上の準備期間がありましたが、昨年の大会では、実質的に約5カ月程しか持てませんでした。

そのため、準備会議も難航し、案内の伝達不備や当日にもプログラムの変更などいろいろ問題があったと思います。また、大会会場として使用させていただいたカテドラル・センターの主任神父様をはじめ皆さまには大変ご迷惑をおかけいたしました。

しかしながら、各ブロックの青年たちや神父様方のバックアップで、参加者も百二十名余りもあり、よりよい交流ができたのではないかと思っています。

今年はまだどうなるか分かりませんが、これからは新しい世代の青年たちが、前回の大会を上回る素晴らしいものを作り出してくれると信じています。その時は喜んでお手伝いさせていただきます。

教区青年合同練成会は、皆さまのおかげで、意義あるものとして終えることができました。遅ればせながら、この紙面を借りてあつく御礼申し上げます。

（実行委員長・飯塚教会）

子供たちの目は、幼子イエスの目！

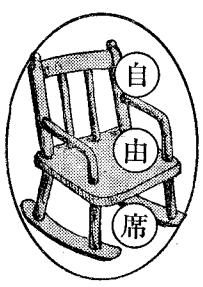
真浦　健吾

一昨年、カルメル修道院で催された町内会のクリスマスの集いが、今回は12月17日に大神学校のチャペルで行われた。

日ごろ、塀の外からしか見たことのなかった大神学校のチャペルへ入れるとあって、こどもたちは、いつになく興奮していたようである。

午後7時、初めて入る大神学校のチャペル。赤いジュータンと大きな十字架のキリスト、子供たちは、びっくりしたようすで、だれも口を開こうとせず、神学生から渡されたローソクを手に、みことばの祭儀が始まった。木口助祭の「イエスさまが一番好きなプレゼント、それは、私たち一人ひとりの優しい心、人に親切にしてあげる心です。友達のために何かいいことをしてあげてください」というお話に耳を傾けていた。

そして、みことばの祭儀が終わり、火のともったローソクを手に、会場をホールへと移して、神学生が子供たちのために準備したアトラクションを楽しんだ。中でも、五島出身の神学生による「喜びの日」という劇に、子供たちは椅子から身を乗り出して、見入っていた。



最後にみんなで「きよしこの夜」を合唱して、1時間30分のクリスマスの集いを終え、みんな喜んで大神学校をあとに家路についた。

大神学校でも初めての町内の子供会との催しであったが、この機会を通して、神の福音の種がまかれたことを確信し、いつの日か、その種が芽ばえることを願った。

また、もしできるなら、このような機会が少しずつ増えて、地域へ開かれた大神学校となり、神の福音の種を町内の人々へまくことができるなら最高だなあと思いつつ、子供たちの心の中に、きっとイエスがお生まれになり、神の恵みが豊かに注がれますようにと祈りながら、いつまでも手をふる子供たちを見送った夜でした。（サン・スルピス大神学院神学科四年）

成人式を迎えた今 自分の使命を思う

吉永　せつ子

私は昨年4月に既に20歳の誕生日を迎えています。友達と集まるとアルコールを口にすることが多くなりました。20歳になってからの私の変化はそのことくらいです。

「責任」に対する意識は「悪いことをしたら新聞に名前が載ってしまう」と冗談で口にすることくらいです。こんなんじゃいけないな、と思いながら、学生なので社会的な面は意識に欠けるようです。

私は看護学生です。既に臨床にも出て実習を行っています。そこでは、祖母や母などと同じ年代の方を受け持ったりしました。初め「自分のおばあちゃん、自分のお母さんと思って接していこう」と思いました。しかし患者さんにとって、私は看護婦なんです。私が安心して甘えていた年代の方にも頼られる存在になるのに初めて気がついた時に「精神的に大人にならなければいけない」と焦りました。毎日、患者さんを支える人間になれるよう、努力しています。

そして、看護婦である以前に「思いやり」とか「優しさ」の深い人でありたいので、人の気持を大切にしていきたいと思っています。

最後に、信者としても大人になります。今からも、教会活動を通して神様のことをよく知り、自分の中に深めてゆきたいと思います。

（佐賀教会信徒）

福岡黙想の家
御受難修道会 宗像修道院（院長：畠　基幸）
1989年4月オープン予定
連絡先：宗像東郵便局私書箱5号　☎0940(32)3222
〒811-41 宗像市大字名残字立山1056
（JR赤間駅からバスで10分；若宮インターから10分）

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 096—352—3306
096—352—8622

式典・花
木下株式会社
福岡 (712) 8022　久留米 (33) 7401
佐賀 (30) 4040　小郡 (72) 3482

新年祝賀ミサ
平田司教挨拶

「今日的司祭に」と激励
生涯学習は共に学ぶこと

恒例の教区全司祭の新年祝賀会が、1月10日、司教館で催された。今年は、3日前に天皇陛下ご逝去という世のあわただしさの中で行われたが、今年も教区の司祭団が一致協力して宣教に励もうとのあたたかい集まりになった。

午前11時から浄水通教会で行われた平田司教司式のミサには、約60名の司祭たちが加わり、司祭団の兄弟的交わりを示していた。

平田司教は説教の中で大要次のように語った。

一年間の牧者としてのご苦労に感謝します。

今、皇室も国も閉鎖社会から開かれたものへの道を歩もうとしています。

このような時代に、一昨年のナイスが求めたように、教会も聖書に基づく霊性によって開かれたものとなっていく必要があります。

そこで、まず司祭自身が第二バチカン公会議の精神をよく理解し生きなければなりません。そのためには生涯学び続ける姿勢を持つことが大切です。しかしこの学びは信徒、修道者と共になされなければなりません。こうして初めて司祭は「今日的司祭」になりうるのです。

司祭、信徒、修道者が三位一体の神との交わり（コムニオ）を生きるとき、おのずと福音宣教の力また喜びが出てきます。

今年の教区の目標は、小教区における「幼少年の信仰教育」の強化です。しかしそのための専任のカテキスタ（要理教育の指導者）をやとうことは今では非常に難しくなってきていますので、ボランティアカテキスタの養成が急務です。

信徒の中から幼少年を教えるカテキスタの希望者が数多くでますように、またそのための養成講座など、適切な援助を教区として考えていきたいものです。

ミサのあとのパーティーには教区修道女連盟、信徒使徒職協議会の代表者も招待され、なごやかな談笑の輪がいくつもできた。

地域の人々にクリスマスの心を

42回目迎えた市民のお祭り

福岡市民クリスマス

12月12日（月）18時15分より福岡市民センターで恒例の市民クリスマスが催された。

ルーテル教会の方の話によると、「今年は、通算42回目をかぞえます」ということだったが、カトリック教会が参加するようになって12回目ということである。

主催者の「福岡市民の全てに主のご降誕を知らせたい」という願い通り、年々参加者も増加しているようである。

今回は映画「偉大なる生涯の物語」が上映されたが、字幕スーパーだったため「子供たちや目の不自由な人たちへの配慮が足りなかった」という反省の声が聞かれた。

デーケン師がユーモア講演

熊本市

19回を数える熊本市の市民クリスマスの夕べが、12月22日市民会館大ホールで開かれ入場者は千二百名を越えた。

第一部は、熊本市内のミッションスクール5校（カトリック系2、プロテスタント系3）による聖劇「聖夜」を上演。劇の中で石井昇氏（九州女学院）から会衆にクリスマスメッセージが伝えられた。

第2部は、上智大学のアルフォンス・デーケン師が「人間関係とユーモア」と題して講演。ユーモアあふれる話に会場は笑いに満ち、会衆は吸い寄せられるように聞き入っていた。

今回の利益は、ペルーの施設「エンマヌエルホーム」の子供たちに贈られた。

宗像の市民ら六百人と共に

黙想の家

黙想の家主催の「クリスマスの集い」が、12月24日午後6時30分より、宗像ユリックスで行われ、地元市民約六〇〇人が参加した。

共にクリスマスを祝おうというこの集いには、新垣勉牧師によるクリスマス・ソングメドレーを初め、市民グループのコーラス、そして在福外国人によるヨーロッパ各国のクリスマスの紹介など、盛りだくさんの内容であった。

この集いで得られた善意の募金が、宗像市の「のぞみ園」に寄付されたことは心暖まるクリスマス・プレゼントとなった。

マダレナ・カノッサ列聖記念ミサ

大牟田市文化会館で

カノッサ修道女会の創立者で昨年10月2日、ローマで列聖されたマダレナ・カノッサの列聖記念ミサが、12月22日大牟田市文化会館で盛大に行われた。

平田司教と15名の司祭団によってとりおこなわれたミサには、同会が経営する大牟田明光学園の生徒、父母、同窓生はもちろん近隣の学校、修道会、教会関係者などおよそ一七〇〇名が参列した。

司教は、「聖マダレナは、常に使徒的エネルギーである熱意と喜びを祈りと神への絶対的信頼によってかち得ていた」と称讃し、「私たち現代のキリスト者にとって聖人の生涯は、具体的実践事項であり、迷っている時の道標となる」と述べた。

式に参列した泊秀信氏（大牟田明光学園教諭）は「カノッサの精神を知り、今はすべてのことを一致して成し遂げた満足感があります。また、このようなすばらしい恵みが与えられたことを感謝しつつ、自分に与えられている使命の重さをあらためて自覚しました」と語っていた。

Sr渡部利子（日本管区長）の挨拶要旨

聖マダレナ・カノッサは、貧困を生み出す原因を防ぐことにも力を注ぎ、青少年の教育に力をいれました。このために、彼女はあらゆる人々の協力を結集して、信徒の使徒職の促進に寄与しました。

喜びの日に福岡教区の皆様の日頃のあたたかいご指導、ご支援に心から感謝申し上げます。

再婚の場合

今回は再婚について簡単にみましょう。

前婚の絆が残っていなければ、再婚するのに何ら支障はありません。前婚の絆が残っていない、というのは死別したということです。配偶者を失くした人は、教会で再婚することができます。

問題になるのは、死別ではなくて、他のかたちで別れている場合です。

考えられるケースは、民法上の離婚をした人が再婚する場合です。最近は、信者の間でも、ひどい誤解があります。つまり、民法上でも、きちんと別れれば再婚できるという考えです。何びとも、特別な権能を神からいただいている人以外は、だれも結婚の絆を解くことはできません。

このことは、信者の結婚（信者どうし、信者と未洗者）の場合だけではなくて、未洗者どうしの結婚についても言えることです。

教会は未洗者どうしの離婚については関与しませんが、離婚した未洗者が信者と結婚する場合は、未洗者の結婚にも立ち入ります。

教会の考え方の原則は、未洗者どうしの結婚であっても、それが民法上必要な手続きがきちんととられている場合（有効な結婚）は不解消だということです。

ですから、原則としては、ひとたび有効な婚姻の契約を結んだ人は再婚できないことになります。

結婚したカップルの三組に一組は離婚しているという日本の現状のただ中にあって、離婚した（民法上）未洗者と再婚を望む信者が増えることは、十分に考えられることです。

また、信者が少ないという日本の現状が考慮されて、先の原則の適用に例外が認められています。

未洗者どうしの結婚が初めから、無効であることもあり得ます。また、特別な権能によって解消できる場合もあります。日取りを決める前に、必ず早目にご相談ください。（小倉教会）

ここが聞きたい シリーズ

滞日アジア女性問題④

彼女たちが、私たち日本人に一番訴えたいことは何でしょうか。

思いやる心の大切さ

昨年、海外から日本に働きに来ている外国人へアンケート調査を行いましたが、答えをいただいた人の総数は65名（女性42、男性23）。国別では、フィリピン56、ビルマ3、アメリカ3、イギリス2、インドネシア1でした。

そこには、日本の文化、生活習慣の違いについていけない悩み、日本語や日本人とのコミュニケーションの難しさ、などが語られていました。

その中で印象に残っているのは、「私たちを理解してほしい、人間らしく扱ってほしい」という訴えです。

例えば、「一部の日本人は、フィリピン人はみんな嘘つきで、変な仕事（売春）をしていると思っている」。

彼女たちは、「フィリピン人はすべて同じだ、と見ないでほしい」「私たちは仕事のために来ているのであって、モンキー・ビジネスのためではない」と訴えている。実際、なんらかの形で、このような偏見・蔑視を経験したと思われる人が15名もありました。

日本人に対する印象は全体的によいもので、悪いと答えた人はわずかに9名でした。もっとも一般的な印象は、「日本は美しい。日本人は勤勉。経済的に豊かです」となります。

その一方では、「日本人は物質主義者で、お金以外のものに価値を置いていない」「愛のために特別な時間を持とうとしない」といった厳しい見方もしています。

このアンケート調査は、文化の違いを越えて理解しあうことの難しさ、人としての尊厳の大切さ、なにはともあれ弱い立場にある人々を〝思いやる心の大切さ〟を教えています。

回答者　鈴木明郎（滞日アジア女性の問題を考える会・手取教会）

行橋カトリック幼稚園園舎が俊工

教会献堂式は来月12日

行橋カトリック教会では、老朽化した教会堂と幼稚園の改築工事を行っていたが、このほど幼稚園園舎が一足先に完成。

去る1月16日、平田司教を迎えて、幼稚園の父母や園児らと完成を祝った。

公式には教会の工事が竣工するのを待って、3月12日（日）に合わせて落成式を行う予定になっている。

映画「死線を越えて」

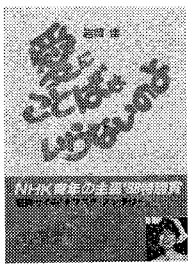
この映画は、牧師であり小説家、社会活動家として戦後の混乱期に、イエス・キリストの友として、人のいやがる多くの愛の業を実践してきた賀川豊彦の生誕百年を記念して作られた映画である。

近年、彼の生きた時代背景を無視したような批評も散見するが、単なる学問でなくだれにも分かり易い言葉で語った彼のスケールの大きな理論と実践に学ぶ点が多い。2月4日封切。於ロッポニカ天神前売券はパウロ書院、各プレイガイドにて。一般千二百円　子供・シニア九百円

BOOK 読みは専科

☆愛にはことばはいらないのよ

岩岡　佳著



一九八七年二月～三月まで、カルカッタにある孤児の家「シシュ・ババン」でボランティアをした岩岡さんが、現地で綴った日記を一冊の本にまとめたもの。どこにでもいる普通の女の子が、言葉、心の葛藤、さまざまな異文化の壁を乗り越え、大切なことに気づいていく課程は読みごたえがあり、読者に共感を与える。岩岡さんは、この体験を語ったNHK「青年の主張」で、特別賞を受賞している。対象は中高生向き。（女子パウロ会　五〇〇円）

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺　勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3—2—9　TEL 092-531—1231

祭壇・洗礼盤他
石　石他
理　影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

二月の行事

※ゴチックは司教日程

1～2日　司祭生涯養成コース（鎌倉イエズス会黙想の家）
7日　司祭評議会（司教館）午前10時30分
8日　灰の水曜日（大斎・小斎）
11日　聖心のウルスラ宣教女修道会誓願式　午前10時30分
14日　福岡地区司祭集会　午前10時30分
18日　福音の光幼稚園25周年式典　午後1時30分
19日　教区信徒使徒職協議会（佐賀教会）午後1時30分
20～22日　全国司祭集会（大阪東洋ホテル）
3月7日　教区全司祭集会（司教館）午前11時

福岡教区「家庭の日」大会

テーマ：現代社会における家族の生き方
—共に家庭生活を振り返って
未来を展望しよう—

日　時：1989年5月21日（日）
12：00　受付　　1：00　分科会
4：00　ミサ

場　所：福岡カテドラル・センター

事務局及び連絡先

カトリック・ファミリー・センター
〒815 福岡市南区皿山4-14-27
TEL　(092) 541—6207

コンクール作品募集

「家族」というテーマのもとに、幼・小・中・高生から「作文」「絵」「書道」、青年・成人から「写真」を募集します。どしどしご応募下さい。

応募期間：2月1日～4月2日

Sr. T・シャニョン 神のみもとに

天使の聖母宣教修道女会のSrテレーズ・シャニョンは、昨年12月20日（火）、自転車の横転事故が原因で帰天された。享年71歳

シスターは、カナダ・ケベック州の生まれで、一九三七年に初誓願。10年後に中国へ宣教に出かけ、一九五五年に来日した。

日本では、静岡県の療養所で働き、修道院の院長、初代地区長を勤めた。さらに北九州の門司の養護施設で看護婦として働き、施設長としても福祉に貢献した。

修道院が湯川に移転してからは、院長職にあって教会関係の病人や老人を自転車で訪問し力づけていた。

今年、修道誓願金祝を祝うためにカナダに里帰りも予定されていた矢先の不慮の死であった。

同会のSr杉本（小倉修道院）は、「今も近くにいて、黙々と働き、祈り、語りかけてくるような思いです。すべての日本人の救いのために宣教に来られ、この地に葬られることを望んでおられました」と語っている。

二月命日の司祭

*ガストン・オーブリ師（聖スルピス会）一九八五年二月二六日元大神学院院長
*フランソワ・ドルエ師（パリ外国宣教会）一九八三年二月二六日元八王寺教会主任
*ジョン・オマラ師（聖コロンバン会）一九七四年二月十四日元荒尾教会主任
*ジョゼフ・ボア師（パリ外国宣教会）一九五七年二月十七日元黒崎教会主任
*フランソワ・ベルトラン師（パリ外国宣教会）一九四〇年二月二二日元門司港教会主任

編集室から

▽ワープロの単語登録で「平成」を入力しました。

四旬節を生きる

徳山　登

教会は四旬節を迎えようとしています。昔の信者たちは、この四旬節を〝悲しみ〟と呼んで苦行を捧げることが、勧められていました。ある修道院ではこの期間には毎金曜日、鞭で身を打ちキリストの苦しみに参与する業も盛んでした。

そこでこの苦しみについて考えてみたいと思います。

昔、印度に、苦行では国中に知れわたるほどの行者がいました。ある日、行者はシーブの神の像の前で、「神よ、私はあなたのためにどんな苦しみも甘んじて受けます。私にできない犠牲はありません。何でも命じてください」と祈りました。「あなたは鉢に油を満たし、それを頭に載せ、町中、歩きなさい。その間、一滴の油もこぼすことのない様に。さあ、出発なさい」と銅の唇が動き、神は語られました。行者は言われたとおりに、油でいっぱいの鉢を頭にのせ両腕で平均を取りながら町から町へ、市場を通り、群衆を縫って、歩いて行きました。「一滴もこぼさないように」とつぶやきながら。ついに完全に命令を果たし誇らしげに像の前に立ちました。行者は自分の勝利に満足していました。神の祝福の言葉を期待し、自分はそれにふさわしい者であることを確信していました。しかし、銅の唇は動かず神からは何の言葉もありません。行者は悲しくなり、言葉の限り、あらゆる苦行をもって祈り、神を動かそうと努力しました。とうとう行者は泣きそうになって「油を一滴もこぼさなかったのに」と神を恨むようにつぶやきました。その時です。銅像は大声でどなりました。「神である私に鉢の油が必要だと思っているのか。馬鹿な！いったいお前は私の命令を行っている間、一度でも私のことを考えたか！」

その行者は答えることができませんでした。なぜなら、鉢の油をこぼさないようにと努めることでいっぱいで、神について一度も考えなかったことを認めないわけにはいかなかったのです。神は行者に言われました。

「私に油なんかいるものか。あなたが私のことを考えて、油を全部こぼした方が私にとっても、あなたにとってもどんなによかったか。私はあなたを有名にした苦行の数々を捨て、人々に隠れて、あなたが私を愛することを望む。その方が私の心をどんなに喜ばせるか、あなたには分からなかったのか。おろかな者よ！」

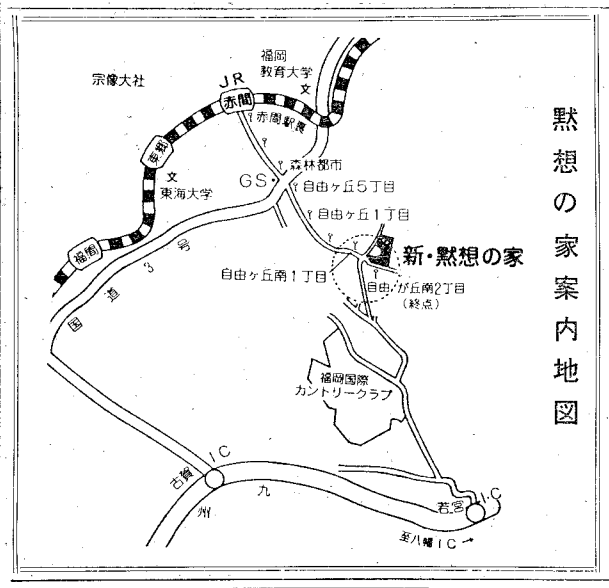
教会の掟や大斎・小斎の務めを義務的、形式的に果たすことにより、満足し安堵しているならば、私たちにも「お前は、掟を守る時、私のことを考えたか」と問われます。掟は手すりのようなもので、大切なことは神さまを愛することです。目に見えない神さまを目に見える兄弟をとおして、お愛しするのです。苦しみや犠牲は日常生活の主流をなすところです。満員電車による通勤、交通渋滞、騒音、排気ガス……生きていく上のさまざまの苦労を、静かに受け入れ、耐えるのです。また、肉体を持つ私たちには病苦と病苦への恐れと不安がつきまとうものです。小さいテレーズでさえ、結核で窒息するほどの激しい苦しみの最中、「苦しみのために自殺する人の気持が分かります。私も信仰がなければ、何のちゅう躇（ちょ）するところなく死を選ぶことでしょう」と言っています。

また、家族間の悩みも深いものになっています。さまざまの問題をかかえ、ゆがみ、病んでいるかに見える現代社会に生き、育つ子供らのストレス。その親の心配と苦悩は痛々しいほどです。それに社会の隅に追いやられる老人たち。社会には差別と不正の犠牲の中に捨て置かれ、あらゆる形で悲痛の叫びをあげ、私たちの協力と奉献を求めている多くの人々が存在します。洗礼によってキリストに結ばれた私たちはまた、救いの十字架にも結ばれているはずです。

自分の計画した犠牲や苦行に熱中するよりも、これらの小さい人に近づき、彼に聞き、苦しみを少しでも分けることこそ、キリストの十字架の苦悩を観想することではないでしょうか。キリストの十字架が復活の道ならば、不安と悩みの多い私たちの人生の道も復活への道となるでしょう。

（パリ・ミッション会司祭　八王寺教会）

黙想の家案内地図



いはで思ふぞ かのときのことのは

清少納言

森山　敬三

『枕草子』に所収。清少納言が、ある事情のために里に帰り、悶々として日を過ごしていたとき、仕えていた中宮定子からの使が、その手紙をもってきた。胸つぶれて、急いで開けてみると、中には文字が書いてなく、山吹の花がただ一ひら包んであって、それに前掲の語がしたためてあった。それは古今六帖の一心には下ゆく水のわき返り言はで思ふぞ言ふにまされる」からのものであることを悟り、中宮の知己にいたく感激したのであった。これは紺屋高尾の伊達綱宗あての手紙の一節「忘れねばこそ思ひ出さず候」と一脈あい通ずるものがある。枕草子は、清少納言の中宮定子にたいする敬愛の情から、書かれたといってよい。川端康成は、わが国の短編小説の始祖を『堤中納言物語』ではなく、『枕草子』においているが、けだし卓見である。

やまぶき

編集室から

「平成」には平和達成への願いが込められているとか。それにしても戦争でひともうけしようと企む者が国の内外で暗躍しています。

素朴な人々の願いとは裏腹に平和は遠いものですね。

▽春、卒業・就職、移動の季節がやってきます。

やっと教会から開放されると喜んでいる人が少しいます。でも、新しい出会い、信仰の仲間を求めてたずねてくる人ははるかに多いのです。そんな彼らを迎える準備、皆さまの教会では。

▽今号から、聖パウロ会の杉原寛信神父様が編集を手伝って下さることになりました。よろしくお願いします。

マスコミの第一線で働く聖パウロ会の司祭、修道者の召命の増加のためにも祈りましょう。

▽本紙4面の連載中の霊的読みもの『木かげ』いかがですか。執筆者の徳山登神父様もはりきっておられます。

皆さまどうぞご声援ください。

（W）

ナオミ・コミュニケーション
ビデオ、スライド、映画など
*カトリックのも取り揃えています。
〒383-01　小郡市東町330-10番地
（小郡キリスト教会内）
☎　0942(72)0909

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17—10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092—552—8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—24
TEL　093—771—3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2—0646
行橋市駅前5秒店　☎2—2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641—4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641—7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922—5637

未来へ——安心を創る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092—521—0568

カトリック福岡教区報

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

司祭評議会

教区目標の具体化

「信仰教育」委員長に山元師

各種委員会委員長も決まる

司祭評議会は、2月7日、司教館で行われ、全国レベルでの「司祭の生涯養成の制度化」への意見を述べ、司牧評議会から出されていた教区の各種委員会の問題を了承した。5月21日の「教区家庭の日」大会の準備状況も報告され、2月末までとなっていたアンケート回収期限を3月始めまで延長した。

司祭生涯養成制度化 必要性で意見の一致

司教団から意見を求められていた、全国の教区司祭を対象にした生涯養成の制度化については、基本的に賛成の立場をとるが、センター設置は場所や人材の問題を含めもっと考えてみる必要があるのではとの意見が多数をしめた。

教区の信仰教育担当に 山元真師（小倉）任命

本年の教区目標として掲げられている「幼少年の信仰教育」の具体化の第一歩として「信仰教育委員会」の委員長に山元真師が任命された。

これは、さきの教区司牧評議会で緊急に設置を求められていたもので、今後、委員長を中心に司祭団のなかでも取り組まれることになった。

合わせて、典礼、家庭、青少年など7委員会の委員長、学校教育、社会福祉など4つの部門の担当司祭も発表された。委員会は司祭、修道者、信徒によって構成され、委員長は原則的に司祭。委員は委員長の推薦によって司教が任命することになっている。委員の人数については特に規定はないが任期は二年。（4面に委員長、担当者を掲載）。

聖体奉仕者アンケート 必要性認める意見多数

病人に聖体を持っていったり、ミサ中の聖体拝領で司祭を助ける特別聖体奉仕者について司祭、修道者、信徒の意見を求めていたアンケートがまとまり、松井忠之師（教区典礼委員会委員長）から報告された。

それによると、回答者の大部分が聖体奉仕者の必要性を認めており、今後、松井師を中心に典礼学、神学などの専門家の意見を聞いて「教区指針」の素案をつくってもらうことになった。

バチカンへ援助増額を

赤字に悩むバチカン財政の現状が司教から説明され、一層の努力が求められた。このため「聖ペトロ献金の日」に各小教区で協力を呼び掛けることになった。

昨年、福岡教区は聖ペトロ献金で約一二〇万円をバチカンに送金したが、バチカンからは約四四〇万円の援助を受けている。

教区「家庭の日」のアンケート回答に協力願い

5月21日（日）に予定されている「家庭の日」大会担当のライル師（ファミリーセンター）から準備状況の説明を受けた。それによると「二十名余りの信徒夫婦を中心に修道者の協力を得て」順調に進められており、夫婦や親子など家族についてのアンケートがすでに作成され発送されている。このため3月始めまでに回答をお願いし集計作業に入りたいとのこと。

作文、絵画、ぬり絵、書道、写真などのコンクールに多くの作品が集まるように協力依頼があった。

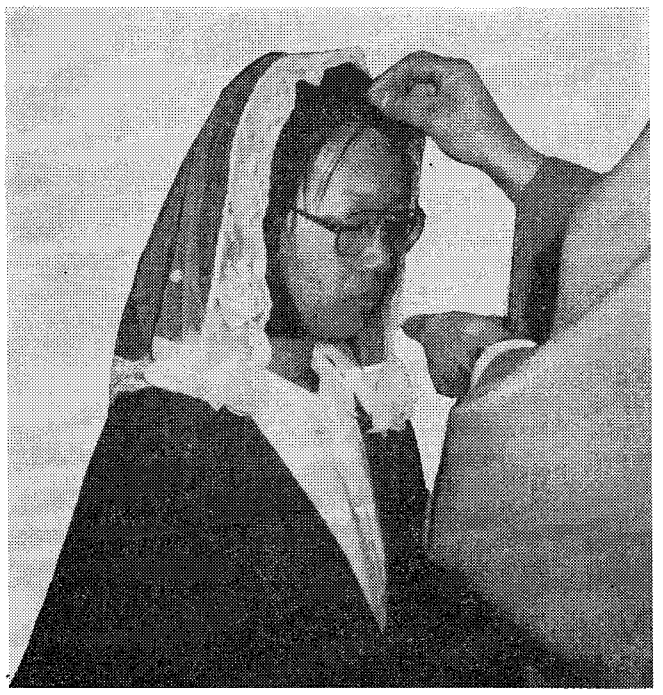
「家庭のための祈り」が司教認可を受けたので、家庭でそして小教区でとなえてくださいとの勧めがあった。

平田司教金祝

司祭叙階五十周年を迎える平田司教の教区としてのお祝は6月25日（日）に行うことを確認した。

主の復活にあずかるために

回心して福音を信じよ



灰の式を受ける修練者（聖パウロ女子修道会）

四旬節司教教書

『日曜日のミサを大切にしよう』

ミサへの理解と積極的参加促す

四旬節司教教書（全文は2面に掲載）が発表された。

今年は、十月にソウルで国際聖体大会が開催されることもあり、聖体祭儀（ミサ）がテーマになっている。

教書は、聖体を「神が教会に残してくださった最も大切な宝」「平和の源」「いのちの糧」と表現し、この「いのちの糧」を得るために、私たちはどれだけの労力を払っているだろうかと、体の糧の心配をし過ぎている現代に反省を促している。

また、日曜日のミサに与っている信者にも、「教会の掟だから、与らないと罪を犯すからといった法的な考え」にとらえられ、いのちのパンの必要性からではないのでは、とその動機を問う。

そこで教書は、第2バチカン公会議の精神を思い起こさせ、「私たちの外に向かっての社会活動は、聖体祭儀から出発し、この頂点に向かっての動きでなければならない」と聖体祭儀を生活のなかに取り込むよう促している。

つづいて、人間の二つの根源的希望、すなわち神および人々との交わりが聖体祭儀においてどのように実現されるか説いている。

信者は、罪と死から解放してくださった救い主キリストをいただいて、聖霊により、天の父との深い交わりに入り、こうして「神と一つになりたいとの人間の根源的な飢えは満たされる」。

また、「聖なる食卓を囲む会集が教会であり、信者は、一つの杯と裂かれた一つのパンをいただき、兄弟の交わりにはいる」。

このような共同体は神の家族、神秘体であり、ここから連帯、分かち合いの責任が生じてくる。苦しみにせよ喜びにせよ、分かちあう義務を負う。貧しい者に対する信仰共同体の社会的愛の義務もここからでてくる。

このような聖体祭儀における信者の間の交わりは、今、地上に生きている教皇、司教、司祭、信徒と天上の教会に生きる諸聖人、およびこの世を去ったすべての死者を含めた交わりを実現している。

最後に、日曜日のミサを正しく理解し、「いのちの糧」をいただき、できるだけ多くの人々がこの食卓にあずかり、神の国の拡大に務めるように励ましている。

時の話題

生熊来吉

昔の教会と今の教会

「桑田変じて滄海となり滄海変じて桑田となる」。世の移り変りの激しさ。「滄桑の変」という故事も、あながち中国人一流の誇張であると言いきることはできないであろう。日本の教会は昭和史の大きなうねりに飲み込まれて平成の世に吐き出された。世の中は大きく変った。

昔はラテン語のローマ式典礼のミサが、柵の向うの祭壇の上から荘厳に捧げられた。しかし今は、日本語で口語体の祈り、信徒が説教壇の上で朗読する「みことばの祭儀」、司祭と信徒が祭壇を囲んで向き合う対面ミサへと変った。

昔は「公教要理」が信者の生活のすべてを律するハンドブックであった。さらに霊的生活の深奥に入りこもうとする信者には「イミタチオ・クリスティ」、「信心生活入門」などが推奨された。しかし今は、聖書が入門から奥義を窮めた信仰にいたるまで、すべての信者の信仰生活の提要、生命のパンとして重んじられる。

昔の教会はプロテスタントに対して護教的でポレミックに身構えていたが、今は、キリスト教諸派を兄弟と呼び、つい最近、カトリック、プロテスタント共同訳の聖書が刊行された。異教として遠ざけられていた仏教にさえも「東洋の霊性」を認め、キリスト教と仏教の対話、まじわりの道が開かれた。

信徒は自分の霊魂のことさえ心配しておれば善い信者であり、教会の中では秘跡や賜物の受益者に過ぎなかったが、今では、善い信者となるためには他人の霊魂のために働かねばならない。

この変りように古い信者は戸惑っている。イエスの教えは万古不易であり、教会の頭はペトロとその後継者なる教皇である。教会の権威によって公式に宣言された教義は永遠に変らないドグマである。世の中は変っても教会は変らない。それが信者の確信であった。

しかし、不変性のみが教会の本質であろうか。「教会憲章」によれば教会は「旅する神の民」である。旅するとは歴史的ということである。「新しい天と新しい地」の創造、すなわち終末の日まで教会は人類史とともに歩み続ける。変化もまた教会の本質である。重い過去をひきずって、聖霊に導かれる神の民の歩みから取り残されないように心しよう。

（西南学院大学講師　西新教会所属）

今月のみことば

「光の子」として生活しなさい

（エフェソ5・8）

久留米教会　下町豊重神父

司祭生涯養成に堤敏雄師が参加

司祭職を広く見直す

「司祭職」のテーマのもと「全国司祭生涯養成研修会」が、1月23日より2月4日まで鎌倉十二所イエズス会黙想の家において、深堀敏（高松）、佐藤敬一（新潟）両担当司教をはじめ、全国から18名の司祭が参加して行われた。福岡教区からは本郷教会主任司祭堤敏雄神父が参加した。

この期間中種々の講演、報告がなされた。以下列挙すると、明石健次神父（大阪教区）が昨年の研修会テーマ「小教区について」を回顧しながら、福音宣教体験報告。岡田武夫神父（日本カトリック宣教研究所所長）が昨年行った「司祭アンケート」をもとに報告。岩島忠彦神父（S・J）が歴史的、神学的にみた司祭について。3名の信徒代表者が信徒から司祭に望むこと。土屋吉正神父（S・J）が祭司職と司祭の役務について。A・ニコラス神父（S・J）が現代社会の中での司祭像。そして森一弘司教が信徒、司祭の霊性など盛りだくさん。

これらの講演、報告を受けて、参加者は4グループの分科会をもち、問題検討を行い、全体会議で質問事項を提出しあった。

堤神父の話　改めて司祭職を広く深く見つめ直さなければならないことを痛感させられ、与えられた司祭職を確認する上で非常に有意義でした。また、福音的価値観を現代どのように位置づけたらよいかヒントを得た。特に記憶に残っていることは、森司教の講演からの後継者養成の問題です。司祭の老齢化を考えると、神学生、神学校の問題が如何に大切であるか考えさせられました。全体を振り返って、参加者全員初対面であったが、共にミサをささげ祈れたことは、とてもすばらしい恵みでした。

みちくさ

一週間ほど、熊本市にある『慈恵病院』に風邪のため入院した。二十数年ぶりの病院生活であった。おかげで、忘れかけていた入院患者の心理を思い出すことができた。病院で働く医師や看護婦さんたちに敬意と感謝を捧げ、医療に従事する方々がその使命を喜びをもって生きていけるようにと祈った▼その昔、数か月間、くる日もくる日もただ天井をぼんやりながめていた。いつ退院できるか分からない不安からくるあせりを覚えていた患者たちの一人であった。見舞い客の多い人少ない人さまざまで、私はなぜか御聖体の定期便が嬉しかった。やがて、一人また一人と退院していくのを見送る複雑な心境も味わった▼そして今、人間は本当に自分勝手だなあとつくづく思う。「ピー」「ピー」、深夜にナースステーション（看護婦詰め所）のブザーが鳴っている。病室に急ぐ足音が聞こえてくる。入院後数日間、まだ熱がありなんとなく不安な気持でいたとき、あの足音に不思議と安心感を覚えた。だが、回復期に入ると、同じものが騒音となって響いてくるのである▼そんな自分を見詰めていくと、己のあさましさが見えてくる。人間は自分に都合のいいように周りが動いていないと腹だたしく思うものらしい。自分の立場でしか物事を見ることができないようだ。だから弱い立場の人の側に立ち、その心を理解することはなまやさしいことではない。ブザーの音を通して聞こえるはずの病人たちの叫びに思いいたらなかった自分を少々恥じている▼医療に従事する方々はさまざまな思いのなかで生きている患者の支えなのだ。前日の状態を聞き、体温計を配り、脈を取る、ごく当たり前の医療行為に祈りの心が込められているならどんなに素晴らしいことだろう。短い入院生活だったが、一日を看護婦さんの笑顔で迎えられた幸せな日々でもあった。

四旬節教書

日曜日のミサを大切にしよう

福岡教区司教　ペトロ平田三郎

主のご復活の準備をする四旬節にあたり、私は、教区の司祭・修道者・信徒一同に、この教書を添えて、挨拶と祝福をおくります。

今年の十月には、東アジアで初めての国際聖体大会が、隣の韓国のソウル市で開かれます。四年に一度挙行されるこの大会は、前回のアフリカのケニアに次いで四十四回目です。

五年前、同市で行われた百三名の殉教者の列聖式には、百万の信者が集まりましたが、今度の大会では、これをはるかに凌ぐ参列者が予想されます。この大会を前にして、聖体についての私たちの信仰を反省してみたいと思います。

聖体についての理解

聖体は、神が教会に残してくださった最も大切な宝で、平和の源、「いのちの糧」です。食物がなければ、体は飢えて死んでしまうように、この「いのちの糧」をいただかなければ、魂のいのちはなくなります。私たちは、体のいのちを保つため苦労して働きますが、「いのちの糧」である聖体についての理解は不十分です。そのため、日曜ごとの聖祭に出席はしますが、それも、教会の掟だから、与らないと罪を犯すからといった法的な考えが多く「いのちのパン」に飢えての出席ではないため、主の食卓に与ることは重荷になり、教会離れの原因ともなりかねないのです。

そういうことから、昨年、京都で行われたナイスでは、信仰の生涯養成の必要が強調されました。この養成の頂点は、聖体でなければならないと思います。第二バチカン公会議も言っているように「聖体祭儀は、教会生活の源であり頂点」だからであります。従って、私たちの外に向かっての社会活動や宣教活動は、この源から出発し、この頂点に向かっての動きでなければならず、そうでなければ、すべては、人間の単なる社会活動、政治活動に留り、真の力を発揮することはできないでしょう。

聖体祭儀は、なぜ「教会生活の源であり、頂点」であるか、その一端について反省してみましょう。

聖体祭儀は人を神との交わりに導く

神との深い交わりに入りたい、神と一つになりたいとの憧れは、人間の根源的欲求で、聖アウグスチヌスも告白録の中で言っています「神よ、あなたは私たちを、あなたに向けてお造りになりました。あなたのうちに憩うまでは安らぎを得ません」と。この欲求を満たしてくれるのが洗礼であり聖体です。信者は、洗礼の水を通して、父と子と聖霊の交わりの神、三位にして一体の神に結ばれます。この結びを更に具現化するのが聖体です。

ところで、聖体祭儀の初めには「み言葉の祭儀」があります。祭壇の横の小さな壇から聖書が読まれます。聖書は愛の父と、この父が世にお遣わしになったおん子キリストのいわば手紙で、「いのちの言葉」「救いの言葉」と言われます。神のこの使信を聞き心に納めながら、「交わりの儀」の準備をいたします。そして「神の小羊の食卓」に招かれます。

小羊という言葉を聞いて思い浮かべるのは、イスラエル人が過越の祭りに当って、神への感謝の印としていけにえに捧げたあの小羊、神から受納され、奉納者に返されたこのいけにえを、家族揃っていただき、神との交わりに入ると考えていたあの小羊、その血をテントの柱と鴨居に塗って民を死から生命に過越させたあの小羊です。救い主キリストは、完全な感謝のいけにえとして、動物ではなく、ご自分を「世の罪を除く神の小羊」として捧げ、信じる人々の「いのちの糧」となってくださいました。

驚くべきことは、信じる人が、この神の小羊を、いつ、どこでも容易にいただくことができるために、いつ、どこでも手に入れることのできる日常の食べ物、飲み物であるパンとブドウ酒の形で、最後の晩餐の時、ご自分をお与えになったということです。

信者は罪と死から解放してくださった救い主キリストをいただいて一体となり、キリストを通して、聖霊により、天の父との深い交わりに入るのです。こうして、神と一つになりたいとの人間の根源的な飢えは満たされるのです。主は言われました「私はいのちのパンである。あなたたちの先祖は荒れ野でマンナを食べたが死んでしまった。しかし、私は天から降りてきた生きたパンであり、これを食べる者は永遠に生きる……私の肉を食べ、私の血を飲む者は、いつも私の内におり、私もまたいつもその人の内にいる」と。（ヨハネ6・48～51、56）

聖体祭儀は信者間の交わりに導く

人類が互いに深い交わりに入り、一つになるようにとの願望は、これまた人間の根源的な希望です。この願望はどのようにして満たされるでしょうか。

主の招きに応え、聖なる食卓を囲む会衆が教会であり、小羊の食卓に連なる信者が教会を構成し、見える教会として姿を世に現わします。多くの麦粒が粉にされて作られた一つのパンと、多くのブドウの粒がつぶされて一つの杯に注がれたブドウ酒を、会衆は司祭と共に神に捧げます。聖霊はこれをキリストの体と血に変え、これを捧げた者にいのちの糧として返してくださいます。

信者はこの一つの杯と、裂かれた一つのパンからいただき、キリストにおいて兄弟の交わりに入るのです。聖パウロは言っています「私たちの裂くパンは、キリストの体に与ることではないか、パンは一つだから、私たちは大勢でも一つの体です。皆が一つのパンを分けて食べるからです」（コリント前書10・16～17）私たちは洗礼の時、またミサ聖祭の時に「私は聖徒（信者）の交わりである教会を信じます」との信仰宣言をしますが、この信仰の根源はここにあるのです。

こうして、キリストのうちに一つの交わりに入っている信仰共同体、神の家族、神秘体は、連帯、分かち合いの責任を負っています。体の一部が苦しめば全体が苦しみ、一部が栄誉を受ければ全体の喜びとなります。聖体において深い交わりに入った共同体は、苦しみにせよ喜びにせよ、分かち合う義務を負っています。貧しい者、弱い者に対しての信仰共同体の社会的愛の義務はここから出ているのです。

このことを悟っていなかったコリントの教会の信者は、聖パウロから叱られています。ここの信者は、主の食卓に与るために集まりますが、金持はおいしい食べ物と酒を持ち込み、祭儀の前か後に、教会の一隅に陣取って飲み食いし、貧乏人は他の一隅で小さくなって飢えている。分かち合う代りに、異なった社会層の者は仲間割れして別々の行動を取る。そんなことは主の食卓の精神に反し、神の教会をみくびり、貧しい人々を辱めることだと言って叱り、兄弟間の交わりの手本として、キリストの聖体制定の様子を述べています。（コリント前書10・17～34）

初代教会の信者たちは、キリストとの交わりからくる相互の物質的、霊的な分かち合いを大切にし、すべてを共有し、おのおの必要に応じて分かち合い、喜んで一緒に食事をし、民衆から好意を寄せられたのでした。（使徒言行録2・44～45参照）

また聖体祭儀における信者間の交わりは、現在地上に生きている教皇、司教、司祭、信徒ばかりでなく、今は天上の教会に生きる過去の人々、十二使徒をはじめ、諸聖人、およびこの世を去ったすべての死者を含めた交わりであり、その中で、共に神を賛美し、祈るのだということも、忘れてはならないのであります。

むすび

このように考えてきますと、日曜の聖体祭儀は、神と連なるものです。

こういう反省から、日曜の聖体祭儀を大切にし、いのちの源である神から、喜んで「いのちの糧」を豊かにいただき、できるだけ多くの人々が、この「いのちのパン」の食卓に与り、神の国が拡大するよう務めたいものです。

教区「家庭の日」を前に

家庭はすべての基礎

教区「家庭の日」大会（5月21日）の準備が着々と進んでいる。編集部では今回の大会責任者であるファミリーセンターのライル神父（家庭委員会委員長）に大会のねらいと準備状況について伺ってみた。

教区で「家庭の日」大会を開くようになったいきさつを聞かせてください。

それは、去年の9月の司祭評議会のときに話がありまして、具体的な計画が私に一任されたのです。

「家庭の日」または大会をどのようにやりたいとお考えですか。

いろんな方のご意見を聞いて、そのなかから浮かんできたイメージは「家庭の日」を活かすために単なる行事で終わらせたくないということです。

このために、大会では、分科会を中心にして、さまざまな問題を掘り下げ、大会後に各地区あるいは小教区で行われる家族の見直しのいろいろな集まりのモデルになるようにしたいですね。

ご存じのように、現代では私たちは注意しないと、一般社会に振り回されている傾向があります。なんといっても基盤となるのは家庭ですのでその見直しは非常に大事なことだと思います。

どういう方々が協力者になっておられるのですか。

多くのご夫婦の協力を得ています。地区信徒協の会長さん、婦人会の方々、そしてシスター方も手伝ってくださっています。

現代の日本の家庭には具体的にどのような問題があるのでしょうか。

そうですね。だいたい20年ぐらい前、日本の離婚率は10組に1組ぐらいでした。それが今では、4組に1組ぐらいにまでなってきました。それに、母子家庭だけでなく、父子家庭も増えてきていますし、統計では、両親のない家庭も増えてきているのです。

また、アルコール中毒は家庭の主婦の間にも広がってきましたし、家出や登校拒否の問題などもあります。

このような現象をみていると、親子の関わりが非常に浅いことに気づきます。子供の側に淋しさ、物足りなさがつのっています。やはり親子が心から話し合う時間を確保すべきでしょう。

全体的に見た場合、物で子供の心を満たそうとする傾向が強いようです。

もう一つ、性に関する指導とか、考え方は健康的ではないように思います。もちろんこのような問題は社会の問題でもあるわけですが、やっぱりその根源となるのは家庭ではないかと思うんです。

家庭を見直さなければと考えている人は多いのでしょうか。そのために、今度の家庭の日の大会は何ができるのでしょうか。

家庭を見直さなければと考えている親はとても多いですよ。ただ、何かしなければと思いながらもどうしていいかわからない状態だと強く感じています。

そのためには、社会の現状をより正確に把握しなければなりません。そこで、準備を手伝ってくださっている夫婦の力、アイデアをお借りしてアンケートを作成してみました。

このアンケートは、夫婦で答えるものあるいは親子で相談して答えるようになっています。そして家族全員が信者である場合とそうでない場合などさまざまなケースを想定しています。

このアンケートに家族みんなで取り組むならきっと家庭に対する意識も新たになると思います。

塗り絵、ポスターなどもあるそうですが。

それは、小さい子供たちのためにつくってみました。それは教会でではなく家にもって帰ってするように勧めています。そして自分の家に貼っていただきたいですね。

「家庭の日」のために特別の祈りができているそうですが。

そうです。私たちは「家庭のための祈り」を二種類作りました。

一つは普通の祈りの形式です。これは一人の小神学生の作品です。もう一つは共同祈願形式のものです。これらはみ堂でも家庭でも自由に使えます。

日本のカトリック信者の家庭の危機はどこから来ているとお考えですか。

まず、私たちの生活が忙しくなり、社会の圧力に巻き込まれているからでしょう。

それに、信仰生活もただ教会に来て、祈り、ミサにあずかり、秘跡を受けるということで終わっているような気がします。

家庭内でお互いへの感謝の気持、ゆるし合いの心、つまり精神的な部分が不十分ではないかと思います。家庭内の関わりを基本的に直そうとしないなら、ミサ聖祭の味、祈りの味もでてこないと思うのですが、どうでしょう。

信者の家庭の中に、社会がこんなだから仕方がない、といったあきらめの声も聞かれますが。

たしかにそれは重大な問題です。そのために家族単位の司牧が必要となってくるわけです。

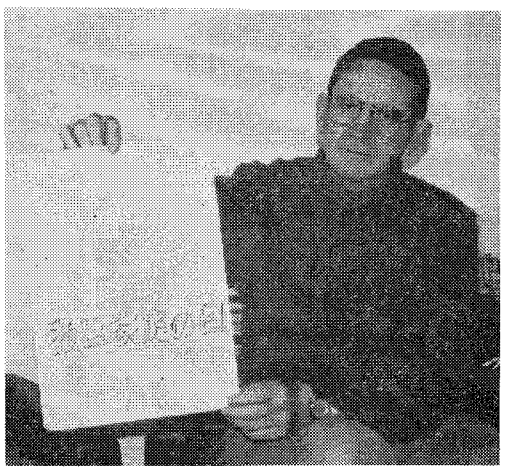
私は、信者の家庭がより福音化されるために、豊かなものとなるために、家族で一緒にする「祈り」の見直しが必要だと考えています。というのは私たちの祈りは、社会と遊離しているような気がするからです。残念ながら、多くの場合、祈りは現実の生活から出てきていないようです。

家族で一緒に祈るという習慣は結婚する前から始めるべきだと思いますが、どうでしょうか。

そのために、今、私が取り組んでいる研修会や結婚準備セミナー、夫婦の集いなどでは、お互いの生活からの悩み、嬉しいことの分かち合いを大切にしています。

実は、小さい子供たちは自発的な祈りが大好きで、やりたい気持が一杯なんですね。私たちは、大人の祈りを押しつける傾向がありますが、子供の自発的祈りを引き出してあげるといいと思います。これは、家庭でも教会での典礼でも可能だと思います。

大会の準備は委員さんたちの献身的なご協力と祈りによって進められています。信徒の皆さんのご協力を宜しくお願いいたします。



福岡黙想の家
御受難修道会 宗像修道院（院長：畠 基幸）
1989年4月オープン予定
連絡先：宗像東郵便局私書箱5号 ☎0940(32)3222
〒811-41 宗像市大字名残字立山1056
（JR赤間駅からバスで10分；若宮インターから10分）

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 096—352—3306
096—352—8622

式典・花
木下株式会社
福岡 (712) 8022　久留米 (33) 7401
佐賀 (30) 4040　小郡 (72) 3482

福岡地区司祭の集まり

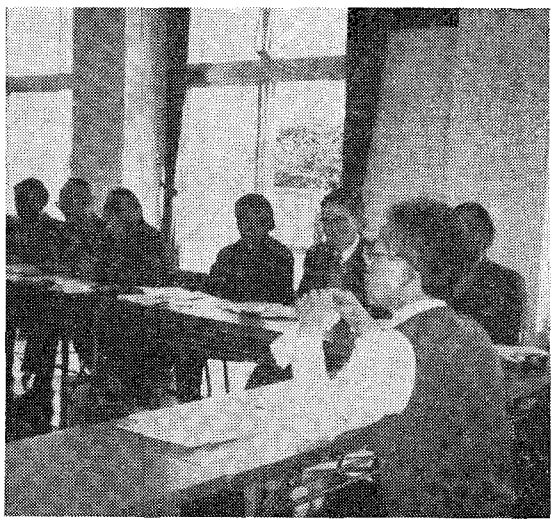
天皇問題で松井牧師が講演

第3回福岡地区司祭の集まりが、2月14日、司教館でもたれた。午前の部では、さきの司祭評議会の報告が同評議員の山川辰幸師からあった。午後からは、「日本のプロテスタント教会と天皇問題」の講演を聞いた。講師は、日本基督教団渡辺通教会の松井敏郎牧師。

松井牧師は、一プロテスタント牧師としての立場からと断ったうえで、天皇問題を分析した。以下はその講演内容の要約である。

天皇の政治的利用を警戒

過去の過ちを繰り返さないため



松井牧師（右端）の話に耳を傾ける参加者

日本のプロテスタント教会と天皇問題を考える時、次の歴史的事実を思い出さなければならない。昭和初期、教団内部のホーリネス教会員60数名が、天皇への不敬罪に問われ検挙され、中には獄死した者もいる。また昭和7年支那事変勃発時には、キリスト教連盟として戦争批判のスローガンを出しながら、昭和17年には教団が戦争支持に傾いていた。このことは、前述したホーリネス教会の仲間を結果的には見捨てたことになり、事実教団内から除名したのである。これら一連の事柄の中には大きな矛盾が含まれており、天皇制に対する教団としての誤った態度が指摘されるべきであった。

その背景には、教団への軍部の圧力、天皇理解の問題、そして何よりも殉教をも辞さない覚悟で信仰を守り通す決意が不徹底であったことが考えられる。

このような過去の過ちに対して、「第二次大戦下における日本基督教団の責任についての告白」という文書を一九六七年に出したが、その中で「……わたくしどもは、教団成立とそれにつづく戦時下に、教団の名において犯したあやまちを、今一度あらためて自覚し、主のあわれみと隣人のゆるしを乞い求めるものであります。……あの戦争に同調すべきではありませんでした。まさに国を愛する故にこそ、キリスト者の良心的判断によって、祖国の歩みに対して正しい判断をなすべきでありました。……」と述べている。

キリストのみが主であると宣言

このような教団の自覚のもとに、一九八八年第25回教団総会において「『天皇代替り』を前にして、新しい天皇制支配の動向に対処する、日本基督教団の声明」（案）が出された。

この中で、自分たちの信仰告白に従って、天皇神格化のいかなる試みも拒否すべく、信仰の自由への侵害、教会への外部圧力による干渉を拒否しながら、的確にそれらに対応する方向で宣教の業に励んでゆくことを掲げている。

更に日本基督教団九州地区においては、一九八九年「宣教基本方針並びに宣教基本方策」（案）を出した。そこでは、「イエス・キリストのみが主であること」、神のみを神とすること。天皇制の問題では、過去において信仰の自由を奪われ、獄死した人々がいたという不幸な過ちを再び繰り返さない決意をもちつづける、との立場をはっきり確認している。

シリーズ　ここが聞きたい

正義と平和協議会①

正義と平和協議会（正平協）はどんなあつまりなのですか。

「見て聞くこと」から

私たちは「北九州カトリック正義と平和協議会」という名称を使用しています。

北九州を頭にもってきているわけは日本司教団の正義と平和担当の相馬信夫司教もいわれるように、「その地域の司教のもとに自分たちで自由に判断して行動する」ためであり、「地域の独自の活動、動きを重んじる」ためなのです。

例会はまず福音の分かち合いから始めます。これは正義と平和の正しい歩みは福音と照らしあわせて自分の生活を築いていく、を大切にするためです。

それと同時に大事なことは、〝現場を知る〟ということです。そこが出発点です。問題があればそこに行ってみれば何をすべきかが見えてきます。

この「現場主義」が正義と平和の原点にあるのです。

このような動きのなかから昨年は、外国人登録法の制度改正を学びました。この制度は、外国籍の人たち、特に在日朝鮮・韓国人にとってどうなのか、市民運動グループの人にきてもらって学習しました。当該者にとってはどうなのか問いかけ、改悪であり反対していると聞く。反対に、無関心な私たち日本人の問題だと問われる、といった具合です。

こうして、正義と平和会員のなかから支援のための集会、署名活動、デモなどへ参加する人も出てきます。

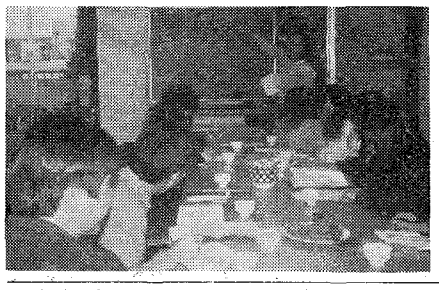
現場の人に聞きに行く。キリストも「来て見なさい。そうすればわかる」といわれたのです。〝開かれた教会づくり〟のためにも、こちらから出かけていくことが必要ではないでしょうか。

回答者　守谷英二（北九州カトリック正義と平和協議会）

ムジゲの会

韓国語に取り組む

日韓交流参加青年中心に



昨年5月に韓国ソウルを訪問し、現地のカトリック青年と交流を持った教区の青年たち十七名が、自分たちの体験を深め拡げていくために「ムジゲ（韓国語で『虹』の意味）の会」を発足させ、例会をもっている。

例会発足当時は、韓国訪問の感想をまとめたり、韓国の教会に手紙を送ったりしていたが、最近、崔（チェ）さんを講師に韓国語の学習を始めた。

初めての交流のとき、若者らしく互いに身振り、手振りの体当たり交流である程度の意思の疎通はできたが、相手のことをもっとよく知るためにはまず相手の言葉を理解することからとの考えに基づくもの。

集まりは、午後4時から司教館新館で持たれているが、共通体験もあって和やかな雰囲気で行われている。

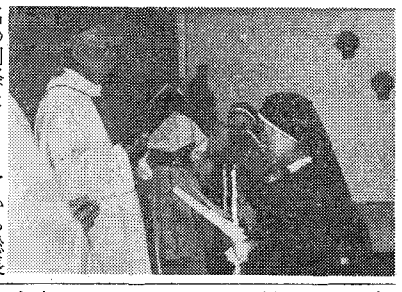
韓国訪問にも同行し、例会にも常時顔を出して青年たちを励ましている教区青少年担当司祭の青木悟神父（手取教会）は、「もっとも近くて日本との関わりが深い韓国を知り、自分たちの信仰を見直していく集まりになれば」と語り、「来年には第2回目の交流を実施したい」との意欲を示している。

聖心のウルスラ会

総長を迎えて初誓願の喜び

聖心のウルスラ宣教女修道会で、2月11日、修練者になるための式と初誓願式が行われた。

式は平田司教が司式し、7名の司祭とイタリアから総長も参列して荘厳さの中にも、家族的雰囲気の中で執り行われた。



司教は「キリストにより強くつながれるために、自分のうちにある不用なものを神に喜んで刈り取ってもらいなさい」と励ました。

新修練者と新立願者は次のとおり。（　）内は出身教会

新修練者
大迫こずえ（六甲）
牧野みどり（佐賀）

新立願者
友寄富美子（二日市）
加藤ゆかり（松坂）
写真＝右からSr加藤、Sr友寄総長M・A・マルケッティ

26聖人しのび祈りのつどい

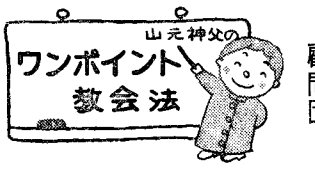
高宮教会

2月6日（月）フランシスコ会高宮教会（主任司祭・須賀沢公男神父）で、日本26聖人殉教者の祝いが行われた。

今年も平田司教をはじめ教区、修道会司祭10数名がかけつけ、司教司式のもとに教会の『昼の祈り』が唱えられた。この中で司教は日本26聖人殉教者の足跡をたどり、特にフランシスコ会士たちの英雄的信仰のすばらしさについて話した。

この後、26聖人の一人、トマス小崎を霊名にいただいている須賀沢神父の祝いをもかねて、心なごむ会食の一時を過ごした。

司祭評議会と顧問団



教会法の第2巻（三三〇条～第五七二条）には、教会の位階的構成についての規定があります。

いわゆる教会の様々な組織についての規定です。

その中で、今回は「司祭評議会」と「顧問団」についてみます。

各教区には、司教の諮問機関として司祭評議会があります。このグループは、司教の重要な任務のひとつである「神の民の司牧」を「もっとも効果的に促進」するために、司教を助ける任務をもっています。（第四九五条）

評議会の会員は規定に従って、①司祭の互選により、②職務上より、③教区司教の自由な任命により選ばれます。（第四九七条）①は14名（教区司祭6名、修道、宣教会8名）②は教区長、司教総代理、教区会計、大神学院院長および小神学校長の5名、③は若干名。

司祭評議会を集め、主宰し、そこで話し合う議題を選定するのは司教です。また、評議員からの提案を受理するのも司教の権限に属しています。（第五〇〇条）

司祭評議会で決まった事柄を公表するように配慮するのも司教の権限です。

評議員の任期は規定では3年間です。福岡教区では一昨年改選されました。

20名の評議員の中、5人が常任委員になり、司教、司教総代理とともに司祭評議会常任委員会をつくっています。ここではおもに評議会での議題を検討します。

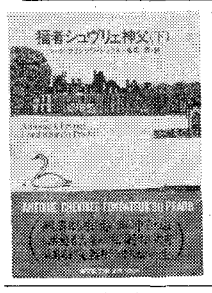
さらに司教は、司祭評議会の会員の中から、任期5年の顧問団を構成します。顧問は6名以上、12名以下で、司教が自由に任命します。5年の任期が満了の場合、新しい顧問団が設立されるまで、そのまま、その任務を継続します。（第五〇二条）

次回は、司牧評議会をみます。

（小倉教会）

BOOK 読みま専科

☆福者シュヴリエ神父
ジャン・フランソワ・シックス著



アントワーヌ・シュヴリエ神父は、十九世紀産業革命時代にリヨン近郊の下層プロレタリアの中で、その貧しい生活条件をともに生き、そこで飢えて死んだ。彼はリヨン教区の司祭たちから無視され、その生活は理解されず、貧しい人たちのための貧しい司祭のグループをつくろうとした。

若くして世を去ったこの司祭は、現代における司祭の一つの型を提案している。

それは、アルスの司祭型でも、田舎司祭の型でもない。修道院型の霊性でもない。彼は、第一ヴァチカン公会議の時期に第二ヴァチカン公会議の精神を先取りしていると言える。いわば、二十世紀のアッシジのフランシスコである。しかし、イタリアの明るい太陽の下ではなく、ローヌ河の霧と工場の煙の中の貧しい司祭である。

聖母文庫・聖母の騎士社
上・下、各　五〇〇円
著者、シックス神父は一九二八年生まれ、フランスのリール、カトリック大学に学び、文学・神学博士。霊性の現代史を特に研究し、「フランス十九世紀におけるカトリック復興」「アンリ・グレモンの源泉」「シャルル・ド・フコーの霊的遍歴」など、多数の著書がある。

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3―2―9　TEL 092-531―1231

祭壇・洗礼盤他
素材 石 石 理 影 大 御 そ 他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

三月の行事

※ゴチックは司教日程

6日　司牧評議会常任委員会　午後3時
7日　教区全司祭集会　午前11時
12日　行橋教会落成式　午後1時
15日　選任式（大神学院）
23日　聖香油ミサ（浄水通教会）　午前11時
26日　復活祭ミサ（カテドラル）　午前9時
30日　聖書委員会（東京）
24日　聖金曜日（カテドラル）　午後7時
25日　復活徹夜祭（カテドラル）　午後7時
聖木曜日ミサ（カテドラル）　午後7時

福岡教区各種委員会

委員長

*信徒使徒職委員会　山田成章師（光ケ丘）
*典礼委員会　松井忠之師（小神学校）
*信仰教育委員会　山元　真師（小倉）
*家庭委員会　ライル師（ファミリーセンター）
*青少年委員会　青木　悟師（手取）
*正義と平和委員会　西田邦洋師（大牟田）
*召命促進委員会　山川辰幸師（西新）
*広報委員会　渡辺隆義師（小郡）

担当司祭

*国内移動信徒　竹森　勇師（老司）
*学校教育　草野純英師（泰星学園）
*社会福祉　岩永義人師（二日市）
*エキュメニズム　フランコ師（東西交流センター生命山）

アジア太平洋博覧会（よかトピア）でバチカン美術館展

6月3日～7月16日

古代ギリシャからルネッサンス、バロックまでのバチカン市国秘蔵（主にバチカン美術館所蔵品）の絵画、彫刻、工芸の逸品62点。すべて日本初公開。

入場料（　）内は当日料金
大人　四〇〇円（五〇〇円）
高校生　二五〇円（三〇〇円）
中・小学一五〇円（一〇〇円）

香典返しを小神学校へ

天使の聖母宣教修道女会のシスターテレーズ・シャギオン様の香典返しとして、司祭養成のため金一封をいただきました。

シスターの永遠の安息をお祈りしご報告申し上げます。

福岡小神学校
松井忠之神父

三月命日の司祭

*ルイ・マリ・ベリボ師（ドミニコ修道会）一九七七年三月十六日元箱崎教会主任
*フランソワ・マリ・ヴェイヨン師（パリ外国宣教会）一九七三年三月十二日元唐津教会主任
*ユゼーヌ・ジョリ師（パリ外国宣教会）一九六六年三月六日元久留米教会主任
*ジェームス・ドイル師（コロンバン会）一九六二年三月二六日元荒尾教会主任
*マキシム・ボア師（パリ外国宣教会）一九五九年三月一九日元新田原教会主任

福岡教区「家庭の日」大会

テーマ：現代社会における家族の生き方
—共に家庭生活を振り返って
未来を展望しよう—

日　時：1989年5月21日（日）
12：00　受付　　1：00　分科会
4：00　ミサ

場　所：福岡カテドラル・センター

事務局及び連絡先

カトリック・ファミリー・センター
〒815 福岡市南区皿山4-14-27
TEL　(092) 541—6207

コンクール作品募集

「家族」というテーマのもとに、幼・小・中・高生から「作文」「絵」「書道」、青年・成人から「写真」を募集します。どしどしご応募下さい。

応募期間：2月1日～4月2日

桜の樹の下には屍体が埋まっている！

梶井基次郎

『桜の樹の下には』に所収。いまだかって、日本人の誰がこんな思いをもって桜を観たであろうか。彼は全くユニークな感覚の持主で、その代表作は『檸檬』最高傑作は『冬の縄』。残すところの約二十篇の短篇は、それだけで、もはや不朽の古典といってよい。彼は漱石を酷愛したが、その文体は全く自分のものになりきっている。彼は三好達治より一歳下で、暫く同居したことがあり、達治の畏友でもあった。梶井が三十一歳で肺結核のため夭折したとき、三好は四篇の悼詩を捧げた、その一つ「路上」、巻いた楽譜を手にもって君は丘から降りてきた　歌いながら／村から僕は帰ってきた　洋杖を振りながら／……ある雲は夕焼のして春の畠／それはそのまま　思ひ出のやうなひと時を　遠くに富士が見えてゐた。

かのときのことのは

森山　敬三

おーかーげ

「男と女が結婚したとき、愛し合っているけれど、一週間か二週間したら、仲が悪くなっている。どうしてやろう。人間がボロになってくるからかな？」

これは小学一年生の岡野マリちゃんの詩です。〝ボロになる〟ことは人間だれでも早かれ、遅かれ体験することです。六十六年の人生を旅してきた筆者も、最近、病に倒れ、しみじみ弱さと心細さを痛感し味わったものです。

自分の弱さを素直に認め、弱さこそ恩寵として受け入れる時、神の栄光と人間の崇高さが現われるのでありましょう。

常に周りの人に自分の豊かさと愛をわかち、本人も主人や子供そして友人達に愛されていた婦人がいました。豊かで、かげりのない幸せな生活でした。ところが彼女にも恐ろしいほどの弱いときがありました。家の改築のとき、そこに働いた若い大工さんと駆落ちしてしまったのです。一週間もせずに発見され、主人と子供の前にひき戻されました。恥かしさと後悔に絶えられず、塩酸による自殺をはかり、これも又失敗、塩酸によって焼けただれた彼女の消化器は食べ物を何一つ受け入れることができません。その後、八カ月もの長い間、子供の冷淡と軽蔑の下に、裏切った主人の世話にならねばなりませんでした。あるのはただ体と心の激しい苦痛だけです。世の人は自業自得、恐ろしい罰として見るかもわかりません。しかし、空に舞う凧のように、ひからびた魚のようになった彼女の姿に接したキリスト者の友人は次のように証言しました。

「私は神さまの憐みをそこに見ました。彼女の様々な徳、柔和と寛大さ、明るさなどが神に嘉せられ、今、天国への準備をしているのです。黙って、彼女にロザリオを渡しました。キリストの名のみを知っていたこの婦人は臨終の時、ロザリオをしっかり握っていたそうです。

私は、全ての人々に対する神さまのふかい憐みと償いのチャンス、救いを確信できました。」

大聖人たちも信仰の道において自分の弱さを自覚するどん底に突き落とされた経験をなさいました。ペトロの否み、ダマスコでのパウロ、アウグスチノの暗い青春、現代の偉大な聖人、小さいテレーズも次のように話しています。

「神が私を特別に支えてくださらなかったら、マリア・マグダレナのような罪女になったに違いありません。イエズスは『少ししか許されなかったものは、少ししか愛さない。』とおっしゃいました。イエズスは私をマリア・マグダレナより多く許してくださったことがわかります。なぜなら、私がどん底に落ちないように前もって、私の道の躓く障害を取り除いてくださったからです。」

主、イエズスこそ、私どもの弱さと罪を担って、全面的に押し潰されました。十字架の苦しみの最中、「神よ、神よ、なぜ私をお見捨てになったのか。」とお叫びになり、絶望のどん底を体験されました。天国に入るときの私たちの肩書は『罪人』であります。しかし、主の憐みをたっぷりと注がれた幸せな罪人なのです。キリストの復活にあずかるためにボロボロの自分を知ることが大切な条件です。どん底を味わうこと、それこそ過越の神秘を生きることではないでしょうか。

最後に全身に障害をもたれた水野源三さんの詩を紹介して終わりにいたします。

どん底より

徳山　登

わが心から

水野源三

復活したキリストの
お姿を見たその時から
わが心から、わが心から
疑いは　たちまち消える

復活されたキリストの
お声を聞いたその時から
わが心から、わが心から
悲しみはたちまち消える

復活されたキリストの
愛に触れたその時から
わが心から、わが心から
憎しみはたちまち消える

（パリ・ミッション会司祭　八王寺教会）

結婚準備セミナー

一九八九年度第二回

〈福　岡〉
会　場　カテドラルセンター
日　時　4月6日から4月27日まで、毎週木曜と土曜の計七回
時　間　午後7時～9時15分
申し込　☎092—541—6207

〈熊　本〉
会　場　カトリック手取教会
日　時　4月5日から4月26日まで、毎週月曜と水曜の計七回
時　間　午後7時～9時15分
申し込　☎096—352—3030

参加者募集
（マリッジエンカウンター）

新・黙想の家で集い

マリッジエンカウンターは、夫婦が日常生活の忙しさから離れ、お互いの結婚という結びつきを見直すよい機会です。

日　時：4月28(19時より)29・30日
問い合わせ：092・801・5351（深堀）

編集室から

▽福岡地区司祭の集まりで日本キリスト教団の松井敏郎牧師が「日本のプロテスタント教会と天皇問題」を講演された。

松井牧師が「戦時中、カトリックもプロテスタントも双方が時の権力者によって弾圧されていたことをお互いに知らなかった」と語られたときは、信じがたい気持であったが、考えてみれば、それほどまでに没交渉であったということだろうか。

エキュメニズムの時代を感じさせたひとときでした。

▽5月の教区「家庭の日」は以前にあった大会と大きく趣を異にしているようです。

当日は、全小教区が教区の「家庭の日」に心を合わせることができるようにミサの祈願文も用意されると聞きました。

カトリック信者の家庭であることの証とはどんなものなのか、家族みんなで考えてみたいものですね。

ライル神父様をはじめ準備委員の皆さまほんとにご苦労様です。（W）

ナオミ・コミュニケーション
ビデオ、スライド、映画など
＊カトリックのも取り揃えています。
〒383-01　小郡市東町330-10番地
（小郡キリスト教会内）
☎　0942(72)0909

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17—10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092—552—8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—24
TEL　093—771—3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
(株)メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2—0646
行橋市駅前5秒店　☎2—2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641—4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641—7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922—5637

未来へ——安心を創る
FUJKI　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092—521—0568

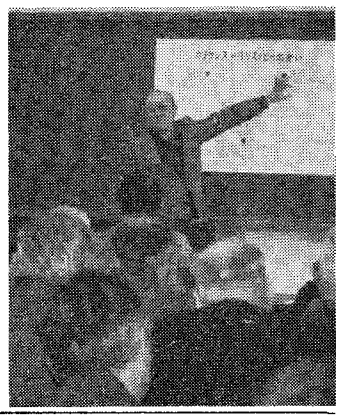
カトリック福岡教区報

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

信仰の喜びを伝える

司祭と親の協力が不可欠

全司祭集会でガイヤール師講演



幼少年への信仰教育について、ガイヤール師（門司教会）が3月7日、講演を行った。

キリストとの出会いであるカテケジスの方法論の土台であるみことば、典礼、体験（家庭社会において）には相関関係がある。信仰教育にあたってこれらは分かつことの出来ない密接な繋がりを有し、その中においてこそキリストとの真の出会いが生じてくる。

このことを踏まえ、次の4点について反省を促した。

①小教区で施されているカテケジスが、充分刷新されているか。②カテケジス以外での子供の教会体験への配慮はどうか。子供同士の生き生きとした共同体づくりがなされているか。③子供の信仰教育に対して重大な責任をもつ家庭の役割は、どのように果たされているか。親は信仰教育の第一の責任者であり、家庭におけるキリスト教的（福音的）雰囲気はとても大切である。④社会の福音化を促すために、信仰者の家庭が真の価値を示す〝逆らいのしるし〟とならなければならない。

以上のことから、信仰教育には教えと体験とが不可分であり、両者をバランスよく子供たちに施すために、司祭と両親（家庭）との密接な協力が必要であり、強く望まれている。

5月21日（日）

現代社会における家族の生き方

教区家庭の日

現代社会におけるカトリック者の家庭をダイナミックに問い直そうとする「教区家庭の日」大会が近づいている。

実行委員会が募集した作文、ぬり絵、写真など家庭に関する作品は各地区毎に集められているが、同委員会では、もっと多くの応募を期待している。

大会が開催される5月21日会場のカテドラル・センターには各小教区からの代表および二百人が集まり、現代の家庭について分ち合うことになっている。

また、小教区で「教区家庭の日」にこころを合わせるために、実行委員会では、当日のミサの祈願文も準備する。

好評の「家庭のための祈り」は多くの小教区で活用され、日曜日のミサの後や各種の集会で唱えられている。

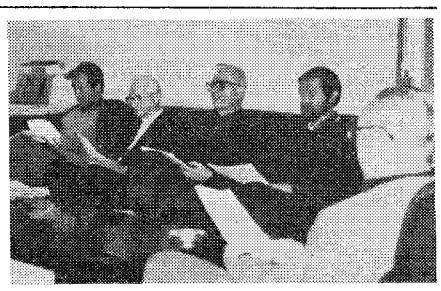
今月のみことば

もしこの人たちが黙れば、石が叫びだす。

（ルカ19・40）

浄水通　粟本昭夫神父

分団会での声



ガイヤール師の問題提起を受けて、三グループの分団会を持ち、活発な意見交換を行い、全体会で報告し合った。

〈信仰教育の四要素〉

信仰教育には欠かすことの出来ない四つの要素がある。相手を大切にする。相手中心に考える。相手の中のよい面を積極的に見つけようとする。互いにゆるしあう。これらのことを家庭の中、毎日の生活の中で実行するなら、青少年は教会から離れることはないはずだ。

〈まず親への信仰教育〉

親によって子供への意識が異なる。ある親は自分たちが子供時代に受けた教育の厳しさ、苦しさを子供には経験させたくないと考える。ところで子供はよきにつけ、あしきにつけ親の影響を受ける。すると親に先ず、信仰教育の意識を高めてもらわなければならない。そんな時、司祭はどのような協力が出来るか。

〈家庭の見直し〉

家庭は教育の根本的土壌である。そんな家庭において現代見られる傾向は、親子の触れ合いの稀薄さ、祈りの欠如である。こういう家庭の状況において、どのように宗教教育が行えるか。

〈社会の現実と教会〉

教会で子供たちに教えるためのテキスト、教師が求められるが、しかし先ずは子供たちが教会に来なければ何も出来ない。子供が教会に来ない原因として、社会が来ることを引き止めており、また教会自体も子供たちをひきつけるような魅力に欠けるのではないか。

平田司教の話

今回の話し合いでは、司祭同士が互いの悩み、苦労を分かちあうことが出来、種々の反省を促してくれたという意味でとても実り多いものであった。私たちは、改めて信仰を単なる知識としてではなく、体験として伝え、養成しなければならないという、大切な大変な任務に携わっていることを自覚させられた。

今後とも一層の熱意をもって信仰教育、特に幼少年への信仰教育に励んでいただきたい。子供たちは真っ白なカンバスである。そこにすばらしい信仰を描かせて欲しいものです。

教会の活性化を目指して

教区信徒協が研修会

7月29日（土）～31日（月）に予定

教区信徒使徒職協議会の役員会は、2月19日、佐賀教会で開催され、教区の司牧評議会を中心に進められてきた各種委員会についての説明を指導司祭の山田成章師からきき、信徒協主催の研修会やその他の議案を検討した。

会議にさきだって、山田師は、自己変革・刷新を強調して、「ナイス終了後一年余りになるが、教会はどれくらい刷新されただろうか？。他を批判することを止め、自分の周囲についてあまり意地になってはいけない」と語った。

教区の各種委員会の目的と性格について

教区司牧評議会の要請で、委員長（司祭）、委員若干名（修道者、信徒）からなる、家庭、典礼などの各種委員会が発足したが、現在、委員長だけが決まっている。

この委員会は、司牧評議会の下部組織ではない。

これまで、教区行事は、九月の司祭評議会で決められ、十月初めには、全司祭に通知されていたが、多少場当たり的で、何年か先まで見通したヴィジョンに欠けていたと思われる。

こういったことが今後改善されていくのではないか。

信徒協主催の研修会

研修会は、7月29日（土）から31日（月）まで、森一弘司教を講師に、二泊三日で予定されている。

テーマについては、「教会の活性化を目指して」をメインテーマとし、「教会運営のあり方」、「司祭との協力」を具体的に考えることとなった。

場所・人数・費用については原案どおり、場所は福岡黙想の家（宗像市大字名残）人数は約百名、費用は宿泊者の場合一万円、懇談会費二千円を了承した。

その他つぎの要望が出された。

①分散会は、部屋数や大きさにもよるが、あまり多人数にならないように。

②テーマはなるべく少なく。

③土曜日に基調講演をおく。

④執行部は、四月上旬までに実施要綱を作り、各地区に通知し、次回会合（6月18日）までに、出席者名簿が提出できるようにする。

平田司教司祭叙階五十周年のお祝い

教区としてのお祝いは6月25日（日曜）午後1時より、カテドラル・センターで行われるので信徒も多数参加していただきたい。司祭評議会では、信徒にも応分のお祝の献金をお願いしたいということであった。

教区の三神学生が教会・宣教奉仕者

3月15日、サン・スルピス大神学院で教会・宣教奉仕者の選任式が行われた。「神と教会の食卓の奉仕者としてふさわしい人になってください」との司式司教（松永久次郎補佐司教・長崎）の呼びかけに「アーメン」と応えて大水幸一（写真左から二人目）神学生が教会奉仕者に選任された。また中村信哉（同左）と中村彰（同右）両神学生は宣教奉仕者に選任された。

時の話題

生熊来吉

福音的に生きるということ

NICE——87へのことばとして発表された「ともに喜びをもって生きよう」というメッセージのなかで、司教団は「教区、小教区を、そこに属する信者のためだけの共同体から、その地域に住むすべての人々とともに福音的に生きようとする共同体へ」という発想の転換を提示している。これはまさに歴史的な転換である。

あれから一年三か月。日本の教会に、この方向づけに従って動こうとするきざしがあるであろうか。私は名指しで、そのために努力している例を紹介したい。

大分教区の延岡教会は、信徒数わずか二八〇名である。その小教区は延岡全市のみならず、宮崎県北部の東臼杵郡と西北に広がる西臼杵郡とを擁し、九州山脈のまんなかで熊本市の手取教会の小教区と境いを接している。西臼杵郡の山地帯の奥深い谷間に、慢性ヒ素中毒症に苦しむ鉱害のむら、土呂久がある。

司教団の勧告を率直に受け入れて、直ちに実行に移そうとした延岡教会は、土呂久鉱害を自分の体に刺さった棘（とげ）として意識した。延岡の信者と土呂久の被害者および支援者との交流は深まって、教会ぐるみの支援が強化されていった。

新しい小教区像を追及している延岡教会の実例を見ながら、司教団の声明文を読みかえしていくうちに、私はふと一つの言葉に突きあたった。それは「福音的に」という言葉である。土呂久の住民を、「福音的に生きようとする共同体」に組み入れることができるだろうか。

土呂久住民の生活には、浄土真宗の教えが染みこんでいる。土呂久鉱害訴訟に勝訴した被害者たちが、被告住友金属鉱山の東京本社前で、控訴取り下げを要求して座り込んだとき、だれからともなく、「讃仏偈（さんぶつげ）」の読経がはじまった。そしてそれは九階建てのビルを圧する大合唱になった。

「福音的に生きる」ということが、彼らから「讃仏偈」を取り上げて、「共同訳聖書」を与えるということであるならば、司教団の声明文は現実ばなれした空文となるだろう。親鸞（らん）の悟りのなかにも「福音的生き方」が霊示されていると考えるのは誤りであろうか。

（西南学院大学講師　西新教会所属）

みちくさ

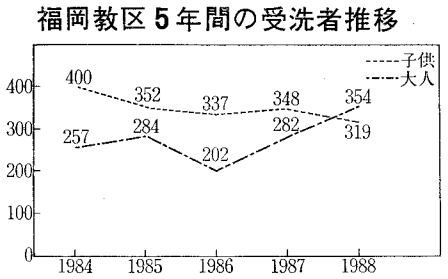
春は転勤・転任など移動の季節。「今度〇〇に転勤になりました」「それは残念ですね。やっとお友達になれたのに」。こんなやり取りがあちこちから聞こえてくる。それは、小教区の司祭たちにとっても同じこと。ながくなると「もうそろそろ転勤かな」との会話も交わされる。そして、転勤話は思わぬときにやってくる▼今年はもうないだろう、と〝みちくさ〟をくっていた筆者にも、打診があった。「どうでしょうか」「これからやりたいこと、完成させたいことなどいろいろありますが……」。こんなやり取りの後、神さまにすべてを委ねることを決意して、「分かりました」と受諾するのに時間はかからなかった▼司祭が移動を快諾することができるための条件。①神さまへの信頼。これは当りまえのようだが、司教の考えを神のみ旨として受け止めることは容易なことではない。②新しく来られる同僚司祭への信頼。自分の能力の限界を知り、次の司祭に託すことができなければならない。自分でないとこの小教区はつとまらないなどという自惚れが恐い▼さらに、③自分専用のものをできるだけ持たないこと。人的、物的いずれも私有が多くなると、移動になにかと障害になる。④小教区は自分の意のままにできるものではなく、教区のものである、というセンス。つまり、小教区で働く司祭は、司教が自分に委ねた小教区だけでなく、他の小教区に対しても連帯して責任を負う、教区的共同司牧のセンス▼もちろん、こんな偉そうなことをいっても、人情を放棄できるわけはない。ただ、私ができなかったことを、新しい司祭はやってくれる、との確信が情を超えさせる。新しく来られる神父様を私以上によろしく。素晴らしい思い出と、心からの信頼、ご協力に感謝の気持ちを込めて。「さようなら」ではなく、「また会いましょう」。

福　岡　教　区　教　勢

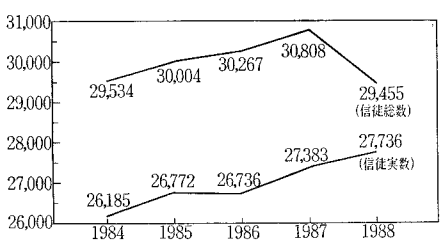
（1988年1月1日～12月31日）　（注）司祭・修道者・神学生は含まれていない

	小教区名	洗礼 幼児	洗礼 成人	求道者	堅信	ミサ参加 主日	ミサ参加 復活祭	ミサ参加 降誕祭	婚姻 信徒	婚姻 信プ	婚姻 混宗	婚姻 他	転入 教区内	転入 教区外	転入 他	転出 教区内	転出 教区外	転出 他	死亡	居所不明	信徒実数	信徒総数
福岡地区	茶山	4		3	22	340	370	620	1		3	1	11	16		4	5		4	1	508	509
	大名町	11	32	1	25	610	1,070	2,650	5		26	91	28	34		21	31	3	11	438	701	1,139
	二日市	2	1	14		200	260	300					6	24		9	10	3	3	11	371	382
	箱崎	3	10	4		120	180	250			1		2	36		5	11			20	269	289
	笹丘	9	5	7	9	300	400	500	3		9	9	9	12		15	14		2	1	661	662
	光ヶ丘	15	10	15	8	274	445	780			4	4	20	27	4	21	19		3	77	890	967
	本郷	11	1	6		450	500	550	1		5		2	5		11	8		4	37	615	652
	今村	12	3	15		700	800	800	1		11		9			13	5		9		1,012	1,012
	浄水通	5	13	14	13	190	210	660	3		6	126	8	9		4	4		3	12	278	290
	古賀	10	3	5	33	230	330	380	1		2	6	36	33		5	7		2		579	579
	久留米	17	12	5		400	600	1,300	1		7	23	7	23		7	25		3	282	850	1,132
	美野島	6	1	1	1	35	65	88			1		3	5	7	2	5			40	94	134
	西新	13	15	4	1	450	500	600	1		5		21	56	6	18	28		5	183	1,093	1,276
	小郡	3	5	1	15	130	200	220	2		3	3	12	3		10	8	1	2	4	325	329
	大楠	10	6		7	60	80	250	1		2	4		5		1	6		2		120	120
	大牟田	5	11	11	16	80	200	200			4	15		3		4	6			71	188	259
	老司	3	6	6	20	200	280	380			2		15	14		13	1			10	542	552
	高宮	7	6	10	16	110	200	250			4	4	13	13		13	2		4	24	529	553
	吉塚	14	5	1	5	230	315	800			4		12	16		8	8		5		666	666
	呼子	7				200	300	400	2		2		3	2		7	7		4	2	353	355
	馬渡島	6				200	230	230			1					2	3		4		461	461
小計	21	173	145	147	167	5,509	7,535	12,208	22	0	102	286	217	336	17	193	213	7	70	1,213	11,105	12,318
佐賀地区	伊万里		1	5	12	40	100	150	1		5	2		16						9	210	219
	唐津	3		2		80	120	150			8	3	2	14		7	7	8	1	22	362	384
	鹿島					8	15	44				2								45	41	86
	佐賀	10	15	6		160	300	400			7	14	16	7		14	20		3	20	670	690
	武雄	2				15	60	70			2	2		2			6			17	62	79
	鳥栖	9	4	7	29	100	250	200	2		3	1	2	1		2	2	1	2	1	310	311
	多久	2	4			26	55	55			1										110	110
小計	7	26	24	20	41	429	900	1,069	3	0	26	24	20	40	0	23	35	9	6	114	1,765	1,879
北九州地区	八王寺		3	6	3	80	110	120			1					4	6		2		209	209
	飯塚		7	4	5	75	160	180			2	4	4	9		10			4		244	244
	小倉	13	41	70	79	600	800	1,650	3		13	27	12	18		10	36		8	43	2,493	2,536
	黒崎	12	13	15	39	400	450	500			13	5	9	6	8	13	18		2		1,363	1,363
	水巻	4	7	6	7	250	350	450			8	2	18				13			4	592	596
	門司	2	11	3	19	170	220	350			2	2	5	2		0	3		2		376	376
	門司港		8	4	3	60	100	120				2	0	5	0		5	4	3	10	142	152
	直方	4				35	75	90			1		1	0		3	7		2	7	109	116
	新田原	22	4	2	29	700	1,200	1,200	3		7		18	16		7	24		11		1,793	1,793
	田川	1	2	0	1	68	101	200			1									26	144	170
	天神町		1	3	14	85	100	200			2			3		8	6		3		307	307
	戸畑	3	8	12	6	300	400	800	1		3	12	6	5		22	13		5		784	784
	若松	2				60	150	180			1	1	2	3		0	4		3		331	331
	湯川	18	4	4	3	400	600	700	1		7		13	16		4	15		8		1,131	1,131
	行橋	6	5	4	32	250	400	700			4	1	8			15	8		6	54	520	574
小計	15	87	118	133	240	3,533	5,216	7,440	8	0	65	56	96	83	8	96	158	4	59	144	10,538	10,682
熊本地区	荒尾	2	4	10		50	75	120				1		7		9				5	130	135
	人吉	2	8	2	9	80	100	120					4	2		14	7	2	4		207	207
	本渡		1			20	40	100			1	2		2					2	35	65	100
	健軍	3	7	7	2	200	350	500	1				10	22		1	13		2	1	473	474
	菊池					25	45	100		3			2			9			1		71	71
	水俣		1			35	60	70				2									116	116
	帯山	2	2	4	19	120	200	250	1		1	1		3		5	10		2	29	419	448
	島崎	1	4	3	1	160	200	300			3	7	6	3		3	3		7	18	354	372
	大江	6	5	1		180	250	300			1	5				4	7		3	20	358	378
	崎津	2	3			90	180	200	1		3	3							3		308	308
	玉名	6	2	1	2	45	70	120	2		2		2	1		1				2	109	111
	手取	5	20	18	32	380	550	600	4		11	43	4	21		17	17	6	20	116	1,089	1,205
	八代	1	1	14		100	210	260					2	1		3	3		4		269	269
	武蔵ヶ丘	3	9	10	6	150	278	330	1		1		7	1			4		1	22	360	382
小計	14	33	67	70	71	1,635	2,608	3,370	10	3	23	64	37	63	0	66	64	8	49	248	4,328	4,576
合計	57	319	354	370	519	11,106	16,259	24,087	43	3	216	430	370	522	25	378	470	28	184	1,719	27,736	29,455

福岡教区5年間の受洗者推移



福岡教区5年間の信徒数推移

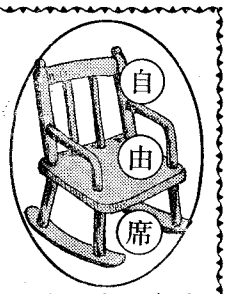


福岡教区司祭・修道者・神学生

年	司祭	修道士	修道女	神学生 大学	神学生 小学
1983	108	12	520	10	30
1984	102	11	532	12	11
1985	104	12	485	12	9
1986	110	11	459	8	7
1987	111	9	435	7	8
1988	112	7	507	7	13

邦人・外国人聖職者数の比較

	司祭		修道士		修道女	
	邦人	外国人	邦人	外国人	邦人	外国人
1987	57	54	7	2	416	19
1988	61	51	5	2	487	20



主はいつも私のそばにおられた

田中かおり

去る1月15～16日に、ウルスラ会での祈りの集いに参加する機会をいただきました。一泊二日という小さなものでしたが、多くのシスター方や修練者、志願者の方々に私たち九名がまじって、少しも堅苦しいところのない、くつろいだ暖かい雰囲気の中、心やすまる一時を過ごすことができました。

最も強く心に響いたのは「神さまはいつも私と共にいてくださった」ということでした。日頃は何かと忙しく、静かに祈ったりすることから離れがちな中、何となく、神さまが遠く離れて感じられ、そばに戻りたく思っていました。修道院の聖堂の中で待っておられたのは、毎週の小教区のミサでいただくご聖体のイエズスさまでした。

日頃の慌ただしさの中で離れて感じられたイエズスさまは、ご聖体を通じて私のうちにいつもおられた、私が親しく感じていても遠いと思っていても、全く意識していなくても、いつも近しくそばにいてくださった、と改めて感じ、深い安堵に包まれました。

あたり前のようなこのことを、「私はあなたがたと共にいる」という御言葉を、新たに感じ、しみじみとかみしめて帰路につきました。

大きな喜びと感謝のうちに。（大名町教会）

福岡黙想の家
御受難修道会 宗像修道院（院長：畠 基幸）
1989年4月23日（日）献堂
連絡先：宗像東郵便局私書箱5号 ☎0940(32)3222
〒811-41 宗像市大字名残字立山1056
（JR赤間駅からバスで10分；若宮インターから10分）

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 096—352—3306
096—352—8622

式典・花
木下株式会社
福岡 (712) 8022　久留米 (33) 7401
佐賀 (30) 4040　小郡 (72) 3482

生涯養成では意見の一致
全国規模で司祭の交流

大阪

山田成章師

二月二十日から三日間、宣教司教委員会（長・浜尾文郎司教）主催の「全国司祭の集い」が、大阪市内の東洋ホテルで開かれた。会の参加者は約百三十人、十三教区の司教や各教区の司祭らで盛会のうちに終わった。山田成章師は出席者の一人として、以下のような報告を寄せた。

――○――○――

①日本の教会は宣教に開かれているか。宣教第一の小教区制度、社会に開かれた小教区の在りかたを見直す声がかなり出ていた。政治・社会問題についての、教会の適切にして敏速な認識と対応が現時点で満足出来るものであるか。一例として、本島長崎市長の「天皇の戦争責任論」に対して、沈黙の教会ではなかったか、と反省する一団もあった。今回の集会でかなり感銘をうけたことは、参加者の多くが所属する教区・小教区の壁を越えて、日本の教会に派遣された者という自覚をもって発言し、討議をした姿勢であった。

②全国・地方規模の司祭や神学生の交流と派遣について。手近なところでは、日本の三教区管区（長崎、東京、大阪）中心に、司祭の超教区的な合同黙想会や研修会の開催。教区間の短期の宣教司牧の体験学習は、司祭の豊かな宣教者作りに益する所が大きいのではあるまいか。また、過度の司祭不足に悩む教区にとっては、一時的とはいえ、大きな福音になり得るのでは。司祭のドラフト制の提案も興味をひく話題になった。最初、所属教区を決めない、神学生はすべて日本教会の預かりとし、叙階のときにはじめて、行くべき教区を決めるという考えらしい。それは教区間の人材交流に、はずみをつけるかもしれない。

③全国司祭の生涯教育の必要性、宣教の活性化と信者の信仰の成熟は、何はさておき司祭の刷新、回心から発進しなければならない。そのために司祭の生涯教育の必要性については、かなり真剣な発言がみられた。過去の全国司祭の研修会などに、参加者が少なかったとの批判も聞くが、司祭の熱意は高まってきたのではなかろうか。

****

光丘幼稚園

普遍的愛を育む
25周年記念に少女のブロンズ像

2月18日（土）午後1時30分より福岡市博多区にあるカトリック光丘幼稚園の創立25周年記念式典が行われた。式典は平田三郎司教司式の「みことばの祭儀」で始められ、在園児や卒園児の保護者など約三百名が参加した。

平田司教は式中、光丘幼稚園の25年の努力に感謝と労いの言葉を掛け「神が創られたままの真白なカンバスのような子供の心に、幼稚園で描かれていく事柄は、後で訂正がきかない。だから何を描くかが教育に携わる方々のテーマである」と語った。

また、挨拶に立った福音の光修道会の望月教子総長は「普遍的な愛を育む人間教育の場として、幼稚園事業に取り組んで行きたい」と今後の抱負を述べた。

式典に先立ち園庭の一隅に設置された「長崎の平和記念像」で有名な北村西望作の「喜ぶ少女」のブロンズ像（写真）が園児等の手によって除幕された。続いて、高松教区長深堀敏司教の記念講演が行われた。深堀司教は岩下壮一師で知られる御殿場市の神山復生病院での一人の患者さんとの出会いを話ながら、親子・夫婦といった基本的なきずなさえうすくなってしまっている現代社会の中でも差別のない関わり、キリストが教えられたような関わりへの渇きがあることを指摘し、「自分の身近かにいるから隣人という姿勢でなく、自分が誰の隣人になれるかと考えることが大切です」と語った。

また、園長Sr.佐藤倭文子を中心に保護者有志による子供同士の会話、子供の何気ない言葉や質問などを綴った「子供の目」が編集され記念誌として招待者に配られた。

なお、お祝金は、国の援助の届かない「駆け込み所」や「弱視者のためのボランティア活動」へ寄付させていただく、ということである。

カトリック光丘幼稚園は、昭和39年に地域の人々の要請によって開園され、特に17年前よりモンテッソーリ教育による指導がなされている。

「子供の生き生きした目に会う時、本当にうれしくなります。モンテッソーリの縦割り教育の素晴らしさは、その時、その子に一番適した事を与えられることです。」教え込みでなく、子供をよく見ていると、子供が動き出そうとする時がみえます。と園長は話している。

****

ここが聞きたい シリーズ
正義と平和協議会②

正義と平和協議会（正平協）は教会内外でどのような役割を果たしているのでしょうか。

信仰の目で見ること

正平協は、協議体ですから、全会員が同じ活動をするとは限りません。

たとえば、ある会員たちはフィリピン特にネグロス島の子供たちの飢餓問題に強い関心を持ち、現地を訪れました。帰ってきてスライド等で報告し現実を知らせてくれます。また現地から神父様が来日されると聞けば、他の団体とも協力して報告集会の準備そして教会内外に呼び掛けます。

なぜ〝学習と報告〟を大切にするかといいますと、「正義と平和の任務はすべての信者に対し、今、本当の社会問題とは何か、を知らせることです。この点を忘れがちで、何かをすることが正義と平和と思い込みます。私たちにとって大事な事は、すぐにデモに行く、とかではなく、社会の悪を認識させ、それに対して各人の責任を分からせることです」（相馬司教の言葉より）。

このことを大切にしていろいろ学習を進めてきました。

高校教師による〝教育の現場から〟また、原発問題では現場で取材に当っている新聞記者による〝今、原発で何が！〟等を聞きました。

二月には、北九州正義と平和協議会は第3回総会を開催し、記念講演で〝天皇制とキリスト教〟と題して太田道子さん（新共同訳聖書翻訳委員）にお話をうかがいました。

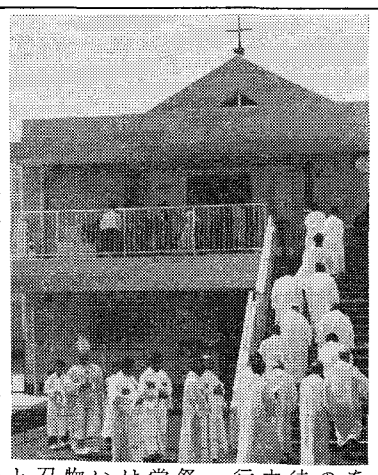
私たちは、時の社会、生活にかかわる問題に対し、常に問題意識を持つことが大切です。そして、その問題点を信仰の目で見ること、つまり、『信仰の目で判断し、実行すること』が必要だと思うのです。

回答者　守谷栄二（北九州カトリック正義と平和協議会）

****

信者の祈りと献身の結晶

行橋教会が献堂落成



3月12日（日）午後1時、行橋カトリック教会・幼稚園の献堂落成式が平田三郎司教を始め多くの司祭、信徒の参列の中に盛大に行われた。

17名の司祭と共に入堂した司教は「教会という時、建物と神のお召しにハイと応えて集った信仰共同体を指します。神を信じる人々の祈りと祭儀を行う場所です。この教会が兄弟間の親しい交わり、ゆるし合い、愛のある関わりを持った教会共同体であり、皆が一つになる喜びの場所になりますように」と祝福の言葉を贈った。

深堀勝人主任司祭は「この教会と幼稚園が人々の平和に尽くすものとなるように願っています」と挨拶。

新しい幼稚園全館を使っての祝賀式は、信徒によってよく準備され和やかな喜びに溢れていた。

****

司牧評議会

山元神父の ワンポイント教会法

どうも組織の名称は固くなってしまう。人が集まれば社会が出来、組織が生まれる。組織は人のためのものである。だから名称は固くても、内容はやわらかく暖かいものでなければいけない。「人の集まり」なのだから。

「司牧評議会」という言葉を最近よく聞くようになったと思う。福岡教区では去年組織化され、夏に第一回目の会合を開いている。

「この評議会は、司教の権威のもとに、教区における司牧活動に関する事柄を研究し、検討し、それについての実際的な結論を提示することをその目的とする。」（第五一一条）会長は司教、副会長は司教総代理。メンバーはこの二人の外に司祭、修道者、信徒が含まれ全員で40名ほどになる。

司牧評議会は司教の諮問機関であり、決議機関ではない。しかし、非常に大切な役割を担っているといえよう。なぜなら、司教に託されている神の民の司牧という大切な役務を助けるからである。司牧評議会は「司牧活動に関する事柄を研究し、検討する。」司牧活動、というのは一言で言えば、信者としての活動、織が生まれる。組織は人の織になる。

実は「司牧評議会」の必要性はすでに二十年前からいわれていることであった。しかも、ただ漠然といわれているのではなく公会議公文書に著されている。

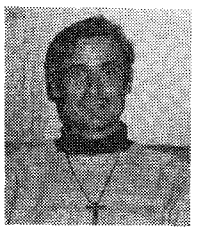
「各教区に、特別な司牧評議会が設けられることが大いに望ましい。この評議会には教区司教自身が委員長（会長）となり、特に選ばれた教役者、修道者、信徒がこれに参与する。この評議会は、司牧活動に関する事柄を調査し、検討し、それらについての実際的な結論を提出することを、その任務とする。」（教会における司教の司牧任務に関する教令27番）二十数年たってやっと実現した。

（小倉教会）

****

聖ペトロ・聖パウロ宣教会

私は、聖ペトロ・聖パウロ労働宣教会のルイです。休暇を利用して福岡で勉強しています。まだ、福岡にはありませんが、私たちは埼玉県戸田市の小さなアパートで共同生活をしながら、それぞれの職場や地域社会での証し人として励んでいます。私たちは教会を持ったり、修道院を建てたりするのでなく、社会の人人の中で共に労働を分かち合いながら自活をしています。


ルイ・ロゲさん

お金やあらゆる権力に流されることなく、あなたの技術や能力を生かしながら日常生活の証しと共同生活を通して福音を自由に述べ伝える兄弟になりませんか。

興味のある方は、左記まで

聖ペトロ・パウロ労働宣教会
M・O・P・P兄弟の家
〒335戸田市喜沢2-22-2
青果荘　☎0484-45-0514

****

BOOK 読みま専科

☆それでも明日は来る
三浦綾子著

本書の書名は「それでも明日は来る」であるが、必ずしも一冊を流れるテーマではない。しかし著者の生きる目標によるものであることは確かである。病気、人々との出会い、抗しがたい悲しい事件、癌の宣告、夫の重病、肉親の死など、人生の幾山河の中で著者が絶望しないで生きて来ることができたのは「それでも明日は来る」という希望があったからである。それがどんな明日であるか分からないにしても、とにかく神が与えてくださる明日なのだ。

（主婦の友社一二〇〇円）

☆なっちゃん
文・小笠原大輔
絵・梅田　俊作

大輔君が、小学校六年の時に書いた作文「姉」（秋田県教育委員長から賞を受けた）をそのまま絵本にした。五才の時交通事故にあい、話すことも、歩くこともできなくなってしまった。なっちゃんを中心に、悲しみをこえて家族が温かく、優しい愛の火を燃やしつづける話。泣いてばかりいる母親のそばに黙って、そっといた大輔君。自分の足で歩き、物がつかめ、友達と心が通いあえるあたり前の事が、どんなにすばらしいかを教えられたという。

（女子パウロ会一〇〇〇円）

ジャパン建築株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092―761―8800
代表取締役マルガリタマリア吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092―711―0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

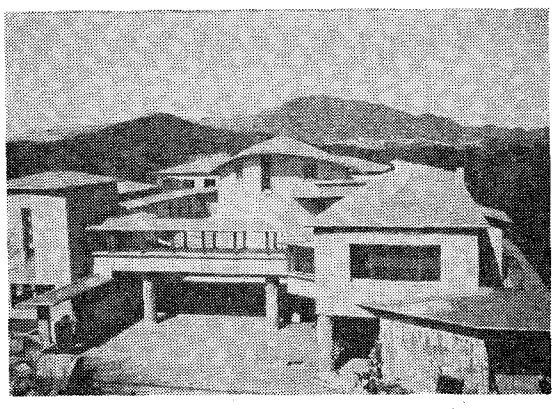
祭壇・洗礼盤他
石
石
他
理
影
の
大
御
そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

四月の行事
※ゴチックは司教日程

2日　本郷堅信式
5日　門司天使園落成式
　午前10時
8日　カルメル会誓願式
　午後2時
9日　新田原墓地祝別・落成式　午後1時
11日　カトリック・プロテスタント合同聖書懇談会
　神学講座（司教館）
　午後6時～8時
16日　司牧評議会（司教館）
　午後1時半
18日　神学講座（司教館）
21日　地区婦人会総会（司教館）午前10時
23日　黙想の家落成式
　午後2時
　バザー笹丘教会
25日　神学講座（司教館）
28日～30日　マリッジエンカウンターウィークエンド
30日　西新堅信式
5月2～5日　クルシリヨ

福岡黙想の家完成



4月23日献堂落成式

教区人事

▽P・ブランガン師　浄水通教会主任（泰星高校）
▽渡辺隆義師　司教館（小郡）
▽下町豊重師　小郡教会主任（久留米）
▽山下正師　久留米教会助任（佐賀）
◎書記長・公証官
渡辺隆義師（司教館）

第28回福岡教区クルシリヨ

クルシリヨは教会の要望に従い、使徒職に献身する信徒の養成を目指すものです。ふるってご参加ください。

日時　5月2日（火）19時～5日（金）16時まで
場所　福岡黙想の家
☎(0940)32-3222

お知らせ

福岡教区福岡地区婦人会

▼4月21日（金）午前10時より司教館で総会を開催します。午後は山元真神父様の「家族のための教会法」の講演があります。是非ご参加下さい。

▼5月9・10日の両日、鹿児島の純心短大で日本カトリック婦人団体連盟の第15回全国大会が行われます。テーマは「現代の家族を考える」です。どちらも申し込みは婦人会まで。

宗像市名残立山一〇五六
参加費　九、〇〇〇円（宿泊食事、用品代として当日受け付け）
携行品　ロザリオ、着替え、寝巻、洗面用具
連絡先　福岡教区クルシリヨ事務局
☎(093)582-1654
佐々木信幸
申込締めきり　4月25日まで

福岡カルメル会で福田さん荘厳誓願

4月8日午後2時より

手取教会(熊本)出身の福田ゆかりさんの荘厳誓願式が4月8日(土)午後2時より、福岡カルメル会修道院聖堂（福岡市城南区）に於いて、平田三郎司教様の司式のもとに行われます。

皆さま方のお祈りをお願いいたします。

参加者募集

（マリッジエンカウンター）

新・黙想の家で集い

マリッジエンカウンターは、夫婦が日常生活の忙しさから離れ、お互いの結婚という結びつきを見直すよいの機会です。

日　時：4月28(19時より)29・30日
問い合わせ：092・801・5351（深堀）

結婚準備セミナー

一九八九年度第二回

△福　岡△
会　場　カテドラルセンター
日　時　4月6日から4月27日まで、毎週木曜と土曜の計七回
時　間　午後7時～9時15分
申し込　☎092―541―6207

△熊　本△
会　場　カトリック手取教会
日　時　4月5日から4月26日まで、毎週月曜と水曜の計七回
時　間　午後7時～9時15分
申し込　☎096―352―3030

四月命日の司祭

＊大野正恒師（イエズス会）一九八五年四月一二日元泰星学園校長
＊ジョゼフ・ドレル（パリ外国宣教会）一九八四年四月一五日元直方教会主任
＊フランソワ・ブレンゲ師（パリ外国宣教会）一九四六年四月五日元佐賀教会主任
＊アンリ・レウトル師（パリ外国宣教会）一九四四年四月二五日元新田原教会主任

編集室から

◇3月の全司祭の集会では、「幼少年の信仰教育」が議題として取り上げられました。いつものことながら、講師を誰にお願いするかで、企画者は悩むそうですが、今回は、外部からではなく、教区内の情の機微である。鷗外は『源氏物語』を悪文ときめつけ、漱石はこれに言及していない。しかし、谷崎や川端は『源氏物語』に最高の賛辞を惜しまない。前二者は西欧文化をとりいれるのに急で、そこまで手が廻らず、後二者は、時代がくだるので、その余裕ができてきたのであろうか。西欧小説の始祖がボッカチオの『デカメロン』ならば、それより三世紀前に、こんなにすぐれた女性による小説が誕生していたということは、まさに世界文学史上、類例がなく、空前であるのみならず、川端はわが国においては、絶後とさえ言い切っている。

しかも司牧の現場にいる司祭からの問題提起という形で話がなされたことに意味があったと思います。

教区には百名を超す司祭がいます。おのおのがもっているタレントを十分に活用できる場が提供されるなら、教区はもっと活性化していくのでは、などと考えていました。

◇三月号3面の「ここが聞きたい」の回答者は守谷英二さんとなっていますが、守谷栄二さんの間違いです。お詫びし訂正いたします。

社会問題への対応の仕方はデリケートな問題ではありますが、避けて通ることはできません。お互いに謙虚に聴くことから始めるべきなのでしょうね。

◇教区のあちこちで福音的動きがあることを風の便りに聞きいつも嬉しく思います。

教区報は、このようなニュースをできるだけ多くの人々に知らせるためのものです。ご一報ください。

◇編集長がとうとう司教館に住みつくことになりました。小教区との往復の時間の節約にはよいのですが、新聞のセンスが小教区の現場と遊離してしまうのでは、との危惧もあります。

読者の皆さま方の辛口の助言が頼りです。投稿もお待ちしています。（W）

かのときのことのは

森山　敬三

なくてぞ

紫式部

『源氏物語』に所収。源氏が最初に寵愛した桐壷が亡くなったとき、六帖の「ある時はありのすさびに憎かりき無くてぞ人の恋しかりける」からの引用で、在世当時は、あまりの寵愛で、女房たちは憎らしく思ったが、亡くなってからはさすがに恋しい、という、誰でも経験する人

楽に呼吸する

徳山　登

黒崎教会に、おもしろいおばあちゃんがいました。彼女は孫の大学受験のために毎日、聖堂に寄って、その合格を祈っていました。その彼女がある日、「神父さま、主の祈りのラテン語を教えてください」「どうしてラテン語で祈りたいのですか」「ラテン語でとなえた方が効き目があるように思えます」と。

世の中には簡単なことを複雑にしたり、難しく考えたりする人がいます。ところがイエズスさまは祈りについて簡単にするように勧めています。「異邦人は言葉数が多ければ聞き入れられると思いこんでいる。彼らの真似をしてはいけない。あなたがたの父はあなたがたの必要なものをご存知なのだから。」（マタイ6・7～8）「神さまが私の必要をご存知ならば祈る必要はないではないか」と考える人も出てくるでしょう。ところで神さまの大きな悩みは、神さまの愛を、神さまがどんなに深く私たちを愛していらっしゃるかを私たちが信じないことにあります。ですから私たちが祈ることによって私たちの信頼を神に示し、安心していただくのです。

神さまの恵みは自動販売機ではありません。私たち一人ひとりと親しくつきあいたく思われる愛でいらっしゃいます。「あなたが祈るとき、自分の部屋に入って、戸を閉め、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。」（マタイ6・6）

また、アビラの聖テレジアも次のように話されます。「念禱は神から愛されているという確信のうちに、神と親しくつきあうことです。」

祈願にとらわれる時、思うように事が運ばない場合、祈り方が悪いとか、祈りが足りなかったとか思い悩みます。また逆に祈りが聞き入れられたと有頂天になり喜び大騒ぎをする態度も要注意！祈りによって神さまを動かそうとするのでなく祈りの内に神に動かされることを望むのです。

祈る時に忘れがちな大切なことは、主イエズスが私たちの中で、私たちのために祈っていらっしゃることです。このことを無視して、勝手なおしゃべりに走らないように。「わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、〝霊〟自らが、言葉に表せないうめきをもって、執り成してくださるからです」（ローマ8・26）

私たちの祈りの値うちは主イエズスが私たち一人ひとりの中で共に祈っていらっしゃるところにあります。私たちのすることは、主イエズスの祈りの中にもぐりこんで、マルタの妹、マリアのようにイエズスの足元に座り、静かに黙って呼吸することです。雑念だらけの祈りだといって悲しむことはありません。自分の力だけでは祈れないという大切な体験を毎日味わう必要があります。その時、祈りや念禱が「たまもの」として感じるようになり、感謝と喜びが深まります。

実際、祈れない時に、いちばん、よい祈りができます。ガンに病む夫を日夜、看病する婦人が疲れはて、「神父さま、祈ることができません。ただ、主あわれみたまえと繰り返すだけです」と、訴えました。十字架上のイエズスがこの婦人と共に祈っておられるすばらしい祈りではありませんか。

主イエズスが私たちを休ませてくださいます。祈りは休息のときです。様々な心配や計画を神の前におろし、休み、楽に呼吸するのです。ハッとすることの多い忙しい日々、何分間でも神のみ前でホッとすること、それこそが神様の喜びであり、全生活を祈りに変える確実な道です。私たちの生活の全てが神からの「たまもの」です。祈りも私たちの過ちや失敗までが復活の種として、変容される貴重な祈りです。いらいら、くよくよ、びくびくする必要はありません。

北海道のトラピストで、老修道士が自分の祈りについて打ち明けてくださいました。「私はイエズスの前でひなたぼっこしています」と。いつくしみと正義の太陽でいらっしゃる主イエズスのみ前で〝ひなたぼっこ〟し、楽に呼吸すること、それこそが主をお喜ばせする祈りなのでしょう。

（パリ・ミッション会司祭　八王寺教会）

中央出版　福岡支部
▨キリスト教関係、書籍、家庭の友
▨典礼聖具
▨ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

任意保険に加入してから車の運転を致しましょう。
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2―0646
行橋市駅前5秒店　☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922―5637

未来へ――安心を創る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092―521―0568

カトリック福岡教区報

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

聖木曜日

司祭職の約束への忠実を

聖香油ミサで司祭たちを励ます

浄水通教会

平田司教は聖木曜日の聖香油ミサの説教で、司祭一人ひとりがその尊い使命を自覚し、務めを果たすよう励ますとともに、信徒の祈りによる助けを求めた。

油注がれた者

司祭職は、神が教会にお与えになったすばらしく大きな恵みです。今日のこのミサの中で祝別する聖香油、洗礼志願者の油、病者の油は司祭職に深く結ばれています。聖香油により、人は洗礼を受けてキリストに結ばれ、堅信の秘跡によって完全なキリスト信者となり、キリストの司祭職に与るみことばの奉仕者となるのです。洗礼志願者の油は、悪魔の声を振り切ってキリストにすすませ、病者の油は、人生の旅路を終えるにあたり、罪のゆるしを得させ、安らかに過ぎ越してゆくための油です。

イエズスは聖霊によって油を注がれ、メシア、キリスト、天と地の仲介者となられました。そして和解の知らせである喜びの福音を、貧しい人々に伝え、圧迫されている人々に解放を告げるために遣わされたのです。

キリストの貧しさ

〝貧しい人〟という時、そこには社会的、経済的、宗教的ニュアンスが含まれています。イエズスの言われる貧しい者とは、心の貧しい者、謙遜な人であり、福音書に出てくる傲慢な人、金の力、社会的地位によって何でも出来ると考える人ではなく、「罪人の私をあわれんで下さい」と神殿で頭を垂れて祈った人、「神よあなたの助けがなければ何も出来ません、あなただけが頼りです」と祈る人です。このような人は神の助けによって、肉欲、物欲、名誉欲という敵に打ち勝つことが出来るのです。

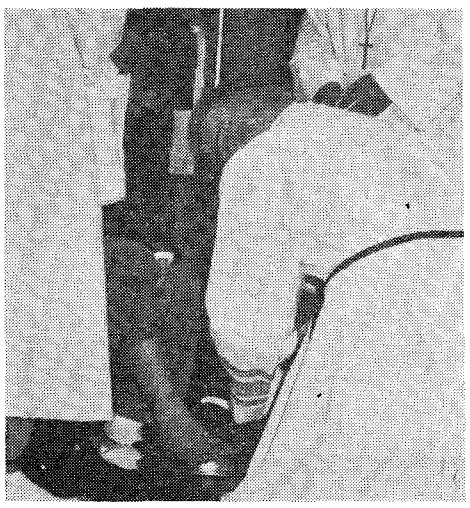
キリストはこういう貧しい人たちに遣わされ、肉欲、物欲、名誉欲の奴隷になっている人々を解放されるのです。これは闇から光へ、死から生命へと過ぎ越すための派遣です。

司祭の務め

このキリストの司祭職、使命に与る私たちは、キリストの入り込む余地のない人々に、キリストの泉を沸き立たせるようにしなければなりません。神のみを拠り所とする心の貧しい人たちに、解放を、過ぎ越しを告げ知らせ、悪の奴隷となって牢獄につながれている人たちの鎖を断ち切り、解放しなければならないのです。

聖香油を塗られ位階的司祭職にあずかる私たちは、キリストの福音の訪れの約束、自らの司祭職の約束を忠実に果たしてゆく決意を新たにし、実行していきましょう。

とはいえ、キリストの司祭職に与る私たちは、とても弱い者です。シスター、信徒の方々の祈りを必要としています。どうか司祭たちのために祈り、支え、励まし、助けてください。



主の晩さんのミサで少年の足を洗う司教

今月のみことば

わたしは神に一つのことを願い求めている。生涯、神の家をすまいとし……

（詩編27・4）

笹丘　ドワイヤー神父

札幌前教区長 冨沢司教ご逝去

札幌教区の前教区長、ベネディクト冨沢孝彦司教は、3月26日午前9時8分、肝臓ガンのため、札幌市東区の天使病院で逝去した。七十八歳。地主敏夫札幌司教主司式の葬儀ミサおよび告別式が29日午前10時から市内北区の藤女子大学講堂で行われ、司教、司祭、信徒約千人が参列した。

冨沢司教は一九五二年から八七年までの三十五年間、札幌教区長として教区内外の発展に尽力された。

平田司教司祭叙階金祝 6月25日カテドラルで

福岡教区長ペトロ平田三郎司教の司祭叙階金祝の教区としてのお祝は、6月25日(日)午後1時からカテドラル・センターで予定されている。多数の参加が望まれる。

時の話題

生熊来吉

ナイスの「答申」において、弱者のための熊勢づくり、弱者の苦しみの原因となっている環境や社会構造の変革への取り組みなどが提案されている。そこで、これにたえてうちの教会でも何か行動を起こそうという動きが起こり、さて何をしようか、ということになる。「答申」では「社会構造の変革」などと大言壮語しているが、自分達にはそんな大それたことはできない。自分達の力量は小さい。自分達の力にあった、何か小さなことをしようではないか、ということになり、それとともにせっかくの意気込みもだんだん萎縮していく。

今世紀のはじめに列聖されたリジューの聖テレジアは「小さき聖テレジア」ともいわれ、その崇敬が高まるとともに「小さい」という合言葉が信心生活のすべてを覆いつくした。日常生活を聖化し、聖性を凡人の手のとどくところまで引きおろそうという霊的指導は、信者一般に霊的生活への意欲をよびおこした。

小さいこと

ところが、私達が個人として、共同体として取り組むべき問題を選択する場合、それが自分達の力量に合うかどうかを判断の基準にすることが妥当かどうか。水俣や土呂久の公害問題、指紋押捺制度や外登法の問題、部落解放運動。どの問題も自分達の力には及びそうにない。問題の大きさ、難しさのまえに恐れをなして尻込みする。

だが、私達が取り組む否かは問題の大きい小さいによるのではない。そこに苦しんでいる人がいるからである。強盗に身ぐるみ剥がれて傷ついて倒れている人がいるからである。理由はそれだけである。行動するのは私ではない。神様である。私は神様の道具に過ぎない。このように信じようとしても、他の声がそれを打ち消す。道具は道具でも私は欠陥だらけの小さな道具なのだ、と。

しかし神様には奇妙な癖がある。それは、欠陥だらけの不完全な道具を使いたがる、ということである。初代教会の設立、キリストのみ教えの地中海世界への汎布を成し遂げたのはファリサイ人、律法学士ではなくて、漁師やみつぎとりではなかったか。かれらの欠点や失敗は福音書のなかに活写されている。これこそ山を移す信仰である。

（カトリック社会問題研究所全国委員 西新教会所属）

教区各種委員会 委員長は語る

福岡教区各種委員会委員長が任命された。各委員長に福岡教区活性化を目指して、今後の活動抱負を語っていただいた。

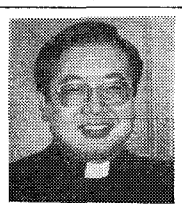
〈信徒使徒職委員会〉

山田成章師（光ケ丘）

現代教会は信徒一人一人が宣教者としての使命を自覚し、キリストの福音を宣べ伝えてゆくことに目覚めるよう求められている。

信徒使徒職委員会はこのことを受けて、福岡教区の信徒一人一人が宣教に目覚め、宣教に向かって頑張ってゆきたいと思う。

〈典礼委員会〉

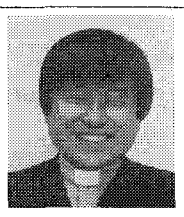


松井忠之師（小神学校）

早急に委員会をつくり、典礼の充実を目指してゆきたい。

典礼というものは教会内だけのものと考えられがちだが、そうではなく、典礼は社会生活の一部であるということを共に考え、実現したい。そして、ミサ、祈りが生活の中にありたい。

〈信仰教育委員会〉



山元　真師（小倉）

大人にとっても子供にとっても、福音の本来の姿は喜びであるはずだが、現代、ある人たちはその本来の姿を見失い、信仰を重荷として感じているようだ。これを本来の喜びの姿に戻してゆきたい。

信仰教育のために教区民の協力と理解を願いたい。

〈家庭委員会〉

S・ライル師（ファミリーセンター）

互いがよい点も悪い点も共に分かち合い、ゆるし合い、そして励まし、信頼し合うことによって、よろこび、希望、光に満ちた豊かなキリスト教的家庭を目指してゆきたい。各家庭が小さな教会のようになってもらいたい。教区民の祈り、そして理解と協力をお願いしたい。

〈青少年委員会〉

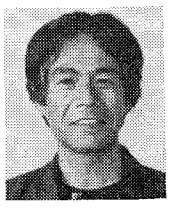
青木　悟師（手取）

教区の活性化をはかるため、若者がより一層、教会の中での自分たちの立場を自覚し、開かれた教会づくりを目指してゆきたい。

これからの教会を支えてゆく若者たち、彼らと共に考え、共に歩んでゆきたい。

青少年の積極的参加を願っている。

〈正義と平和委員会〉



西田邦洋師（大牟田）

福岡全小教区を網羅する全体的運動を目指しキリストの生き方がキリスト者の生き方となってゆくよう信徒一人一人の啓蒙を促したい。そして一人一人が社会生活の中で出会う問題に対して具体的に行動することが出来るようになりたい。皆さんの協力をお願いします。

〈召命促進委員会〉

山川辰幸師（西新）

男の子の場合は侍者会を通じて女の子の場合はシスターとの接触を通じて司祭、修道者の召命の芽生えを生み出してゆきたい。そのために、全教区民の祈り、小教区毎の召命のための祈りをお願いしたい。大切な召命、信徒一人一人の祈りによって生み出しましょう。

〈広報委員会〉

渡辺隆義師（司教館）

小教区で広報にたずさわっておられる方々はもちろんのこと、新聞、テレビ、雑誌、広告などマスコミの分野で働いておられる方々も含めた委員会活動を考えてみたいです。

ネットワークづくりなど多くの課題を抱えています。

皆さま方のご協力をよろしくお願いいたします。

みちくさ

祈りと労働の隠れた生活で知られる観想修道会、福岡カルメル会で行われた福田ゆかりさん（手取教会出身）の荘厳誓願式に参列した。修道院の小さなチャペルには、仲間のシスター方やご両親はもちろんのこと、教会関係者もかけつけ、式を見守った。荘厳さのなかにも神の家族的雰囲気にあふれたものであった▼個人的には、合志教会にいたころ、特別に手取教会の主任司祭の許可を得て、シスターの実家で、お父さんの洗礼の要理の勉強を手伝わせていただいたことがある。ご家庭を祈りの家、隣近所の人たちの憩いの場として開放しておられたことを思いだし、懐かしさとともに、この家庭にしてこの召命ありと感慨深いものがあった▼第二バチカン公会議のあと、一時期、観想的生き方に批判的な声が聞かれた。「修道女は人々のなかで働いてこそ存在の意味がある」とか、「祈りよりも宣教のためにもっと多くの時間を費やすべきである」とかに筆者は基本的には賛成である。またある人は、隠れた生活は自己満足の生活で、証しにならない、とも言う▼このような声に応えるかのように、修道会自身が自己変革を遂げてきたことは、昔を知る者にはよく分かる。たとえば、面会の時の格子窓も取りのぞかれ、相手の顔を見ながら話すことができるようになったが、シスター方の霊性をかい間見ることができ、大変喜ばしいことだ▼しかし、変わって欲しくないものがある。それは、祈りを大切にする心とその実践である。活動と祈りを分離することはできない。しかし、祈りと活動をまったく同一視してしまうことは、多分現代人より祈りの時間を長く持たれたイエズスのあの事実を忘れていることになるだろう。「カルメル修道院の奥深くで、キリストのもう一つの真実に出会っていただきたい」。こんな思いで修道院をあとにした。

大会参加へのお誘い

福岡教区司教　平田三郎

SEOUL KOREA

キリスト、私たちの平和

第44回 国際聖体大会公式巡礼団

《ソウル聖体大会と韓国聖地巡礼の旅》

今年の十月四日から八日までの五日間、東アジア地区では初めての国際聖体大会が、隣国のソウルで開かれます。

この国際大会は四年ごとに聖体に関するテーマを掲げて開催されるもので、ソウル大会は四十四回目です。

前回のアフリカ・ケニヤ大会のテーマは「聖体と家庭」でしたが、今度のは「キリスト・私たちの平和」です。

私は司教在職中に三回この大会に与りました。一回目は、公会議の第三会期後、インドのボンベイで開かれたもので、ヒンズー教徒を含めて百万人が集まりました。二回目、八年前のフランス・ルルド大会、三回目は、四年前のケニヤ大会で、最後の二回は団長として出席しました。

どの大会を顧みても感慨深いものばかりです。聖体が教会のいのち、諸活動の源泉であり、頂点であることを、しみじみ悟らされました。世界に拡がる教会にあって、福音があらゆる言語、民族、文化の中に溶け込み、息づいている姿を、この目で確かめることができ、また多くの信仰の兄弟と聖体の中で交わる喜びを実感することができました。

お隣の韓国の人口は、日本の約三分の一の四千数百万ですが、その中の千万人がキリスト教諸派の信者、そしてその中の二百二十万人がカトリックで、日本の六倍の信者を擁し、最近の増加は、世界の驚嘆的となっています。どうしてそうなのか、あちらに行って見届けたいものです。

韓国の信者さんたちは、信仰の祖先、殉教者を大切にする習慣があり、「殉教者の血はキリスト信者の種である」との言葉どおり、大躍進を遂げているのです。大会の余暇を見計らって、殉教の地に詣でたいものです。

大会中には、いろいろの研修会、修養会、大集会が、オリンピック・スタジアムやその他の場所で展開されるでしょうが、最後の日のヨイド広場での教皇ミサは、この大会のクライマックスとなることでしょう。宣教の成功を神に感謝し、喜びに満ちた百数十万の信徒の顔に接する感激は、いつでも、どこでも体験できるものではないでしょう。

参加申込の締め切りは五月末日となっています。参加ご希望の方は、司教館なり阪急交通社にご連絡ください。参加費はAコースで十二万八千円となっており、一般の観光旅行に比べて割高になっているようですが、国際大会の組織・運営費は、韓国の教会にとっても相当のものでしょうから、隣国の教会に献金するつもりで、この大会に参加していただきたいと思い、お誘いいたします。

NFP

自然法にもとづく家族計画

皆さまには、NFP（エヌ・エフ・ピー）という言葉は、まだ耳に新しい言葉だと思いますが、これはNatural Family Planningの略で、自然法による家族計画（受胎調節）のことです。

今回は、信徒夫婦の立場からこの問題を考えてみます。

夫婦が抱える問題

生涯にわたる家族計画の中で自然のままに子供の数を増やすには、現代社会はあまりにも困難な状況になってきています。10組に1組は子供に恵まれないとか、恵まれにくいといった統計もあります。

ある若い夫婦は3年間に双子を含む4人の子供に恵まれましたが、外出もままならず育児に疲れきった顔で「私達は信者ですから、薬も器具も使えませんので……」と言っていました。

3人目の子供を身ごもった信徒から、「育てる自信がないので中絶の許可をほしい」と言われて困惑した主任司祭もいます。

一方、この多様化された日本の社会において、母であること、母になることを拒絶する女性、不安と疑問を訴える女性も増えてきています。その結果、本来おしみない愛情と暖かい慈しみによって保護されるべき子供社会に、いじめや非行、自殺の増大といった状況が蔓延してきました。

4年前に日本カトリック司教団は「生命、神のたまもの」という教書の中で「信徒夫婦は責任ある家族計画のため、人口的手段によらない産児調整の方法を学ぶようにする」といっていますが、では「具体的にどうすればいいのか」と訴える信徒夫婦の声が多いのも事実です。

このような現状の中でNFPは、出産を望む人も望まない人も、器具や薬、手術といったいわゆる人口的な操作による受胎調節でなく、神の計画によって創られた、特に女性の体に与えられたリズムを利用した家族計画の方法を普及しようとします。

カトリック医師会でも積極的に取り組む姿勢

去る2月11・12日の両日「わが国におけるNFPの現状と課題」をテーマとしたワークショップが東京で開催されました。

これは、受胎調節や人口妊娠中絶について司教団が医療関係者、教育者、司牧者、信徒夫婦へ呼び掛けた教書への一つの応えであり、昨年9月に長崎で行われたアジア・カトリック医師会議の中での家族計画に関連した決議等をふまえて日本カトリック医師会が開催したものです。

このワークショップには医療、学校教育、家庭、司牧などさまざまな現場から約百二十名が参加し、白熱した討論や報告が行われました。

出産や避妊に対する不安、痛み、混乱の報告もありました。たとえば、主人の浮気を恐れてピル（経口避妊薬）を常用したり、IUD使用によって入退院をよぎなくされる体になっている人。数回にわたる人口妊娠中絶による痛みから精神異常になった母親を持つ悲惨な家族の報告などがありました。

これらの悲惨なケースは、本来たたえられるべき夫婦生活や家族計画に対する無知や無秩序な情報の結果ともいえるでしょう。

この様な家族の現実を背景に日本カトリック医師会が行なったNFPワークショップの意義は大きいといえます。

日本の「カトリック者の中絶・避妊に関する調査報告」を見ても、中絶経験者が約20%、なんらかの人口的避妊法を利用している者は70%を上回る数字がでています。そして、この同じ回答者の中に「中絶や避妊に関するカトリック的講座を希望する」という人が53%もいることは注目すべきことです。

NFPに関心を持ち学び会う場を作ろう

NFPが日本に紹介されて20年以上になりますが、学び合う場が育っていません。

NFPは特にカトリック信徒にとって神の恵みの中に育まれるべき家族計画の一つの優れた方法です。

具体的にはリズム法、排卵法、粘液法などいくつかありますが、いずれにしても教会の中でこそ自由に語られる場が必要なのです。

福岡教区におけるNFPの普及は低く、積極的に取りあげている教会は少ないと思われます。かろうじて教区のファミリーセンターが主催する「結婚セミナー」の「妊娠と出産」というプログラムでNFPの紹介がなされている現状です。

結婚セミナーに参加している婚約者たちは大半が未洗者ですが、信徒の結婚に限ってみると、現在90%以上が配偶者の一方は未洗者です。

この様な現状を思う時「自然法にもとづいた受胎調節」を、その夫婦の努力にのみ任せるのは無情としかいえません。それぞれの夫婦、教会、婦人会などがNFPに対して関心を持つことが急務です。

NFPの持つ意義や安全性は他のいかなる受胎調節の方法にも勝るものです。

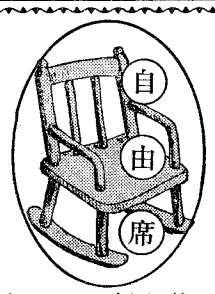
各小教区が積極的にNFPの勉強会や研修会を行うならば、いままで誰にも話すことができず日々の夫婦生活の中で、苦しみと不安に傷ついている信徒への救いとなることでしょう。

苦痛のうちにやむなく妊娠中絶し、信仰を持ちながら教会から遠ざかっている人への理解にもなります。

昨今の雑誌やマスコミに表わされるような、性に支配された生き方でなく、神の望みの中に創造された人間の性が、善きものとして神の望みのままに生かされるためにも人間の積極的な学びが必要でしょう。

NFPについての問い合わせはファミリーセンター（☎092・541・6207）か司教館で出来ます。また、関連の書籍が聖パウロ書院にありますのでご一読ください。

（深堀記）



受洗に寄せて

古賀　彰（大牟田教会）

先般の復活祭に洗礼を授けられた一信徒です。

現在の心境を述べると、非常に生意気なようですが、大変感動したとか、至上の幸福を得たとかいうものではありません。むしろ神の子としてのこれからの自分自身の生き方を考えるとき、その使命を全うできるか否かという不安感の方がはるかに大きいのです。

つい一年程前までは、神とは無縁の生活、すなわちコミュニズム的共同体にあこがれ、聖書如きは蹴飛ばしてしまうような背神的な生き方をして来た私が、現在クリスチャンとして存在すること自体、自分自身非常な驚きであるし、正直言ってまだ半信半疑の感も拭えません。

しかし振り返って見ますと、物質主義の権化の如き現代世相に毒され、惰性に流され、苦悩のどん底にいても為す術を知らなかった私が、こうやってまがりなりにも希望を持って生き続けることが出来るのは、神が差し伸べてくださった一筋の光明を一生懸命つかもうとした私の努力を神が評価してくれたからではないか、という気がします。

神父様をはじめ兄弟姉妹の皆さんの暖かい助力にも恵まれて、未熟ながら教会共同体の末席に加えさせてもらったわけですが、私は、これまで外部の人間としてカトリック共同体というものをつぎのようにとらえてきました。

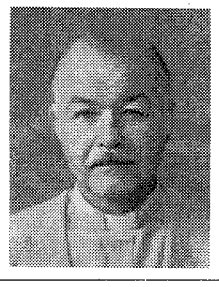
すなわち、教会共同体というものは、決して甘い密のしたたる理想郷ではないということです。そこには、人間同士のどろどろした欲望のぶつかり合いもあるでしょうし、貧富の差も歴然として存在しています。また目前に悩み、苦しむ仲間がいても我れ関せずといった感じの人も多いように思われます。

現実と理想は違う、理想だけでは生きていけない。勿論そうです。特に現代社会ではそれは顕著だと思われます。しかしクリスチャンは違う。いやそう信じたいのです。

神の望まれる理想的共同体を常に追い続ける姿勢、努力が私たちにとって最も肝要なことではないでしょうか。

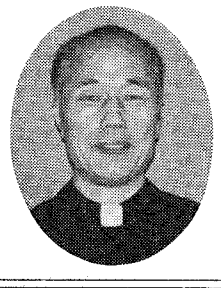
少々抽象的になりましたが、具体的には私たち各々がどんな小さなことでもいい、神の呼び掛けに応えるべく現実的な実践を心がけることだと思います。

司祭叙階銀祝　おめでとうございます



K・ウーリック師

イエズス会
一九六四年三月一九日叙階
現在、泰星学園にて英語科を担当



乾　盛夫師

オブレート会
一九六四年六月一四日叙階
現在、古賀教会助任
あけの星幼稚園園長

福岡黙想の家
御受難修道会 宗像修道院（院長：畠　基幸）
感謝のうちにオープン
皆さまのご利用をお待ち申し上げます
〒811-41 宗像市大字名残字立山1056 ☎0940(32)3222
（JR赤間駅からバスで10分；若宮インターから10分）

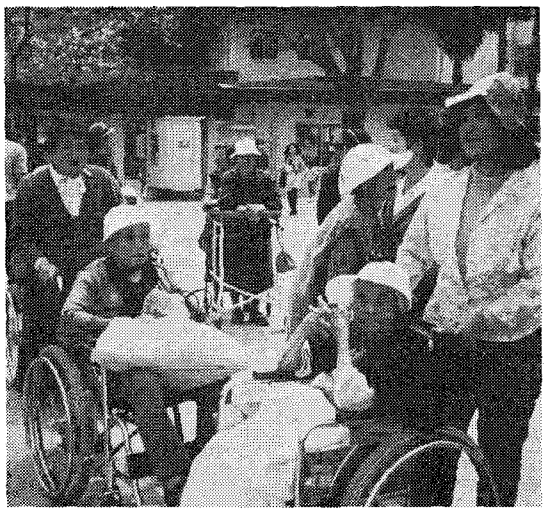
熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 096—352—3306
096—352—8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

お年寄りの花見のお手伝い

福岡地区婦人会がボランティア

動植物園



車椅子を押してもらう篠栗荘のお年寄りたち

春爛漫の4月4日（火）粕屋郡にある老人ホーム篠栗荘（中垣静夫園長・入所者数50名）では、桜見を兼ねて福岡市動植物園見物を実施した。

当日の参加者は男性7名、女性22名の計27名。それを同施設の職員9名とボランティアの福岡地区婦人会の22名が手伝った。

11時40分に動物園入口に篠栗荘のバス等4台が到着。待機していたボランティアの婦人たちは早速車椅子や資材おろしを手伝ったり、車椅子に乗せたりと奮闘した。

桜ふぶきの舞う広場で昼食の後、それぞれの担当者といっしょに珍しい南方の鳥やぞう、ライオン、猿園等を楽しそうに見てまわった。

お年寄りたちも幸せそうな顔で、この日を楽しみにしていた様子がうかがわれた。

幼稚園児位の女の子が、自分が食べていた菓子袋からお年寄りの手にひとにぎりの菓子をさしだすなど、ほほえましい光景も見られた。

車椅子は下り坂ではブレーキをすこしかけて、なめにじぐざぐに下るとよいのだ、とお年寄りに教えられたり、段のあるところは後向きに引き上げたり降ろしたりすることなど、初めて車椅子を押すボランティアには、良い実習の場ともなっていた。

2時に所定の場所に集合したが、職員の人たちは人数の確認、トイレの世話など大変である。バスが出発する時は、友達となった人と別れの手を握り合った。

ボランティアの婦人達は心よい疲れを少々感じながら帰途についた。

「車椅子使用者が60％で、10名位しか園外の活動はできず、ボランティアの皆さんの協力で、このように多くの方方が参加出来るのです」と園関係者は話している。

佐賀の「聖書展」好評

入場者は延べ七百五十名に

一般の人々に、もっと聖書を読んでもらおう――と、佐賀市内のプロテスタント諸教会と、佐賀カトリック教会合同による「聖書展」が、三月二十六日から四月二日まで一週間、佐賀カトリック教会において催された。後援は佐賀新聞社とサガテレビ。NHK学園と日本聖書協会などが協賛した。

〝ザ・バイブル・キャンペーン佐賀〟をスローガンに、佐賀市中心部に位置する佐賀カトリック会館には、初日から大勢の参観者がつめかけた。期間中の延べ入場者は七百五十人余。

会場には、世界各国語に訳されている聖書翻訳の現状がパネルで紹介され、各国の聖書の実物八十余点も展示、日本で最初に印刷された木版刷り聖書と版木、明治初年、聖書の日本語訳に尽力したヘボン、ブラウン、ラゲ師などの業績の紹介や訳本の展示、福岡サン・スルピス大神学院のZ・イエール 神父秘蔵の聖書、とりわけ四世紀の最も権威ある「バチカン写本」や、紀元前一世紀の『死海写本』などは圧巻であった。入場者の中には三時間もかけて隅から隅まで熱心に見学してゆく人もいて、聖書に対する関心の深さを示していた。

また、期間中三回の講演会も開かれた。講師は、佐藤邦宏氏（日本聖書協会総主事）の「聖書、この素晴しきもの」、名古屋教区長相馬信夫司教の「聖書における差別と平和」、梅光女学院大学学長佐藤泰正氏の「近代日本の作家と聖書」などであった。

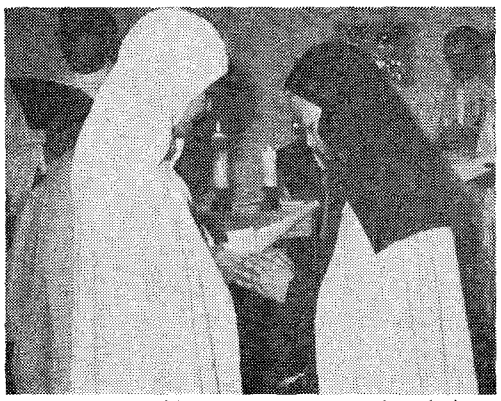
このほか会場には、ビデオコーナーや、聖パウロ女子修道会からの書籍販売、市内の牧師、神父による「聖書Q&A」などのコーナーが設けられ、連日見学者で賑わった。

（牧山記）

Sr.福田ゆかりが荘厳誓願

福岡カルメル山の聖母修道院

手取教会出身



修院長に誓願文を読みあげるSr.福田（左）

4月8日（土）午後2時より、福岡カルメル山の聖母修道院において平田三郎司教司式の荘厳誓願式ミサが行われた。

誓願者は、手取教会（熊本市）出身の御復活のパウロ福田ゆかりシスター。ご両親をはじめ各地からお祝いにかけつけた信徒で修道院の聖堂はうめつくされた。

平田司教は「キリストに招かれ神のみ旨に入る過ぎ越しの式です。母なる教会、宣教する教会の娘として福音を大切にし、毎日の祈り、奉仕、労苦を教会のために行なってください」と諭した。

誓願者は、自分のことばで作成した誓願文を院長に手渡した。

ここが聞きたい シリーズ

日雇・野宿者のこと①

正義と平和協議会の皆さんは具体的にどんな働きをしているのですか。

次々と協力者に恵まれて

これから、北九州正平協が〝福日労（福岡日雇労働組合）、北九州日雇野宿労働者問題を考える会〟等と共に取り組んだ、北九州での日雇、野宿労働者への炊き出しパトロールを少し紹介してみたいと思います。

私たちは、日雇い、野宿労働者への理解を深めるために、映画〝山谷〟の上映会を市民センターで行ったり、学習会を実施していました。

そんな折、福日労から「北九州における実態調査パトロールを行ってもらえないか」との要請があり、「あわせて炊き出しもしたいので準備して欲しい」とのことでした。

約三カ月にわたるパトロールで、のべにして二四〇名の日雇、野宿労働者に出会いました。

炊き出しは六つの教会で実施していただきましたが、小倉や若松では、温かいみそ汁も出されました。またパトロールには女性、子供の参加もあり、「今度はいつしますか」という嬉しい催促の言葉もありました。

ある教会では、最初、神父様や信徒会長は「みなが協力してくれるかどうか」と不安げでしたが、結果は二〇名にものぼる参加者とたくさんの物資も集まり、共々に喜びました。

戸畑教会では、二〇数名の人があふれ、おにぎり、豚汁はすでにできあがっておりました。そこで、とりあえず出発までにと、今までの経過を話していると、人々はさらに増え、出発の時には積み残しの人もでるほどでした。

回を重ねる度、物資、資金、人が増しあふれる。聖書の世界の〝パンの増加〟（ルカ9章）をみる思いでした。

回答者　守谷栄二（北九州カトリック正義と平和協議会）

再び結婚について

山元神父の ワンポイント教会法

「ワンポイント教会法」が始まった最初の頃、約一年にわたって結婚問題を取り扱ってきましたが、今回も再び結婚について書きます。というのも、大切なことは繰り返す必要があると思うからです。

毎月「教区報」を読まれている方は、幾分は理解して下さっていると思いますが、まだよく伝わっていないところがありますので。

まず、離婚されている方と秘跡について。

離婚されていても、ゆるしの秘跡は受けられますし、聖体拝領もできます。ただ「できる」というだけではなく、この秘跡をひんぱんに受け、神によって力づけられる必要があります。

それぞれの方に、それぞれの事情があるのですから信者は裁くことなく、このような方を温く教会に受け入れ、励ましてあげることが必要です。

離婚したら、もう教会に来れないし、秘跡も受けられない、というのは間違いです。でも、このように考えている人は、まだたくさんおられるみたいです。

離婚していても、秘跡は受けられます。

次に、離婚して再婚した場合について。

信者どうしであれ、信者と未信者であれ、未信者どうしであれ、一度有効に結ばれた結婚の絆は、非常に特殊な場合を除いて解消することはできません。ですから、一般的にいって死別でないかぎり、たとえ民法上の離婚をきちんとしても再婚することはできません。もし再婚すれば、秘跡は受けられないことになります。ただし、ここで気をつけなければいけないことは、法を侵したからといって、その人はもう救われない、ということではないということです。救いは神秘です。人が裁き、救いを決定することはできません。

要は、離婚してしまう前に、早目にいろんな方と相談して問題の解決を試ることです。

（小倉教会）

手取教会宣教百周年

5月14日に記念ミサ

パリ・ミッション会のコール神父と幼きイエズス会の四人のシスターによって、熊本で宣教が開始されたのは、一八八九年（明治二十二年）三月十五日。今からちょうど百年前であった。

手取教会ではこの輝かしい宣教百年を記念する行事計画を二年前から準備してきた。

すでに、去る三月十五日には「コール師宣教百年目特別記念ミサ」をささげ、四月二十三日には歴代司祭や同教会信徒らで宣教百周年を祝っている。

五月十四日の記念行事はその最後を飾るものである。

記念ミサは正午に始まり、主司式の平田三郎司教、小教区内外から多数の司祭、修道者、信徒の参列が予定されている。

午後二時からは会場を隣の鶴屋デパートに移して祝賀会を催すことになっている。

宣教百周年記念に加賀乙彦氏講演会

「キリスト教と私」

鶴屋デパート（熊本市）で5月13日午後6時30分から

作家、精神科医として著名な加賀乙彦（かがおとひこ）氏の講演会が来たる5月13日（土）の午後6時30分から熊本市の鶴屋デパート7階ホールで行われる。

加賀氏は、精神障害者、犯罪者とのかかわりを作品化したものが多く「帰らざる夏」で谷崎潤一郎賞、「宣告」で日本文学大賞、「湿原」で大佛次郎賞などを受けている。

主催は手取カトリック教会

入場料は五百円。

BOOK 読みま専科

☆沈黙の泉

アントニー・デ・メロ師著

「一分間で得られる知恵なんてものがありましょうか」「ある」と師は言う。「でも短すぎませんか」「五十九秒も余計なくらいじゃ。一秒で充分」。師と弟子との間に交わされる二一八の短い対話。

「この本は教え諭すためではなく、自ら悟りを開くように意図されて書かれたもので活字にではなく、物語の内に、人間の言葉では伝えることのできない《知恵》が隠されている。本書に潜む《沈黙の教え》にふと出会い、目が開かれる」と著者は薦める。

（女子パウロ会一三五〇円）

☆神さまを見つけた30人

インタビューと文　加藤　宗或氏著

神との出会いが自分の人生を変えた、あるいは大きく支えになっているという人との30のインタビュー。「あけぼの」に一九八四年一月から三年間、「なぜ私はカトリックになったか」というタイトルで連載されたもののうち28人と、最近受洗された加賀乙彦・田中千禾夫両氏のインタビューを加えて、一冊にまとめたもの。一人ひとりに対する神の恵みの大きさに、ただ驚く。そして、読者も自分の人生をふり返って、そこに神の軌跡を見るのではないか。

（女子パウロ会一〇三〇円）

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092―761―8800
代表取締役マルガリタマリア吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092―711―0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材
石の理想
石の影響
他の大御所
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

五月の行事

※ゴチックは司教日程

7日　島崎教会三十周年記念と堅信式
　午前9時
「家庭の日」作文審査会（司教館）
9～10日　司牧司教委員会（東京）
9日　神学講座（司教館）
14日　手取教会百周年記念ミサと式典
　午後12時
17日　司祭候補者認可式（大神学院）
　午前10時30分
21日　教区家庭の日（カテドラル・センター）
22日　北九州地区カテケジス講師　岩橋淳一
　申込みは門司の木俣へ
22～24日　典礼・宣教司教委員合同研修会（札幌）
23日　神学講座（司教館）
27日　崎津教会堅信式
　午後7時
28日　大江教会堅信式
　午前9時
30日　神学講座（司教館）

神の家族みんなで祈り考えよう

福岡教区「家庭の日」（5月21日）の実施要項

教区レベルで行われる「家庭の日」の実行委員会（担当ライル神父）から当日の実施要項が発表され、小教区の主任神父様をはじめ信徒の皆さんに協力依頼がなされている。

テーマ
〝現代社会における家族の生き方〟

☆小教区ですること
①当日は「家庭の日」のミサ聖祭
　祈願文は司教の認可を受けたので、これを利用していただく。
②司教メッセージをミサの時読んでいただく。
③ミサの奉納の時、家庭に貼ってあった「ぬりえ」を奉納する。
　奉納者には、「家庭の日」と印刷された鉛筆を記念にさしあげる。
　鉛筆は、事務局から各小教区宛送る。

☆カテドラル・センターでのプログラム
　参加者は、大人百三十人、7家族（内訳は北九州2、福岡2、熊本2、佐賀1）約四十名、実行委員二十人を予定。
プログラム
12時　受付け
12時30分　オリエンテーションと次の三つのテーマについての話
　①信仰と日常生活
　②いのちと性
　③対話―生きているかかわり―
1時30分　分科会
　①信仰といのち
　②いのちと性
　③対話―生きているかかわり―
　④私たちの「家族」
分科会のふりかえりとまとめ
　①各グループで全体をふりかえります。
　話にでてきたことを全員でふりかえり、書記がそれをまとめます。
　②各グループで共同祈願をつくり、ミサの共同祈願の時に祈ります。
　③各自がふりかえり、感じたこと、得たこと、気づいたことなどを感想として書きます。
　＊この感想は、ミサの時に奉納する。
3時　まとめの話　山元真神父様
3時45分　ミサ聖祭　司式平田三郎司教様
4時　みことばの祭儀のあと、コンクール入賞者の表彰式を行います。
　奉納　分科会での感想文
　共同祈願　各グループで一つ作っていただく。
＊ミサには多くの神父様のご参加をお願いいたします。
＊教区コンクール入賞者は、3時45分までにカテドラルに集合してください。
5時30分　終了

☆カテドラルでの各地区の駐車場
　熊本7台、北九州7台、佐賀5台、家族7台、合計26台が確保されます。

福岡の聖母へ

徳山　登

小さいテレーズが次のように語っています。
「わたはマリア様について説教するために、司祭になりたかったのです。そのとき、私は女王としてのマリア様よりも、母としてのマリア様を示したことでしょう」。
五月は聖母月と定められ私たちの聖母に対する信心を清め、深めるように教会は呼びかけています。
マリア様の御出現は昔からありましたが、最近はいろんな国々で忙しく、お姿を見せ、メッセージが送られるようです。
そこに注意すべきところがあります。神さまは、み言葉であるイエズスを通して、私たちに必要なことを全て知らせてくださいました。十字架の聖ヨハネも「主イエズスがこの世に来られた今、新しい啓示や出現を期待することは無理なことで、神さまを悲しませることです」と言っておられます。
ある人に個人的に与えられたマリア様の御出現が真実であるかどうかは、教会聖庁が慎重に時間をかけて調査します。
実際に教会が認める御出現は、数少ないのです。信者が御出現のできごとにとらわれ、キリスト者として、福音を聞き、人々に伝える大切な使命を忘れる危険があるような気がします。
私たちが聖母に出会えるところ、それは福音書と聖体です。小さいテレーズは福音書の順序に従って、詩の形でマリア様の実生活を歌っています。信仰に基づくマリア様の単純な生活、私たちと同じように試練に出会う聖母、それに聖母の深い沈黙を！
昔、聖体の前でよく歌われたラテン聖歌に、《AVE VERUM》（おとめマリアから生まれたまことの御体を讃美しよう）があります。神の子キリストの人間としての容姿はその母、マリア様に似ていらっしゃったと思います。聖体拝領や聖体礼拝の度毎に、イエズスと共にいらっしゃるマリア様にお会いできるのではないでしょうか。
フランスの聖地、ルルドでおこる奇跡の多くは聖体行列の間です。司祭は病人ひとりひとりの上に聖体顕示台をもって祝福を与えます。
ある日のこと、担架に乗せられたひとりの母親が祝福を受けたあと、聖体を手にしている司祭が遠ざかる時に叫びました。
「イエズスさま！私を癒してください。さらないならば、お母様に頼みます」。
その時です。病いが治った感じで担架から起き上がりました。こうして、聖母は人の病気を治すことはできません。
が、聖体との深いつながりから、大いなる業をなされるのです。
ルルドへの巡礼に行くお金のないことを嘆く必要はありません。キリストさまのいらっしゃるところに聖母も又いらっしゃいます。
聖パウロは「生きているのはもはや、私ではなく、キリストが私の内に生きておられる」（ガラテヤ2・20）とおっしゃっています。われらの内なるキリストと共に、マリア様もきっといてくださり、私たちと共にマリアのロザリオを祈ってください。マリア様が共に祈ってくださるからこそロザリオの祈りの力は大きいのです。聖母はどこの国のどの町にもいらっしゃいます。特別な御出現はなくとも。
そして、私たちひとりひとりをお母様らしく大事に守ってくださいます。この事を聖母月に当たり、再確認して感謝と讃美をいたしましょう。
それから、福岡教区の司祭として、私の好きな聖母は福岡の聖母です。

（パリ・ミッション会司祭　八王寺教会）

猿の様な、狐の様な、ももんがあの様な、だぼはぜの様な、麦魚（めだか）の様な、鬼瓦の様な、茶碗のかけらのような日本人

高村光太郎

かのときのことのは

森山　敬三

『道程』に人としてのほうが有名である。書も「すぐれており、「うつくしきもの満つ」などの字は、正に天下一品である。草野心平は、近代詩は藤村にはじまり、白秋に終る、そして現代詩の父は光太郎であり、母は朔太郎だと言う。詩人の言として傾聴すべきものがある。戦争中、国家に協力したからというので、それを償うため、岩手県の山村に独居し、十九篇の聊詩で自伝的叙事詩である『暗愚小伝』を書いたが、それはすばらしい。

「根付の国」と題して所収。この詩は、その前に六行あり、その最後である。明治四十三年、ヨーロッパから帰ったその翌年、二十八歳の時に作られた。彼は父光雲のあとをついで、彫刻家となった。しかし現在では『智恵子抄』などによって、詩

教区人事

（　）内は前任地

イエズス会
▽外川直見師　泰星学園（六甲）
▽粟本昭夫師　イグナチオ教会（浄水通教会）
▽小崎次郎師　広島祇園教会（泰星学園）
▽西山和男師　宇部教会（泰星学園）
＊福岡修道院院長
　S・オチョア師
聖コロンバン会
▽B・フォード師　帰国（菊池教会）

五月命日の司祭

＊ヨハネ棚町正刀師一九六八年五月一五日元茶山教会主任（パリ外国宣教会）一九四五年五月五日元八代教会主任
＊フランソワ・ルマリエ師（パリ外国宣教会）一九四五年五月五日元八代教会主任
＊フェルナンド・チリ司教（パリ外国宣教会）一九三〇年五月一〇日初代福岡教区長

編集室から

◇今月21日は、教区の「家庭の日」です。親子、夫婦の問題など、家族としての関わりを家族みんなで見直してみたい。でも問題ばかりでなく、喜びも分ち合う日にしたいですね。
◇4月30日は、「広報の日」でしたが、今年は教区報の編集長がなにかと忙しく、ノー行事。
小教区で広報にたずさわっておられる方々との年に一度の交流会もできませんでしたが、皆さま方のご健闘をお祈りしています。（W）

第四十四回国際聖体大会（一九八九年）公式巡礼団参加者募集

《ソウル聖体大会と韓国聖地巡礼の旅》

期日　Aコース　10月4日～8日　5日間
　　Bコース　10月4日～12日　9日間
費用　Aコース　一二八、〇〇〇円（福岡発着）
　　Bコース　一七八、〇〇〇円（〃）
申込み締めきり　5月31日
問い合わせ先　福岡市中央区浄水通三九
　福岡司教館　☎092-522-5139

中央出版　福岡支部
■キリスト教関係、書籍、家庭の友
■典礼聖具
■ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
(株)メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2―0646
行橋市駅前5秒店　☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922―5637

未来へ――安心を創る
FUJKi　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092―521―0568

カトリック福岡教区報

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

今月のみことば

友のために命を捨てるこれにまさる大きな愛はない。
（ヨハネ15・13—14）
高宮　須賀沢公男神父

司牧評

教区正義と平和
信仰教育・典礼

委員長と懇談

社会的弱者の問題も議題に

4月16日（日）司教館で第4回司牧評議会が行われた。

今回は、発足したばかりの各種委員会の委員長に出席を願い抱負を聞き、活発な意見交換を行った。

また、教区優先課題Ⅱ「弱い立場におかれている人々への関わり」についても審議が行われた。

各種委員会に要望

≪典礼委員会≫

松井忠之委員長（小神学校長）は、典礼委員会は教区行事を典礼の面からお手伝いしたい。話題になっている信徒の聖体奉仕者については司教団の典礼委員会が出す予定の指針を見て考慮したい。日本の風習（新築祝い、七五三、岩田帯など）にあった祝福の祈りを編集したい、と抱負を語った。これに対し評議員から、家庭でのミサや子供のミサなど特別の典礼集ができないだろうかといった意見が出された。

≪正義と平和委員会≫

西田邦洋委員長（大牟田教会主任）は、まず各地区の正平協に関するグループの現状を知ることから始めている。

司祭むけに「司祭通信」を正平協のインフォメーションとして出す。一般社会の他組織とのつながりは意志の疎通ができないと難しい、と話した。評議員からは、現在ある多くの社会運動について何処に尋ねたらいいのか。この様な運動の福音的見方をはっきりさせてほしい、といった要望が出された。また、司教から「カトリック教会の名前を出す時は司教認可のある団体から出さないといけません」という注意があった。

≪信仰教育委員会≫

山元真委員長（小倉教会助任）は、はば広く考えれば幼児から老人まで関係があるので各委員会、グループとの連絡が必要だ。信徒の生涯養成は個々の問題と取り組む中で制度化されるのではないかと思っている、と語った。これに対してカテキスタ養成を早くしてほしい、学校教育の内容に対する子供の戸惑いや疑問が大きくなっている。高校生に場がないなど多くの意見が出てこの委員会にたいする関心の強さをうかがわせた。

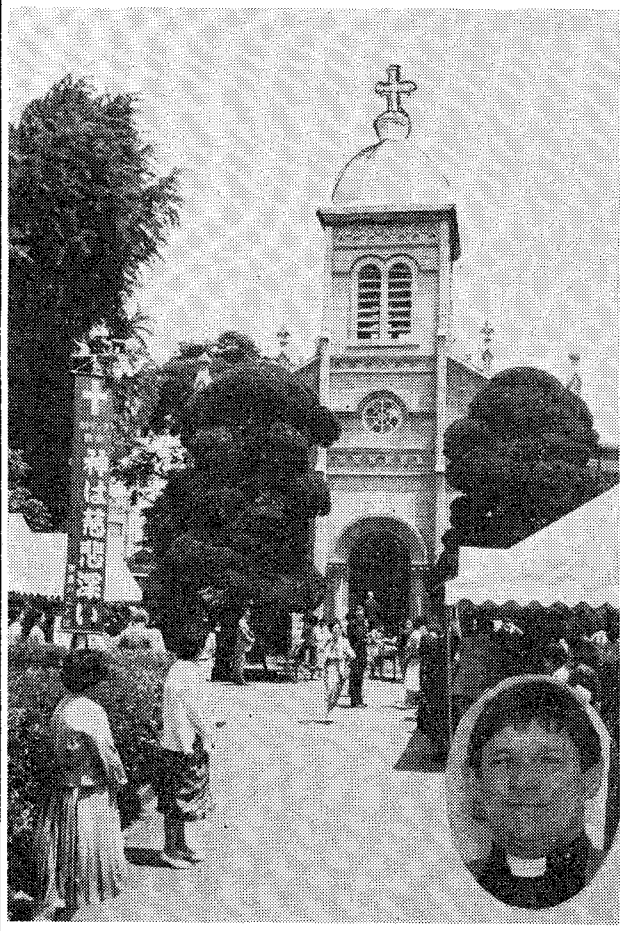
社会的弱者に配慮を

点字要理、手話ミサ、結婚問題、精神病者問題、在日外国人の司牧など多くの問題点が出された。教会にいくら設備をしても自宅から教会までこれない人がいないか。身障者も教会で司会や何かの場があるのではないかといった活発な討議がなされた。

（評議員の交代）

Sr.竹内美智子→Sr.高田恵美子
Sr.中岡多美子→Sr.大水八千代
となりました。

手取カトリック教会
宣教100周年記念



コール師によって宣教が再開されて百年目にあたる手取教会では、5月14日、平田司教司式で盛大な記念ミサと祝賀式典を催した。

バイヨ師（黒崎教会・パリ外国宣教会）は「コール師は、貧しい人、虐げられている人を大切にした。彼の模範は、今もっとも望まれる生き方である」と話した。モロニー師（聖コロンバン会副管区長）は「これからの百年は邦人司祭の歴史であって欲しい」と邦人司祭増加の為に頑張るよう訴えた。

（写真＝喜びに溢れる手取教会と○内は主任のジョー・ブロデリック神父）

時の話題

生熊来吉

沢田論文の問題点

「諸君」四月号の「カトリシズム荒廃の教訓」という沢田昭夫氏の論文にたいし、酒井新二氏は「カトリック新聞」四月一六日号の「論壇」において、反論をされているが、私もこの問題で一言したい。

沢田氏は某修道会経営の学園において、修道院の再建をやめて、生活の場を教育の場である学校の敷地の外に移したことを非難されているが、それは手ぜまになった学園への敷地の譲渡という実際的方策としてばかりでなく、カトリック学校が岐路に立たされている今日、カトリック教育の理念の追求、教育修道会の生活そのものへの反省に立った、苦悩に満ちた模索であると思う。

彼は、「魂の救済」を求める信徒は「貧者への奉仕」に転じた教会を離れたといわれるが、教会が貧者に奉仕することは「魂の救済」の妨げになると思われるのだろうか。「小さい兄弟」への奉仕によって人は善人の列に加えられる、とマタイ福音書二五章は私たちに教えている。

カトリックは典礼中心であるから、典礼の非神聖化は教会の崩壊につながるといわれるが、彼の理想とする典礼はラテン語とグレゴリオ聖歌の荘厳ミサのようだ。つまりラテン語は「どこの国籍の人にもわかる共通語」ということだが、これは「どこの国籍の人にもわからない言葉」ともいえる。「典礼憲章」ではラテン語ミサの存続の必要性も認めているが、また同時に国語ミサの有用性、そして「それぞれの集団、地方、民族への順応……多様性」をも背定している。

要するに沢田氏の教会観は公会議以前のものである。彼は公会議の基本的テーマである「教会の広範な刷新」および「教会の現代世界への適応」と、その日本への適用であるNICEによる方向づけを受け入れない考えかたである。このようなことは、彼が賞揚する古い教会の教えと矛盾していることに気づかれないのだろうか。

このような議論は、カトリックについて基礎知識をもたない一般誌の読者をつまずかせることになる。それは救霊の妨げであり、「福音宣教」への逆行であると思う。

（カトリック社会問題研究所全国委員　西新教会所属）

島崎教会
創立30周年
堅信式と二重の喜び

5月7日主の昇天の祭日に、島崎教会（主任カリー神父）で小教区創立三十周年が祝われた。

記念ミサ及び式典には、平田司教、地区長のヤングキャンプ神父、それに第二代主任のガラハ神父も来賓として顔を見せ花をそえた。

また小教区内外からおよそ二五〇名ほどの信者が参列し聖堂内に喜びの歌が満ちた。

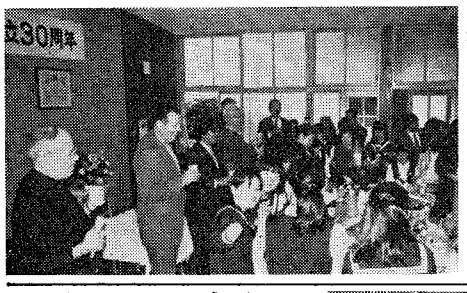
記念ミサでは、堅信式も行われ中学生、大人など三十一名が堅信の秘跡を受けた。

ミサの後、会場を信徒会館として使用されている旧聖堂に移して式典を催した。

同教会第二代目の主任司祭であり、現在の聖堂を建設し、今はアメリカの教会で司牧にあたっているガラハ神父が祝辞を述べ、新たな出発を始めるよう信者たちを励ました。

また、教皇ヨハネ・パウロ二世からの祝福のメッセージが主任司祭から披露された。

カリー神父の話　島崎教会はフランシスケンの修道院との関係が歴史的に深いのです。小教区として



は、三十周年ですが、宣教が開始されたのは約九十年前からで、以来ずっとこのシスター方のお世話になってきています。これからも信徒と修道女が互いに力を合わせて神の国の建設のために働いていけたらと思います。

ペトロ平田三郎司教様
司祭叙階金祝ミサと祝賀

6月25日（日）　午後1時より

福岡カテドラル・センターにて

教区の皆さまのお祈りを宜しくお願いいたします

※　駐車は招待者に限ります。

大自然の中に憩いの場
福岡黙想の家落成・献堂

宗像市

福岡県宗像市に移転新築した御受難会の「カトリック福岡黙想の家」と修道院の献堂式が4月23日、駐日教皇大使W・A・カルー大司教、平田三郎司教、平山高明大分司教はじめ、司祭60人の共同司式のもと、信徒、来賓約六百人が参列して行われた。

献堂ミサの説教の中で平田司教は「現代社会の中にあって、真の価値観を見出すべく努めなければならない私たちに、神について、隣人について、自分自身について考え深めるために、この黙想の家が与えられたことは意義深いことである」と語った。

また御受難会を代表して鈴木忠一管区長が、創世記の天地創造の場面を思い起こし「人間の手で造られた黙想の家が、豊かな自然の中にあって、人々の精神的な安らぎの場でありたい。」と述べた。

6月25日（日）の聖ペトロ聖座献金

バチカンの財政ひっ迫への理解と多大の献金協力が求められている。

みちくさ

十一年間の小教区での宣教・司牧の実践を離れ、司教館の中に入って初めて、これまでがむしゃらに生きてきた自分が見えてきた。そのために迷惑をかけてしまった方々が無性になつかしい。それで今は、忙しいのか暇なのか。そのどちらも真実ではあるのです▼各小教区から教区事務所宛に送られてくる結婚や堅信の通知を帳簿に書き写したり、保管されている資料や他の教区からの書類などを活用しやすいように分類整理しなおしていると、すぐ一日が終わる。ラテン語で書かれたものを手に取るとこの仕事に自分が適任でないことをますます痛感してしまうのです▼このような机上の仕事をしながら、想いはいつの間にかあちこちの小教区の信徒のほうに飛んでいく。みんなそれぞれ自分の信仰生活を精一杯に生きていた。「祈りをしなくなった」「要理が分かっていない」など信仰の危機が叫ばれてはいるが、みんなの心のなかから神様がかき消されていないのをみつけては救われる思いだった▼小教区の現場で見てきたこと。それは教会に来る来ないにかかわらず、一人ひとりのうちに聖霊が働いておられることだった。教会の掟を守るとか守らないとか言うより前に、守れる状況にあるのかどうか見極めること。「教会に来なさい」と小言を言う前にその人の悩み苦しみに連帯し、励ましの言葉をかけ助けの手をのべることが司牧者のつとめであったと悔いが残る▼自分の弱さを知る司牧者たちこそ幸いなのかもしれない。「大祭司は、自分自身も弱さを身にまとっているので、無知な人、迷っている人を思いやることができるのです」（ヘブライ5の2）。「彼らは背負いきれない重荷をまとめ、人の肩に載せるが、自分ではそれを動かすために、指一本貸そうともしない」（マタイ23の4）との聖書の言葉がこころを刺すこの頃なのです。

正義と平和を考える

アンケートとインタビューの回答に司祭・信徒の協力要請

福岡地区正義と平和委員会

森山信三師

教区報5月号に、福岡教区の活性化を目指して、8つの各種委員会の委員長談話が掲載されていますが、これらの委員長談話は、別々の活動方針を言っているのではなく、基本的には、互いに関連し合いながら、「現代ということの時にキリストの道を示している」といえると思います。

ところで、私たちキリスト者の行動の原理は、「み旨が行われますように」との主の祈りにあり、これを誠実に生きることにあるのではないでしょうか。

こうしてみますと、今や、福岡教区の『正義と平和委員会』の発足、活動の開始は、〝時のしるし〟としての重要な意味を帯びているといえます。

にもかかわらず、教区内においては、まだ正義や平和の問題に関心が薄いように見受けられますし、活動に対しても危険視する声があることも事実です。

しかし、「正義」という言葉は、聖書によれば、神の義、み旨、救いのみ業、愛といつくしみを意味しています。正義が神の〝み旨〟〝救い〟であるというなら、無関心ではすまされないはずではないでしょうか。

このような考え方のもとに、『福岡地区正義と平和委員会』では左記のような問題について教区の皆さまと一緒に考えていくことになりました。

アンケートやインタビューによる情報収集の中で、皆さまのご意見をまとめ、「正義と平和ニュース」を発行して分かち合っていくことを企画いたしました。

なにとぞ、この趣旨にご理解をいただき、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

福岡教区正義と平和委員会
委員長　西田邦洋神父

質問

①正義・平和とは、キリスト教的にいってどのようなことなのでしょうか。

②正義と平和は、信仰の本質に関わるものなのでしょうか。もし、関わるとするなら、それはどのように関わってくるものなのでしょうか。

③これから、『正義と平和委員会』が果たすべき教会共同体での役割はどのようなことでしょうか。

④旅する教会は、「自己目的を目的としてはならない」と言われていますが、ここで言われている〝自己目的〟とは具体的にはどのようなことでしょうか。

回答は左記宛お願いいたします。

カトリック福岡地区正義と平和委員会
担当司祭　森山信三神父
福岡市中央区大名二―七―七
大名町教会
☎092-741-3687

森山信三神父の話　「正義と平和」という言葉を聞くだけで、拒否反応を示される方、関係ないと思われる方、現代社会の様々な情報、出来事をキリスト者としてしっかり見極め、何らかの形で関わっていくべきではないでしょうか。それこそ神さまのみ旨を生きようとする私たちの生き方だと思うのです。

どうぞ忌たんのないご意見やご要望をどしどしお送りください。

Sr.マリアーニ講演会

人権侵害の実例を報告

問題多い海外援助

「税金の使途先を監視せよ」と語る

フィリピンでの人権問題で活動しているSrマリアーニが来日。カテドラル・センターで四月十七日講演を行った。

Srマリアーニは無原罪の御やどりのフランシスコ会会員で、一九八六年よりフィリピン人権擁護団体(PAHRA)の国際関係委員長の職にある。

今回の講演会は、教区の正義と平和委員会、福岡県日比交流協会や市民団体などの後援によるもので午前と午後の二回行われ、延べ一五〇名が参加した。

三年前、エドサ革命によって誕生したアキノ政権は民衆の期待を集めたが、今、フィリピンの状態は人権侵害という大きな問題を抱えている。マルコス政権の下ではなかった新たな弾圧も始まっていると報告。自分が所属している仲間の事例や拷問の写真などを証拠として示して説明。期待が大きかっただけに民衆の失望も大きいという。

Srマリアーニはその原因をつぎのように分析している。①前政権の軍隊のトップのメンタリティーは前のままである②軍隊や軍隊を助ける市民グループのための出費が多大で一般民衆の生活を圧迫している③アメリカなど諸外国の援助が武器の供与として使われ、軍に反対する者への弾圧に用いられている④多くの人に仕事がない。失業率は40パーセントに達しているが、労働問題、公平な富の分配を求めると、共産主義のシンパとみなされ、逮捕、拷問、暗殺などが日常化している。

このような状況を打破するための特にフィリピンへの援助の在り方を再考するよう促し、①政府を通すと、諸外国の善意の人々の援助が貧しい人々のもとに実際には届いていないケースが多いことを知ってほしい。日本人は自分たちの税金が海外でどのように使われているかもっと関心を持つべきだ②現地の人々が何をしてもらいたいのかよく考えることが大切だ。具体的には、現地の人々の自活を促すための援助をこころがけることだ、と述べた。

そして、「戦争は貧しさをもたらし、貧しさは戦争をもたらす」「農民に受け入れられる土地改革を行うべきであり、そうしなければ、餓えが戦いをもたらす」と話しを結んだ。

質疑では、「自分たちは、共産主義の理論によってではなく、キリストの福音の立場から貧しい人、抑圧されている人に関わっている」「社会の構造を変えるのはトップではなく、一般民衆の力であることを忘れてはならない」などと答えていた。

新共同訳聖書の事業報告と懇談

日本聖書協会主催の「聖書事業懇談会」が4月11日(火)福岡市舞鶴の九州キリスト教会館で開かれた。

九州では初めて開催されるもので共同訳聖書の出版に携わったキリスト教各派のエキュメニカルな集まりである。

カトリックからは平田三郎司教を始め7名が参加。

日本聖書協会総主事の佐藤邦宏牧師の説明で「新共同訳」の事業報告があった。

また、一冊の共同訳聖書が点字になると40冊になるが募金によって一冊の普通の聖書と同じ値段で読んでもらっていること、世界の聖書連盟から中国に聖書印刷機を贈る募金に参加したことなどの報告がなされた。

平田房刀氏が聖母像を寄贈

平成元年2月2日、精神薄弱更正施設（重度）北野学園入口に、ファチマの聖母像が建立された。

この御像は、北野学園初代事務長として8年間勤務した平田房刀氏の寄贈によるもの。氏の聖母像寄贈の意向には「学園が職員間の一致、職員と寮生との一致のもとに、平和であるように」との願いが込められている。

祝別は、今村教会の糸永武男師と大名町教会の森山信三師によって行われた。

学園にキリストの平和を祈る聖母マリア像

聖パウロ会の志願者となって

中一年　牧　友和

今思うと、私は何もわからず聖パウロ修道会に入会してきました。

普通、何もわからないというのはここでの生活のこと、この修道院の歴史的なことなどでしょうが、私は本当に右も左もわからなければ、今いるところもわからない、そんな感じで入会してきました。

だけど入会前に一つだけよく聞かされて、覚えてきたことは、聖パウロ修道会が広報によって福音を伝えること、修道司祭と修道者を育てるところだということです。

このことをしっかりわかっていれば、他のことがあまりよくわからなくても、行動することが出来ます。今の私がそうですから。

ところで、ここには私以外にも二人の志願者がいます。二人とも自分で考えて行動できる頼れる人です。

私たちは修道院での生活で知らないことがまだたくさんあります。たとえば三週間くらい前までは、時間を気にして落ち着けなくて、何かをするにも、一回一回時間表を見なければなりませんでした。しかし今はたとえば三時から五時までこれこれをしています、と答えられるくらいに時間にもなれました。

私たちは、修道院での生活を正しく、たくましく、よく考えながら生きて行きたいのです。司祭という道を目指して……。

大神学校に入学して思うこと

牧山　美好

サン・スルピス大神学校に入学して一カ月が過ぎた。

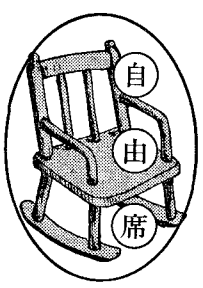
入学してきた時、ちらほら咲き始めていたつつじも満開を終えて、淡い緑色の新芽が勢いよい。

毎日があっという間に過ぎていってしまったように思えるが、自然は、確かな季節の移り変わりを告げているんだなと感じる。

朝目覚めると、まず天井を見上げる。柱から柱に張った洗濯干しの紐を見て、やっぱり大神学校にきているんだなと思うのだ。

毎日、初めて経験することばかりで、緊張の連続である。殊に、時間割を覚えるのは、ひと苦労だった。

大神学校は、自然がいっぱいだ。日増しに大きくなるびわの実。地面をおおっている芝生のカーペット。自然に対して、これ程親しみを抱いたのはおそらくはじめてのことだ。午前中は、鳥たちがやって来て枝から枝へと飛びまわる。じっと鳴き声に耳を傾けると、それがただ単なるさえずりではなく、会話を交わしているかのように聞こえてくるのが実に不思議だ。こんな恵まれた環境の中で生活できるのは、本当に幸せだなと思う。



これから、とてつもなくながい道のりが待っている。きっといろんな試練があるだろう。

しかし、自分は決して一人ぼっちじゃない。たくさんの方の祈りがある。それに、いつもキリストが共に歩んで下さる。勇気をもって、恐れをふき飛ばして歩みたい。

毎日少しでも新しい自分を発見することができたら……これを目標にして頑張っていきたいと思っている。

北九州シーグ召命の集い《感想文》

シスターと話ができてよかった

小六年　小田未樹子

私は、本当は修道院の中に行きたかった。だから教会の中で、といったときはいやだったけど、ぜんぜんいやなことなくて、ほとんどわったりしていた。

シスターといっぱいお話ができたから良かった。修道院に行っていたらきっときんちょうして、あんまり話せなかったと思う。

それにシスター達が明るくてシーグの会員がふえたみたいだった。

今度またシーグで何かある時は来てください。

（戸畑教会）

シスターのことがよく分かりました

中一年　小川　晶子

私は、今回初めて「女子パウロ会」のシスターと仲良くなりました。

そしてスライドを見たり、シスター方から話しを聞いたりして、シスターになるまでのすごく大変だったこと（BFと別れたり）やシスターになってからの仕事の内容なんかがとてもよくわかりました。

私は、シスターになろうと思ったことはあいにく一度もありませんが、今の将来への希望は、幼稚園の保母さんなのでそれに向けてがんばろうと思います。

シスターたちもお体に気を付けて元気にがんばってくださいね。（黒崎教会）

これまでの考えが少し変わりました

中一年　吉永美穂子

福岡から女子パウロ会のシスターやCYGのことをよく手伝ってくださるシスターたちがきました。

私は、シスターという人たちはとってもおとなしくて、あまり外で遊ばないと思っていました。でも、今日きてくださったシスターはとってもひょうきんで、ギターがうまくて、おしとやかそうでおてんばで、それでいて神様のことにねっしんだったので、これまでの考えと少しかわりました。

本当にありがとうございました。（門司教会）

福岡黙想の家
御受難修道会 宗像修道院（院長：畠　基幸）
感謝のうちにオープン
皆さまのご利用をお待ち申し上げます
〒811-41 宗像市大字名残字立山1056 ☎0940(32)3222
（JR赤間駅からバスで10分；若宮インターから10分）

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 096―352―3306
096―352―8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑(SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

福岡地区婦人会

移動信徒でネットワーク

老人ホーム奉仕も定着

鬼木久美会長

カトリック福岡司教区福岡地区婦人会第六回総会が4月21日司教館新館で開かれた。出席者98名、その中には佐賀教会からの3名や来日中の韓国ソウルの婦人信徒安さんと丁さんの参加もあり、婦人の輪がひとつ広がったという感じがした。

総会は例年通り、「福岡教区カトリック婦人会会員の祈り」で始まり、指導司祭の堤要吉師は「もうすぐ母の日がきます。母としての自覚を考え直し、見直してください。母の姿、それは聖母マリアによって私たちに示されていると思います。教区のためにがんばってください」と挨拶。続いて昭和63年度の活動報告、会計報告。さらに今年度の行事予定、予算などを審議。老人ホーム（聖母園、篠栗荘、富の里）奉仕が定着したこと。移動信徒、とくに母親などからの依頼による教区内外への連絡も少しずつではあるが動き出していることなどが報告された。また、各小教区婦人会の活動報告もあった。なお奉仕活動を援助するための賛助会員（資金協力）の要請もなされた。

午後は、昨年に続いて「家族のための教会法パート2」と題して山元真師（小倉教会）が講話。

山元師はカルメル会の奥村一郎師著「祈り」から、「沈黙」の必要性を説き、沈黙の祈りは竹の節のようなもの。竹は節があるから、まっすぐに伸びることができると語り、信者として、しっかりと立つためには、沈黙の祈りが大切であると強調した。また「法」が私たちの生活とどうつながるのか、どう受けとめるかなど、いくつかの例を挙げて説明があった。

ミサで終わり、「沈黙の祈り」を心に散会した。

二つの信徒養成の集い

宗像の新しい黙想の家で

4月23日落成したばかりの御受難会宗像黙想の家で4月28日より5月5日までの間、二つの信徒養成の集いが持たれた。

各々の召命を豊かに深め合うMEの集い

4月28日から30日まで、マリッジ・エンカウンター（ME）の集いが開かれた。沖縄、九州の各地から5名の司祭、4名のシスター、18名の夫婦と総勢25名が参加した。

「このMEウィークエンド（この集いの呼び名）は司祭、修道者、信徒夫婦がそれぞれに受けた召命をより良く生きるため、神さまから受けた恵みの種を立派に育てるための、良い畑づくりをする集まりです」と準備に来ていた夫婦は話していた。

「各々、召命の道は違いますが、支え合って分かち合う中で自分への召命をより豊かに味わうことができました」と語る参加者もいた。

また「今、司祭や信徒の生涯養成が叫ばれていますが、まさしく教会共同体のそれぞれの構成メンバーが一同に会し、共に分かち合えることは共同の生涯養成であると思います」と語る司祭もいた。

83歳のおばあちゃんクルシリヨで燃える

信徒使徒職練成会として知られる福岡教区クルシリヨ（指導司祭渡辺隆義師）が練成長の松尾光敏氏のもとに二十八回目の練成会を終えた。

今年も5月2日の夕方から5日までの3泊4日、福岡、北九州、佐賀の教会の信徒に大神学生を加えて18名の参加者がスタッフと一緒に使徒職について研修した。なかでも佐賀教会から参加した83歳の原崎アサさんは、皆の心配をよそにクルシリヨを無事終了盛んな拍手を浴びていた。

教会墓地の落成・祝別

新田原

念願であったカトリック新田原教会（主任平田正喜師・信徒数千八百名）の墓地が完成。4月9日、平田司教ほか近隣諸教会の司祭、来賓を迎えて落成式を行った。

墓地祝別ミサの説教の中で司教は「永遠の生命に希望をもって世を去られた兄弟、姉妹たちのひとときの憩いの場としての墓地の改修工事を、一致団結して成し遂げた意義は社会的にも大きい」と語った。

ミサ終了後、墓地落成式が行われ、挨拶の中で司教は、すばらしい霊園を造り上げた信徒たちにねぎらいと喜びの言葉を、そして工事担当業者に感謝の言葉を述べた。

平田正喜神父は「長い道程ではあったが信徒が一致団結して改修工事を完成させたことに厚くお礼申し上げたい」と語った。式後、教会グランドの祝賀会場で、墓地改修工事完成の喜びを共同体みなで分かちあった。

門司天使育児園

ブラスバンドで本館落成を祝う

北九州市門司区にある児童養護施設「天使育児園」（山川静香園長）で本館と児童集会場が完成し、4月5日、祝別落成式が行われた。

式典には、司式の平田司教や社会福祉関係者など多数が参列したが、同園の児童たちがブラスバンドの演奏で花を添えた。

天使育児園は、昭和二十一年に故ドルエ師によって始められ、同二十七年に天使の聖母修道会に引き継がれた。

さらに十年前からは、宮崎カリタス会が子供たちの養育にあたっているが「地域に根ざしながら、世界にはばたく子供たちを養成したい」と決意を新たにしていた。

一召命の種まき一

北九州シーグ

聖パウロ女子修道会のシスターと交流の集い

北九州のカトリック女子小中学生の集まりであるシーグ（CYG）の集いが、去る4月4日、黒崎教会で行われ、小中学生合わせて十九名が参加した。

今回は聖パウロ女子修道会のシスターたちが招待され、同会の「前進するパウロの娘」の16ミリ映画を上映して修道会を紹介した。

上映後は質問コーナーが設けられ、生活、仕事、祈りのことやシスターになった年齢、どうして日本にきたのか等の質問があった。

ユーモアと笑いのうちに時は過ぎ去り、聖堂で感謝の祈りを捧げて終了した。

水巻教会主任のベリオン師は、「今日、体験したこと感じたことを大切にし、家に帰ってからもう一度味わってみましょう」と子供たちに語りかけ、子供たちが書いた感想文（2面に一部掲載）をシスターたちにプレゼントした。

参加したシスターの一人は「明るく、屈託のない子供たちに出会い、心の中にさわやかな風が吹き抜けていきました」と語っていた。

こころが聞きたい シリーズ

日雇・野宿者のこと②

日雇い野宿労働者と関わって何か得るところがありましたか。

福音を生きる人々

十回にわたるパトロールに、福岡日雇労働組合のメンバーが博多からかけつけてくれました。同じ日雇い仲間の為、何も返すものがない野宿労働者の為に喜んでかけつけます。「貧しい人、体の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。その人たちはあなたにお返しが出来ないから」というイエズスの言葉を知っているかのように。

野宿労働者に対する彼らのやさしさがとても印象的です。眠っている人には枕もとに静かにオニギリ、卵などをソーッと置く。毛布一枚の人には、静かに毛布を上からかけてから去る。私たちは起こしていろいろ聞きだそうとしたり、自分たちが来ていることを伝えようとしたくなるのに。

メンバーの一人に聞くと、「野宿の労働者は朝四時頃から起きていわゆる〝たちんぼう〟（手配師や業者にその日一日雇ってもらうのを一定の場所で待っている）をし、近所の人たちの目につかないように朝早く立ち去るそうです。

福日労の中には大学を中退してこの日雇いの人たちのためにと自ら選んで参加している若者もいるそうです。自分の将来をかけ、この貧しく、虐げられた人たちと共に歩む。「自分のいっさいの持ちものを捨て切る者でなければ誰も私の弟子となることはできない」というイエズスの言葉を聞いたかのように。

これらの多くの人々と共に歩む中で、〝エンマウスの弟子たち〟のように神が目を開かせてくださること、「貧しい人に福音が告げ知らされる」のを確信して、これからも仲間と共に歩み続けていこうと思っています。

回答者　守谷栄二（北九州カトリック正義と平和協議会）

気をつけて！

山元神父のワンポイント教会法

信教の自由は人間の基本的人権のひとつです。

私たちは信仰を他者に強制しようとは思っていませんが、気をつけてください！知らないうちに強制していることがあります。

「なんぴとも、他者の良心に反して、カトリック信仰を強制することは許されない。」（第七四八条第二項）

信者が未洗者と結婚するときに特に気をつけてください。信者の側の親が相手方に対して知らず知らずの中に、信仰を強制することがありえます。

「うちの娘を嫁にやるにあたっては、おたくもキリスト教を勉強して洗礼を受けてもらわねばこまる」といった声が、時々聞こえてきます。気持ちはわかりますが強制をしてはいけません。それはそれで外見上はうまくいくように見える場合もありますが、そのようにして洗礼を受けた人は、後でよくみると、やはり信仰というものがよくわからないで洗礼を受けているようです。

失礼な言い方かも知れませんが、このように相手方に洗礼を求める親や当人にかぎって、しっかりと信仰を把えていないようです。

洗礼さえ受けていれば、あとはどうにかなるという信仰（？）を持っておられるみたいです。

たしかに結婚を機会に洗礼を受けて、すばらしい信仰生活をされている夫婦もいますが、どちらかといえば、そちらの方がめずらしいと思います。

相手方に同じ信仰を持ち、洗礼を受けることを望むなら、まず自分の信仰をみがき、しっかりした信仰生活をすることによって、相手方に信仰のすばらしさを見ていただく必要があると思います。

結婚の前に相手方に洗礼を受けさせた、というのはほたして福音宣教でしょうか。その前に自分がすることがあります。

（小倉教会）

BOOK 読みま専科

☆いつもなにか花が咲いていた

戸田　健夫著

新生児のときにかかった重い黄疸が原因で、重度身体障害者となった著者の半生記である。生きる意義を求めて苦悩し、ついにキリストに出会うまでの歩みが、両親の愛、学校生活、ボランティアの人びととのかかわりをまじえながら、つづられている。

いばらの道を行きながら、でも著者はその道の上に、いつもなにか花を見つけている。

女子パウロ会　五二〇円（パウロ文庫）

☆パウロと親鸞

佐古　純一郎著

『パウロと親鸞』を書いた佐古氏は、現在の自分の気持を正直に書いたものだと言っている。

パウロと親鸞、このキリスト教と仏教の二代偉人は、その信仰の軌跡、信仰の内容において驚くほど似ている。本書は、酒脱な語り口とユーモアあふれる口調で、この二人を対比させ、豊かに生きることとは何かを分かりやすく説いている。

また著者は「比較思想という態度で、パウロと親鸞から学びたい」との願いもこめている。

朝文社　一、三〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092—761—8800
代表取締役マルガリタマリア吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092—711—0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 石 石 他 / 理 影 の / 大 御 そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

六月の行事

※ゴチックは司教日程

2日　福岡地区婦人会黙想会
3日　**久留米聖マリア短大講演　午後1時**
4日　**美野島教会堅信式**
6日　**司祭評議会　午前10時30分**
11日　**修道女養成委員会**
カテドラル・センター
カナの会主催「出会いの集い」午前9時30分
移動青年の集い（司教館5F）午後1時30分
12～17日　**定例司教会議（長崎）**
13日　福岡地区司祭の集まり　午前10時
18日　**久留米教会堅信式**
教区信徒協（佐賀）　午後1時30分
ムジゲの会
25日　**平田司教司祭叙階金祝**
カテドラル・センター
カトリック教師の集い
29日　**平田司教霊名の祝日**
7月2日　**戸畑教会堅信式**

カトリック教師の集い

カトリック信者の小中高校の先生方お集まり下さい。
六月二十五日（日）午後二時三〇分　福岡司教館5階F
詳細は集会の場で
福岡教区学校教育担当
草野純英神父（泰星高校）

『福音を生きる……学びと分かち合い』

休講のお知らせ

毎月第四日曜日の午後二時から四時半までカテドラル・センターで行われています福音宣教の勉強会は、講師のイエール神父様のご都合により6・7・8月は休ませていただきます。
9月から再開の予定です。
（福岡地区信徒協・福音宣教推進部会）

聖パウロ会 子供練成会

日時　7月22日（土）～24日（月）
対象　小学3～6年生の男子（中学生、小学低学年生の兄弟同伴も可）
場所　福岡聖パウロ修道院
参加費　無料（交通費のみ自己負担）
持参品　ロザリオ、洗面用具、着替え、保険証の写し
問合せ先　福岡市中央区小笹4の11の11　聖パウロ修道院　☎092-531-0924

カナの会主催 第8回 出会いの集い

結婚を希望している男女の集いとして知られる「出会いの会」も8回目を迎えることになりました。
毎回レクレーションや歓談をとおして素晴らしい出会いが実現しています。
お友達をお誘いのうえ、お気軽に参加してみませんか。
日時　6月11日（日）午前9時30分から午後3時まで
場所　司教館（本館1階）
福岡市中央区浄水通39　☎092-522-5139
会費　千円（昼食代を含む）
連絡先　村山多摩子（高宮教会）　☎092-541-4602

フィリピン体験学習 参加者募集

今の日本人が忘れてしまった大切なものをフィリピンの人々が届けてくれます。
第3回フィリピンワークショップに参加してみませんか
期日　7月23日から8月6日までの二週間
参加資格　特になし
定員　10名
内容　ホームステイ
小旅行
現地の人々との交流会
費用　交通費・滞在費込みで約15万円
問合せ先
「滞日アジア女性の問題を考える会」
熊本市上通町3の34
手取カトリック教会内
☎096-352-3030

侍者の子供達の典礼研修の集い

侍者（ミサ答え）をしている子供たちと一緒にごミサの意味を考え、どうしたらうまくいくのか練習もします。

参加者募集

'89オブレート会 サマーキャンプ

—おいでよ、ぼくらのうちへ—

期間　8月4日（金）午後3時集合～
8月7日（月）午後2時半解散
場所　中島町カトリック教会（高知市）
対象・参加費
中学生・高校生・大学生　6千円
社会人　7千円
締め切り　7月10日
申し込み、問い合わせ先
〒468 名古屋市天白区局内私書箱40号
オブレート会修学院　召命係
☎(052)805-3918

米かげ

美しい貧しさ

徳山　登

ある日、秀吉は利久が茶花として、ひる顔をみごとに栽培していることを聞き知り、利久にそれを見たいと所望してきました。そして秀吉は利久を訪ねます。ところが、どうでしょう。庭のひる顔はすっかり取り払われ、一輪もその姿はありません。秀吉は又も利久に侮辱されたと思い激怒しました。先に利久は娘を望まれ、きっぱり断ったのでした。

「どうぞ、お心をお静めください」と、利久は自分の茶室に秀吉を案内しました。そこには一輪のひる顔が、ひそやかに生けられていました。それは友人秀吉にひる顔の美しさを充分、堪能していただくための利久の深い心遣いだったのです。

利久の美の探究は氾濫する豊かさの中ではなく、貧しさの中に追求されたのではないでしょうか。庭いっぱいに咲き誇るひる顔の中では見出し得ない茶室の一輪のひる顔の存在感！

このエピソードを知ったとき、私は日本の美の伝統の中に、すでに昔から清貧の精神が育っていたことを実感しました。そして、実に貧しさと美しさは深く結びついたものだと悟りました。

と言っても清貧と貧困は、はっきり区別されるべきものです。清貧は美しいのですが、貧困は悪です。主イエスは、貧しい生活を生きながら、貧困に陥ったことはありません。かえって、大工として働き、五千人の人々のためにパンを増やし、貧困を防ごうとなさいました。

清貧の美しさは、何ものにも執着しない自由で、透明な心、そこに愛する力、神の愛が住まわれるのです。

新聞に「冷血ドライバー」という記事を読みました。

≪二月三日、小雪の舞う小倉南区のある県道で、血だるまになった怪我人が助けを求めた。しかし、通りすがりの車は、止まろうともしない。一台…二台……二〇分ものア人を思い起こし、感動しました。

それにしても、二〇分もの間、車の波の中に放置されるとは！ほんとに皆が「冷血ドライバー」なのでしょうか。「忙しい、会社に遅れ、成績にひびく、他の人が何とかやるだろう」というような口実で通り過ぎたのでしょう。要するに、怪我人に手を貸す心の自由、ゆとりがなかったのでしょう。

自分の名誉、自分の立場にとらわれ、美しい貧しさを表わすことができなかったのでしょう。

ところで相変らず、第三世界の貧困は深まっていきます。〝貧しい人は幸い〟というキリストのことばを、教会学校の子供が次のように聞きます。「貧しい人は神さまから、特別に助けられるからです。」また「お金持は自分のお金が盗まれることを心配して、安心して眠れない。だから貧しい方がいい」。真実は単純な子供の口から出るものです。キリストさまも、力なく経験もない子供をさして「子供のようにならなければ天の国に入れない」とおっしゃっています。

この言葉を通しても清貧が何であるかを悟らせられました。

自分に能力があるから、財産があるから、時間があるから隣人の貧困に手を差し延べるのではなく、自分を顧みず、貧しい自分の中に働かれる神をあてにして、貧困に立ち向かう貧しさ。この貧しい心をこそ、キリストさまは自分の器として、望んでいらっしゃいます。

福音的清貧が広がると、貧困は尻尾を巻いて退散するに違いありません。

（パリ・ミッション会司祭　八王寺教会）

のときのことのは

森山　敬三

一隅を照す、此れ則ち国宝なり。
最澄

『山家学生式』に所収。若いころ、京都に遊び、沢山の国宝を見て最後に比叡山に登ったとき、根本中堂の横の石碑にこの言葉が刻まれていたのを読み、ハッと虚をつかれた。国宝は仏像にあるのではなく、自分にこそ、それが求められているものであることを識った。彼が二十歳のときに書いたといわれる『願文』のなかには、自分のことを愚が中の極愚、狂が中の極狂、塵禿の有情（塵芥のような生きもの）底下（最低）の最澄と記している。現存する空海あての手紙二十四通のうち、十一通は、空海が唐から持ち帰った経論文書などを借覧したいという要請の手紙である。彼は空海より七歳年長であったが、自分の名の上に小弟子とか下弟子とか記して謙遜し、真剣に真言密教を研究しようとした。鎌倉仏教の開祖、法然、親鸞、日蓮、道元などは、みな比叡山を出発点としている。

六月命日の司祭

＊ルッチ・ミケレ師（ミラノ外国宣教会）一九八七年六月一一日元鹿島教会主任
＊ドミニコ深堀仙右衛門司教　一九八五年六月二一日第三代福岡教区長
＊平田好師一九三八年六月二一日元門司港教会主任

アジア太平洋博覧会（よかトピア）で バチカン美術館展

6月3日～7月16日

よかトピアの総合テーマ館で、6月3日から7月16日まで、「バチカン美術館特別展」が催される。
今回は、バチカン美術館所蔵で古代ギリシャから、ルネッサンス、バロックにいたるまでの絵画、彫刻、工芸など62点が展示される。
入場料
大人　五〇〇円
高校生　三〇〇円
中小学　二〇〇円

編集室から

▽教区「家庭の日」にあたって、すばらしい作文、絵画、書道、写真などが寄せられています。教区報ですこしずつ紹介していきたいと考えています。ご期待ください。
▽平田司教様の司祭叙階金祝のミサは、今月25日（日）午後1時からカテドラル・センターで行われます。
ある方が「最近は、お祝いというとすぐお金の話ばかりで、〝霊的花束〟などははやらないのですかね」と嘆いておられましたが、大いに同感してしまいました。（W）

渡辺神父の聖書講座

6月7日（水）開講

聖パウロの生涯と思いを学ぶ

司教館新館3F広報室で
毎週水曜午前10時～11時
問合わせ　渡辺神父まで
☎522-2725または522-5139

手伝いの小神学生と生活しながらレクレーションも楽しみます。

日時　7月26日～28日（二泊三日）
対象　小中高生の侍者
会費　一、五〇〇円
場所　福岡小神学校
問合せ・申込み先
松井忠之神父（福岡小神学校）
☎092-531-6821

中央出版　福岡支部
■キリスト教関係、書籍、家庭の友
■典礼聖具
■ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17—10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092—552—8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—24
TEL　093—771—3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2—0646
行橋市駅前5秒店　☎2—2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641—4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641—7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922—5637

未来へ——安心を創る
FUJKI **藤木工務店**
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092—521—0568

カトリック
福岡教区報

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

区日教の
福岡庭
家

『家庭』のあり方を模索
催しの継続求める声多数

福岡教区「家庭の日」は、五月二十一日、各小教区からの代表2名ずつと7家族などおよそ二百名が参加して、カテドラル・センターを会場に開催された。

3家族の体験発表は参加者の心を打ち、その後の分科会でも活発な分かち合いが行われた。一方、全小教区でも家庭の日の共通の典礼祈願文が捧げられるなど、教区あげての一日となった。また、作文、絵画、書道の入賞者の表彰式も行われた。

体験発表では、『信仰と家庭』のテーマで「洗礼を受ける前は、夫婦の亀裂の中で、酒におぼれていた」という夫の告白。妻は「日曜日くらいみんなをゆっくり休ませてあげたいという心もある」と信仰と生活の間の葛藤を語り、高校生になる娘さんは、「この発表のために家族がまともに宗教のことを話し合えたことが嬉しかった」と語っていた。

『生命と性』のテーマを担当した夫婦は、「結婚セミナーの手伝いをとおして、胎内から出発する生命の体験をした」「夫婦の対話は生命を大切にするための前提条件である」と語った。さらに関わっている「『命の電話』の相談で一番多いのは、生命と性の問題であり、多くの青少年がこの問題で悩んでいる」と報告。性教育は福音宣教の場になりうると話した。

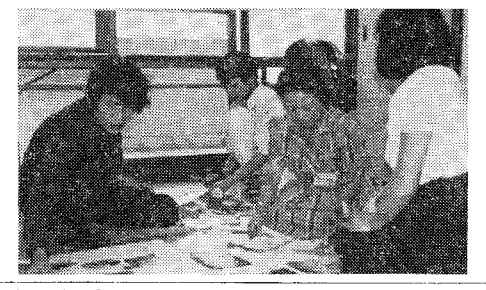
『家族の対話』では、障害児を抱えてしまった夫婦が、直面した心の動揺、それを乗り越えて行く過程をたんたんと述べ、「障害をもった子供とともに生きることが自分たちの福音宣教である」と自分に言い聞かせるように語っていたのが印象的であった。

分科会で本音の分かち合い

体験発表ののちそれぞれの会場に分かれて分科会がもたれたが、『生命と性』の会場では、「性の問題を司祭だけに任せてはいけない。信徒は自分の体験の中から、互いに助け合うことができる」「自分の子供がセックス雑誌を隠し持っていたがどう対処したらいいのか」など具体的な問題が出されていた。

また『対話』の会場では「対話の入口としての会話が失われている」といった指摘や家族の信仰養成とは、「信仰の知識の交換だけでなく、心の交換が大切では」との発言もあった。

S・ライル神父（実行委員長）**の話**　アンケート調査や当日のご協力を感謝します。これからも続けて欲しいという参加者の要望がたくさんありますので、今回のことをどう活かしていくか、教区の皆さまと一緒に考えていきたいと思います。



金祝
ペトロ平田三郎司教
司祭叙階50周年を感謝

子どもたちの質問にやさしく答える平田司教

今月のみことば
主に感謝せよ
主のあわれみは永遠
（詩篇136）
聖スルピス大神学院
J・ツルデル神父

祭司評議会
養成講座終了者に資格
特別聖体奉仕者
教区指針作成小委員会設置

司祭評議会は、6月6日、教区の優先課題「幼少年の信仰教育」他について話し合った。

信仰教育委員会活動予定を示す

委員長の山元真師は、今後の活動予定について、「アンケートの実施や家庭、典礼、青少年、学校教育などの各種委員会との連携を深めること」「今秋にもカテキスタの養成のための研修会を考えている」と報告した。

これをもとに、評議員は、委員の早急な選出と養成のために、聖書、教理、典礼などの総合的カリキュラム作成の必要性、終了者に資格証書を授与することなど具体的提言を行った。

そのために、現在、毎週火曜日に行われている教区神学講座の企画を9月から信仰教育委員会の手に移すことを了承した。

また養成講座は、地域性を考え、各地区でも行うことが望ましいと提言した。

幼稚園の学法化で乾師の意見を聞く

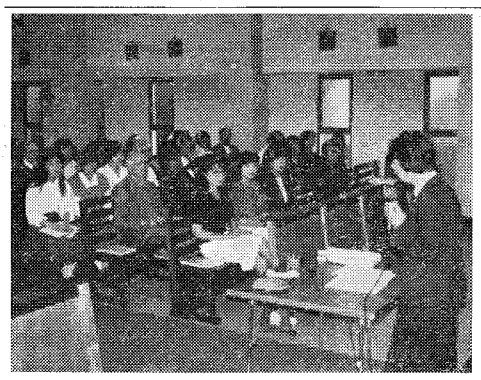
宗教法人となっている幼稚園を学校法人にした時の問題点を「あけの星幼稚園」園長の乾盛夫師に聞いた。

乾師は「現段階では、学法化されても、宗教教育を実践できること」、「土地は宗教法人と貸借関係を結べる」が、会計については「行政の厳しい監査のもとに置かれるので、適切な措置が必要である」と語った。

特別聖体奉仕者の指針づくりに着手

委員長の松井忠之師は、特別聖体奉仕者の教区指針づくりの中間報告を行った。同師は、今後、司祭、修道者、信徒からなる小委員会を設置し、9月の司祭評議会に試案提出の意向を示した。

また、現在、一部の小教区で主任司祭の指導のもとに行われている、修道者、信徒による病人への聖体、ミサ中の聖体配授にかぎり、指針が発行してのち、養成講座を受けるという条件のもとで認められるよう司教に答申した。



教会学校か部活か
カテキスタ研修会　北九州

「ボランティアカテキスタの心」をテーマに5月22日（月）午前10時より小倉教会（北九州市）で北九州カテキスタ研修会が開かれた。

講師にSr景山あき子（援助修道会）を迎え講演と分科会が行われ、北九州の各小教区及び福岡地区から約70名が参加、大半は母親のボランティアカテキスタであった。

Sr景山は教会学校教師用月刊誌「教えの手帖」に長年執筆しながら、東京の麹町教会で20数年カテキスタとして働いている。

この体験を通しての講演に日ごろ教会学校で子供の信仰教育に心を痛めている参加者は引き込まれるように聞き入っていた。

シスターの教えのテクニックにも増して「私は子供たちがどんな距離を、どんな乗り物で、どうやって教会学校に来ているのか知るために子供の家から自分で歩いてみました。そしたら、どうして遅刻するの、もっと早くこれないのなど言えなくなり『よく来たね、がんばってるね』と言ってあげられるようになりました」と言う話に参加者の間から感動の声があがった。講演後10名くらいの小グループに分かれて話し合いが行われた。

どのグループでも土曜学校か日曜学校かの問題、地域社会や部活優先といった声にどう応えるのか、子供の教育が先か、親が先かといった問題など活発に討議された。

この講演会を開催した小倉教会の山元師（信仰教育委員会委員長）は、「6月20日に北九州の各小教区から代表を招いてこれからの方針や連絡会について話し合うことにしています。他の地区でも連絡会を造り研修会などやりたいと思っています」と語った。

教区人事
☆中浜一男師が八代教会主任

福岡サン・スルピス大神学院で長年教会法、倫理神学など担当していた中浜一男師の小教区での活躍が期待されている。

☆黒川博師（八代主任）は病気療養のため引退

時の話題
生熊来吉

教会一致祈禱週間に私は日本キリスト教団の牧師さんと、カトリック、プロテスタント合同の祈禱会について話しあった。ミサの祈りのなかから適当な箇所を探しましょうという牧師さんの提案によって「交わりの儀」から平和のあいさつにいたるまでのあいさつをしてみた。

「主の祈り」はカトリック式でやりましょう、と、プロテスタント側からの大きな歩みよりも、牧師さんの提案である。

つづく祈りもとてもきれいである。「主の平和がいつも皆さんとともに」、「また司祭とともに」。――ちょっと待ってください。プロテスタントにはありませんからね。ここでこの祈りは省略されることになった。ここにいたって私は教会一致といっても道は遠いということを実感した。

「共同体」の教義

ここでカトリックとプロテスタントが「主の平和」と唱えながら兄弟として握手し、あいさつを交わす。これはまさにエキュメニカル運動の象徴的儀式である。

ところが次の箇所で完全につまずいてしまった。「今ここに一つとなる主イエズス・キリストのからだと血によって、わたしたちが永遠のいのちに導かれますように」。御聖体というのはプロテスタントにはありませんからね。そこでこの祈りは省略されることになった。ここにいたって私は教会一致といっても道は遠いということを実感した。

カトリックでいう「共同体」とは単なる人間の集合に与えられた名辞ではない。それは聖体の秘跡において、すべての信者がキリストに結ばれた実体としてのからだである。「聖体のパンを裂くとき、われわれは主のからだに実際に参与し、主との交わりとわれわれ相互の交わりにまで高められる」（教会憲章七）。

プロテスタンティズムには「個」について鋭く研ぎすまされた意識と豊かにされた教義がある。それはカトリシズムに接ぎ木されると豊かな実を結ぶであろう。しかし、そこには「共同体」の教義の欠如を感じる。

「土呂久・松尾鉱毒被害者と共に歩むカトリックの会」の全国的キャンペーンに、北は北海道から南は沖縄にいたる全国の個人と修道院が応じてくれた。そこに「愛の共同体」が息づいているのを感じる。

（カトリック社研委員・西新教会所属）

みちくさ

ある日の昼下がり、出かけたついでに、聖体訪問をするためある教会に立ち寄った。階段を上り、扉のノブに手をかけた。開かない。カギがかかっていたのである。たまたまカギがかけられていたのかもしれないが一瞬いいようのない淋しさをおぼえた。教会（聖堂）にカギをかけるという習慣はいつ、どのようにして生まれたのだろうか▼教会の備品やお金を盗まれた、聖ひつを壊されたという深刻なケースがあることも知っている。子供たちだけでなく大人たちも大声で談笑したり、ふざけ合ったりする。聖水を入れる容器が灰皿がわりに使われる。そんな嘆きの声に同情をおぼえながらも、それでは、いつも開けておくことができるためにはどうしたらいいのかなぜ知恵をしぼらないのだろうと不思議に思う▼教会という建造物（神の家）はそもそも何のためにあるのだろう。不敬とは何だろう。以前、フランスが大寒波に見舞われ、野宿者が避難する場所を探さなければならなくなった時、教区長の支援のもと、パリの聖堂には暖房が用意され野宿者が溢れた、という話を聞いた。ご聖体の前で安らう野宿者の姿は、ナザレのイエズスの寛大さを彷彿とさせる▼教会という建造物を旧約時代や中世のように最高の芸術で飾るのも一つのあり方かもしれない。しかしそれはよく注意しないと人間側の単なる自己満足に堕してしまう。新約の新しい神の家、キリストの望まれる教会の姿は別にあるような気がする▼福音書が教える真実のイエズス・キリストを示す建物を探している。維持費を十分に払えない人、病人、障害者、人目を避けて信仰を生きざるをえない人、汚れた衣服のままの人。こんな人々のことがついでにではなく、まず第一に考えられているそんな教会の建物でありたいものだ。複雑な思いを整理できないままその教会を辞した。

福岡教区『家庭の日』
入選作品発表

作文、書道、絵画の部
（お断り　掲載は一部だけです）

赤ちゃんがうまれた

小1　永江　なみ子
（二日市教会）

赤ちゃんがいてよかったな。男の子だけど、おんなの子のなきごえみたいだよ。

かわいいけどすこしせなかにうずまいてます。さとるはついこのまえ3月11日に生まれました。わたしだけぜんいんそろったよ。かわいいよ。

いっしょにおふろにはいったよ。あかちゃんはまっかだったよ。ちいさいよ、でもあかちゃんの中では大きいよ。だいたよ。できたてのほやほやだったよ。そしてね、おしっこもぴーってとんだよ。おねえちゃんのてにとんだよ。6人めだよ。なくと、はなの上にせんがよるよ。足より手のほうが、でっかいよ。あんまりばたばたしないよ。おかあさんのおっぱいのむときひっしになってのむよ。そしてひいひいいいながらのむよ。すいきっちゃうときもあるよ。あかちゃんのくせにかみのけがいっぱいあるよ。それでこゆいよ。おへそに、なんかおくすりつけてるよ。おとうさん男3にんになってよかったね。わたしのきょうだいはね、みほこねえちゃんゆみこねえちゃんあゆむにいちゃんわたし、みさこ、さいごがさとるくんだよ。みんな赤ちゃんにちゅうもくしてるよ。

くかぞく

小2　まつもと　ゆか
（健軍教会）

家族の幸せ

小4　井上　勝人
（福岡海星）

ぼくの家族は、お父さん、お母さんそしてぼくの三人家族です。

お父さんは、仕事でいそがしく東京、大阪など、あちこち飛びまわって、週のうち、ぼくといっしょにいられるのは、二～三日です。だから、お父さんは、出かける前には「勝人、お前は男だから、お父さんのかわりに、お母さんを守ってやれよ。たのむぞ。」と言って出かけます。すると、ぼくは、「うん、まかせとき。」と言いながらも、お父さんのいない日がさびしく感じる時があります。

そんな時、お母さんは、ぼくのために、一生けん命働いてくれているお父さんが、どんなにりっぱかを話してくれます。そして、お母さんは、一人でぼくの勉強の事から、家の事から、お父さんが安心して働けるようにがんばってくれています。なのに、ぼくは、わがままを言ったり、心配かけたりして、時々、お母さんを困らせたりします。そんな時、ぼくの心はこうかいでいっぱいです。

ぼくの友達の藤井君のお母さんは、心ぞうが悪くて、ずっと入院されていたそうです。そんな時、藤井君は、ずっとお父さんとお手伝いさんで、さびしい思いをしてくらしていたと思います。ぼくは、その事を思うと、親というものが、どんなに大切かという事を知りました。そしてぜいたくな事ばかり言っている時、お父さんが「勝人、お前は、お父さん、お母さんがいるだけでも幸せだよ。」と言っている意味がすごく分かってきました。

そして、お父さん、お母さんとぼくが健康で、仕事や勉強ができる事を感しゃし、思いやりや、やさしさを持っている、心豊かな人である事が何よりも幸せな家族であると、ぼくは思いました。

父母

小3　有木　天使
（戸畑教会）

最後まで病気と戦った父

中1　小堀田　久美
（大江教会）

まだ51歳の若さで父は昭和63年9月27日天国へ帰って行った。13歳の私はあの夜、3度目の電話ですぐ洋服に着がえ祖母と、兄、姉で3時間ぐらいかかる距離をいそいだ。

父は熊本の病院へ入院していたのです。教会からもらってきたマリア様の聖水をもっている兄が「祈りばせんかぁ。お父さん少しでも直らせたかけんね。」と真剣な表情をして言った。私は、お父さんは絶対によくなると信じて祈りました。病院が見えると何だか胸が高鳴ってきた。病室の中では父が意識不明の状態である。みんな涙を流してうつむいている。私は父のそばに行き「お父さん頑張って」と一言。父は自分なりに頑張ったのだろう。午前1時45分、一生の最後を閉じた。

今まで9人の子供を育てるのに、どんなに苦労したことだろう。いつも、豚のえさをやってつかれてかえってきていました。体もじょうぶでない父さんが、最後まで豚の心配をしていたのです。こんな重い病気の状態でよくがまんしたなぁと父に感心した。神様は、どうしてお父さんをむかえにきたのだろう！父の顔を見るとかわいそうで、くやしくて涙が出て来た。あんなに元気だったのに。私が休みの日、病院に行くと笑ってじょうだんを言ったり、色々と話をしてくれた。私が一番大好きだった父さんの顔が見れなくなるのです。みんなどんぞこにおちた表情で泣いていた。一番つらいのは母なのに私達をはげまそうと、「ほら泣かんと。みんなで頑張ろうね。」とはげましてくれた。

おそう式には大勢の人が来てくれた。父は幸福だった。

熊本にいた時、何回も神父様に来て祈りをしてもらったし、むかし大江におられたマクナリ神父様にもめぐりあわせのように会えたのだ。それに天草大江のハンター神父様も、お父さんの事を心配して祈りをしてくれていた。こんなにみんなから親しまれている父を尊敬の目で見直しました。父のお棺は、お墓に運ばれました。みんなかわいそうだと思ってまわりを囲み「お父さん」「お父さん」とさけんだ。みんなワンワン泣いた。でも、ここで負けたら母や祖母はどうなるのかと私は思い「お父さん頑張るね。」と心の中で言った。父は何の応答もせず静かにねむった。

父の顔は誰よりも一番すてきな死に顔だった。いつも放さずロザリオをもったまま笑っていた父を思い出すと元気になります。早いもので父が亡くなってもう半年になります。今では、兄も姉も母を助けて頑張っています。夕食後には毎晩家族そろってロザリオ一本唱えています。神様を信じなさいと言う、父の明るい表情を支えにして頑張っていこうと思います。

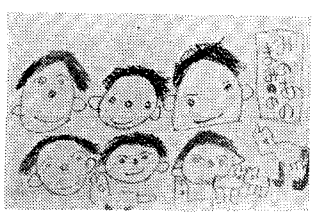
私にとっての家族

高2　野崎　ちず佳
（八代白百合）

家族に関することについて、自分の意見を文章にするのは初めてのような気がする。普通なら、自分の現在の家族について書くのであろうが、私はあえて違うことを書こうと思う。

私は、未来の家族について「……だったらいいな」というようなことを述べてみたいと思う。ただし、自分の配偶者の両親と同居するしないや子供は何人いるいないなどは別として考えていきたい。

第一に、自分の配偶者を中心とした家族にしたい。最近の家族関係は、親と子供が友達のように仲が良い。その仲が良いということは、すごくいいことだと思う。しかし、その反面、子供が親の指摘を素直に受入れず、口答えしたり、反発したりする場合が多い。親をなめてかかっている。親に対する子供の口のきき方が、あまりにもひどすぎると思う。このように感じているのは、私だけなのだろうか。また、最近の親は、子供を自由にさせすぎだと思う。自由にさせることが、すべて悪いわけではない。伸び伸びした子供に育つことの方が多いような気がする。私がそのように感じる根拠は、私の父が、近頃あまり見掛けない程古風な人で、このような父を中心とした家族に育ったことにある。以前は、こんな生活がイヤでたまらなかったのだが、最近になって、非常に自分にプラスになっていることが分かった。それにしても、私の父はまったく厳しい人である。



小5　山本　悠
（佐賀教会）

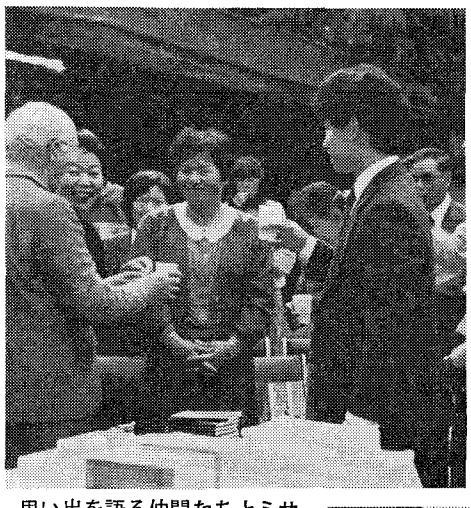
第二に、お互い助け合っていく家族でありたい。やはりこれは誰もが思っていることだと思う。みんなで助け合っていかないと共同生活はうまくいかないと思う。

こんなことを言うものの、まだ結婚できるかさえも分からない。あくまでもこれらの考えは、私の自分勝手な理想である。

とにかく私は、現在の自分の家族のような関係がベストだと思っている。親は子供にまず厳しく、そして第二にやさしくするべきだ。最近の子供は甘えている。大人になりきれないでいるのだ。そんな人間が増え続けているわけだが、将来がすごく不安である。私は、他人事のように言っているが、第一に自分自身が一番に甘えている。

人間にとって、自分の帰れる家があって、自分を温かく迎えてくれる家族がいることは、何よりも幸せなことであり、すばらしいことだと思う。

カトリック青年労働者連盟（JOC）
発祥の地で40周年式典
世代を超えて生きつづける精神



思い出を語る仲間たちとミサ

日本におけるJOC（カトリック青年労働者連盟）発祥の地である北九州市で去る4月9日、小倉教会を会場に、創立四十周年記念の集会が盛大に挙行された。

当日は、創立当時のメンバーから現在活躍中の若者まで一五〇名にのぼる参加者があった。また日本JOCの創立の立役者故ムルグ神父を追悼して、関わりのあった十名余りの司祭たちが共同ミサを捧げた。

このミサの中で、JOCのOB二名と現在のメンバー一名、それぞれ年代の違う三人が生活文の発表を行った。三名は、その時代状況、教会の矛盾の中で問題や困難にぶつかりながらも、JOCをとおして学んできた大切な生き方、価値観、希望や福音が世代を超えて、生きつづけていると証言した。

ミサ後の交流会では、長田孝行氏（福岡地連会長）が現状報告。「職場では合理化による人員削減が厳しくなっている」、「多くの青年たちがマスコミや消費主義におどらされ、どう生きるかより、楽しみだけに心を奪われ、現状から逃避する傾向にある」と語ったが、「先輩たちが築いてきた精神を受け継ぎ、今後も頑張っていきたい」と力強く宣言した。

その他、創立当時のムルグ神父と共に活躍した木村久治氏、福岡教区JOC担当であり福岡地連担当司祭でもあるマルセス・コース神父ら多数が四十年のJOCの歴史をかえりみる挨拶をした。

JOCで活躍中の戸畑教会の秦久美子さんは、「四十年という歴史の深さや重みを感じる幅広い方々の参加があり、感動と喜びのうちに集会を終えました」と話している。

自由席

出会いの中で

高橋　文子
（老司教会）

三年前から、教区の神学講座に参加させていただいています。勉強が終わると、聖心のウルスラ会（福岡市大橋）のワゴン車に途中まで便乗させていただくようになりましたが、緊張の神学講座終了後、実に楽しいひとときでした。若い姉妹方も多いので車中は笑いにつつまれた〝花園〟のようでした。

この講座期間中に私どもは一人、また一人と順を追って受洗のお恵に与りました。

そんなある日、聖心のウルスラ会の奉仕グループ〝セコ〟についてのお話があると聞き、一信徒としてこのようなことにかねてより多少関心を持っていましたので、修道院に足を運びました。

パオラ夫人の話から一つ一つ具体的に活動状況をくわしく摑むことは困難ではありましたが、考えさせられました。

飽食、物質的豊かさの中で、本当に援助を必要としている方々、心身の病気の人、餓えている人、人格を無視されて生活している人々にいかに無関心に過ごしてきたかということを感じたからでした。

〝セコ〟は、聖心のウルスラ会の宣教活動に、人、アイディア、手段及び祈りを持って協力し、分かち合うためのボランティア会です。それは、日々の糧や愛、及び福音のあらゆる貧しさのドラマに敏感になった男女の集まりなのです。

日本の福音宣教のため、私どもに最もふさわしい、よりよきものが、この地にも根づきますように祈ってやみません。

福岡黙想の家
御受難修道会 宗像修道院（院長：畠 基幸）
感謝のうちにオープン
皆さまのご利用をお待ち申し上げます
〒811-41 宗像市大字名残字立山1056 ☎0940(32)3222
（JR赤間駅からバスで10分；若宮インターから10分）

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 096—352—3306
096—352—8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

九州地区修道女研修会
『清貧』をテーマに意見交換
パネラーからは厳しい注文と激励も

福岡

分かち合いで修道会のカリスマを確認

6月11日（日）カテドラル・センターにおいて22の修道会から一六三名のシスターが参加し九州地区修道女研修会が開催された。

今回は「日本社会の中で福音の証となる。清貧の誓願は、どのような形か」をテーマに五人のパネラーの率直な発言を聞き小グループでの分かち合いが行われた。

パネラーは司祭二名、修道女一名、信徒一名、未信徒一名の計五名。パネラーの一人「水俣病センター相思社」のメンバーは「私たちのグループは、とても家族的で運営もスムーズだし水俣病の方たちのために良い活動ができていると思っていました。しかし、先日その方たちから『かえって話しにくかった。親しめなかった』と言われショックでした。また、グループの運営を守るあまり自己防衛が強くなったり弱い人々のためという甘えから不正が起こってしまった。本当に弱い人々のため支援している気持があったら自分たちの方に守るべきものなど何もないという事を知るべきだった」と反省を込めた発言があった。ミッションの高校教師をしているパネラーの信徒は「修道者は、家族を持つという不自由さを捨て、自分をかける自由さを選ばれたはずなのに会の方針や上司の命令などといったことが優先され、かえって不自由になっていないでしょうか。福音より会の方針が先行しているのじゃないでしょうか」というきびしい問い掛けがあった。

パネラーの発表に引き続き十五のグループに分かれて分散会が持たれた。各グループともきびしいパネラーの発言を真剣に受けとめ、白熱した意見交換が行われていた。

参加修道女の話　今まで、どうしても抽象的な話し合いになっていたが、今回、体験の話し合いができ実りも多くうれしかった。

どこの修道会も、どうすべきかを模索しながらも、見つけ出せないジレンマがあります。しかし今のままではいけないと皆感じているんです。

福岡地区婦人会黙想会
〝現代風婦人の信仰生活とは〟

「現代風婦人の信仰生活とは」と題した福岡地区婦人のための黙想会が、6月2日、黙想の家で行われた。

講話を担当した深堀敏司教（高松教区）は、イエズスと結びついた信仰に生きる人々の美しい生き方を実例によって示し、「一人ひとり、自分の生活そのものが信仰の表現である」と語った。

当日は、福岡地区の二十一の小教区と佐賀や門司の教会からも参加があり、総勢百三十九人という盛会さで、ミサのためには黙想の家の司祭たちとともに、古賀教会のハーン神父も駆け付け、参加者を力づけた。

宗像の美しい緑に囲まれた環境にある『黙想の家』は、4月23日に献堂式が行われたばかりであり、参加者は家事の忙しさの合間に憩いのひとときを持っていた。

シリーズ　ここが聞きたい
ボランティアのこと①
心させていただく

どのような動機でボランティア活動を始められたのですか。

私たちは、老人ホーム、病人訪問、障害者センターなどのお手伝いに行っています。

ボランティアに関心を持ち、実践するようになったいきさつは各々違いますが、各方面で活躍しておられるいろんな方々の働きに刺激されています。

例えば、ネパールで医療に従事していらっしゃった岩村昇牧師が診察された病人は重症で、病院での治療を要する患者でした。この病人を背負って病院まで運搬する役割を申し出た青年は襤褸（らんる）をまとった姿でしたので、先生は一瞬戸惑いましたが、青年の厚意を受けて共に山坂超えて半日がかりで病院にたどりつきました。「ご苦労様でした」とお礼を差し上げようとしたら、きっぱりと拒絶され、「神様からいただいた健康のお恵を病人に分かち与えたのだから、当然の事をしたまでです」と、別れを告げて去って行かれたということです。

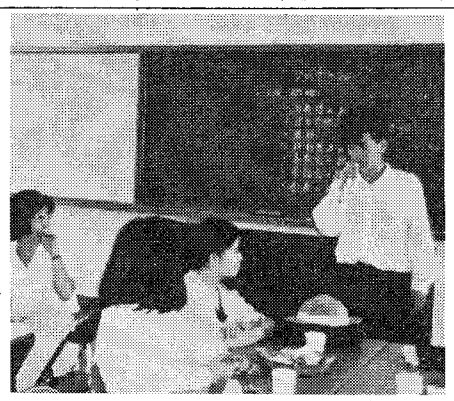
インドのマザーテレサの施設では、シスターの皆様が病人をあたたかく看護していらっしゃいます。物質的な医療に勝る心の看護が死を迎える病人にとってどんなに大きな慰めを与えることでしょう。

ボランティアの原点はここにあるのではないかと痛感させられました。小さき者にしたことは神様、イエズス様にしたことだという御言葉に従って、何かせずにいられない心境にさせていただきました。

親切とは、相手の喜ばれることをさせていただく事だと思っています。親切の押し売りにならないように自戒しています。

回答者　福岡マザーテレサ共労者会（文責　編集部）

福岡教区移動青年の集い
一人一人が、私の仲間



今春、福岡教区に転入してきた青年たちを励ます集いが、6月11日、司教館で行われた。主催は、福岡ブロックの青年たち（担当森山信三神父）で、熊本、長崎、広島からの学生や研修生など十名が参加。二十三名の青年会の仲間と一緒に交換のひとときを過ごした。

開会にあたって、森山師は、「転入の手続きを必ずしてほしい」と要望し、「仲間の青年たちとこれから一緒に頑張ってください」と励ました。

自己紹介では、「映画を撮ることが趣味」「この集いに参加したのはこれまでの自分の信仰を見直すきっかけにしたかったから」など若者らしい抱負や意見が聞かれた。

また、茶山、西新、光ケ丘、など各小教区での青年活動の紹介も行われ、飛び入りの北九州ブロック新田原教会の青年から、交流を深めようとの呼び掛けがなされた。

森山師の話　有意義な集まりでした。参加予定者で司教館の場所が分からないという人たちが何人かおり、今後の課題でしょう。移動青年の把握は十分でありません。青年たちの継続的ケアのために小教区の協力をお願いします。

福岡教区カナの会
幸せな出会いを求めて
八回目の『出会いの集い』開催

福岡教区カナの会（村山多摩子会長）主催の『出会いの集い』が6月11日、司教館で開催された。

第8回目にあたる今回は男女二十六名が参加。吉川信雄夫妻の軽妙な司会のもとに楽しいひと時を過ごした。

「なんとなく来てみた」「親が勝手に申し込んだ」などの声も一部あったが、終了したときは、「楽しかった」「来てよかった」という声にかわっていた。

カナの会は、結婚を希望している人たちが、小教区または、教区のカナの会世話人を通して登録し、結婚相手としてふさわしい人を探すもので全国的つながりをもった組織である。現在は、教区内の多くの小教区をネットし、会員は男性八十四名、女性百二十六名となっている。

代父母

洗礼のときに代父母についてよく質問される。

今回は代父母に代父母についての教会法の規定を見よう。

「洗礼を受ける者には、可能なかぎり代父母を置かなければならない。代父母は洗礼を受ける者が成人の場合キリスト教入信式に立ち会い、幼児の場合、両親とともに洗礼に伴い、かつ受洗者が洗礼にふさわしいキリスト教的生活を送り、それに付随する義務を忠実に果たすよう世話する責務を有する。」（教会法第872条）

ここには、代父母の役割が示されている。

次に、代父母の資格を見よう。

第874条に規定されている。

「1　洗礼を受ける者自身の両親、後見人、またはそれを欠く場合は、主任司祭または洗礼執行者によって指名され、かつ、この任務を果たす適性および意志を有すること。

2　満16歳に達していること。ただし、教区司教によって他の年令が定められた場合、又は正当な理由によって主任司祭もしくは洗礼執行者が例外を認める場合はこのかぎりでない。

3　堅信および至聖なる聖体の秘跡をすでに受けたカトリック信者にして、代父母の任務を受けるにふさわしい信仰生活を送る者であること。

4　適法な確定判決または宣言判決による教会法上の刑罰を科せられていないこと。

5　洗礼を受ける者の父または母でないこと。」

カトリック信者でない受洗者は代父母になることはできないが、カトリックの代父母と一緒に、洗礼の証人としては認められる。（第874条第2項）

以上の規定を守って、代父母を選び、その役割をよく理解してほしい。

幼児洗礼の是非が問われているが、両親と代父母の準備をよくしていただきたい。（小倉教会）

お世話をする役員は、各小教区から選出され、福岡地区では毎月定例会を持ち、他地区からの新規登録者の紹介、受付けなどの情報交換を行っている。

村山会長の話　今回は部屋が狭くて、レクレーションを通しての触れ合いを十分にすることができなかったのではと残念でしたが、これからも回数を重ねてもっと充実させていきたいと思います。参加された方の顔が輝いていたのがとても印象的でうれしゅうございました。

北九州地区司祭
回勅「真の開発とは」で一日勉強会開く

北九州地区司祭の司牧研修会は、5月15日、林尚志神父（下関労働センター、イエズス会員）を講師に回勅「真の開発とは」を学んだ。会場となった宗像の『黙想の家』では、十七名の司祭たちが講師の話に耳を傾けた。

林神父は回勅の内容を大要次のように紹介した。「開発進歩の問題は政治、経済の分野にとどまらず、倫理の問題でもある」。教会が関与するのはこの理由による。現代世界の様々な問題は「構造的な罪（悪）」としての複雑さを帯びており、それは人間の心の奥深くにひそむ欲望からきている。この根源的問題の解決の糸口は「所有することへの発想の転換」だと強調した。

また、今日の偶像崇拝として①金銭崇拝②イデオロギー崇拝③階級崇拝④技術崇拝などがあり、緊急に取り組むべきこととして、はるか彼方の社会との関係の回復、自然との関係の回復などが求められている、と述べた。

BOOK 読みは専科

☆時代が求めるキリスト者の生きかた
——霊性と正義——

ドナル・ドール著
社会司牧センター（イエズス会）山田経三監修

本書は社会経済的な困難や難しい神学用語も多少は使われているが、具体的な実例をあげながら解説されているので初心者にも理解されやすいと思われる。なぜ「社会の構造的な不正」が生み出されたのか、なぜ「貧しい人の選択」を優先するのか、この選択について「聖書は何を教えているのか」、そして、結局、「わたしたちはこれからどうすればよいのか」、本書はこれらの難問に適切な判断の基準を与えてくれる。（まえがき）より。

「社会と共に歩む開かれた教会」へ向かう日本の教会にとっても、現代のキリスト者の生き方を問いかけ、世界の平和、正義、愛を実現するために努力している人々にも豊かな示唆を与えてくれる。（女子パウロ会　二五〇〇円）

☆聖書年表・聖書地図

和田幹男著

聖書を一人でも多くの人が読み、メッセージを深く味わう助けとなるようこの聖書年表が作られた。おろそかにされがちな捕囚期以後と中間期もていねいに作られている。全ページカラー、イラスト入（女子パウロ会　二一〇〇円）

ジャパン建築株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092—761—8800
代表取締役マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092—711—0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石　石
理　影
大　御
素材　他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

七月の行事
※ゴチックは司教日程

2日　戸畑教会堅信式
8日　聖マリア学院特別講演会
9日　唐津教会堅信式
16日　大名町教会堅信式
17日　聖書委員会
司牧評常任委員会（司教館）午後二時
22～24日　聖パウロ会子供練成会（聖パウロ会小神学校）
26～28日　侍者の子供たちの典礼研修の集い（福岡小神学校）
29～30日　教区信徒協黙想会（指導　森一弘司教）

侍者の子供達の典礼研修の集い

侍者（ミサ答え）をしている子供たちと一緒にごミサの意味を考え、どうしたらうまくいくのか練習もします。手伝いの小神学生と生活しながらレクレーションも楽しみます。

日時　7月26日～28日（二泊三日）
対象　小中高生の侍者
会費　一、五〇〇円
場所　福岡小神学校
問合せ・申込み先　松井忠之神父（福岡小神学校）☎092-531-6821

聖パウロ会子供練成会

日時　7月22日（土）～24日（月）
対象　小学3年生～6年生の男子（中学生、小学生低学年の兄弟同伴も可能です）
場所　福岡聖パウロ修道院
参加費　無料（交通費のみ自己負担）
持参品　ロザリオ、洗面用具着替え、保険証の写し
問合せ先　福岡市中央区小笹4の11の11　聖パウロ修道院☎092-531-0924

日程変更

結婚準備セミナー

福岡会場
8月31日（木）
9月2日（土）
7日（木）
9月（土）
14日（木）
16日（土）
21日（木）

熊本会場
9月4日（月）
6日（水）
10日（日）
11日（月）
13日（水）
18日（月）
20日（水）

家族計画の世界的専門家
ビリングズ博士夫妻来日

特別講演会

『いのちと性の尊さを考える家族計画』

日時　9月26日　熊本会場
9月27日　福岡　〃
9月28日　鹿児島〃
9月29日　長崎　〃
9月30日　久留米〃

主催　明るい家庭を築く会
問合せ先　福岡市南区皿山4-14-27　ファミリーセンター　S・ライル神父　☎092-541-6207

アルフォンス・デーケン師
（上智大学文学部教授）

特別講演会

私たちは必ず老います、死を迎えます。
看る人も、看られる人も準備が必要です。

テーマ
「老いと死をみつめて」

日時：　9月30日（土）　午後1時30分
場所：　カテドラル・センター大名町教会
入場料：　500円
問い合わせ：各教会の信徒協役員
主催：　老いと死をみつめる会
＊宗教、年令を問わずユーモアにとんだお話が期待出来ます。

召命を育てる

親と子の黙想会

対象　小学3年から中学3年までの男女とその親（子供だけでも参加できます）
日時　8月5日午後4時集合　7日午前10時解散
場所　聖パウロ小神学校（福岡市中央区小笹）
持参物　5日のお弁当、米二合、タオルケット、ねまき、洗面具、おやつ一回分
定員　親子共で40名

ゼロのねうち

徳山　登

ある修道女の手紙の中に次の言葉が書いてありました。「私の修道生活は四十年にもなりました。今になって、やっと悟らせていただいたことがあります。それは罪は一つしかないということです。すなわち、愛さないことです。この発見のおかげで、私の心に喜びが深まりました。」と。

だれにも長所があれば短所もあります。それが人間なのです。しかし、人は長所を尊び、短所を気に病みます。ところが、欠点や不足、すなわち、短所にこそ深い意義があるのではないでしょうか。

長所だけを重んじるのは、現実的でなく、悪魔的な空想に過ぎません。その結果、だれをも必要とせず、恐ろしい孤独に閉じこもることになります。その反対に不足や欠点は、ひとりでは何もできないのだという現実をはっきり悟らせて、謙虚に人の助けを求めさせます。そのため、兄弟関係を深める交換や交流の貴重なチャンスに恵まれ、生活は豊かなものになります。

あなたは自分の弱さに直面し、自分の限度を体験したとき、又そのために失敗したとき喜んでいますか、それとも悲しんだり、落ちこんだりしますか。もし、自分の失敗や罪のために感謝したことがないならば、今、すぐ一刻も早く、考えや視点を転回させて、感謝しましょう。全てが神からのお恵みですから。私たちの人生の歩みは違った現実の調和的嚙み合わせによって進められます。それは人間としての現実と神の現実であります。聖カタリナの伝記にキリスト様のことばとして、次のことが記述されています。「あなたは無そのもので、私は全てを生かす命そのものである。」と。

「わかちあい」という言葉を、たびたび耳にするようになり、嬉しく思っています。しかし何を分かち合うかという点で一考を要します。自分の豊かさ、力、長所をでしょうか。その時、貧しい人々は困惑し、悲しくなることでしょう。いいえ、人と人との交わり、愛の分かち合いにおいては、弱さや、短所をこそ、分かち合うべきです。もし、自分の中に、割れ目、隙、傷、持病などの弱い面を持たなければ、だれも近づくことはできないでしょう。

素直に認めた自分の不足、弱さこそが呼びかけとなります。人を信頼する心が人に信頼されるもとになるのです。

生活の中で大きく深い恵みは、私たちの弱さに原因した失敗と罪であります。神は慈しみによって、私たちの失敗や罪を救いの材料として変容してくださるのです。救い主でいらっしゃるキリストはいつも弱い私たちのために働きたいのです。

こんなことの先生はいつも幼な子たちです。ひとりのおばあちゃんと散歩していた幼児が道のかたわらの地蔵仏を目ざとく見つけ、手を合わせて祈ります。「お地蔵さん、何も持ってこなくてごめんね」と。おばあちゃんはこの幼児の祈りに感動し、教えられました。「神に向かうとき、『ああしてください。こうしてください』と祈願の祈りにやかましい私。そんな私が『お地蔵さんに、いい子にしてくださいと祈りましょう』など言わなくてよかったです。」と話してくれたのです。

私たちの持っている長所のうち、ただでいただかなかったものはありません。この時代、この国、こんな状況の中で生きているという現実は自分の決定、自分の力で造り出したのではありません。結局、自分ひとりでは無力です。無です。ゼロなのです。小さいテレビーズも叫びます。「イエズスはナンバーワンです。ゼロである私はイエズスの前ではなくイエズスの後ろに身を置いて進みます。その時、10になります。こうしてゼロの値打ちがはっきり現われます。」。

このゼロの私たちに主は大いなる期待をかけておられます。

「私を信ずる者は私のしている業（わざ）を行うであろう。いや、それよりも大きな業を行うであろう」。（ヨハネ十四の十二）

（パリ・ミッション会司祭　八王寺教会）

在る者をさがしているの。『存在』を。

犬養道子

かのときのことのは

森山　敬三

『ある歴史の娘』に所収。有島暁子から突然訊ねられたとき、ふと出た言葉。これがきっかけになって、昭和十九年十二月八日に、受洗した。有島暁子は作家有島武郎の弟で画家だった有島生馬の娘。彼女は同年五月二十八日に受洗。犬養道子の祖父は五・一五事件で暗殺された犬養毅、父は作家で不本意ながら政治家になった犬養健。犬養道子の論文や随筆は二十冊以上にもなり、その多くは文庫になって広く読まれている。なかでも『旧約聖書物語』と『新約聖書物語』は物語だからと思って手にもとってみなかったが、あるときふと読みだして一驚した。現代のヨーロッパ一流の聖書学者たちに、じかについて学んだだけあって、安心して、しかも小説のような興味をもって読める。彼女は、わが国における最高のカトリック著作家の一人である。

七月命日の司祭

＊ウィリアム・シュルツ（スカボロ会）一九八七年七月二日元吉塚教会主任
＊ジョルジュ・ラグレブ師（パリ外国宣教会）一九八二年七月二五日元門司天使園
＊ヤコブ平田勇師一九八〇年七月二〇日元西新教会主任
＊ルネ・ルリエ師（パリ外国宣教会）一九七〇年七月二八日元聖小崎育児園園長
＊ジョセフ・ブルトン師（パリ外国宣教会）一九五七年七月二五日元呼子教会主任

問合せ・申込み先
福岡小神学校（松井神父）☎092-531-6821
福岡黙想の家（Br. 梅田）☎0940-32-3222
主催　召命をともに祈る会　代表　松井忠之神父（福岡小神学校）

参加者募集

マリッジ・エンカウンターの集いを催します。これまでの事、これからの事をゆっくり分かち合う一時にどうぞ。

日時　9月22日午後8時～24日午後6時まで
場所　玉名教会黙想の家
参加資格　信徒夫婦、修道者司祭
問い合わせ・申し込みは　深堀純・邦枝092-801-5351　鈴木忠一神父0940-32-3222

編集室から

▽これから司教館新館3階事務室の隣の部屋を「広報室」として使用することになりました。

『教区報』を引き受けて以来、編集会議から実務まで応接室を使わせてもらい、不便をかこっていたので、素直に喜んでいます。

もちろん、この部屋は『教区報』の専用室ではありません。情報室としての機能を持つ「広報室」として、各方面からの情報、資料を集めています。ご協力を宜しくお願いします。

▽この「広報室」を全国紙である『カトリック新聞』営業部長の久保清一郎氏が訪問。

翌6月13日には、福岡地区司祭の集まりで「カトリック新聞の現状」について話されましたが、参加した司祭たちは一様に、自分の教会の購読部数の少なさに驚き、責任を感じた様子でした。新聞の内容を豊かにするためにも経済的裏付けが必要だと思うのですが、いかがでしょう。

▽平田司教様の司祭叙階金祝は6月25日、盛大に行われました。とりあえず当日の写真だけ掲載いたしました。詳細は次号でご報告の予定です。

なお、来年は伊東誠二神父様（馬渡島）、糸永一神父様（今村教会）が司祭叙階金祝を迎えられます。（W）

中央出版　福岡支部
▩キリスト教関係、書籍、家庭の友
▩典礼聖具
▩ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11　聖パウロ修道会内　TEL 092-531-0899

任意保険に加入してから車の運転を致しましょう。
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL 093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店 ☎2―0646
行橋市駅前5秒店 ☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店 ☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店 ☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階 ☎922―5637

未来へ――安心を創る
FUJKI 藤木工務店
福岡支店 〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092―521―0568

カトリック福岡教区報

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

ペトロ平田三郎司教
司祭叙階金祝

福祉施設から80名招待

子供代表が直撃質問

会場は和やかな雰囲気に包まれる

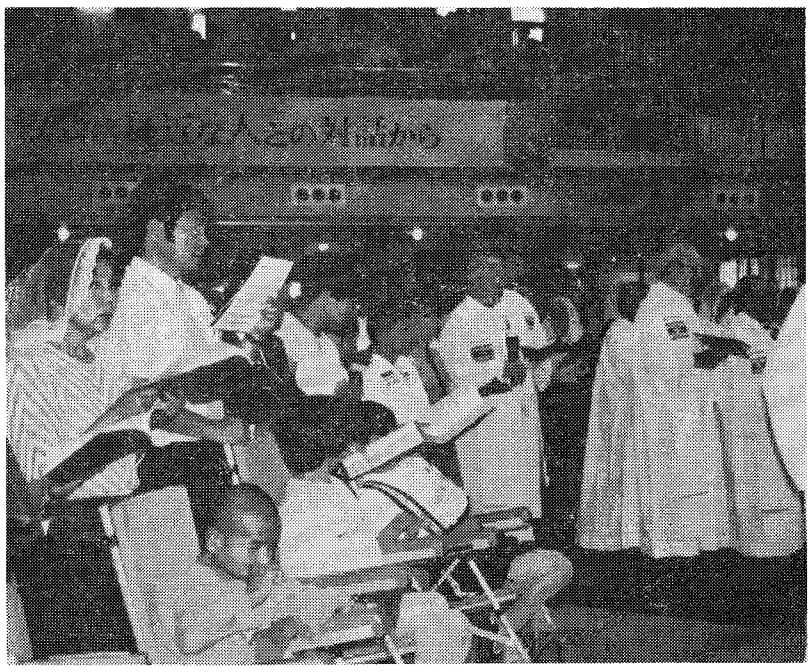
6月25日

司祭叙階五十周年を迎えた福岡教区長平田三郎司教の感謝ミサ・記念式典が、六月二十五日、福岡カテドラル・センターで行われた。

前日までの雨もあがり、教区内外から約千名にのぼる信徒が参列し、五十五名の共同司式の司祭たちと共に、慶事を祝った。

また式典には、教区行事としては初めてカトリック社会福祉施設の障害者、お年寄りや子供たちなど八十名も招待され、ステンドグラスやパイプオルガンと共に初めてみる教会の式典の荘厳さに目を見張っていた。

聖歌「マラナタ」の大合唱で始まった感謝ミサでは、高木善行師（サン・スルピス大神学院院長）が説教を担当。「神が教区のために与えた司教」であることを思い起こさせたあと、「司祭の召命のため、家庭は真剣に考えるときにきている」「召命促進のためには家庭に信仰の雰囲気が必要である」と力説した。



聖ヨゼフ園（大刀洗町）の子供たち（最前列）も司祭団の入堂を見守る

子供代表の質問に司教もおもわず…

記念式典は山田成章師、シスター佐藤、松尾光敏氏が代表で祝辞を述べたあと、教皇ヨハネ・パウロ二世の祝電などが披露され、小教区で用意した霊的花束が贈呈された。

式典のハイライトは『司教さまと子供たち』の時間。大名町教会の子供たち十名が教区の子供を代表して司教の前で、それぞれが用意した質問を読み上げた。「パパさまになりたいですか」「今、一番好きな教会はどこですか」などのきわどい質問とともに、「司教様にはどうしたらなれるのですか」といったほほえましいものもあった。

これに対して司教は、子供たちの頭を一人ひとりなでながら、「パパさまになりたいとか、そんな大それた考えはもっていません」と答えるなど会場は子供たちの率直な質問に終始なごやかな雰囲気に包まれていた。

子供の質問に司教もにっこり

平田司教が教区民に感謝とお礼のことば

司教は、「神の助けと多くの方々の温かいご協力によって五十年間司祭職をつとめることができました」と述べ、「このように盛大にお祝いをしていただき、ありがたく思います」と感謝の意をあらわした。また「残された日々を、司教・司祭として立派にまっとうすることができるように皆さまのお祈りをお願いします」と語った。

平田司教略歴

一九一三年八月十八日
三井郡北野町生まれ
一九三九年六月二十九日
パリ・サンスルピス大神学院を卒業し、司祭に叙階
一九四一年五月
一九七〇年一月二十三日
福岡教区長として着座。
一九六二年三月二十一日
大分教区の初代司教に叙階される。
一九六二年三月二十一日
帰国。以来二十年間福岡サン・スルピス大神学院教授として神学生の養成にあたる。

今月のみことば

沖に乗り出して漁れ
（ルカ5・4）
美野島教会　畠山七郎神父

時の話題

生熊来吉

長いローソクを持った人たちのあとについて、はじめてルルドの聖域に入った私は思わず声をあげた。中央の広場と、大聖堂の屋上から両側に降りて行く回廊の坂道は何千何万とも知れない信者とローソクの光の海であった。聖母マリアを讃える大合唱はピレネーの峰々にも届かんばかりであった。

翌日は月曜日だというのに、聖マリア大聖堂はいっぱいになった。信者席に向かって聖歌を指揮する司祭の大きなジェスチュアにつられて、アレルヤがフォルティッシモに達したときに、私のまえの婦人がボーンと跳びあがった。

このような興奮はキリスト教団の大群集の熱気と、ヨーロッパ人特有の率直で豊かな感情表現から湧きあがって来るのであろう。信徒数が少なく、表情の乏しい日本人の教会に、このような感情の高まりは期待できないものだろうか。せめて「主の平和」を厳粛な儀式ではなく、頬笑みと握手とはっきりした言葉で交わしても、日本人の流儀になじまないということはないであろう。

信仰の喜びは典礼儀式のなかだけではない。苦しみと愛の実践のなかでも得られる。マッサビエルの洞窟のなかで二人の男の姿が私の心に灼きついた。一人は洞窟の壁にもたれ、腕に顔を埋めていた。もう一人は祭壇の床石にぺたりとすわり、うつむいたまま何時までも動かなかった。それは母に苦しみを訴える子供のようであった。その苦しみの奥底に甘味な喜びがあったにちがいない。

遠い国から集まって来たおびただしい車椅子。酸素を鼻に送っている重症患者。その中の何人に奇跡がおこるのだろう。けれども、体は癒されなくてもみな心を癒されて帰路につくだろう。

病人の近親者、友達、修道女、ボランティアが、患者と心を一つにして、車を牽く姿は感動的である。彼らの心にもマリアさまから喜びが贈られるだろう。

生涯に一度でも、聖地巡礼のできる信者はごく限られているだろう。聖地に行けなくても、日常のミサと生活と、祈りと実践、苦しみと犠牲のなかに、信仰の喜びを持ちたいものだ。それは人間の生命と存在をうちがわから突き動かすものであろう。

（カトリック社研委員
西新教会所属）

みちくさ

記念行事などの祝い事では、誰を招待するかでいつも頭を悩ます。平田司教様の司祭叙階金祝の式典をカテドラルにおいてどう実施するか話し合われた時、幾人かの司教様方を招待することですんなり意見がまとまった。さっそく招待状を出し返事を待つことになった▼だが期待に反して、返ってくるのは欠席の通知ばかり。次第に落ち込んでいった。もっと早い時期に案内を出すべきではなかったか、電話ででもお願いすべきだったのでは、と後悔していた。そんなとき、ふと、まず第一に心にかけるべき人を間違っていたのではないか、と思った。そして聖書の一節が思い浮かんだ▼「昼食や夕食の会を催すときには、友人も、兄弟も、親類も、近所の金持ちも呼んではならない。その人たちも、あなたを招いてお返しをするかもしれないからである。宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。そうすれば、その人たちはお返しができないから、あなたは幸いだ」（ルカ14の12～14）▼このみ言葉への小さな応答として、さっそく、身体障害者、精薄者、児童養護、老人、療養などいくつかのカトリック社会福祉施設に電話を入れた。「ご招待といっても特別なことは何もしてあげられませんが、ご出席いただけますでしょうか」。福音の教えに反して、世の常識的考えにとらわれていた自分を少々悔いながら▼当日、出席くださった方々は八十名にのぼった。二時間に及ぶミサ・記念式典に耐えられるのか、それより、神様が一番招待したかったのは皆さんであったことをどれだけ理解していただけるか心配であった。しかし、聖堂から出てくる一人ひとりの顔を見て、深い安堵と喜びを覚えた。これらの人々の参加を一番喜んだのは、司教様ご自身であったにちがいない。

〃この秋みんなで考えよう〃

生と性でビッグな講演会

〃時の人〃

デーケン師来福

9月30日

A・デーケン師

高齢化社会、癌告知の是非といった言葉を種々のマスメディアが取り上げ始めて久しい。しかも、最近では、これまで議論されてきた医療とか制度といった面からでなく、家庭や心といったとても身近な処で語られ出している。

こんな折、上智大学哲学科教授と同時に、厚生省の「末期医療検討委員会」委員、「生と死を考える会」会長であるA・デーケン師（イエズス会司祭）が九月三十日に来福。同日午後1時30分カテドラルで講演を行う。

年を取ったら病院や施設がある、癌保険に入っているといった次元の問題から「どのように人間らしく、最後まで生きるか。どこまで心豊かに生きてもらえるか」を考える時になっていると思われる。私たちも、いつか看る人、看られる人になるのです。避けて通れないことなら近づいてみませんか。

ビリングズ博士夫妻

『自然な家族計画』三カ所で特別講演

自然や家庭崩壊が進む中、明るい家庭づくりや、これから誕生する新しいいのちのために、謙虚になって神のみ手の業である自然の則を知り、自然な家族計画を行っていく必要性が叫ばれている。

時も時、自然な家族計画で世界的に有名なビリングズ医学博士夫妻が初来日し、福岡教区でも福岡、久留米、熊本で特別講演会を行う。

夫婦間のコミュニケーション、協力、配慮が基本となるこの自然な家族計画は、夫婦愛を深め、薬・器具・手術など人工的なことを一切必要としないため、副作用の心配も経費の心配もない。

夫と妻は出産に関して共に責任を分かち合い、若者のためには、よい性教育の指針となり、いのちと性の尊さを実感するでしょう。

最新の医学や科学知識によって、妊娠しにくい夫婦には、妊娠の希望が、また、妊娠を延ばしたい夫婦には、その計画が安心してできます。

去年は、三十年以上の研究と、八十か国以上での講演会・ワークショップの経験をもっている。

ビリングズ夫妻

北九州

カテキスタの集い継続確認

六月二十日（火）、小倉教会において「北九州地区教会学校担当小教区・修道会代表者の集まり」が開かれた。

開催の目的は、これまで「北九州地区カテキスタの集い」を担当してきたカテキスタ会会員の転勤などで集いが開催困難となったことから、今後は、各小教区の代表者の集まりとして継承しようというもの。

教区信仰教育委員会委員長の山元真師は「この集いには伝統があるので、これからも続けて福岡、佐賀、熊本地区などの集いのモデルになってほしい」と語った。

また、代表のガイヤール師（門司教会）が北九州地区の信仰教育委員会担当司祭に任命された。

若手の司祭11名
司教を囲みミサ

老司教会

平田三郎司教によって叙階された竹森勇神父ら桜井尚明神父を除く十一名の若手司祭が、六月二十八日、老司教会で司祭叙階金祝の司教と共に感謝ミサを捧げた。

ミサのあと司教会婦人会の手作りのごちそうをいただきながら歓談した。

シベリア抑留記

川口康頼

（福岡教区司祭・在長崎）

昭和19年神学生の時に召集令状

それはちょうど、長崎の公教神学校（校長山川神父様）に入学していた昭和十九年の春、終戦の前の年でした。その年から徴兵年齢の引き下げがあったために、私にも召集令状が来るだろうとは予想していました。その頃、上級生の何名かは、召集令状を受けていました。その中には後でローマに留学し、帰国間際に死去された川口藤吉神父様もいました。

十月十五日召集令状を受け、三日後に熊本の十三聯（れん）隊に入隊しました。入隊の翌々日、門司港で乗船し、一路北満州のハイラルに向かって列車での旅でした。

昭和二十年八月九日、突然ソ連軍の侵攻をうけ、数日間の激戦の末、八月十五日停戦命令を受けたその日の夜、ソ連軍に抑留されたのです。九月三十日頃シベリアへ送られました。

収容所では毛布一枚と外套で過ごす

収容所では粗末な建物の中で、毛布一枚と外套（とう）とわずかな日用品。食物は、炭坑の中で働く者には毎日黒パン一杯とバター五十グラムに、スープ、魚一片でした。

炭坑外に働く者は、黒パン三百グラムにバター、スープと魚だけでした。

仕事に出る以外は各々休んでいました。

炭坑での強制労働でついに栄養失調

おもしろいことに、シベリアでは、軍医が臀部の肉をつねって、よくつねられたら、アジン（一等級）、それからドロア（二等級）、オカ（四等級）、ピアチ（三等級）に分け、三等級までは殆ど炭坑の中で働くことになりました。私は最初、アジンに入れられました。

炭坑の中では八時間ずつ三交代で毎日採炭をし、十数台の炭車で石炭を外に運んでいました。

後で栄養失調症になり、坑外の作業にまわされました。

クリスマスの夜にキリスト信者発見

私の少ない体験ですが、昭和二十年のクリスマスの夕方、炭坑から出て、「今夜はクリスマス聖夜だが、郷里ではみんなはどんなにしているだろうか」と思いながら休んでいると、どこからともなく、クリスマスの聖歌が聞こえてきたのです。

そっと聖歌が聞こえる方に近づいて、窓越しに家の中を覗き見ますと、若い夫婦が柱に向かって、敬虔に聖歌を歌っていたのです。早速ノックして中に入りますと、彼らは驚いたような表情をしていました。

私は彼らに、なぜ柱に向かって聖歌を歌うのですかと聞きますと、夫は柱をくり抜いた、小さな穴の中から、イコンを取り出して見せたのです。彼らに私もキリスト信者であることを表明したのですが、彼らはどうしても信じようとはしませんでした。それで、指を五本そろえて、十字架のしるしをしてみせたのでしたが、それでも信じようとはしませんでした。男がした十字架のしるしは、指を三本そろえて右から左の方にするやり方でした。それでふと郷里の祖父（日露戦争に出征しました）が、言っていたことを思い出しました。ロシヤ正教では十字をきるときは、いつも指を三本そろえて、右から左にきるのだそうです。それから彼らに、「私は、ローマカトリック教会の信者である」と言ったのですが、彼らは「サムライの国にキリスト信者がいる筈はない」と言いました。

そこで、思いついて、服の裾の中に大切に仕舞って身につけていた、母から渡された不思議のメダイを見せましたら、やっと信じてくれるようになりました。

黒パンをくれたイコンのご婦人

炭坑の中に毎日飲料水を配給してまわる四十歳がらみの婦人が、私を呼びとめて「ヤポンスキこれを食べなさい」と言いながら、小さな黒パンを食べさせてくれました。乏しい食物の中から黒パンを分けてくれた温情を、いまでも忘れることはできません。おはなしているうちに、婦人の首に、小さなイコンが下げられているのを見ました。早速自分もキリスト信者であり、神学生でもあることを表明したら、涙を流さんばかり喜んでいました。

共産主義の国に神や宗教がなお人々の心の奥底深く生き続けているのを知って、驚きとともに大きな喜びを覚えました。彼らと語り合っているうちに、日本で、キリスト教禁教令下にひそかに祈っていた信者たちのことがしみじみと偲ばれました。

現在信者の数はおよそ八百万と推定されるそうです。私はこの広大な国家に、信教の自由と、平和の福音の光がもたらされるように祈らざるをえません。

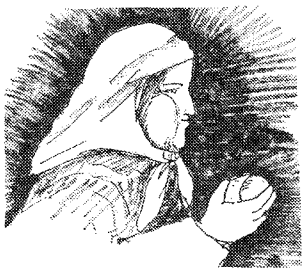
帰国途中に伝染病の患者を看護

昭和二十一年の終わり頃、収容所に残っている同胞に名残を惜しみつつ一路帰国の途につきました。北朝鮮の清津港に上陸し、平壌市の郊外にあった、もと日本軍の兵舎に落ち着きました。

ところがある日、ソ連の将校から「日本の赤十字の看護婦五名とともに、コレラ患者二百名と腸チブス患者六十名の看護をするように」と言われて、早速看護をはじめました。僅か三か月間でしたが、平壌の収容所で約三千名の捕虜が帰国を前にして異国の土となったのです。彼らはどんなにか望郷の念にかられていたことでしょう。

昭和二十二年一月、懐かしい故国に帰るために朝鮮の興南港で乗船し、佐世保に上陸しました。我が家に帰るために長崎の茂木港から天草の富岡港に行く途中、船の中で森口という薬店を経営する人が「あんたの兄さんは亡くなったです」と言われたとき、シベリアで兄の葬式の夢を見た日付と一致していたのには驚きました。

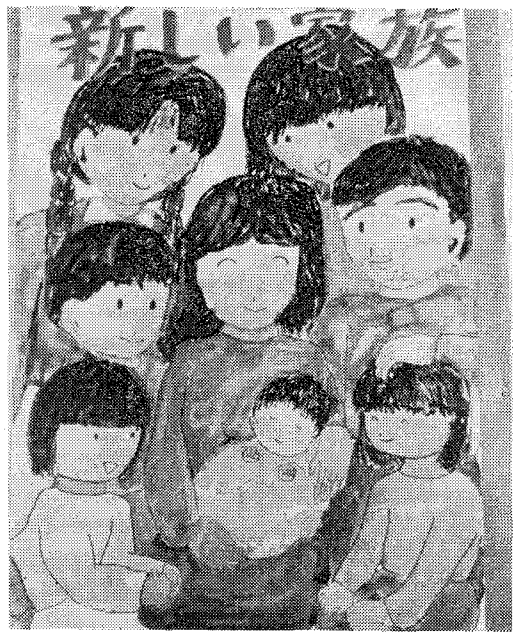
家に帰りましたとき、母が「よく帰ったね」と言ったことばと、「兄はなくなったよ」とかぼそい声で言ったのを聞いたときは感慨無量でした。



帰国後すぐに神学校に戻り一九五六年三月十九日聖ヨゼフの祝日に、浄水通教会で司祭に叙階されました。

異国の土となられた同胞のことを思う毎に、彼らが平和のために尊い犠牲となられたと思います。

彼らの冥福を祈りつつ。

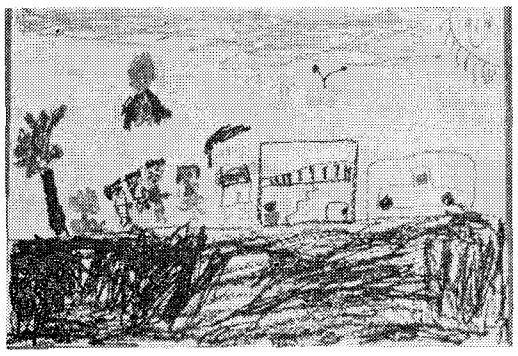


小学5年　永江裕美子（二日市教会）

5月21日

「教区家庭の日」　作品

幼稚園5歳　川原純平（佐賀教会）



教区「家庭の日」アンケート中間報告

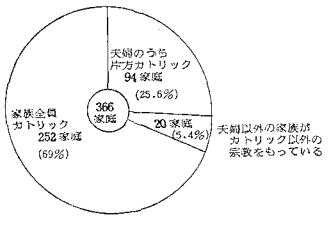
子供たち相談相手として司祭は下位

去る五月二十五日『教区家庭の日』を前に実施された家庭に関するアンケートの中間報告が、さきごろ『教区家庭委員会』のライル師より発表された。

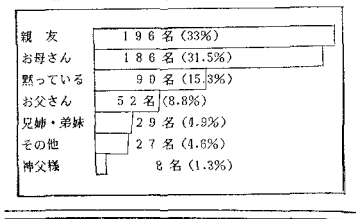
アンケートは教区の様々な層を対象にしており、教区の家庭の現状を知るために参考になる。ライル師は「小教区での司牧に役立たせてもらうために、データのより詳細な集計と分析を行っている」と話している。

地区名	出した数	回答数	%
全教区	750	366	48.8
熊本	143	87	60.8
佐賀	74	42	56.8
福岡	270	158	58.5
北九州	263	79	30.0

宗教別分類

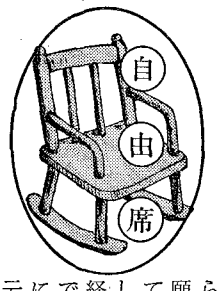


子供たち 588名に質問してみました
悩みを相談する相手は？



教えて下さい

匿名希望



日本は物が豊かになりました。お金で何でも手に入ります。でもお金で買えない大切なものがあるのではないでしょうか。世間では貧富の差があり、学校でも差別が行われ、新聞記事を見る度に心が痛みます。

二十年前に神様のお恵みを頂き、信者の仲間に入れて頂いた時の喜びは忘れられません。戦災にあい、貧しさ故にみじめな思いをして来ましたが、教会では、大学教授でも、会社社長等等の肩書は抜きにして皆平等に接して頂き、神父様と共に皆さんで草取りをし、大掃除をしました。一杯のお茶も皆さんと共に頂き、心の安らぎを与えられ、生きる喜びにひたりました。職場を停年退職し、教会も変わりました。

時代の波かとも思いますが、教会のお説教の中で、しばしばお金の話がでます。以前の教会では一度も伺った事がなかっただけになじめずにいます。世の常でお金は大切なものです。なければ困ります。でもすべてお金ではかられては、これでいいのかしらと疑問に思えるのです。ミサをお願いするにしても、金額が決っているようで、何も知らず手元にあったものでお願いしていたら、注意されて後日不足分を追加して差し上げた話も伺いました。経済的に恵まれた方はよいでしょうが、底辺に住む者にとって、お金を優先して云々されては、本当に淋しい思いをさせられています。

日本は資源のない国で外国からの輸入を頼りに生活が営まれています。戦争中の物不足の時代を過ごして来た身には、物の命を大切にする習慣がありまして無駄遣いはできないのです。住む家も、食糧もない生活を強いられているアジア、アフリカの方々の記事を目にする度に、教会でしなければいけない事があるような気がしてならないのです。

バザーにしても目標を決められ、その目標に達しなかったが故に叱られなければいけないと言う事は、どう言う事でしょうか。神様にお捧げする物は心からのものが大切と教えて頂きましたが、これではいけないのでしょうか。各自精一杯努力したつもりですけど、これだけでは駄目なのでしょうか。教会がお金集めの場となる事が正しい福音につながる事なのでしょうか。聖書では主の御降誕が馬小屋でなされ、清貧の徳を教えられていましたので、貧しい私にとって本当に福音でした。でも最近の教会のあり方を見ていますと、どうしても疑問に思えてならないのです。

教会での金銭的な考え方を教えて頂けませんでしょうか。

福岡黙想の家

祈りの日　毎週火曜日午前11時ミサから午後3時のお茶で解散
ミサ、会食（お弁当を持っていらしてください）
十字架の道行、司祭の面接も受けられます。会費は無料です。

※祈りたい時、祈るために。疲れた時、休むために。どうぞご連絡ください。

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎ 094(32)3222

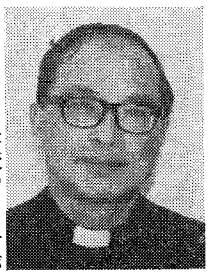
熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096—352—3306
096—352—8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

カトリック学校教職員初会合

草野純英師（教区学校教育担当司祭）の呼びかけで

福岡



カトリック学校のあり方が論議されているが、教区学校教育担当の草野純英師（泰星学園）の呼び掛けで、福岡教区内の学校で働く教職員の第一回目の集いが、6月25日、司教館で開かれた。

遠くは八代など各地から32名の参加があり、出会いの喜びを分かち合った。

当日は、司祭叙階金祝を迎えた平田司教も忙しいなか駆け付けて参加者を励まし、この集いに対する司教の意気込みを感じさせた。

集いでは情報交換や教育研究発表も

福岡教区カトリック教職員が集まる意義について、草野師は、「平田司教様から、福岡教区カトリック教職員の集まりを開くよう要請され、その担当者に任命された」「この集まりは、あくまでも教職にあるカトリック者として、相互の状況や実践を報告し分かち合ったり、研究発表などを通して、親睦を深める個人サイドの集まりである」と説明した。

集会を終えたある参加者は、「遠隔地から来ている者も多く、時間的な制約もあり、参加者同士が顔合わせに終わってしまったのは残念だが、公立、私立を問わず、小・中・高の教職員が一堂に集まって互いに知り合えたことが今回の集会の成果」と評価していた。

平田司教の話　この様な集いが発足してとても嬉しく、念願がかなった思いです。現代社会の状況の中で、カトリックの先生が果たす役割はとても大きいものがあります。修道会、教会、そして個人として子供たちの教育に勤しんでいただきたいと思います。多数の参加ありがとうございました。

今後の運営方法などを取り決め

集いの今後の運営方法などは、左記のような形式をとることを確認した。

回数……年3回（各学期に一度）とする。
会場……熊本、小倉、佐賀福岡の持ち回りとしたい。
参加……自由参加とする。
案内……福岡教区報、カトリック新聞で案内する。
会費……詳細についてはまだ決定せず、担当者に一任。
規約……担当者が草案をつくる。
準備委員…草野純英師（泰星）森邦蔵氏（福岡雙葉）栗田陽二郎氏（福岡海星）
次回集会…11月19日（日）於・司教館
連絡先　草野純英神父　☎092-712-7181

シリーズ　ここが聞きたい　ティ②ンこのランのボア

共に楽しむ心と時間

どんな気持でボランティア活動をしていますか。

医学がどんなに進歩しても、老いと病から逃れることはできません。

素晴らしい施設で、心満たされず孤独に悩む方、一人暮らしで心淋しい方もいらっしゃいます。

同じことの繰返しでもうなずいて聞いてあげるだけで表情がなごみます。紙芝居を身を乗り出すようにして聞いて下さると、つたない語りにも熱が入ります。中には、こっくりこっくりされる姿もあり、子守歌なのだなと反省させられます。紙芝居なんてと拒絶される方もいますが、都合で中止すると「楽しみにしてたのに」とがっかりされ次回の来訪を待たれると、どんな話がいいかなと探すのも楽しみです。

ゲートボール、日頃の練習で大変お上手な御老人が、初めて手にしたスティックの扱いに戸惑っている私共に、得意そうに丁寧にコーチしてくださって、爆笑のうちに楽しい一時を過ごさせていただきました。

折り紙を教えていただいたり、造花を一緒につくったり、歌や遊戯で童心に返り、音楽の練習を共にさせていただき、楽しい一時を過ごしています。

また日々重労働をいとわず献身してくださっている職員の方々のお手伝いをさせていただけたらと思いつつ、訪問を楽しみに伺っています。

いつも心待ちにして下さって歓迎され、玄関までお見送りいただき、「またいらっしゃってね」と涙ぐまれるお姿を見ますと、後髪を引かれる思いで帰路につきます。

これからも「隣人を愛しなさい」との御言葉をかみしめて、訪問を続けさせていただきたいと思っています。

回答者　福岡マザーテレサ共労者会
（文責　編集部）

水巻教会で広報一日研修会

信徒はみんな広報マン

水巻教会（主任ベリオン師）では、子供の日曜学校のほか大人のための日曜学校を行って成果を上げている。

大人のための日曜学校では年に数回、外部から講師を呼んで勉強会をもっており、去る七月二日には、『信仰と広報』のテーマで、教区報編集長の渡辺隆義師を講師に招いて一日研修会を開催した。

ミサ中、講師は、『情報としての聖書』と題して説教。「福音書はイエズスの生きざまを示して、現代社会で生きるために必要な情報を提供している」と話した。

ミサの後の講演では、「国際化時代のビジネスマンに聖書は必須になってきている」と指摘。「キリスト者は彼ら以上に聖書に親しむべきでは」と問いかけた。

また福音宣教について、「私たちは、派遣された者としてキリストの広報（宣伝）マンである」と語り、「自分が知らせようとしているものの素晴らしさをまず体験しておくべきではないか」と話していた。

宣教の具体的な方法では同小教区が発行している教会便り『からしだね』を活用するようすすめた。「小教区報は、信徒と司祭、信徒と信徒のコミュニケーションの道具としての意味がある」だけでなく、「教会に見えてない人とのコミュニケーションの道具ともなりうるので、そのことを意識した企画があったほうがいい」と助言した。

講演を聞いて後、参加者三十四名は男性、女性半々に三グループに別れ、会場になっている幼稚園の教室で話し合いを待った。

グループでの話し合い、全体会での質疑では、『からしだね』について、「読みおわったら他の人にもまわす」「役員会で話し合われたことの結論の部分だけでなく、経過も載せて」といった建設的な意見が相次いだ。

グループでの話し合い、全体会での質疑では、『からしだね』について、「読みおわったら他の人にもまわす」「役員会で話し合われたことの結論の部分だけでなく、経過も載せて」といった建設的な意見が相次いだ。

教区信徒協

各種活動団体から報告聞く

佐賀

福岡、北九州、熊本、佐賀の各地区信徒使徒職協議会の代表者、カトリックアクション団体、修道女連盟などの代表者が集まり、情報交換と共に教区の課題への取り組みを話し合う「教区信徒使徒職協議会」の理事会が、六月十八日、佐賀教会で開かれた。

開会にあたって顧問の山田成章師は、「先の『全国司祭の集い』では、小教区制度の見直しに関心が集まった。福岡教区としては、外国人宣教師の減少もあり、邦人司祭の育成が緊急の課題となってきている」と語った。

各種団体からの報告は次のとおり。

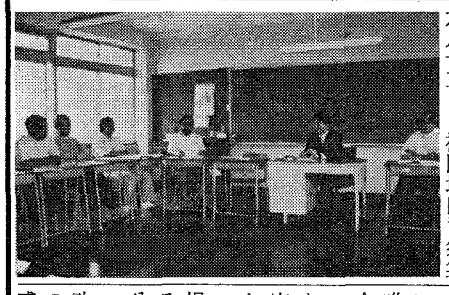
①正義と平和協議会　本田哲郎神父（フランシスコ会）の講演資料「抑圧された者の側に立つ神」が必読の記事として紹介される。

恒例の八月十五日『平和集会』にはできるだけ多くの方の参加を、と呼びかけ。

②カナの会　「福岡教区カナの会」の会長は古賀正助氏から村山多摩子さん（高宮教会）に交代。

③評判のグリフィン神父（コロンバン会）のキリスト教講座「リーダーのための研修会」が八月二十五日～二十七日までの三日間、熊本市勤労者福祉会館で開催される。定員は三十名。至急申込みを。

④宗像市に移転新築した「福岡黙想の家」。緑と静けさに恵まれた環境を黙想、研修にもっとご利用ください。



カトリック新聞の窮状

久保営業部長が説明！

福岡地区司祭の集まりで

全国紙『カトリック新聞』の営業部長久保清一郎氏は、六月十三日、福岡地区司祭集会で、カトリック新聞の現状並びに、発行以来の経緯について説明した。

同氏はこの中で「人員、財政面で窮乏している実情がほとんど知られていない」と語り、司祭、修道者、信徒を含めた読者一人ひとりに自分たちの新聞であることの理解と協力を求めた。

また『カトリック新聞』は日本の司教団が発行している唯一の機関紙であることが、全国の教会で認識されていないのではないか。教会の動きを地球規模で知るためにも、家庭に一部の購読を勧めていただきたいと語った。

話を聞いたある司祭は「現場で携わって奮闘しておられる久保氏の生の声を聞き、自分の小教区の状態を思い浮かべ、自分たちの関心の薄さを改めて思い知らされた。今後の対策を促される思いだ」と感想を述べた。

山元神父の　ワンポイント教会法

幼児洗礼 (1)

幼児洗礼の是非が問われている。

幼児洗礼については「是」だけと思うのだが、どうして「非」が出てくるのだろうか。私は幼児洗礼の是非の問題は、両親にとってのキリスト教信仰の是非の問題ではないかと思っている。

幼児洗礼に関する規定は教会法典の中にいくつかあるが、今回はその中のひとつの条項を引用し、幼児洗礼についていっしょに考えてみたい。

「幼児の洗礼の場合、両親および代父母の任務を引き受ける者は、この秘跡の意義および秘跡に付随する義務について、ふさわしく教えを受けなければならない。主任司祭は、自らまたは他の者を介して、両親が司牧的助言さらには、共同の祈りによって相応の教育を受けられるよう配慮しなければならない。そのために主任司祭は家庭集会を持ち、かつ可能な場合には家庭を訪問しなければならない。」（第811条第二項）

幼児洗礼に積極的に反対しなくても、疑問を持つ人は多いと思う。その理由のひとつは「ちいさくて何もわからないのに（無理やり）洗礼を授けてもいいのか。大きくなって自分で選べるようになってからでいい。自由だ。」ということである。この考え方は、一見して当人の自由意志を尊重しているようだが、果たしてそうだろうか。

この意見の根底には、洗礼を受けても受けなくてもどちらでもよいという考え方が潜んでいる。さらに突き詰めれば、親が自分の子供の洗礼を積極的に望んでないということであり、さらには、親自身が自分がいただいている洗礼の恵みをよく理解していないか、その信仰に喜びを見い出していないとも言えよう。

様々な事情があるだろう。ともかく、幼児洗礼の「すばらしさ」について考え直すことは必要だと思う。

続きます。（小倉教会）

BOOK　読みは専科

☆山賊の墓

木崎さと子著

「人間の奥には、どうしても解けない謎があります。原爆を落として発狂した人も、こうして生きている私たちも同じ悪をもっていることに違いないのに、ある人はそれを行為に表わす羽目に陥り、ある人は正義の魂みたいに生きてしまうのです……どうして人には幸、不幸の差があるのか」親を殺された有子が「命がけ」で問いつめていったことは、何であったのだろうか？

筆者独得の繊細さ、ていねいな筆による奥行きのある小説である。

（講談社　一、三〇〇円）

映画上映案内

☆かんからさんしん

8月15日午後1時30分より
カテドラル・センター

戦争体験の風化がすすむ中で、戦争の体験と教訓がますます重みをましてきているのが今日の日本の現状です。

沖縄戦は、いたいけな子供たちまで〝鉄の暴風〟の中にまきこんだ極限の戦闘でした。戦場の島で、子供たちはどのように死に、どのように生きのびてきたのか、〝地獄の戦場〟に焦点をあてます。「かんからさんしん」とは空き缶やパラシュート糸でこしらえた手作り三味線のこと。

ジャパン建築株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092—761—8800
代表取締役マルガリタマリア吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092—711—0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石 石 他
理 影 の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

八・九月の行事

※ゴチックは司教日程

8月5日　広島平和祭
8日　司祭評常任委員会
6～15日　平和旬間
9日　長崎平和ミサ
13日　教区司牧評議会（司教館）午後1時30分
15日　聖母被昇天
教区墓地ミサ午後2時
平和を建設する集い（カテドラル）
17～19日　カトリック幼稚園研修会（熊本）
21～26日　東アジア信徒交流の集い（東京）
23日　カナの会
25～27日　キリスト教入門講座「リーダー養成のための研修会」（熊本勤労者福祉会館）
28日　聖アウグスチノ祭（笹丘教会）午後5時30分
福岡地区婦人会聖モニカ祭（カテドラル）午前10時
9月3日　今村教会堅信式
5日　司祭評議会　午前10時30分
7日　福岡地区婦人会委員会（司教館5F）午前10時30分
11日　北九州司祭司牧研修会
18日　福岡市民クリスマス実行委員会（午後7時）
18～19日　臨時司教会議
22～24日　ME（玉名黙想の家）
26～30日　ビリングズ博士夫妻講演会
26～28日　広報担当者全国会議（カテドラル）
30日　デーケン神父講演会
10月1日　大名町教会バザー

平和旬間

8月6日～15日

福岡　8・15

《平和を建設する集い》

子供からお年寄りまでみんなで『平和』を考えるための集いです。

日時　八月十五日（火）午後一時より
内容　＊映画上映（かんからさんしん）
　　＊平和行進
場所　カテドラル・センター（大名町教会）
主催　正義と平和委員会
協賛　福岡地区信徒協、婦人会、修女連

自然な家族計画の世界的専門家

ビリングズ博士夫妻
オーデブライト博士　初来日

特別講演会

『自然のめぐみと生命の尊さを考える』

9月26日（火）熊本手取教会
9月27日（水）福岡女性センターアミカス
9月30日（土）久留米聖マリア短期大学

主催　明るい家庭を築く会
問合せ先　福岡市南区皿山4―14―27
ファミリーセンター
S・ライル神父
☎092-541-6207

アルフォンス・デーケン師
（上智大学文学部教授）

特別講演会

私たちは必ず老います、死を迎えます。
看る人も、看られる人も準備が必要です。

テーマ

「老いと死をみつめて」

日時：9月30日（土）　午後1時30分
場所：カテドラル・センター大名町教会
入場料：500円
問い合わせ：各教会の信徒協役員
主催：老いと死をみつめる会
＊宗教、年令を問わずユーモアにとんだお話が期待出来ます。

福岡教区青年球技大会

ファイト一発!!

イエスさまにトライ

開催要項決まる

日時　一九八九年十月七日・八日
場所　明光学園（大牟田）
競技種目　ソフトボール、ドッチボール、ミニバレーボール
参加費　千五百円（土・日参加者）五百円（日曜のみ）
問合せ　青木悟神父（手取教会）☎096-352-3030
吉浦健次氏（鳥栖教会）☎0942-96-3015

羊かげ

八月四日、アルスの司祭、聖ヨハネ・ビアンネの祝日です。

フランスのアルスという村に死ぬまで勤めたこの司祭にも、辛いことが多く三回ほど信者をほったらかして、自分の教会から逃亡したことがあります。

どの司祭でも任地を逃げ出したい思いに襲われた経験を持っているでしょう。

信者たちはそれぞれ司祭についてのイメージを持っています。自分のイメージに照らして現実の司祭に不満を持ち、様々な批判を浴びせます。たとえば、スータンを着ると「この神父は時代遅れだ！」ネクタイをつけると「プロテスタントの牧師のようで落ちつかない。」と。

又責任感にあふれる司祭が自分の羊を牧するに熱心なとき「独裁者！」ときめつけられます。又「宣教者としての司祭が、信者数の少ない小さな共同体に閉じこもり、信者のお世話もするけれど、自分も大いにお世話になる。この楽しさの中に結局、宣教者の使命から遠のくことも稀ではありません。外国人宣教者にも同じ傾向が見られるのではないでしょうか」（福音宣教一月号）と批判されています。

権威主義が退けられた現代の司祭たちは、旧約時代の司祭たちのように「自分自身の弱さを身にまとっているのでは民のためだけでなく、自分自身の罪の贖いとしても供え物を献げねばなりません。」（ヘブライ五章三節）

それだけに司祭は信者の支えと協力が必要であります。

司祭はつらい

徳山　登

心をこめて準備した説教のとき、信者から注がれる視線が司祭の心にいかに深く響くものであるかご存じでしょうか。信者に何の反応も示されない時は何とも寂しいものです。

「今日のお説教には具体性が足りないようです。長い説教よりポイントを一つにしぼり、信者の生きている現実の力、光となる、あるいは慰めになるひとつがあればいいのです……。お疲れでしたか。準備できないような時でも長い古い説教をひっぱり出さない方がよいのではありませんか。」このような忠告に感謝したことがあります。いろんな面において、信者からの好意的、建設的な注意や感想を率直に聞かせていただくのは本当に喜びであり、励ましであります。

信者は司祭を利用するだけでなく自分らの司祭を育てる責任もあります。人間いちばん辛いのは反対されることではなく、人々の冷淡にぶつかり、沈黙に包まれ、孤独に追いこまれることではないでしょうか。司祭とて同じです。ミサの間、教皇と司教の名前をあげて祈りますが、自分の小教区の司祭のためにも特別に祈る必要があると思います。

十五歳の小さいテレーズもローマ巡礼を七十五人の司祭たちと共にしました。ホテルで同宿し、共に食事し、その時の司祭たちの会話、特にワインがまわった頃の司祭の話には感心するものばかりではありませんでした。司祭の心はクリスタルよりも清いものに見えていたテレーズでした。しかしこの一月の旅の間に、彼らも充分、弱く、転びやすい人間であることを知らされました。

実に完全な司祭はただひとり、すなわち偉大な司祭、神の子、イエズス・キリストさまだけであります。み心の宝を分配するために司祭たちを選ばれました。貧しく不完全な道具ではありますが、粗末な馬屋での誕生を望まれた同じキリストの選びであります。ご自分の司祭たちの弱さと貧しさを通して、輝かしいキリストの業が行われるのです。

主イエズスが最初の司祭としてお選びになった十二人も充分、弱く、おろかで、何度も転んだり迷ったりしたではありませんか…。「願わくは、主よ、聖ヨハネ・ビアンネの取り次ぎによって、わが国に多くの愉快な司祭をお与え下さい」。

（パリ・ミッション会司祭　八王寺教会）

かのときのことのは

森山　敬三

僕の骨にとまっている
小鳥よ　肺結核よ
おまへが嘴で突つくから
僕の痰には血がまじる

堀辰雄

堀辰雄は詩人というより作家である。彼の作品を少女向きの甘美なもの、と思っている人があるが、実はどういたしまして、日本における最初の形而上的な骨骼をもった作家だと思う。彼の作品は『菜穂子』を頂点として、すべてレクイエム的な要素をもつ。事実、彼は、よき文学は、人々に魂の静安をもたらす、何かレクイエム的な、心にしみ入るようなものが根底に、厳としてあるべきだと言う。遠藤周作は、吉満義彦教授に「君、堀辰雄のものを読んでみたらいい」と勧められたのがきっかけで、堀辰雄が影響をうけたモーリヤックにひかれて、独文科から仏文科にかわり、作家への道を歩きはじめたのである。

一九八九年度第二回結婚準備セミナー

福岡会場　8月31日（木）
9月2日（土）
7日（木）
9日（土）
14日（木）
16日（土）
21日（木）
熊本会場　9月4日（月）
6日（水）
10日（日）
11日（月）
13日（水）
18日（月）
20日（水）
問合せ　ファミリーセンター
ライル神父
☎092-541-6207

八・九月命日の司祭

＊ジョン・オーサリバン師（聖コロンバン会）一九八三年八月十二日元熊本地区長
＊パチフィコ・マルケシーニ師（フランシスコ修道会）一九八〇年八月八日元待労病院付
＊ミカエル木村義巳師（マリンガ教区）一九六七年八月十四日元馬渡島教会主任
＊エミール・ベノア師（パリ外国宣教会）一九六二年八月六日元門司港教会主任
＊アルベルト・ブルトン司教（パリ外国宣教会）一九五四年八月十二日第二代教区長
＊ピオ・オッジニ師（ミラノ外国宣教会）一九八二年九月十七日ロザリオの園付
＊ユスチン・ヴィオン師（パリ外国宣教会）一九六九年九月二十九日司教館
＊アナトール・ヒューゼ師（パリ外国宣教会）一九四四年九月十五日司教館
＊ピエール・コトレル師（パリ外国宣教会）一九二八年九月三日熊本地区で宣教

編集室から

▽今月号は八・九月合併号です。

▽三年間夏休み返上で頑張ってきましたが、今年は、編集員も家庭サービスと充電のために九月号を休ませていただきます。十月号で皆さまに元気でお会いできますことを楽しみにしています。

▽「世間の常識」と「福音の常識」最近なんとなく気になる言葉です。教会の中で、世間の常識が幅をきかせているような気がします。2面の「教えてください」の投稿を読み、身の縮む思いがしました。司祭も信徒も、原点（福音）との注意深い照合が必要なのでしょうね。

▽全国紙『カトリック新聞』読んでおられますか。日本の教会、世界の教会の動きを知るために不可欠です。

お友だちにもお奨め下さい。（W）

中央出版　福岡支部
■キリスト教関係、書籍、家庭の友
■典礼聖具
■ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

任意保険に加入してから車の運転を致しましょう。
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
(株)メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2―0646
行橋市駅前5秒店　☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922―5637

未来へ――安心を創る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092―521―0568

カトリック
福岡教区報

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092―522―5139
振替口座　福岡3―42981
定価一部60円

今月のみことば

生きているのはわたしではなく、キリストこそわたしのうちに生きておられる
（ガラ2・20）
水巻教会
L・ベリオン神父

祭司評議会

来年のシノドスのテーマ
司祭養成で分かち合い

来年度の教区行事や秋の司祭研修会の内容などを話し合う司祭評議会は、九月五日、司教館で開かれた。

来年度の行事予定にカトリックフェスティバル（仮称）も

来年度の教区行事予定では、司牧評議会から提案されていた「カトリックフェスティバル」（仮称）の開催を了承。

開かれた教会づくりのため、教区が一丸となって教会員外にも参加を呼び掛ける大大的な催しを企画することになり、司祭たちにも全面的な理解と支援を求めることになった。

司祭研修会で家庭の諸問題に取り組む

今秋十一月二十二日から二十四日まで熊本で開催される全司祭研修会では、大阪教区司祭（英知大学教授）の松本信愛師を講師に、カトリック信者の家庭の諸問題とくに、離婚者、再婚者の司牧や性の倫理（避妊、中絶）などの具体的問題に真正面から取り組むことになった。

また、この研修会中には、去る五月に家庭委員会（委員長ライル師）が実施した「教区家庭の日のアンケート調査」結果の報告や信徒の立場から生の意見を聞いての分かち合いなども予定されている。

『カトリック新聞普及員』の委嘱制度を採用

他教区ではすでに実施されている、全国紙『カトリック新聞』の購読者増のために働く「カトリック新聞普及員」の委嘱制度を福岡教区として正式に導入することになった。

このため、各小教区の主任司祭は広報委員会の渡辺隆義師（司教館）に教区長からの委嘱状を請求できる。

また、全国紙『カトリック新聞』の普及員は、『福岡教区報』の普及員も兼ねることを申し合わせた。

小教区に信徒の財務委員を

複雑さを増す教会会計の明朗化と司祭の雑務の軽減を計るために、教区会計の堤要吉師は「経理に詳しい信徒を小教区の主任司祭は教会会計として任命し、活用してほしい」と要望、了承された。

今後は、会計実務についての研修会なども随時行っていくことになる。

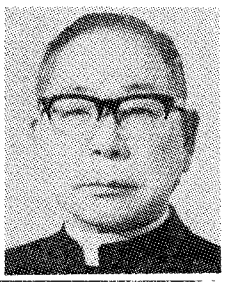
シノドスの主題で意見を述べる

来年バチカンで開催されるシノドス（世界代表司教会議）は「現代の状況における司祭養成」をテーマとしているが、この主題について平田司教が評議員の意見を求めた。

これに対して評議員からは、司祭の祈りの大切さと共に祈りの本質の見直しの必要性を求める声や地域社会に溶け込んでいける司祭の養成、司祭の本来の任務にもっと忠実であるべき、といった意見とともに、司祭団としての連帯意識の欠如などが反省とともに指摘されていた。

平田惣五郎師帰天

福岡教区初の邦人司祭として多大な業績残す



福岡教区初の邦人司祭であった平田惣五郎師は、七月三十一日午後九時四十八分、急性心不全のため、福岡市平尾の吉川病院で死去した。

平田師は、明治三十八年三井郡大刀洗町生まれ。享年八十四歳。

ローマのプロパガンダ大学に留学し、昭和八年にローマで司祭に叙階された。

帰国して、泰星中学で教鞭をとり、小倉教会や手取教会、浄水通教会の主任司祭を歴任した。

とくに、先の第二次世界大戦における福岡教区の混乱期に司牧者として、宣教者として人々に霊的遺産を残した。

また、教区の顧問、会計、書記長などの重責も果たし、七年前から、病気療養引退生活を送っていた。

平田師の通夜ならびに葬儀ミサはカテドラルで執り行われたが、司式の平田三郎司教をはじめ多数の司祭、修道者や信徒が参列し、別れを惜しんだ。

弔辞では、信徒を代表して、一色絖子さん（浄水通教会）が、「神父様は、私を命への道に導いてくださった方」と感謝を表し、「この世において果たすべき御旨を立派になし終えられ、天国に凱旋された」とお別れの言葉を述べた。

平田師は若い時は、激しい気性の持ち主であったが、年を取ってからは、穏やかさも増し、もの静かな司祭として知られるようになり、どんな人の話にも「そうですか」とうなずきながらじっくり話に耳を傾けておられた。

司牧評

来年度教区行事
ビッグイベントを企画
ナイスの提言に沿って

八月十三日（日）午後2時より、第五回教区司牧評議会が司教館で行われた。

主な議題は①来年度の教区行事について、②学校教育担当司祭からの報告。

教区レベルでイベント

教区信徒使徒職協議会の「信徒大会ができないか」という発言を受けて、七月十七日の司牧評議会常任委員会で討議の結果「カトリックフェスティバル」（仮称）の開催が提案された。

八月八日の司祭評議会常任委員会の賛同を得て司牧評議会へ提案された。

司牧評議会での討議の結果は大要次の通り。

※地区別という意見も出たが教区感覚のためにも一ケ所で行う。

※会場は福岡地区でなく、他の三地区の適当なカトリック施設に打診する。現在、戸畑の明治学院が有力であるが、日時が決定するのを待つ。

※教区レベルの行事なので司祭評議会と司牧評議会の共催とする。

※一般の人にも参加を呼び掛けることを考慮してより開かれた内容にする。

※日時は十月下旬から十一月中旬までとする。

※司牧評常任委員会、各種委員会代表、各地区青年代表、婦人代表で企画運営委員会をつくる。

※企画運営委員会の北九州地区代表司祭として浦俊雄師が推薦された。

※企画運営委員会と共に各地区に実行委員会を設ける。

※各地区の実行委員会は地区信徒協を中心とする。

※以上の件を九月五日の司祭評に提案し、承認を待って第一回企画運営委員会を十月十五日に開く。

司祭評議会はこの提案を受けて審議の結果、司牧評の提案通り承認した。

学校教育担当の報告

教区学校教育担当の草野純英師は、カトリック信徒の教職関係者に呼び掛け、第一回目の集会を六月二十五日司教館で開催した。

この集会に公立、私立校に勤務する三十二名の教師が参加、熱心な討議がなされた。

第一回の承認事項として、規約を作成することや次回を十一月十九日に開催することなどを申し合わせ閉会した。

尚、議事録は各小教区の信徒会長宛にも送付されている。

時の話題

生熊来吉
見る

カルデン神父がJOCに与えた「見る、判断する、実行する」という行動の原則は、労働者の運動ばかりでなく、他のあらゆるキリスト者の社会的行動にも適用できないだろうか。この三つの動詞のうち、特に、「見る」に焦点を当てて、このモットーについて考えてみたい。

ある科学者が「僕は水俣の公害を現地に行って、チッソにも患者にもかたよらず、第三者として客観的に見た」と、得意げに語っていたが、はたして第三者的立場によって真実が見えるだろうか。社会問題は実験室の試験管の中に存在するのではない。それは無数の条件が錯綜する自然的、社会的環境の現実の中に存在する。そこでは加害者か被害者か立場の違いによって、違った見かたが出てくる。それでは、キリスト者はいかなる立場を取るか。それは小さい人々の立場である。この立場には真理がある。なぜならば、それはイエスの立場だからである。小さい人々が叫び求めているのは、最低限の生きる条件であり、人間の尊厳だからである。第三者的立場が求めるものは認識だけであって、関わることを拒否する。それは「善きサマリア人」のたとえでは「祭司」の立場である。

ところで、同じ「見る」という動詞でも、ソファに腰掛け、コーヒーを飲みながらテレビを見ているのと、現場にいって自分の眼で事実を見、苦しんでいる人からじかに体験を聴くのとでは、そのあいだに大きな違いがある。現場主義は眼と足で見ることであり、そこには既に行動がある。「来て見よ」という呼びかけに答えることによって真実を見ることができる。もし種々の制約から現場に行けないとしたら、せめて現場からの報告を聴きに行くよう心がけるべきである。

キリスト者が社会を見るために必要なものは「福音の眼」である。ヒューマニストも社会の諸現象を皮相的に見るのではなく、問題を深く掘り下げて見ており、キリスト者にとっても学ぶべきものが多い。しかし、「福音の眼」は次元が違う。福音は逆説に満ちている。その逆説こそヒューマニストの価値観を引き上げて聖化する。たとえば、戦いに「敵を愛せよ」というイエスの勧告を持ちこむことによって。

（カトリック社研委員　西新教会所属）

教区信徒協
森一弘司教を迎え
信徒の霊性研修会
―生活の匂いのする信仰を―

福岡教区信徒協では、去る七月二十九日から三十一日まで、森一弘司教（東京教区）を講師に迎え、宗像市の「黙想の家」で各地区から七十名が参加、研修会を行った。

「信徒の霊性」をテーマに教会の活性化をめざして、今に生きる信徒の役割を具体的に考え直すものであった。

森司教は基調講演の中で、信徒の霊性は、日常生活における人間同志の絆を大切にし如何に隣人とかかわってゆくか――ここに信徒固有の召命の原点がある。と強調。

このあと分科会と講話がくりかえされ、「私は何に気づき、何を感じたか」を述べあった。パネルデスカッションでは、地区代表から、▽全員参加の教会づくり、▽教会への苦言、▽信徒への提言、▽他宗教とのかかわりなどについて発言があった。

森司教は最後に、〝弱い人間の泥くささの中で生活の匂いのする信仰に生き、力強い共同体を育ててほしい。司祭は分かち合いの中で神の心を伝え、神を証し、神の力を伝え、聖別された役割を信徒と協力しあって果たしてゆくのである。〟と結んだ。

（佐賀教会　牧山満安）

講演中の森一弘司教

カトリック幼稚園
研修会を開催
新教育要領を学ぶ

「育つ心私たちの教師像」というテーマで、教区幼児教育連盟（会長平田敬師）主催のカトリック幼稚園研修会が、八月十七日～十九日まで熊本の菊南温泉観光ホテルで開催された。約三百七十名の参加者は、カトリックの精神に基づいて、幼稚園教師の子供たちに対する姿勢を見つめなおした。

講演会では、相良敦子（京都聖母女学院短期大学）教授が「新幼稚園教育要領とカトリック幼稚園で働く者の使命」と題し、カトリック幼稚園で働く者は何を大切にすべきかを、山内清海神父（大崎教会）が「共につちかう心」と題し、心の豊かさが見失われている現代、先ず我々が心の豊かさをもつために何をなすべきかを問いかけた。

この研修会に参加した人たちは「研修会の雰囲気がとてもよく、様々な問題にぶつかっている教師たちが、子供たちに何を与えるべきかを考えさせられ、得るものがあった」と喜んでいた。

10月7日・8日
明光学園（大牟田）で
教区青年球技大会

小教区を超えた青年たちの親睦、交流を計るため「教区青年球技大会」が、十月八日（日）、大牟田市の明光学園で行われる。

福岡、熊本、佐賀各県を五ブロックに分け、今年は主に筑後ブロックが準備にあたっている。

昨年は、熊本で、運動会形式で行い、参加者は百名を超す盛況、今年も多くの青年たちの参加が見込まれている。

七日（土）には前夜祭も計画されている。

みちくさ

平田惣五郎師が司祭生活五十七年の幕を静かに閉じた。享年八十四歳であった。福岡教区初の邦人司祭として、教区の歴史と共に歩いてこられた方である。七年ほど前からの入院生活で宣教・司牧活動の第一線を退き、忘れられたように生きた師の心中を知ることはできないが、通夜・葬儀に参列して思うところがあった▼司祭は、イエズスに倣って自分のために財産を蓄えることを放棄した者同士で新しい共同体を形成する。イエズスは、「互いに愛し合いなさい。それが弟子であることの証である」と、まず、弟子団に言われた。だが、現実の司祭団はどれほどキリストのこの切実な願いに応えているのだろう、と思っている人は少なくない▼先日もある司祭の集まりで、司祭の孤独についての発言があった。「人の心の痛みに対して、あなたたちはあまりに鈍感」だとお叱りを受けることがある。心からではなく頭による関わり、自分の城を護ることに汲々とし、誰とでも一歩離れて関わる事を美徳とする。それが自分の司祭職を保つための最善の方法だと考えている。どうしてそうなったのだろう▼教区司祭は小教区でたいていの一人で生活する。そのために孤独に耐えられる人、生活力のある司祭が理想とされた。けれどこのような生き方は、ナザレのイエズスとその弟子たち集団には想像できなかったのではないだろうか。イエズスが弟子を団体として形成されたことの意味を問い直してみる必要がありそうだ▼司祭は、団体としての愛の交わり、関わりを世に示すことによってキリストの証人となる。弟子たちがイエズスという神の子を中心に、互いの弱さを超えて連帯しえたように、司祭はもっと主キリストのもとに共に集い、喜び、痛みを分かち合えるように養成されるべきではないだろうか。亡き大先輩のお考えを聞きたいと思った。

1988年度　小教区納入金一覧表

No.	小教区	信徒数	教区費	教区神学校後援会費	法人費62年度	広報献金	聖ペトロ聖座献金	移住献金	布教献金	邦人司祭育成献金	児童福祉献金	聖地献金	福音宣教特別献金	合計
1	茶山	508	431,776	214,100	646,800	21,832	17,748	16,933	16,008	16,633	17,857	23,407	14,674	1,437,768
2	大名町	701	1,521,500	1,407,880	0	81,400	116,700	116,250	98,700	100,000	112,350	87,000	131,500	3,773,280
3	能古島		0	0	0	0	0	2,557	0	5,120	0	0	0	7,677
4	二日市	371	414,000	232,400	608,580	23,459	24,000	23,700	31,000	26,000	14,726	27,760	15,000	1,440,625
5	箱崎	269	334,000	168,000	0	20,000	20,000	15,000	20,000	20,000	35,000	15,000	20,000	667,000
6	笹丘	661	531,861	444,000	0	12,000	7,000	12,600	20,000	20,000	13,300	7,250	8,000	1,076,011
7	光ケ丘	890	889,487	582,900	0	25,416	33,550	34,330	34,268	23,630	52,211	29,052	30,140	1,734,984
8	本郷	615	536,460	110,760	0	33,415	33,183	32,713	33,131	31,215	41,950	15,130	31,081	899,038
9	今村	1,012	470,000	737,600	0	90,060	140,430	88,220	244,072	107,100	107,005	60,015	95,155	2,139,657
10	浄水通	278	217,892	269,200	0	12,000	33,000	15,000	10,000	10,000	15,000	16,000	10,000	608,092
11	古賀	579	616,000	124,421	0	50,881	56,680	73,530	53,245	54,452	58,285	25,145	43,274	1,155,913
12	久留米	850	797,712	400,000	1,725,930	41,421	54,770	51,760	53,244	98,395	51,650	12,585	40,083	3,327,550
13	馬渡島	461			0	14,400	10,900	14,200	18,000	14,550	13,450	13,700	11,000	110,200
14	美野島	94	124,000	78,300	0	7,000	11,000	11,000	10,000	11,000	8,000	6,000	7,000	273,300
15	西新	1,093	550,626	779,150	490,230	40,580	66,080	51,991	42,652	143,974	58,077	26,600	41,109	2,291,069
16	小郡	325	242,592	161,600	871,730	10,643	8,820	9,886	10,311	9,735	9,873	0	10,530	1,345,720
17	大楠	120	139,400	32,500	548,940	4,505	6,997	7,916	5,914	8,420	4,824	16,650	5,001	781,067
18	大牟田	188	134,000	238,503	0	23,548	23,219	23,546	23,988	23,058	19,066	9,630	15,233	533,791
19	吉野		0	0	560,490	0	0	0	0	0	0	0	0	560,490
20	老司	542	651,263	294,800	0	28,339	41,783	27,466	25,761	44,475	32,047	15,500	37,332	1,198,766
21	高宮	529	458,000	176,000	0	52,000	64,700	51,500	58,000	61,200	56,000	54,000	14,285	1,045,685
22	呼子	353	211,400	45,000	0	11,290	12,325	11,605	14,602	20,407	24,258	1,600	14,240	366,727
23	松島		0	0	0	0	5,400	0	3,500	4,800	5,000	0	5,000	23,700
24	吉塚	666	483,000	228,300	0	16,000	17,000	19,000	20,000	27,000	46,000	6,000	29,000	891,300
25	志免		100,000	71,400	0	7,000	6,000	6,981	9,000	5,510	20,450	3,125	4,878	234,344
26	伊万里	210	250,000	135,450	0	10,680	14,909	11,025	12,587	8,900	8,628	5,000	12,570	469,749
27	唐津	362	208,573	120,850	0	8,600	11,641	8,516	46,300	12,650	14,302	4,320	7,560	443,312
28	鹿島	41	24,815	7,400	0	1,400	2,100	1,700	1,100	1,200	1,710	0	1,460	42,885
29	佐賀	670	492,750	232,450	0	20,000	20,000	15,000	35,253	12,000	56,612	2,000	10,000	896,065
30	武雄	62	50,000	12,550	0	1,560	6,240	3,690	2,090	1,000	4,170	3,000	4,160	88,460
31	多久	110	65,880	20,000	0	1,640	1,602	3,280	3,120	1,920	30,243	1,946	1,420	131,051
32	鳥栖	310	221,931	66,800	0	14,165	13,732	10,737	12,300	13,015	40,646	10,000	10,465	413,791
33	八王寺	209	211,000	170,000	0	9,456	11,768	16,300	16,150	13,090	9,210	14,000	8,301	479,275
34	飯塚	244	250,000	50,000	0	10,000	10,000	0	0	10,000	10,000	5,000	10,000	355,000
35	小倉	2,493	1,175,000	500,000	1,425,000	53,620	99,784	82,347	80,772	56,926	102,553	29,351	85,257	3,690,610
36	黒崎	1,363	600,000	360,000	0	59,200	65,600	61,000	73,000	80,100	65,000	62,200	47,000	1,473,100
37	水巻	592	200,000	173,950	0	28,872	28,582	30,626	40,200	39,000	31,400	23,361	32,807	628,798
38	門司	376	323,000	210,000	100,000	20,000	17,000	11,000	14,000	23,000	24,000	18,000	12,000	772,000
39	門司港	142	100,000	50,000	0	14,700	14,074	10,726	18,085	14,667	21,539	0	13,447	257,238
40	直方	109	132,600	127,000	0	8,210	40,000	11,890	17,750	7,100	5,869	14,600	16,730	381,749
41	新田原	1,793	1,100,000	500,000	0	46,827	48,312	42,689	40,487	34,540	44,500	18,290	35,421	1,911,066
42	田川	144	46,390	28,500	0	10,000	10,000	0	10,000	6,000	20,830	5,000	2,670	139,390
43	天神町	307	374,400	53,700	0	22,000	25,000	29,210	42,150	53,885	23,000	10,400	15,000	648,745
44	戸畑	784	752,500	676,801	1,813,995	51,026	63,062	58,468	26,584	60,193	33,238	25,520	27,068	3,588,455
45	若松	331	0	80,000	742,140	7,500	9,700	11,000	8,300	7,600	14,500	10,000	13,500	904,240
46	湯川	1,131	664,232	200,000	434,250	44,780	36,023	22,107	28,257	23,192	32,275	25,015	27,473	1,537,604
47	行橋	520	157,000	120,000	852,000	16,595	9,875	15,423	16,606	14,997	19,209	10,230	16,062	1,247,997
48	荒尾	130	159,000	90,000	0	12,500	12,000	10,650	7,500	13,200	11,600	7,000	10,000	333,450
49	人吉	207	273,623	162,500	0	9,590	17,180	13,300	18,750	13,930	17,365	8,000	9,670	543,908
50	本渡	65	150,000	20,000	0	6,235	9,985	5,070	11,560	5,000	11,040	0	7,513	226,403
51	健軍	473	354,000	100,000	0	17,000	20,000	20,000	30,000	17,000	31,149	20,000	15,000	624,149
52	菊池	71	108,800	7,500	0	7,000	7,000	7,000	7,000	14,500	7,000	7,000	7,000	179,800
53	水俣	116	156,700	92,500	0	6,500	6,500	6,500	6,500	6,500	35,000	6,500	0	323,200
54	帯山	419	415,000	75,000	0	8,200	8,756	6,975	9,330	8,175	12,120	8,500	8,151	560,207
55	大江	358	232,698	71,040	0	14,000	16,630	15,000	15,530	15,000	18,000	10,000	15,621	423,519
56	崎津	308	250,000	100,000	0	19,240	24,200	25,000	0	21,000	27,000	7,365	10,700	484,505
57	島崎	354	0	160,000	0	35,000	29,000	38,000	39,000	45,000	48,500	23,277	20,000	437,777
58	玉名	109	80,000	91,321	0	15,000	20,500	11,000	11,000	15,000	10,000	8,640	10,000	272,461
59	手取	1,089	1,312,000	480,000	0	103,000	150,500	101,900	54,500	306,000	103,800	76,832	55,000	2,743,532
60	八代	269	100,000	30,000	0	13,000	9,500	11,000	12,000	9,000	18,000	0	0	202,500
61	武蔵ケ丘	360	250,000	293,437	0	19,750	22,500	14,100	18,300	22,600	0	0	0	640,687
	合計	27,736	21,096,861	12,465,563	10,820,085	1,374,035	1,724,540	1,459,913	1,641,457	1,893,554	1,780,387	951,496	1,212,541	56,420,432

イスラエル研修旅行記 ①

出エジプトの舞台にて

森山　信三（大名町教会司祭）

今夏、多くの方々のご厚意により、『聖地イスラエル三十日間聖書セミナー』に参加する機会を得た。いわゆる「巡礼」と呼ばれるものとは少し趣の異なる旅であった。

構成メンバーは、司祭が七名、修道者十二名、そして二十数名の信徒の方、それに三名の聖書学者が同行した。

第一週目は「出エジプトから約束の地へ」、第二週は「ダビデ王からメシア待望」、そして第三週目は「イエス・キリストの時代」と三期に分けられ、それぞれ各週を聖書の専門家が担当し、講義してくださり、私たちはそのかたわら旅をするという具合であった。

今回はその第一週目、シナイ山の方面に行ったときのことを少し書きたいと思う。

エルサレムを出て、バスでシナイ半島を南下する。次第に、沙漠というより荒野が広がってくる。目に入ってくるものは、いけどもいけども灼熱の太陽の光、岩、石ころばかり。イスラエル人が、エジプトを脱出し、四十年間さまよった地は、このような地であったのかと感慨深いものがあった。

生か死か、全か無か、あるいは絶対か相対か、一か多か、荒野の真只中に立たされる時、人はこの選択を迫られる気がするのである。

シナイ山のふもとでラクダに乗って楽だ

参加者の一人が言った。「私たちは、大変な神さまを信じているのネ」。私も同感であった。妥協がない。妥協がゆるされないのである。この風土の中に生きる人々と同じ神さまを信じているといっても、春夏秋冬、豊かな自然の中に生きる我々とはおのずとその信仰のあり方も異なってくるのであろう。

では同じ一つの信仰とは……と考えているうちにエイラット港に到着した。ここは、神の民イスラエルが海の乾いたところを渡ったと言われる紅海の一部である。海の色は空よりも青かった。

国境を越えてエジプトに入った。シナイ半島の大部分はエジプト領である。シナイへの道は果てしなく続く。

イスラエル人は、エジプトを出て、カナンへ入ったが、私たちは、カナンを出てエジプトに入った。

彼らは荒野に放たれて、食物が豊富なエジプトの方がよかった、とつぶやいた。私たちは、ビールやワインのあるイスラエルの方がよかったとつぶやいた。（イスラム教徒は、原則的にアルコールを飲まない）。

エルサレムを出て、二日目にシナイ山に到着。山といっても、木は一本もない岩山。十戒を刻んだ石の板が、そのあたりに落ちていそうである。

今日は、ここで一泊し、明日は午前二時に起きて、シナイ山にのぼる。

御受難会士による黙想会へどうぞ！

① 10月28日（土）～29日（日）　② 11日17日（金）～19日（日）
③ 11月25日（土）～26日（日）　④ 12月2日（土）～3日（日）
⑤ 12月9日（土）～10日（日）　⑥ 12月16日（土）～17日（日）

※いずれも夕食（18：00）からです。御問い合わせ、御申込みは下記へ

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎ 0940(32)3222

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 096—352—3306
096—352—8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

侍者の子供たちが研修

ミサの精神、心構えを学習

福岡小神学校

夕食のバーベキュー大会は他教会の子供たちとの交流にも役立ち大好評

日頃、小教区のミサで侍者をつとめる子供たちを対象にした福岡教区はじめての研修会が、七月二十六日から二十八日にかけて、福岡小神学校で開催された。

福岡市内はもとより、北九州など遠方の小教区から五十九名の元気な子供たちが参加して、よく遊びそしてよく学び、祈った。

この集いは、典礼委員会（委員長松井忠之師）と召命促進委員会（委員長山川辰幸師）の共催によるもので、松井神父の指導のもと福岡小神学校の神学生八名が生活を共にして手伝った。

子供たちは、侍者の心構えやミサについて松井神父の話を聞いたり、日頃はあまりしなくなったロザリオ、十字架の道行きなど豊富な内容をこなした。なかでも、平田司教の話の後の質疑の時間では、子供たちの目も一段と輝いていた。

また、前庭に張られた色とりどりのテント生活も好評だった。食事は姉妹会のシスター方が準備したが、夕食にはバーベキューのメニューもあり、慣れない手付きながらも、嬉しそうな顔が印象に残った。

子供たちが書いた感想文のなかには、「司祭になりたい」という決心の言葉もあり、主催者を喜ばせた。

研修会を手伝った小神学校の中間草太君は、「三月から内容やプログラムについてみんなで相談しながら準備をしてきました。催しもの一つするにしても、長い準備と計画が必要なことを体験できたのはとてもよかった」と話していた。

修道女百歳、現役です

清貧を生きる人

Sr. マリア・ゲルビザ

（マリアの宣教者フランシスコ修道会　熊本第一修道院）

シスター・マリア・ゲルビザ（本名ショネンベルゲ）は一八八九年十月にドイツで十三人の兄弟姉妹の間に誕生。

一九一三年に初誓願を立てて来日。札幌を皮切りに熊本の待労院で主に看護婦としてハンセン氏病患者のために奉仕した。

貧しかった日本で、地域の人のために、特製の軟膏を調合して喜ばれていた。

「苦しいことは忘れました」「私の国は天国です」と語るシスターは、百歳を迎える今も、身の回りのことは自分でこなし、端切れで雑巾や小物を作ることもできる。

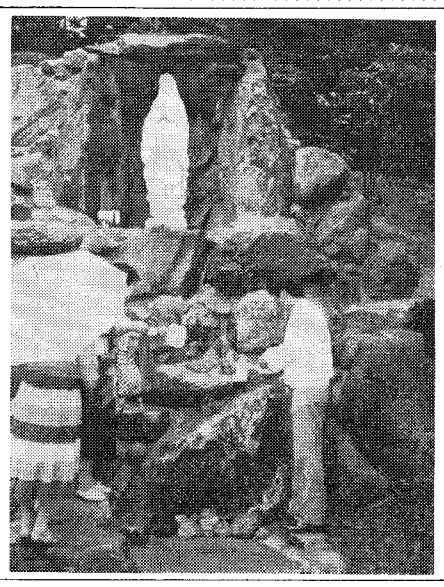
毎日のミサにあずかり、三十分の礼拝を欠かさない日々の生活には、フランシスコの精神が脈々と生きている。

福岡黙想の家

待望のルルド完成

三百人が参列してミサ

毎月九日にロザリオの集い計画



さっそくルルドの水をくむ参加者

四月、宗像市にオープンした福岡黙想の家・修道院下の谷に、ルルドが築かれ、七月九日（日）平田三郎司教の手で祝別された。

洞内には石の祭壇も置かれており、雨天にもかかわらず集まった約三百名の人々とともに、はじめてのミサが荘厳に捧げられた。

司教は、参列者を前にルルドの聖母への信心を力説し「この地が祈りの場所となるように」との期待を述べた。

ルルドは、鵜野泰年神父（大楠教会）の熱意によるもので、同神父製作の等身大の聖母像が安置されている。

水は地下水を使っているが、思うように水が出ず苦労もあった。毎日のように現場に通っていた関係者の目の前に、遂に冷たいきれいな水が湧き溢れた時には、一同大喜びであった。

祝別ミサには黙想の家の近隣の人々も訪れ、宗像パパさんコーラスや福岡のスコラアウグスチナ聖歌隊の歌に耳を傾けていた。

また、三井郡北野町にある社会福祉施設、北野学園からも大型バスで多くの巡礼者が駆け付け、ともにロザリオの祈りを捧げた。

ルルド前は小さな広場になっており、ベンチが置かれ、静かに祈ることができる。また多くの人々が訪れ、冷たい水で喉をうるおし、木陰でひとときの涼をとることができるようになっている。

黙想の家では、三万四千坪の庭内を巡る十字架の道行きの整備も進められ、やがてこのルルド野外礼拝所と道で結ばれる。

福岡黙想の家の宝であるこのルルドで、鵜野神父は、毎月九日をルルドの日と決めて、「信徒とともにロザリオを繰り、洞のまわりの草むしりに汗を流す」ひとときを計画している。

8月15日

平和を建設する集い

親子で話題に

正義と平和委員会はプロテスタント各派との共催で、八月十五日カテドラルで「平和を建設する集い」を開いた。

今回は、映画上映と平和を大切にしてゆくアピールに続き、反戦と平和への望みを託して行進を行った。当日の参加者百五十名のうちには、アニメ映画「かんからさんしん」上映ということもあり、家族連れの姿が目立った。

戦争の非人道的な姿を描いた「かんからさんしん」は、戦争当時の沖縄の子供たちの命を大切に守り抜いて生きてゆく姿を描いたもので、見る者に感動を与えた。

「平和を建設する集い」主催者は、「映画『かんからさんしん』の子供たちの生きてゆく姿を通して、親と子が日常生活の中で、平和への思いを身近に話せるものとして提供出来たのではないか」と語った。

笹丘教会で初の試み

『カトリック新聞』の普及キャンペーン実施

久保営業部長を招いて

笹丘教会では『カトリック新聞』営業部長の久保清一郎氏を招き、七月二十三日、カトリック新聞普及キャンペーンを実施した。

これは六月の司祭の集まりで、同氏の「カトリック新聞の現状」についての話を聞いた主任司祭の赤倉稔師が、さっそく協力を申し出たものである。赤倉師は小教区でのキャンペーン実施のために約一か月の準備期間として、説教壇からの呼びかけや毎週の「お知らせ」に掲載するなど啓蒙してきた。

久保氏は二十二日夜と当日二回のミサ後に購読部数や経営状態など現状を説明。信者会の集会でも、意見の交換やキャンペーンのための普及員委嘱の件など具体的な協力要請をした。こうして新規申込者は四十五名に達した。

信徒の中には、「転勤のためそのまま途切れてしまった」「購読料の納入を忘れてしまった」という声も聞かれ、普及員によるアフターケアの必要が感じられた。

聖アウグスチノ祭

近隣の司祭、修道女と和やかパーティー

聖アウグスチノを祝う「アウグスチノ祭」が、八月二十八日、笹丘教会（主任赤倉稔師）で行われた。

午後五時三十分から行われたミサには二十名の司祭たちや多数の修道女、信徒らが参列し、司式の平田司教の説教を聞きながら、偉大なるヒッポの司教聖アウグスチノの生涯を思いおこした。

ミサ終了後、同教会の庭には、電灯がともされ、参加者全員が婦人会手づくりの料理をいただき、遅くまで歓談が続いた。

糸島郡志摩町に来年中に新教会

西新教会で支援の輪

糸島郡志摩町で教会建設が進んでいる。現在、敷地の造成が行われ、来年中には新しい教会堂が完成する見通しとなっている。

同地域の信者たちは完成の日を首を長くして待っているという。

山元神父の ワンポイント教会法

幼児洗礼 (2)

洗礼はいつでも授けることができるのでしょうか。

教会法では次のように規定されています。

「洗礼は、いかなる日にも執行することができる。ただし、通常は主日、または可能な場合には、復活徹夜祭に執行することが勧められる。」（第八五六条）

洗礼は罪への死と新しい生命の誕生（復活）を意味しているので、キリストの死と復活の秘儀の再現である主日のミサの中で授けられることが強くすすめられています。できれば、復活秘儀そのものを記念する復活徹夜祭に行われればより理想的です。

以前は、洗礼による原罪の赦しがあまりにも強調されたため、幼児は誕生後できるだけ早く（一刻も早く、と言った方がより正確）洗礼が授けられるように定められていました。しかし今は、洗礼がもつ共同体的（教会的）性格が理解されるにつけ、日曜日のミサの中で、その小教区の信者の中で授けられるようになりました。こうして、洗礼が単に当人自身の喜びとしてだけではなく、教会の喜びとして受けとられるようになったのです。

ですから、かつてのように、母親が産後でまだ休んでいるうちに、父親と代父母、その他家族のメンバーだけで洗礼式を執り行うことは、今では例外になっています。

母親の快復を待ち、両親も代父母も家族のメンバーも、そして教会共同体も、新しい兄弟を迎える準備ができてから、洗礼式は執り行われるべきです。

次のような規定もあります。（第八六七条第一項）

「両親は、幼児が誕生後数週間以内に洗礼を授けられるよう配慮する義務を有する。両親は幼児の誕生後できるだけ速やかに、または誕生以前にも、子女のために秘跡を願い、そのふさわしい準備をするために主任司祭のもとに赴かなければならない。」

（小倉教会）

BOOK 読みま専科

☆約束の地をめざして

M・L・キングと公民権運動

梶原　寿著

国際化の時代を迎えて、世界的宗教としてのキリスト教の果たす役割は大きい。そのなかで、殊に近代史におけるキリスト教のあり方については種々の問題はあるとしても、真理の泉は枯れることなく、こんこんと湧き出しては流れ続けていた。その一つの流れを、著者はM・L・キングのキリスト教理解に見出せるように思えてならない、と語る。

（新教出版社　二、一〇〇円）

☆あなたたちを友と呼ぶ

―ガイドブック―

女子パウロ会・編

このガイドブックは、今年はじめに出版された中学生以上若者向けの信仰教育書『あなたたちを友と呼ぶ』を使って学ばれる方のために、分かりやすく要点を提示した手引き書。

年間33回ぐらいのクラスを持つとして、三年間のクラス編成ができるように考案されているが、指導者のイニシアティブを大切にしている。

付録として、キリストの救いの秘義をより深く生きるため、典礼にそったカリキュラムも掲載されている。

（女子パウロ会教理研究部　三〇〇円）

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092―761―8800
代表取締役マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092―711―0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石 石 他
理 影 の
大 御 そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

十月の行事
※ゴチックは司教日程

1日　高宮教会堅信式
大名町教会バザー
4～8日　国際聖体大会（韓国）
7～8日　福岡教区青年球技大会（大牟田明光学園）
9～13日　教区邦人司祭黙想会（福岡黙想の家）
15日　幼きイエズス修道会熊本宣教百周年記念式典
午後1時
22日　馬渡島教会堅信式
筑後地区教会スポーツ大会（大刀洗町）
午前9時
フォルティチ司教（フィリピン）講演会（カテドラル・センター）
午後1時30分
29日　水俣教会堅信式
福岡地区信徒協（カテドラル・センター）
午後1時30分
11月3日　召命の集い（サン・スルピス大神学院）

福岡黙想の家

4日　女子パウロ会静修
5～6日　在世フランシスコ会黙想会
9～13日　教区司祭黙想会
14～15日　泰星高校父母の会
16～20日　パリ外国宣教会黙想会
22～28日　サレジオ会黙想会
28～29日　御受難会士による黙想会

『福音を生きる……学びと分かち合い』

毎月第一、第三火曜日の午後七時三十分から九時まで、「野宿生活者を考える会」の例会を行っています。
場所は福岡カテドラル・センターです。

太田道子女史を囲む聖書の集い

10月3日午後7時よりカテドラルにおいて
聖書における正義と平和の問題を考えます。

教区カトリック教職員のつどい

第二回「カトリック教職員の集い」を十一月十九日に司教館で開催します。
公・私立学校で働いていらっしゃる皆さまどうぞお集まり下さい。
連絡・問い合わせは泰星学園の草野神父まで
☎092-751-2465

教区神学講座延期のお知らせ

教区神学講座は、新生をはかるため目下準備中です。
開講までしばらくお待ち下さいますようお願いいたします。

福岡教区青年球技大会
ファイトー発!!
イエスさまにトライ

日時　一九八九年十月七日（土）・八日（日）
場所　明光学園（大牟田）
競技種目　ソフトボール、ドッチボール、ミニバレーボール
参加費　千五百円（土・日参加者）
五百円（日曜のみ）
問合せ　青木悟神父（手取教会）☎096-352-3030
吉浦健次氏（鳥栖教会）☎0942-96-3015

ふれあいハイキング
—能古島祈りの探索—

10月22日【日】午前10：30
姪の浜集合
午後4：30
解散

弁当持参
費用　実費
申込み先　松井忠之神父
福岡小神学校
☎982-531-6821
主催　召命を共に祈る会

野宿生活者を考える会例会

日時　10月15日（日）
午後2時から4時半
会場　福岡カテドラル・センター
講師　Z・イェール神父（サン・スルピス大神学院教授）
主催　福岡地区信徒協（福音宣教部会）

『みーかけ』

みな、ちがう！

徳山　登

小学三年生の作文に次のものがありました。「みな、ちがう。みんなの顔をみていると、鼻の穴も、かみの毛の色も、みな、ちがう。そして、名前もひとりずつ、ちがう。わたしと同じ人はだあれもいない。どうして、みなちがうのか、ふしぎに思える。」

この子は大切な現実を悟り、驚いたのです。人は成長過程での文化や教育、生活環境の違いによっても、人の考え方や行動は違ってきます。最近、《多様性》という言葉をよく耳にします。それは《多様性》が混乱に導くものでなく、より豊かな人間関係を生み出すものであることに気づいたからでしょう。

人格の尊厳が叫ばれる今日、先の子供のように、お互いの違いを認め、尊重する習慣を身につけることが大切だと思います。例えば政治や宗教において同じ意見や同じ感じ方を期待するのは無理なことであり、また理想的なことでもありません。個人として、また団体として「真理を所有している」と思いこみ、他の人々の主張や思想を全面的に排斥することはどうも納得できません。むしろ恥ずべきことだと思います。どんな堕落した人の中にもよいものがあり、社会にとって、いらない人間はひとりもいないはずです。聖パウロの愛の賛歌の中の「愛はすべてを信じる」とはすべてを受け入れるという意味ではないでしょうか。自分と違った判断や行動を取る人々を理解しようと努めるだけでなく、尊重することが大切です。ところがこれはたいへん難しいのです。

朝禱会というエクメニカルな集会が全国的に広がっています。参加者は主としてカトリックとプロテスタントの信者です。教義上の違いはありますが一つの心で祈ることは励みであり、力を感じます。違う点の一つに祈り方があります。カトリックは既定の祈禱書で祈り、プロテスタントの人々は霊感に従い、その時心にわきあがった言葉で祈ります。カトリック信者のある者は、神に向かい、自分の言葉でペラペラ語る兄弟にびっくりし、とまどいをさえ覚えました。ついて行けないとこなくなった信者もいます。

熊本での朝禱会で会った堀原のおじいちゃんは「プロテスタントの祈りはペラペラ、それに対してカトリックの信者はピリピリ」と笑いながらユーモアのうちに受け入れていらっしゃいました。

人の立場や癖に気を留めず、受け入れるには広い心と知恵が必要です。

キリスト信者はどんな人の中にもキリストの姿を見るように要請されます。しかしこれも難しいのです。

聖ドン・ボスコがフランス旅行中、パリでの一週間の宿のため、ある司祭館の戸をたたきました。彼を見た主任司祭は半信半疑で、四階の屋根裏に泊めました。後に、ドン・ボスコ列聖の調査の際、この主任司祭は証言を求められました。「あの司祭が聖人とわかっていれば、いちばんよい部屋にお泊めしましたのに」。

願わくは現教皇に倣い、差別することなくすべての人に開いた心を表すことができますように。すべての人の中に働かれる聖霊を礼拝できますように。

佐世保での仕事の帰途、混んだJRの車中、三十過ぎの男の方が十字架のバッジをつけたカトリック司祭の私に席を譲ってくださいました。その方は仏教の坊さんでした。私は彼の親切な態度に感動し、この出会いに象徴的な確信を感じとりました。仏教との交流の大切さとその可能性を！

《聖徒の交わり》の効力により、私たちみながら、すべてを共有できるのです。この豊かさに感嘆し、感謝しましょう。

（パリ外国宣教会司祭　八王寺教会）

福岡市民クリスマス

福岡教区信仰教育委員会
委員長　山元真神父

十二月二十五日（月）午後六時十五分より「福岡市民クリスマス」が開催されます。
この集いはカトリック・プロテスタント合同の集いです。現在、合同で準備が進められています。
集いの成功のため、皆さまのお祈りとご支援をよろしくお願いいたします。

十月命日の司祭

＊ジャン・バプチスト・ドラビ師（パリ外国宣教会）一九六七年十月二十三日元黒崎教会主任
＊エミール・ラゲ師（パリ外国宣教会）一九二九年十月三日福岡司教館
＊ジュリオ・ベルトラン師（パリ外国宣教会）一九八七年十月二十七日元門司教会主任

アンナ三村八重子さん

三村邦明師（久留米教会）の母堂で享年八十八歳。九月二日、広島県幟町教会で葬儀告別式が執り行われた。

アントニオ中村俊助氏

中村道生師（生野教会）の厳父で享年七十七歳。

死ぬ時節には死ぬがよく候

良寛

森山　敬三

『良寛書簡集』に所収。これは文政十一年十一月十二日に未曽有の大地震があって、山田杜皐（とこう）より見舞状を受けての返書の一節である。彼はいつも、ありのまま、自然であった。それは、天地万物をわが兄弟姉妹と呼んだアシジの聖フランシスコに、似通うところであった。彼は道元に私淑した。「読永平録」という漢詩の中で『正法眼蔵』を一句一言皆珠玉とたたえ、五百年来塵埃にうずもれて、誰一人顧みる者がなかったことを歎き、涙を流した、隣の老人が来て、どうしてこの本は濡れているのか、と尋ねられ、恥ずかしくて、雨漏りのためですと答えた、とある。この眼力は詩、書、和歌にも及び、その専門家も彼の高韻には達しない。要は人間の問題で、彼にとっては、そのような伎倆はどうでもよかった。そこにこそ、彼の面目があった。

編集室から

▽お久しぶりです。夏休みを利用して、旅をしました。その時の話はおいおいしていきたいと思っています。それにしても『旅する教会』どなたが命名したか知りませんがいい言葉ですね。
▽数ある旅の中でも、聖地イスラエルへの旅は最高です。
この夏、森山信三師が聖地へ一カ月間研修旅行に行かれましたので、さっそく報告を書いていただきました。三回の予定です。どうぞご期待ください。
▽皆さま方からの投稿をお待ちしています。旅の話、家庭や教会のこと、疑問、質問なんでも結構です。六百字程度でお願いします。（W）

子どもの目にうつった戦争展Ⅱ
アウシュヴィッツ展
—コルベ神父展—　同時開催
とき　10月10日（火）～18日（水）
ところ　福岡県立美術館
連絡先　とうか書房
☎092-713-9815

中央出版　福岡支部
■キリスト教関係、書籍、家庭の友
■典礼聖具
■ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17—10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092—552—8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—24
TEL　093—771—3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2—0646
行橋市駅前5秒店　☎2—2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641—4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641—7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922—5637

未来へ——安心を創る
FUJIKI **藤木工務店**
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

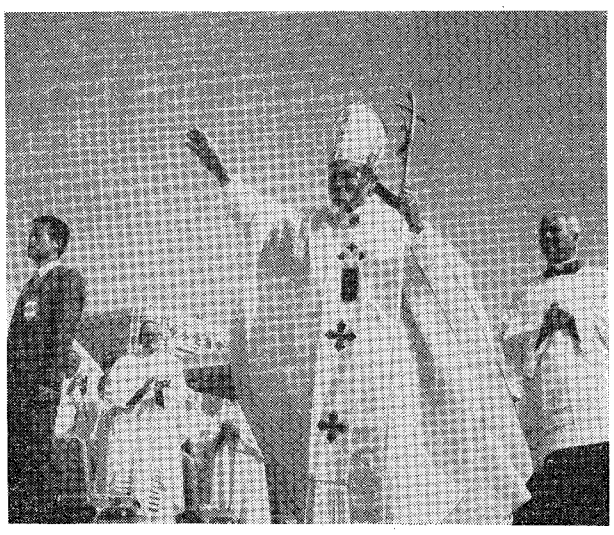
吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092—521—0568

カトリック福岡教区報

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

ソウルで国際聖体大会
教皇と共に平和を祈る
福岡教区から70人の巡礼団

韓国


ミサの前に群衆の歓呼に応える教皇ヨハネ・パウロII世

「キリスト、私たちの平和」をテーマに、第四十四回国際聖体大会が韓国の首都ソウルで十月五日から八日まで開催された。

日本からの公式巡礼団は福岡教区の七十名を含めて約七百名。福岡、大阪、東京の各空港から前日の四日午後ソウルに到着した巡礼団は、早速殉教地として名高い切頭山（チョルトゥサン）を訪れ、グループごとに殉教者を偲んでミサを捧げた。

翌五日午前にデチドン教会で行われたオリエンテーションでは同教会の主任司祭から「日本の教会と韓国の教会が一致し、分かち合えるようになることを期待します」と歓迎の言葉があった。

午後からはオリンピック体育館での開会ミサ・式典に参加。終了後、外国からの巡礼団数千人は二人ひと組で全員韓国人信者の家庭に招待され、出エジプトの出来事を思い起こす儀式と祈りによって成る会食の夕べを過ごした。

大会のクライマックスは、最終日の八日午前十時三十分から行われた教皇主司式の荘厳ミサ。会場のヨイド広場には、午前六時には参列者がぞくぞく集まり始め、百万人大集会となった。

二百人の司教、二千人を数える司祭たちの入堂のあと、教皇ヨハネ・パウロ二世が到着、会場は興奮に包まれた。

教皇は、ミサ中の説教で韓国の殉教者たちを称賛したあと、「聖母マリアをはじめとする聖徒の交わりの深い源はご聖体である」と強調した。

また現代社会にはさまざまな分裂が存在するが、「韓国は分かたれた民のシンボル」であり、この地で聖体大会を催すのは、「ご聖体が真の平和のシンボルであり、回心をうながし一致をもたらす秘跡であるから」と述べて、平和のための熱い祈りを捧げた。

早速、オリエンテーション、レクレーションで親睦を深めた後、聖体賛美式を行った。

翌八日朝九時からミサ、十時半に球技大会を開始、午後四時に終了解散した。

球技大会では、ソフトボール、ミニバレーボール、ドッヂボールなどの種目で楽しい時を過ごした。

今大会を振り返って、参加した一人の司祭は「青年同士また青年と司祭たちの互いの交流、出会いの場としての役割を十分に果たせたと思う。この集まりが今後の交流のステップとなり、青年たちが力を合わせ福岡教区の中で、若い力を発揮してゆくことが出来るよう、期待と希望を抱いている」と語っている。

来年度の教区行事に
カトリックフェスティバル
開催に向け企画運営委員会設置

一九九〇年度教区行事として、司祭評ならびに司牧評から承認されていた「カトリックフェスティバル」（仮称）の第一回企画運営会議が十月十五日（日）午後、司教館で開催された。

会議には先月号本紙で発表されていた司牧評の常任委員、各種委員会代表、各地区信徒協代表、婦人代表、5ブロックの青年会長等十八名が出席。経過報告に続いて名称、会場、日時を審議した。

まず名称「カトリックフェスティバル」を採択。会場は北九州市戸畑区の明治学園、日時は一九九〇年十一月十一日（日）と決定、明治学園に協力を要請することになった。フェスティバルの内容では、各代表から思い思いに希望が出された。バザー、講演、スポーツ大会、音楽祭、映写会、展示会などの声があったが、「一人一人が行って良かったと思える集会」「子供連れで近所の人もさそって集まれるものに」との認識で一致した。

今後の取り組みとして企画運営委員会委員長に教区事務局長の渡辺隆義師を選出。次回の委員会を来年一月七日（日）とした。

申し合わせとして各代表は第一回の決定や審議をふまえて次回までに各団体が参加出来るかどうか、どのような形の参加を希望するかを各々話し合って来ることとした。

また、早急に司教の「趣意書」をという希望が出され委員長を通してお願いすることになった。

教区信徒協から出された「一万人が集まる信徒大会を」という声が教区共同体への帰属意識と社会へ信徒の意気込みを感じさせる。全教区民一丸となって来年の十一月十一日を準備していくプロセスを大切にしてゆきたい。

今月のみことば

いつも喜んでいなさい　絶えず祈りなさい　どんなことにも感謝しなさい
（1テサ5・17～18）
八代教会　中浜一男神父

若さが爆発!!
青年球技大会で熱戦
交流、出会いの役割果たす

楽しくスポーツに心と体の汗をかいて、ハイポーズ

「ファイト一発／イエスさまにトライ」と福岡教区青年委員会が教区青年球技大会を十月七日（土）と八日（日）の両日、大牟田市にある明光学園で開催した。

当日は、教区の各ブロックから約百名、そして長崎からも十数名の青年たちが特別参加し、若さ溢れる集いとなった。

今年の大会は主に筑後ブロックが準備にあたり、小教区を越えた青年たちの親睦、交流、活性化と互いの信仰の啓発をはかった。

青年たちは、七日の夕方には会場となった明光学園に集合。

広報担当者全国会議
愛される教会づくり
広報活動の役割認識

「広報とは何か」を学ぶ教区広報担当者全国会議が、中央協議会広報部の主催で、九月二十六日から二十八日までカテドラルセンターで開催された。

当日は、十三教区からのべ三十人が参加。講師に招かれた広告代理店・博報堂の高嶋哲夫氏は、「教会広報の役割は〝教会のよさ〟を売り込むこと」であり、愛される教会づくりの一翼をになう広報紙の役割を強調した。

分科会では、広報に対する認識が教会内ではまだ不十分との指摘があり、今後の啓蒙活動が必要であるとの意見が多く出された。

今回は、地元での開催ということもあって、小倉、笹丘教会など小教区で広報活動している人たちと共に、聖パウロ会のシスター5十五人も参加したが、参加者は一様に「小教区での広報活動の重大さを知らされたと同時にたくさんのヒントを得ることができた」と喜んでいた。

教区広報委員長の渡辺隆義師は「宣教とは言葉をかえて言えば広報であり、時代に即応した福音の宣教（広報）の効果的あり方を今後もみなさんと一緒に考えていきたい」と語っている。

斎藤さんに委嘱状を手渡す主任の中浜師

『カトリック新聞』
普及員第一号に
八代の斎藤さん

八代教会

全国紙『カトリック新聞』の購読者数の増加を目指す「普及員」委嘱制度がさきの司祭評議会で承認されたが、その第1号として八代教会（主任中浜一男師）の斎藤聖子さんに、十月一日、委嘱状が手渡された。

主任の中浜師は、「信者にとって『カトリック新聞』は日本ならびに世界の教会と共に生きるために不可欠です」と話した。

また八代教会は、来年四月三十日に宣教百周年を祝う予定で、そのための準備が進んでいる。

毎日曜日ミサ後には、百周年の祈りと召命のための祈りが唱えられているほか、司祭と信徒、信徒間の交流にも力を入れている。

とくに、八代における殉教者の記念碑と記念誌の建立、作成のために募金活動を行い協力を求めている。

時の話題
人差指は何を差しているか

吉来生熊

マキシム神父の出入国管理法違反による収監の衝撃は、日本のカトリック教会を稲妻のように走った。指紋押捺拒否を理由にビザの更新が許可されず、そのまま日本に留まっていたので不法在留として罰金を課されたが、神父は敢えてその支払を拒絶した。これが収監の理由である。認識の正確を期するためには詳細な法律的説明が必要であるがここではただ、この事件が持つ意味について考えてみたい。

皇民教育や創氏改名などによる民族抹殺政策。徴用と強制連行による炭坑・鉱山・港湾等のつらい危険な労働。敗戦時に植民地支配の犠牲者として日本にいた朝鮮人は二〇〇万人。そのうちの五〇万人は諸般の事情によって故国に帰れず、日本への残留を余儀なくされた。彼らはサンフランシスコ平和条約以後、日本国籍を剥奪されて「外国人」とみなされ、外登法と入管法の適用を受けるようになった。銭湯に行くにも外国人登録証を携行、一六歳になったら指紋押捺が義務づけられた。在日韓国・朝鮮人に対する日本の二重三重の加害行為を、マキシム神父は牢に下ることによって告発したのである。足を踏まれている者は踏んでいる者よりも鋭敏である。神父の入牢はまた、差別に傷ついた心に鈍感な日本人、とりわけ、カトリック信者に向かって警鐘を鳴らしているのである。

フランスに「愚者は指さしている月を見ないで指を見る」という諺があるが、在日韓国・朝鮮人のあいだに拡がりつつある指紋押捺拒否運動が何を意味しているか、考えてみる必要がある。それは在日韓国・朝鮮人のすべての問題の象徴である。秩序と治安の維持に必要と云うなら、それは犯罪者扱いではないか。なぜ日本人にはその義務がなく外国人だけにあるのか。外国人の八割は韓国・朝鮮人である。

『外国人宣教師は日本を憎んでいるのではない。愛するからこそ屈辱とその制度化にゆがんだ日本の社会を福音的に改めようとしているのである。すべての民族がその独自性を認められつつ同じ市民権を持って共住する社会をつくりましょうと、在日韓国・朝鮮人は日本人に呼びかけている。それはラブコールであり、宣教師もそれに唱和しているのである。

（カトリック社会研究員　西新教会所属）

みちくさ

教皇ヨハネ・パウロ二世を迎えたソウルのヨイド広場には「万歳（マンサイ）、万歳（マンサイ）」の歓呼の声がこだましていた。四日間にわたる国際聖体大会の最後を飾る教皇ミサには実に百万人近い信者たちが参集したのである。日本からの公式巡礼団は皆、韓国のカトリック教会の躍進に目を見張っていた。そして誰もがこの大躍進の秘密を知りたいと思っていた▼数年前に渡韓しいくつかの教会を訪ねたとき、人々は信徒数二百万人を目指していた。しかし今、目標は三百万と話している。司祭一人当りの信徒数約千五百人、単純な比較は危険だが福岡教区は三百人。その差はますます開きつつある▼韓国の教会の躍進の原因の一つに社会的要因を上げる人は多い。それは確かに当を得ていると思う。南北の分断、社会（政情）不安と抑圧の中で、人々は不動の真理を、開放を求める。韓国のカトリック教会の指導者たちは、この民衆の切実な望みにキリストの福音の光を掲げ、自らの生命をかけて福音の真理を叫び続けていた▼実際、反政府、反国家のレッテルを貼られて刑務所に入れられた信徒たちは、自分たちの牧者も「世に対する逆らいの印」の罪で囚われているのを見て勇気づけられた。「聖職者が自分たちを生命をかけて守ってくれた」。この言葉を何人もの人から聞いた。韓国の教会の聖職者が自己保身の罠に落ち込まない限り、韓国の教会は、これからも伸張していくと見た▼ひるがえって、日本の社会で生きる聖職者の一人として自分を冷静に見つめると、物質的豊かさを享受するために、社会の権力者の前では沈黙し、弱い立場にある信者や同僚に対して高圧的に振舞い、世の中の小さな人々の存在にさえ気づかない生活をしている自分が見えてくる。キリストと共に貧しい人、病人、抑圧、無視されている人の側に立つとき、日本の教会が活きてくる。

「死の哲学」の専門家として著名なアルフォンス・デーケン神父の講演会は、九月三十日午後から、カテドラル・センターに超満員の聴衆を集めて行われたが、講演に先だち、福岡カルメル会でデーケン師に「老いと死」の問題でインタビューを行った。同師の言葉には、日本のカトリック教会で立ち遅れている感のあるホスピス（終末期医療）に対するなみなみならぬ熱意を感じた。

（文責　編集部）

A・デーケン師

デーケン師に聞く（前）

ホスピスにもっと関心を

大切な〝老い〟と〝死〟の準備教育

大変お忙しい中、インタビューに応じていただきありがとうございます。

時間に制約がございますので早速ご質問に移らせていただきます。

〝老い〟とか〝死〟の問題がすごくクローズアップされたのは、最近みたいな感じがしますが、その社会的背景はどこからきているのでしょうか

日本人の平均寿命は、今世界一になったので、〝老い〟は日本の社会では、大きなテーマになってきました。

そのために〝老い〟すなわち、第三の人生に関していろんなことが研究され始めました。社会的問題とか、経済的問題とか、あるいは健康とか……。けれどもごく最近まで、一番無視されたテーマは〝老い〟と〝死〟だったと思います。お年寄りの方の一〇〇パーセントは、遅かれ早かれ身近な人の死を体験するのにね。

私たちは、どちらかが、先に身近な人を失います。そして遅かれ早かれ自分自身も死に直面しなければならないのです。

また最近は、夫婦が二人とも自宅で死を迎えるという幸せなケースは少なくなりましたね。ですから、〝老い〟、第三の人生において、一つのどうしても避けられないテーマは、身近な人の死と自分自身の死ですね。そういう意味で私はとくに、老人問題の中でこのテーマを選びました。そして今、具体的な死への準備教育を提唱しています。

日本の教育のレベルは、国際的に見ても非常に高く、みんないろんな試験のために準備し、教育を受けますが、人生において一番難しい、そして一番苦しい試練は、本当は〝死〟のことですね。

でも、そのことのために今、いっさい教育がなされていないということは不思議なことだと思います。

カトリックの伝統では、いわゆる死の芸術、アート　ダイ……もともとラテン語アルスモルエンディ……はとても重視されました。ある意味で私は、今のカトリック教会はまたそのアルスモルエンディを再発見したほうがいいと思いますね。

いろんな方々が、死の問題について考えておられるわけですが、死の問題を考えるときに、宗教といいますか、宗教心はどういう役割を果たすでしょうか

宗教の立場で特に強調したいのは、キリスト教は愛の宗教として、一番苦しんでいる人に愛を示さなければならないということです。

この世で一番苦しんでいる人は身近な人を失った人、あるいは、失う人、または、自分自身死に直面している人、この二つのグループだと思います。ですからキリスト教は、特に身近な人を失った人と、死にゆく患者に援助を提供しなければならないと思いますね。これが一つです。

もう一つは、カトリックは死後に対する〝希望〟を持っていますからね、永遠の生命に対する希望を。ですから特に死に直面する人に希望を与えるという、大きい使命を持っています。

キリスト教の考える死と仏教の方々の考える死との間の対話というのは可能でしょうか

はい、私もよくやっています。私は、たくさんのお坊さんと対談します。時々、京都の浄土真宗にも招待されたりもします。お坊さんだけを対象にした講演会もやりました。

最初のカトリックのホスピスは東京の桜町病院で始まったんです。ホスピスはこれからの日本のカトリック教会の一つの大きい使命だと思います。死にゆく患者が、みんな同じように、最後の日々をもっと有意義に過ごすことができるような援助です。

一日も早く、各教区で一つのホスピスを作ってほしいですね。

私は、七月に二十六名の日本人の医者と看護婦、そしてNHKと朝日新聞の人たちと一緒に、ヨーロッパでホスピスツアーをやりました。七つのホスピスを見たんです。その時思ったことは日本でも今、ホスピスへの関心がとても高まっているということですね。日本社会一般はホスピスを期待しています、希望していますよ。

しかし先ほど言ったように最初のホスピスはカトリックのアイデアでした。カトリックのシスターが始めたのですから日本のカトリック教会もここで、特別の使命を持っていると思いますね。

あちこち世界のホスピス関係を回られて、日本と外国の取り組みの違いみたいなものを感じられますか

まぁ、大きな違いはヨーロッパとアメリカの病院では、殆どきまってカトリックの神父とプロテスタントの牧師が、ホスピスチャプレンとして働いていることですね。日本の病院には、そういうチャプレンがあまりいないということですね。

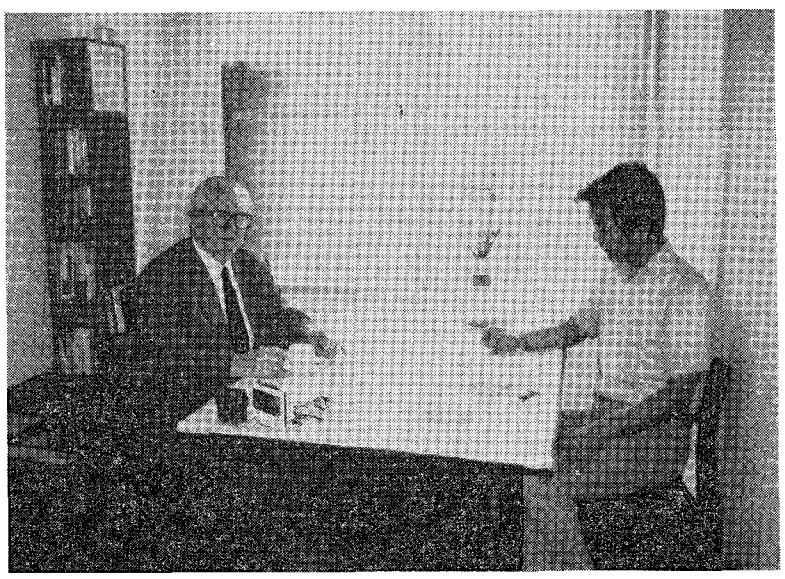
（つづく）

仏教側からは、とってもそういう対話を探していますね。

私は、カトリックの一つの大きい使命は日本で大きなホスピスをつくることだと思います。ホスピスは、治らない患者のための設備と解釈していいですけれども。

ホスピスに対するカトリックの現状はどうでしょうか

最初のホスピスはアイルランドのダブリンでカトリックのシスターが作ったのですよ。今の日本では殆どのホスピスはプロテスタントですがね。それは非常に結構ですけれども、カトリックも、もう少し日本でホスピスを作ったほうがいいと思いますね。



イスラエル研修旅行記②

シナイは赤かった！

森山　信三（大名町教会司祭）

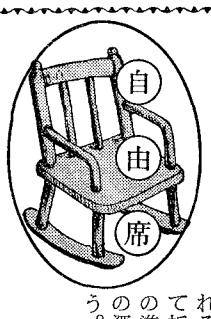
多くの宗教において「山」は、その高さ、あるいは神秘性の故に、天と地の接点とみなされるそうである。実際、イエスも、宣教開始の前、ご変容、ご受難、昇天と、生涯の大切なときには、山に登っておられる。山は、やはり、私たちが神さまと出会う場なのかもしれない。シナイ山においても、モーセは神と出会い、十戒を受け、また預言者エリヤもバアルの神と戦った後にイゼベルの迫害を逃れ、ここに身を隠し、神と出会った。

私たち一行は、神を求めて、月と星の光をたよりに頂上を目ざした。朝五時半頃、頂上に着く。すでに、世界各国からやって来た若者たちが、日の出を待っている。太陽が見えてくると、あちこちでシャッターをきる音、歓声や思い思いの歌。アレルヤ、すばらしい光景だった。木の一本もない山。そのため、陽が高くなってくると、岩肌がまっ赤に染まる。この山の石は、花崗岩だそうで、陽の光を浴びるととりわけ美しい。モーセやエリヤもこんな光景を見たのだろうか。まさに、「神の山」にふさわしい姿である。

モーセは、山から下ったとき、自分が神と語っている間に、自分の顔の肌が、光を放っているのを知らなかった（出エジプト34章29節）。ここで浴びる朝日には、何か特別なものを感じた。

さて一行は、あまり、暑くならないうちに下山する。シナイのふもとには、聖カタリナ修道院というギリシア正教の修道院がある。まさに、砂漠の中の修道院である。ここは、有名なシナイ写本と呼ばれる聖書の巻物が、発見された所でもある。創立は、何と四世紀といわれ、ローマの迫害を逃れ、また静寂さを求めて多くの人々がここに集まってきたという。祈りと労働に明け暮れ、貧しさのうちに生活する修道士たちの姿は、この先住民に大きな影響力をもっていたという。さらに、この修道院は、数百年前の数多くのイコンを所有している。イコンは、彼らにとって礼拝の対象であり、聖堂には所狭しと、イコンが掲げてあった。

イエスのまなざしが、とてもやさしかった。



第44回国際聖体大会に参加して

松本たか子

ローマの揺るぎない礎とカトリックの不変性が、改めて証明された最も意義深い大会だったと思う。そこには、隣国である韓国と日本との歴史における交わりの深さと、隣国であるゆえの無関心さへの反省が、今、複雑に交錯している。

今回のシンボルマークにもなった丸いホスチアの中のキリスト、それは世界中のどの人の中にも現存するキリストにおいて、平和と一致を願う私達カトリック者の願いでもある。

教皇様の汝矣島（ヨイド）広場における荘厳ミサの時はいうまでもなく、特に公式巡礼団独自の明洞（ミョンドン）大聖堂でのミサにおいて、改めて、キリストにおいて労を惜しまなかった数々の目に見えない人々の奉仕に心から賛美と感謝を送った。

そして、今回特別に私達を、一般の家庭に招いて共に食事を分かちあった韓国の皆様に、民族間の平和と私達日本人との友情が永遠に続きますようにと心から願わずにはいられない。

民族間の平和、それは間違いなく「キリストにおいての平和である」と、教皇様がヨイド広場で私達に宣言なさった時、百万人は入ると言われている広場を埋めたあのカトリック信者の群れを見た時、私はキリストにおいて全てが一つになること以外、この世における益はないと思った。

キリストは、いつ、どのような状況においても皆が一つになることを、望んでおられる。ミサの中で甘美にして尊いご聖体を迎え入れる私達は、回心に始まって祈願、聖書朗読に至る心の準備を怠らずにご聖体との深い一致に共にあずかろう。

（菊池教会）

倶に生きる

古賀　彰

先日、重度身体障害者団体の年一回の研修旅行に介護ボランティアとして参加しました。早朝からリフトバスの運転や身障者の介護等に迫われ、翌日深夜の帰宅までコマネズミの様に動きっぱなしで、家に帰り着いた時はドッと疲れを感じたものです。でもその疲れは本当にさわやかなものでした。

重度の障害をお持ちの方の生活は健常者の想像を絶するものがあります。オシッコひとつするのにも他人の手を借りねばならない現実、彼らにとっては個人的な温泉旅行など到底不可能な事であり、それを実現させてくれるボランティアに対する素直な感謝の気持ちを我々は肌で感じることができます。抱きあげてやるとたどたどしくも一生懸命〝アリガトウ〟をいおうとする人。そこには非常に厳しい状況に置かれながらも、いつも希望を失わず明るく生きている、謂わば神様に最も愛されている人々の姿をかいま見る事ができます。

残念ながら社会的弱者に対する世間の目はまだまだ冷たいものです。観光地での車イスの行進を眺める一般の人たちの目も好奇に満ちたものでした。でもこんな世の中でも皆で努力すれば何とか変えて行けるはずです。そして我々キリスト者がその先兵になるべきではないでしょうか。キリストは世の中の小さき人々、弱い人々と倶に生きました。我々にとって最も悲しむべき事、それはエゴイズムに満ちた社会の風潮に流され、キリスト者が自らの使命を見失ってしまうことではないかと考えます。

（大牟田教会）

御受難会士による黙想会へどうぞ！

① 10月28日（土）～29日（日）　② 11日17日（金）～19日（日）
③ 11月25日（土）～26日（日）　④ 12月2日（土）～3日（日）
⑤ 12月9日（土）～10日（日）　⑥ 12月16日（土）～17日（日）

※いずれも夕食（18：00）からです。御問い合わせ、御申込みは下記へ

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎ 0940(32)3222

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096—352—3306
096—352—8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

正義と平和に理解を示す

賢明にしかし勇敢に

司教がメンバーと懇談、激励

福岡地区正義と平和委員会

福岡地区正義と平和委員会（担当森山信三師）は、九月十六日午後から、平田司教と初めての懇談会を持ち、意見を交換した。

集まりには、青柳行信氏ら九名が出席したが、司教は、正義と平和の運動にあたっては、「賢明にしかし勇敢に」という諺を引用して、メンバーへの注文と同時に大きな期待を示した。

懇談会ではまず参加者が、「正義と平和の運動にはカトリックの香りが不可欠」「正義と平和の運動は福音宣教と重なり合う」「どのように小教区の信者の中に浸透させていくかが課題」などとこれまでの歩みを振り返った。

また、キリスト者として、公害問題や在日韓国人の苦しみなど「事実を知り、知らせるための努力を怠ってはならない」との発言や「信徒は日常生活の中で、いつも社会問題と関わっている」のであり、カトリック者は社会運動の分野で、イデオロギーを異にする人たちとも協力して働くことができるのではないか、との問いかけもあった。

さらに、成人して洗礼を受けたという男性は、「教会の活動が親睦旅行やバザーで終わってしまうのは残念だ」と発言した。

これらの意見を踏まえて司教は以下のようなコメントを述べた。

正義と平和のメンバーは非常にデリケートな問題に直面しているのであり、理想実現を性急に追い求めるだけでは成功しない。よい実を結ぶためには、まず客観的事実をよく観察しなければならない。

しかも、人間は皆、原罪の傷をおっている弱い者であり天使の社会をつくるのではないことを理解しなければならない、と強調。

運動が豊かな実を結ぶためには、教導職の社会教説を学びながら、賢明に行動すること。福音宣教に役立つのか、そうでないのかよく判断してほしい、と要望した。

また、社会問題に関わる人は、絶えず自分の信仰、神との関わりを深めなければならない。そうしなければ、単なる博愛主義、社会運動家に終わってしまう、と指摘した。

最後に司教は「教会の指導の下に、賢明にしかし勇敢に社会問題と関わるように」と参加者を励ました。

シリーズ ここが聞きたい

公害問題①

公害問題は、私たちにも関わりがあることでしょうか

豊かさの代償は

現代の生活は、とても快適です。朝起きてひとひねりで水が出、火が付くのを見ていると、「こんなに安易に便利でいいのかな？」と少々心配なぐらいです。ゴミだって〝ポイッ〟と捨てれば終わりですし、〝ジャー〟と流せば汚物も消えます。ですから、あまり公害問題に目を向けず「世の中、進んだものだなぁ！」と今の生活を甘受していれば楽です。ただ〝楽〟を受け取る代償として、人間らしさを支払っているところに問題があります。

例えば食べ物です。年間平均3kg食べているという添加物・農薬・動物たちの餌の化学物質・輸入食品消毒のための薬と考えれば口に入れるのも心配です。でも、それらを食べたからといってすぐに影響が出たりしませんので、少々の公害には目をつむり、おいしく楽しい食事が出来れば喜びです。

近隣の国々からも輸入し、成人病を気にしながら、どんどん食べます。近隣の国の中には飢えて死の淵にある人人もいるのですが……。

グルメブームの時代に、「どういう食事をすると痩せますか？」という質問が飛んできます。そこで「まず食べないことですね。一人分にとどめて下さい」とお願いします。でもそれを実行するには〝がまん〟という人間にしかできないわざが必要なのですが、楽を求めるあまり、この人間らしさを手放してしまうようです。

産業優先から始まった企業レベルの公害も、生活の中にあぐらをかく小さな公害も、一人ひとりが人間らしさを取り戻すことから解決の糸口がみつかるはずです。

神の思いに近づく為にも人間らしさの選択をしていきたいと思います。

回答者　坂口淳子（老司教会）

聖母をたたえて行列

〝人間ロザリオ〟高らかに

老司教会

晴天に恵まれた十月八日の九時半のミサ後、老司教会（主任竹森勇師）で、恒例の聖母行列が行われた。

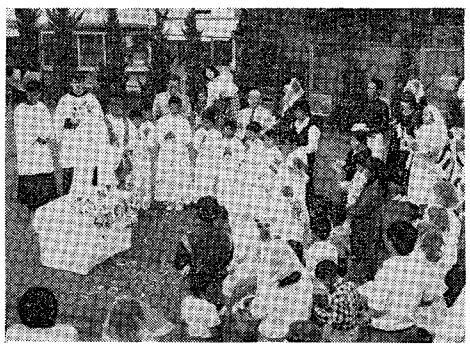
同教会の聖母行列は、福音宣教の一環として、また子供たちへの信仰教育のために、子供たちを中心にするのがその特徴となっている。

この日も、教会の中庭に安置された聖母マリア像を囲んで〝人間ロザリオ〟をつくり、各自がロザリオの珠になって、一人ひとり主の祈り、天使祝詞、栄唱を唱えながら進められた。

一連ごとの意向を先唱の子供が述べ、各連が終わるとマリア像に花輪が捧げられ、全部で五つの花輪が飾られた。この祈りを終えると、少女たちがかごに盛られた色とりどりの花びらをまき、一同で境内を一周し、司祭の祝福をもって閉祭した。

信徒たちは、「子供たちのどこかまだ、ぎこちない天使祝詞の先唱にも純粋な祈りの心が伝わってきます」「みんながマリア様のようなこころになれたらと思います」などと話していた。

主任の竹森師は、「十月のロザリオの月を子供たちに印象づけるために毎年行っていますが、なごやかな雰囲気のうちに共同体の深い一致が実現されて嬉しい」と聖母行列の意義を説明している。



聖母像に花をまく少女たち

聖心のウルスラ会

三修道女が誓願

金・銀祝の恵み

福岡教区に唯一管区本部を持つ聖心のウルスラ宣教女修道会修道院で、修道誓願五十周年と二十五周年の記念ミサが渡辺隆義師（司教館）の司式によって行われた。

金祝を迎えたシスターは、マリア・スコラスティカとマリア・エルシアの二人で、銀祝はマリア・テレジア石山拓子。

聖体拝領に先立って、修道誓願の更新文を一人ひとり読み上げ奉献を新たにした。

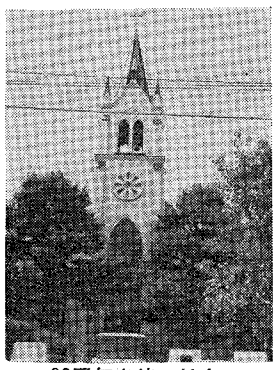
ミサ後に催された祝賀会では、修道女たちや修練者の歌と共に、同修道会と関わりの深い若い女性信徒たちが祝福の歌を捧げるなど、希望と喜びに満ちた集いとなった。

同修道会は、本部修道院横にある幼稚園で子供たちの教育にあたっている他、三重県には心身障害児施設をもっており、その活動は広く人々の共感を受けている。

教会堂と司祭館

改装工事を完了

大牟田



60周年を待つ教会

来年三月に教会創立六十周年を祝う大牟田教会（主任西田邦洋師）では、記念行事の一環として、このほど念願の聖堂と司祭館の大規模なリフレッシュ工事を完了した。

同教会は市の石炭産業の斜陽化に伴い信徒数も減少傾向にあるが、大牟田市民への福音宣教のために司祭と信徒が家族的雰囲気の中で一丸となって尽力している。

また、教会付属の幼稚園も近年、地域のなかでの評価も高まり、宣教の一翼をになっている。

信徒代表の古賀六雄氏は「小教区創立六十周年を迎え、これからも信徒一同開かれた共同体を目指します。皆が共に喜びを持って生きていけるよう、お力添えを」と語っている。

（写真は同氏提供）

信仰教育 (1)

山元神父の ワンポイント教会法

信仰教育に関する教会法の主な規定をあげると。

「信者の信仰が教理教育およびキリスト教的生活体験を通して、生き生きとした明白かつ行動的なものとなるようキリスト者の信仰教育について配慮することは、特に司牧者の固有かつ重要な職務である。」（第七七三条）

「信仰教育について配慮することは、適法な教会権威者の指導のもとに、各自の立場に応じて、教会の全構成員の義務である。」（第七七四条第一項）

「両親はなんぴとよりも言葉と模範によって、自己の子女を信仰およびキリスト教的生活の実践について育成する義務を有する。両親に代ってその役を果している者および代父母も同等の義務を有する。」（第七七四条第二項）

引用が長くなったが、要は子供の信仰教育に関しては両親がいちばん責任を負っているということ。

親は教会にその責任があるといい、教会は親に責任があるという。

ここらで責任のなすり合いはやめて、双方が真剣に考える必要があると思う。

親の立場から見れば、家庭での祈りの生活を充実させること、教会の立場から見れば、教会学校をもっと充実させることが、急務と思われる。

多様な価値観の中で生きる子供たちが、真に大切なことが何なのかを、教えるためにも、家族そろっての祈りや、ミサへの参加が望まれる。

塾や町内会などの付き合いがあって、難しい面もあると思うが、その難しさから逃げないで、親子が一緒に悩むところから始めたらどうだろうか。

いずれにしても、親自身が信仰の大切さを理解していなければ話にならない。

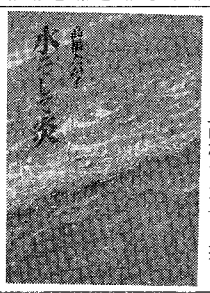
一方、教会側では、子供（青年を含めて）の受け入れ体制を整えなければならない。これにもまた、親の協力が必要である。

（小倉教会）

BOOK 読みま専科

☆水そして炎

高橋たか子　著



「いつ頃からか神のうちに放浪することが始まって、ただ一人でここまで来てしまった感があり、結局〝神のみ〟もうこれでいい」これは〝エルサレムにて〟という章からの一文である。この言葉は、単に聖地に巡礼した時の思いを越えて、かずかずの文学賞に輝き、出版界にもてはやされていたこの著者が、すべてを捨てて到達した今の境地そのものではないだろうか。

（女子パウロ会　一二〇〇円）

☆フィリッピン出稼ぎ労働者

―夢を追い日本に生きて―

石山永一郎　著

「日本が真に国際化をするということは、日本社会が豊かな多様性を持つことであると私は思っている。多様な価値観を受け入れ、少数者の痛みや悲しみへの想像力を増すことは、ほんとうの意味での国際化に不可欠である。」著者のあとがきから――。

彼らの大半はカトリック信者である。日本の教会として、同じ信仰を生きる者として、福音に基づいて人権を守っていく等を示唆している。

（拓植書房　一七〇〇円）

お知らせ

誠に勝手ながら、今月十一月六日(月)七日(火)八日(水)の三日間、お休みさせていただきます。

福岡・パウロ書院

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4－9－4
TEL092―761―8800
代表取締役マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4－9－4
TEL092―711―0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石 理 大御そ
石 影 の
他
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

十一月の行事
※ゴチックは司教日程

1日　諸聖人の祭日
2日　死者の日
3日　召命の集い（サン・スルピス大神学院）
5日　教区墓地ミサ午後2時
13日　司牧評議会常任委員会 午後2時
15日　カナの会
18～19日　福岡小神学校体験入学
19日～26日　聖書週間
19日　光ケ丘教会堅信式
カトリック教職員のつどい（司教館）
20日　北九州教会学校リーダー研修会（小倉教会）午前10時
九州地区司教会議
21日　大神学院祭（サン・スルピス大神学院）
22～24日　教区全司祭研修会（熊本）
25日　カトリック学校教育シンポジウム（仁川学園）
25～26日　福岡小神学校体験入学
26日　王たるキリストの祭日
新田原教会堅信式
教区信徒協の集まり（佐賀教会）午後2時
12月3日　待降節第一主日
「宣教地司祭育成の日」献金日

福岡黙想の家

4～5日　福岡レジオ・マリエ
9日　笹丘教会婦人会黙想会
10日　泰星中学母の会聖書研究
11～12日　黒崎教会レジオ・マリエ
13日　北九州地区司祭の集まり
13～14日　福岡ルーテル博多教会
14～16日　国内移動信徒委員会全国会議
17～19日　御受難会畠神父指導黙想会（受付け中）
22～23日　聖母カテキスタ会研修
25～26日　御受難会修道士Br.梅田指導黙想会（受付け中）
25～26日　熊本看護協会研修

募集
小神学校体験入学者

日時　第1回　11月18日（土）～19日（日）
　　第2回　11月25日（土）～26日（日）
対象　小学校5・6年生で司祭になりたいと思っている男の子
定員　各回10名
問い合わせ・申し込み
〒810　福岡市中央区浄水通38
福岡小神学校
松井忠之神父
☎092-531-6821

聖書週間
聖書を知ることはキリストを知ること
11月19日～11月26日

1990年度福岡教区行事予定

1月9日（火）　教区新年祝賀会
2月6日（火）　司祭評議会
3月6日（火）　教区全司祭の集い
4月12日（木）　聖香油の聖別ミサ
　　金・銀祝司祭の祝賀会
6月5日（火）　司祭評議会
6月29日（金）　平田司教の霊名の祝い
9月4日（日）　司祭評議会
10月8日～12日　邦人司祭黙想会
11月11日（日）　カトリックフェスティバル
11月26日～28日　教区司祭研修会

太田道子女史を囲む聖書の集い
11月28日午後7時よりカテドラルにおいて

「出エジプト記における解放」がテーマです。
どなたでも参加できます。
なお、新・旧約聖書は予備がございませんので各自ご用意ください。
問い合わせは森山神父（大名町教会）☎092-741-3687

一九八八年度小教区納入金追加

本紙十月号で報告いたしました小教区納入金に、左記の教会分を追加してください。

島崎教会　教区費　四一六、〇〇〇円
玉名教会　教区費　八三、〇〇〇円

十一月命日の司祭

＊フレデリック・ボア師（パリ外国宣教会）一九七七年十一月三日元援助修道会黒崎修道院付
＊スヴァノニ・ゼヴェリーノ師（ミラノ外国宣教会）一九六二年十一月二十七日元唐津教会主任

茶のかげ

ちり紙交換でございます

徳山　登

受話器の中から、突然「神父様、私は苦しくて、苦しくて、もう耐えられません、死にたい！もう、私には死ぬことしかない、だれにも迷惑かけないように、人のわからないところで命を断ちたい。これは罪になりますか？」と。人間の心にはいっぱい気苦労が詰めこまれています。「心配事がつぎつぎに現われ、頭痛がおこる。白髪が増え、喘息の症状もあらわれ、たびたびいらいらして、神経はピリピリ、疲れはて、寂しくて逃げ出したい！いつ静かな処で、ほっとし、ゆっくり呼吸できるのだろうか。」こんな相談や苦情が現代の人の口からよく聞かれます。

私たちをこんなに痛めつけるものは外部からの衝撃もありましょうが、それよりも、自分の中にとじこめられた「ちり、あくた」によるものでしょう。それがだんだん発酵し、腐りかけ、悪臭を発します。たとえば、心を蝕む嫉妬や恨み、爆発するほどにたまった怒りとあだがえしへの執念。自分が思うようには認められず、あてにされないという寂しいひねくれた心。

私の力には及ばない。自分の失敗にとりつかれ、限りなくよくよする自信喪失。将来への不安や恐怖。

これら、欲求不満や恐れが自分の心の中でぐるぐる巡る気苦労を迎え、積み重ねていくならば、たいへんです。小さな心配、大きな心配もすばやく心の中から取り除かなければ押し潰されます。〝世の罪をのぞきたもう主よ、われらを憐みたまえ。〟

私たちの兄として、この世に生まれ、私たちの中に住み人間の弱さ、惨めさを完全に担ってくださいました。今でも、どこでもいらっしゃる救い主、キリストさまは私たちの重荷をご自分のものとしわなかった試練や失敗、一度は水に流したつもりでも、自分の中に苦いあと味として残っていませんか。押し入れの中に見つけた死んだねずみは、すばやく投げ捨てられるではありませんか。

ひっきりなしに押し寄せてくる気苦労を迎え、積み重ねていくならば、たいへんです。小さな心配、大きな心配て、運びたいのです。カナの婚宴で水をぶどう酒に変えられたイエズスは私たちの気苦労や不安を貴重な恵みに切り換えてくださる力がおありなのです。あの若い夫婦に見せた優しさを私たち一人ひとりにくださるのです。何と恵み深い交換でしょう。

生活する上にたくさんの生ゴミや紙くずがたまるものです。毎週のゴミの回収や〝ちり紙交換車〟をいちばん辛い時に見えた二つの足跡は私のものだ。その時、私はお前を腕に抱きかかえていた。『』」

「重荷を担うもの我に来たれ。」（マタイ11の28）という主に、幼な子の心（マタイ18の3）を持って近づきましょう。

（パリ外国宣教会司祭）八王寺教会）

みました。

『神さま、私に地上での一生を映画のように、ひとおり見せてほしいのです。』すると浜辺の砂の上に四つの足跡が見えました。それは自分の足跡と神さまの足跡です。ところが自分の人生の一番苦しい時期にはなんと二つの足跡しかないのです。彼は神さまに尋ねました。『私のいちばん苦しい時になぜ私をひとりぼっちにしたのですか。』

神さまは静かに答えられました。『違うよ、お前の人生の試練の時に見えた二つの足跡は私のものだ。その時、私はお前を腕に抱きかかえていた。』」

「重荷を担うもの我に来たれ。」（マタイ11の28）という主に、幼な子の心（マタイ18の3）を持って近づきましょう。

（パリ外国宣教会司祭）八王寺教会）

かのときのことのは

森山　敬三

愛という言葉のキリスト教的な祈りと、不可能な道徳への反復的努力のないところで、愛という偽りに満ちた言葉を使うな。

伊藤　整

『近代日本における「愛」の虚偽』に所収。彼は詩人、作家批評家である。とくに、東洋における仁や慈悲と、西洋における愛がいかに違うものであるかを、文学上の経験から、真剣に探究する。仁やや慈悲は、憐みであり同情であって、強者の弱者に対する感情である。ましてや男女の間のことは、惚れる、恋する、慕うのである。それを愛と混同したところから、近代日本の大きな悲劇が生れた。我ら一般の日本の知識階級は、不可能な愛というものを信じていないから、クリスチャンを何か偽善的なものと見てしまう。愛は人間の力で到達不可能なものであるから、祈りと、たえまない悔い改めによって成立するものであることが、見逃されている、と説く。

香典返しを小神学校へ

三村邦明師（久留米教会）のご母堂、アンナ三村八重子様の香典返しとして、司祭養成のため金一封をいただきました。

永遠の安息をお祈りし、ご報告申し上げます。

福岡小神学校
松井忠之神父

北九州教会学校リーダー研修会

テーマ　クリスマスの典礼とカテケジス
※専門家による視聴覚を使った実習（ゲーム、クイズなど）
日時　11月20日（月）10:00～16:00
場所　小倉教会
会費　1,000円
連絡先　門司教会　シスター木俣

市民クリスマス

☆☆☆☆☆

〈福岡〉
日時　12月11日（月）午後6時15分開演
場所　福岡市民会館
連絡先　福岡司教館　☎092-522-5139

〈熊本〉
日時　12月20日（水）午後6時開演
場所　熊本市民会館

カトリックとプロテスタント合同で祈りのうちに準備がなされています。

当日は多数のご参加をお待ち申し上げています。

☆☆☆☆☆

編集室から

▽国際聖体大会では、隣国の信者たちの信仰の〝誇り〟のようなものを感じました。私たちの信仰の〝ほこり〟は〝誇り〟でしょうか〝埃〟でしょうか。

▽教皇ミサのときは、カメラ持込厳禁でしたが、編集長は教区報の読者の皆さまのために、内心ヒヤヒヤしながら、カメラをそっと持ち込んでフォーカスしました。

▽正義と平和委員会と司教様の初会合がありました。

運動の「灯火（ともしび）を消さず」さりとて「火事」にもならないように？

▽来年度の教区行事に「カトリックフェスティバル」。ようするに「お祭り」です。

そして「お祭り」には古来「祭儀」と「祝祭」の部分があるそうです。

いろいろとご批判はありがたいのですが、一緒に泥をかぶってくださる立場にもなっていただけませんか。（W）

中央出版　福岡支部
■キリスト教関係、書籍、家庭の友
■典礼聖具
■ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17—10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092—552—8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—24
TEL　093—771—3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2—0646
行橋市駅前5秒店　☎2—2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641—4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641—7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922—5637

未来へ——安心を創る
FUJKI　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092—521—0568

カトリック
福岡教区報

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

今月のみことば

キリストに結ばれた者として生活し、あふれるばかりに感謝しなさい
（コロサイ2・6～7）
黒崎　J・バイヨ神父

邦人司祭黙想会に集う

福岡教区邦人司祭の『年の黙想会』は、十月九日から十三日まで、宗像の黙想の家で行われた。

指導司祭はイエズス会のクラクスン師（山口教会主任）で、二十七名が参加。黙想のヒントとして提供された『みことば』を各自が深く黙想した。

休憩時間には、日頃疎遠になっている兄弟たちとの対話も大切にされ、和やかな談笑の輪ができていた。

参加した司祭たちは、「自分たちの司祭職が司教を中心とした司祭団の交わりの中で行使される」という第二バチカン公会議の教えを再確認した。

イエズスさまにトライ

召命の集い

九州各地から千人

大神学生と一緒に汗流す

サン・スルピス大神学院恒例の「召命の集い」が、好天に恵まれた十一月三日、同神学院で開催された。

年々盛り上がりを見せるこの集いに、今年も沖縄、鹿児島を除く九州各地から、千名を超える子供たちとその家族、そして司祭・修道者が集まった。

今年のテーマは「イエズスさまにトライ！」

午前九時を過ぎた頃から、次々に子供たちが到着し、今か今かと待ち受けていた各教会担当の神学生たちも忙しそうに動き始めた。

開会式の後、子供たちは各教会ごとに大神学院見学、その後、神学生の手作りスライド「ペトロ岐部の生涯」を興味深く見た。

十時四十五分、広場で平田司教は三十数名の司祭たちと召命祈願ミサを捧げた。説教で中浜繁喜助祭は「私たちはイエズスさまにトライしようとしているが、イエズスさまも私たちにトライしようとされている」と語った。

昼食後子供たちは、神学生たちと元気一杯ゲームで汗を流した。そして最後に子供も大人も参加して、召命の集い恒例の綱引きを楽しんだ。

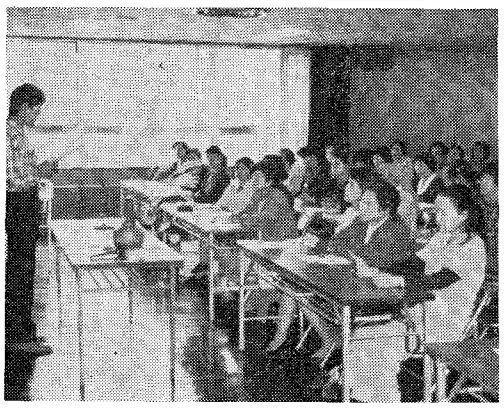
一方、子供たちがゲームを楽しんでいる間、大人のためには桜井太郎氏夫妻（佐賀教会）による講演、『家庭と召命』が行われた。これは、司祭職への道を歩んでゆく自分の息子の姿を通しての体験談で、親と子のつながりの変遷の報告は、聞く者に深い感動を与えた。

大水幸一神学生（実行委員長）**の話**　「召命の集い」という子供たちと神学生との触れ合いの中で、「僕も神父様になりたい」こんな思いを、子供たちの中に芽生えさせられたと思う。この芽生えを大切にするために、これから子供たちと手紙などを通してつながりをもってゆきたい。今後は子供たちと共にテーマを考え、集いを準備していければと思う。なお、今回作成したスライド「ペトロ岐部の生涯」と、集いのテーマソングの入ったテープをご希望の方は、申し込んでくださればお送りします。

第二回短期キリスト教講座終了

二百名を超す受講生

超小教区的支援で成功



熊本県福祉会館で開かれていた『第2回短期キリスト教講座』が成功の内に終了した。

同講座は、熊本地区信徒使徒職協議会の宣教部会（担当ヤングキャンプ師）の主催で、熊本地区の全教会が協力して実現したもの。

九月二十八日から十一月十六日まで、全部で八回からなる講座は午前と午後の二回開かれ、『人とのかかわり』『愛に生きる』『ころの時代』『やすらぎを求めて』『幸せな家庭』など、現代人が日頃関心をもっている話題を、毎回違う講師が担当し、最終日には講師を囲んで対話の時間を持った。

この講座の特徴は、なんといっても四人の信徒が講師として役割を分担していること。たとえば、第六回は『死と希望』のテーマで、婦人科医師の井田栄一氏＝写真＝と高等学校教諭の尾池和子さんがそれぞれ自分の伴侶を失った体験をもとに話し、参加者に大きな感銘を与えた。

定員は、午前と午後それぞれ百名、五十名となっているが、実際にはそれよりはるかに多い合計二百四十名が熊本市内外から参加し、関係者もうれしい悲鳴をあげていた。参加者の大半が女性であるが洗礼を受けていない一般の人も三分の二に達している。

同講座の成功は何よりも熊本地区の司祭、信徒が一丸となってPRとともに、祈りと献金を捧げて同講座を支えているところにあるようだ。

終了者には今後、クリスマス、復活祭などの案内が送られることになっており、アフターケアにもこころを配っている。

福田節子さんの話　神様の助けと多くの方々の協力によって成功させていただきました。現代人は、心の安らぎを求めています。これからは各小教区で次の段階の『新キリスト教講座』も始まると聞いています。参加者がそちらのほうにも行かれるように祈っています。

筑後地区7教会で親善スポーツ大会

優勝は今村教会

秋晴れに恵まれた十月二十二日、恒例の筑後地区教会スポーツ大会が、大刀洗中学校のグラウンドを会場に開催された。

第五回を数える今大会は、二日市、今村、本郷、小郡、久留米、大牟田、鳥栖、など七教会が参加。午前中にソフトボールの試合、午後からレクレーションを楽しんだ。

選手として出場した若手司祭の中には、ハッスルプレーのため名誉の負傷をするものもあり、応援合戦も火花を散らしていた。

司教杯がかかったソフトボールの試合の結果は、大人も子供も今村教会が優勝、選手層（信徒層）の厚さを見せつけた。準優勝は、子供の部が鳥栖、大人の部は久留米教会だった。

小郡教会の平田正明氏は「ソフトボールに限らずこのようなスポーツ大会が筑後地区から教区全体に広がり、やがては『教区スポーツ大会』の実現を」と語っている。

カトリック新聞普及員

笹丘教会
白壁英子　田中令子　田町節子　野口由彦　畠山真理男　畠山由美子　藤村肇
吉田豊博
菊池教会
渕脇知子
佐賀教会
久地井ニハ子　岡睦子　松本日出雄　今村哲男　大野正義　大塚昇　太田三郎
山浦内津子　斎藤英教　吉武茂雄　幸重篤氏　西田俊彦
（敬称略）

時の話題

生熊来吉

指導司祭

「私は神父さんにお礼を言いに来ましたよ。なぜなら、神父さんが私を回心させてくれたからです」。ムルグ神父はカッと眼を開いてしばらくのあいだ私を見つめていた。口は利けなくてもその眼に万感がこもっていた。翌日、御復活の大祝日の午後五時、ムルグ神父続けた「荒れ野に叫ぶ者の声」はどれほど激しく信者を撃ったことであろうか。現代はまさに荒れ野である。社研のセミナーに全国から司祭、修道者、信徒たちが集まって来る。毎年、司教様も一人か二人出席される。ムルグ神父が登壇すると、会場は煙と雲に包まれたシナイ山のような神域になった。なまぬるい信者たちに落とされるムルグ神父の雷は社研セミナーの名物であった。神父の指導は常に前向きであった。土呂久公害問題に関わるかどうか相談したら、神父は即座にゴーサインを出し、力強く励ましてくれた。

一年間の「時の話題」を終わるにあたり、教会にお願いしたい。信徒の働くぶどう畑は世俗社会である。ぶどう畑の小作人には、どうしても教会の指導が必要である。危ない、危ないと言って活動の芽を摘みとるのではなく、世俗社会における活動に聖書的意義を与えて、激励して頂きたい。それが世俗の信徒と活動を教会に繋ぎとめる最良の方策ではないか。

最近、私が非常に尊敬している、いわゆる社会派の神父が数名司祭職を離れたという噂を聞いた。その動機を本人に確かめたわけではないが、司祭の純粋で、ひたむきな心で社会正義と人間解放を追求しているうちに、そこに行きついたのではないだろうか。しかし、私は神父自身が社会で泥まみれになるよりも、活動する信徒の指導司祭の役割に徹していただく方がよいではないかと思う。

（カトリック社研委員　西新教会所属）

みちくさ

この夏、なぜかひとりの司祭に会いたくなって旅に出た。三十数年ぶりの再会であった。小学生になったばかりの頃よくそのM師がたてるミサの侍者をしていた。当時四十代のM師から可愛がられた思い出はいつも記憶の底にあった。それは一年余りの関わりだったそうだが、私が司祭になりたいと思ったのはその頃であった▼九州を遠く離れた地で今も、ある小教区の主任司祭として現役で働くそのM師はもう八十歳になるというが、タイムカプセルに乗って、過去と現在をつなぎ合わせるのに時間はかからなかった。当時は口八丁手八丁のエネルギッシュな司祭であったそうだが、今も相変わらずと見受けた▼ところが、その同じ教区で働くある司祭の口から意外なことを聞かされた。「あのじいさん神父は、頑固でへらず口をたたき困ったものだ」と。それまでの満たされた気分はいっぺんに吹き飛んでしまった。自分が敬慕してきたM師が今では、老害のように迷惑視されている。過去の業績を知らない人々が情け容赦ない批判をあびせている。私は自分が責められているような気持ちになった▼年老いた司祭が今風に生きるのは難しい。かつての心身の若さは失われ、しかも経験に裏打ちされた確信が邪魔をして、新しい時代のニーズに対応できない。自分がきずいたものを継承させることにやっきになり、未来に対して直接責任を負うのは若い人たちであることを忘れてしまう傾向がある▼けれど、M師のおかげで今の私があるのは確かな事実である。もしM師が天国で自分の司祭生活の業績を神さまに報告しなければならないなら、建物や洗礼者の数ではなく、その昔一人の子供に司祭への召命の種を知らぬ間に蒔いていたことを誇りにしてほしい。私もM師のために証言できる司祭でありたいと思っている。この夏の甘酸っぱい旅の思い出である。

デーケン師に聞く（後）

第三の人生に備えよ

福岡にも〝生と死を考える会〟を

癌告知についてどのようなお考えをお持ちですか

今アメリカでは、大部分の医者が患者に癌を告知しています。癌患者に病名を知らせるんです。しかし癌告知の後での精神的な支えを非常に重視します。でも、まだ日本の大部分の医者は癌告知をしていませんね。

もし癌告知すれば、アフターケアを大切にしなければなりません。

それに関してですが、「末期医療のケア　その検討と報告」という本が厚生省と日本医師会編で出たばかりですけど、私もそのメンバーでした。これを作るため、十三人の委員から成る検討委員が厚生省で、二年間集まりを持ちました。座長は、天皇陛下の手術をなさった東大の森岡先生でした。もともとは厚生省のために作ったんですけども、日本医師会としても共同で出すことになったのですね。これは、一つの大きな出来事だと思います。

これから日本の末期医療は変わるんじゃないかと思います。実際に、報告書の中でも、癌告知は望ましいということがはっきり言われていますね。

そして告知後の対処についてもずいぶん詳しくね……。

日本では、高齢化社会がもう始まっているんですけど〝老い〟の意義とか、希望を持たせるためにどのようなことが可能でしょうか

まあ、日本人の平均寿命は世界一ですけども、定年退職の年齢は非常に早いようですね。私は、できればもう少し長く仕事を続けることができるようにした方がいいと思いますよ。

一つの具体的な提案として、中年期に、特別研修のかたちを取るんです。例えば、半年休みを取ってもっと勉強して、少しずつ自分の第三の人生を準備するということはどうでしょう。できれば将来は、五十歳前後にみんなが、第三の人生の長い期間を準備できるような生涯教育の企画を提供してほしいと思います。どのようにしたら第三の人生を創造的に過ごすことができるかを考えるきっかけを提供してほしいんですね。

人間というものは、非常に凄い潜在能力、可能性をもっています。ですから、定年退職の後で、それをもっともっと開発できるような社会を作っていきたいですね。

高齢化社会で教会は何かお手伝いできることがあるでしょうか

教会はリーダーシップをとって、定年退職後の余暇の創造的な過ごし方を教えなければならないと思います。

今のところ〝余暇〟という概念はただ仕事をしないで、或いはよりよく、より多く仕事ができるような効率主義の解釈が多いんですね。でも、日本人は、定年退職後に、ずいぶん長い年月を余暇で過ごすようになるのですから、創造的な余暇の過ごし方について、やはり教会が、もっと教えたほうがいいと思いますね。

余暇の活かし方としてボランティア活動は非常に有益だと思いますが

アメリカやヨーロッパでは、大勢の方が定年退職後にボランティアとして働くんですね。例えば病院とかホスピスの中でね。もう中年期からボランティア教室に参加していますよ。

定年退職の後で、ボランティアとして働くのは望ましいことだと思います。

〝生と死を考える会〟はどういうものでしょうか

教会に対する希望ですが、身近な人を失った人が、教会の中で、信者も信者でない人もお互いを支え合う会を作ってほしいですね。

私が勧めている上智大学には〝生と死を考える会〟というタイトルで、毎月第二月曜日の夜の六時半から八時半まで、お互いを支え合う集いがあります。広島でも始まります。福岡でもそういうことはできると思いますが……。

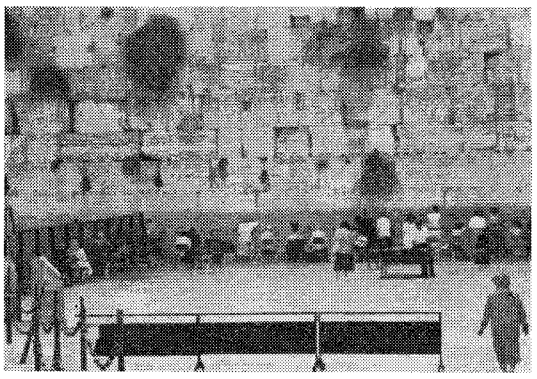
どうもありがとうございました。

（文責　編集部）

イスラエル研修旅行記（完）

ああ　エルサレム

森山信三（大名町教会司祭）



嘆きの壁で祈るユダヤ人女性たち

『ああ　エルサレム』

イエスのこのエルサレムに対する嘆きは、次のように続く。「預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石でうち殺す者よ、めんどりがひなを羽の下に集めるように、私は、お前の子らを何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようとしなかった（ルカ十三章三十四節）。

エルサレム――それは、その昔、神に対して反逆した街であると同時に、神を信じる者にとっては、一生に一度は訪れたいと思う「聖なる都」である。

エルサレムは、ユダヤ教徒にとっては、聖なる神殿の存在する場であり、イスラム教徒にとっては、マホメットが昇天した場であり、そして私たちキリスト教徒にとっては、イエスが死し、復活したもうた場である。

従って、これらの宗教に属する人々は、決してこの聖都を捨てることはできないのである。ここにはこの三宗教の信仰と歴史が複雑にからみあっている。

それ故、エルサレムを、私たちキリスト者だけの聖なる都だと考えて巡礼するならば、数多くの不可解なことがらに出くわすことになる。

私たち一行は、この街を東西南北あらゆる角度から眺めた。そして次のように問いかけた。「あなたにとってエルサレムとは？」。

この地で多くの人々が、ある時は熱心な祈りを捧げ、ある時は戦いの血を流してきたことを考え合わせるとき、この街は、まさに人間の姿を写していると思われる。

この地は、人間相互の分裂、いさかい、あるいはまた、一人の人間の中に存在する自己分裂、聖なるものへ引かれる自分と、俗なるものへ引かれる自分を写し出す。

エルサレムを歩く人はいたるところで、歴史の重みを感じとることができる。そして、その歴史の跡に光の部分と闇の部分をも感じとる。

一人の人間の歴史も同じことではなかろうか。

神のひとり子イエス・キリストは、人類の歴史の中に、一人の人間として、この地に足を踏み入れられた。

しかしこの地は、イエスを受け入れなかった。だが、この聖なる都が、神の子を拒絶したとき、歴史は新しい時代を創りはじめていた。

人間の拒絶の裏側で、神の愛は完成されていた。つまりキリストの十字架、復活によって。さらにこの都を起点として、福音は全地にあまねく宣べ伝えられることになった。

エルサレムを眺めたとき、わたしは、そこに自分自身の姿をみる思いがした。

ジャッカルド師列福

聖パウロ会に初の福者

福岡修道院でも記念ミサ

ジャッカルド神父

イタリアに本部を置き、マスコミを活用しての福音宣教を主な使徒職とする聖パウロ修道会のティモテオ・ジャッカルド神父（一八九六―一九四八）が十月二十二日「世界宣教の日」に、バチカンで教皇ヨハネ・パウロ二世により列福された。同修道会にとって初めての福者である。

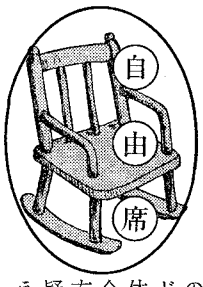
この日は聖パウロ家族修道会（日本では聖パウロ修道会、聖パウロ女子修道会、師イエズス修道女会）にとり大きな喜びの日となった。

ジャッカルド神父は一八九六年、イタリアのナルゾレの生まれ。少年時代にパウロ会の創立者アルベリオーネ神父と出会い、その指導のもと、新しい時代の必要に適合した福音宣教、即ち広報機関による使徒職に献身するパウロ会最初の司祭となり、その創立期にアルベリオーネ神父のよき協力者として働き、同会の発展と会員の養成に休むことなく務めた。

そして特に、師イエズス修道女会が聖座から認可されるために尽力した。

またジャッカルド神父の列福は日本とも大いに関係がある。それは列福の一つの要因として、三十七年前、日本に派遣された師イエズス修道女会のルチアーナ・ラザリーニ修道女の結核が、埼玉の川口修道院において、ジャッカルド神父の取り次ぎを願う九日間の祈りによって、奇跡的に治癒したからである。

聖パウロ家族修道会の今後の活躍を期待したい。



「排卵法」の講演会に夫と二人で参加して

船橋英子

私と夫が「排卵法」と初めて出会ったのは、結婚準備セミナーの中でした。

私たちは、結婚後しばらくして精神的にも落ち着いて良い状態で子供を授かりたいと希望していたので、この方法に強い関心を抱きました。

この方法を知るにつれて私自身の身体についても正しい知識を得られたことが良かったと思います。以前から基礎体温は計っていたのですが、ビリングズメソッドの本によれば、この方法は体温だけよりずっと正確で安全ということで、こんな良い方法が本当にあるのかしらと疑いつつ、結婚するまでに覚えるよう努力しました。

結婚してすぐ私は風疹の抗体接種を受け、お医者様は六カ月は妊娠しないようにと避妊薬をくださいました。しかし、夫と話しあって薬は飲まないで「排卵法」でやっていこうと決めました。うまくこの方法を利用できるか、また、方法自身にも不安がありましたが、結果的には排卵法の実践だけで無事六カ月過ごすことができました。

福岡でのビリングズ夫妻の講演には夫と二人で参加しました。ご夫妻の一番強調されていたことは「この方法は単なる受胎調節の道具でなく、夫婦の愛情やお互いへの労りを深めるためにとても大切かつ有効なもの」ということでした。

私たちもまだ新米夫婦ですが、この方法を二人で協力して実践できることは、お互いとても大きなプラスだと感じています。「幸せな家族計画」のための努力は、現代の様々な状況の中でこそ私たちに必要なことだと思います。そして、この排卵法はいろんな面から一番有効な方法だと思います。また、こんな時代だからこそこの方法を選んで欲しいと思います。

結婚して夫婦は一体となったのですから、妻は自分が今、どんな状態（生理的に）であるかを知り、夫もそれを理解できるということは本当はとても自然なことだと思います。また、特に結婚前の女性にも、より良い結婚生活への準備として是非、学んでいただきたいと思っています。

（笹丘教会）

インマヌエル、アーメン

前田由樹

山に登ると陽の光は明るさを増し
空気は風になってきらめきを増す
わたしたちをとりまくすべてが優しく愛に満ちている
僧侶の合掌とほほえみ、司祭の深い眼差し
そのふたつがひとつになってわたしたちを包む
ここちよい空気のなかで食事を倶にし
沈黙を倶にし、祈りを倶にする
陽が落ちて行くのを見守る
息を潜めて皆で見守る
光の帯が見えなくなると
祈りが続く
静けさのなかでこおろぎが鳴いている
星がパノラマのように頭上に広がる
知っているはずの星座も
あまりの星の多さでわからなくなる
沈黙のうちに陽が昇る
薄い雲の禄を輝かせる
新しい日が祈りのうちに始まる
僧侶の言葉のひとつひとつが
雨のようにわたしのこころに染み込む
司祭の言葉が新しい太陽のように
わたしを照らす
神はわたしたちとともにおられる
――生命山にて――（大名町教会）

御受難会士による黙想会へどうぞ！

① 12月2日（土）～3日（日）　指導　ガブリエル神父
② 12月9日（土）～10日（日）　指導　鈴木忠一神父
③ 12月16日（土）～17日（日）　指導　マテオ神父

※いずれも夕食（18：00）からです。御問い合わせ、御申込みは下記へ

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎ 0940(32)3222

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096―352―3306
096―352―8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

ショファイユの幼きイエズス会
熊本宣教百年を祝う
小さな人々と共に今も生きる

熊本

児童養護施設熊本天使園（西合志町）やイエズスの聖心病院（熊本市）で奉仕するショファイユの幼きイエズス修道会が熊本で宣教を開始して百年を記念するミサ、祝賀式典が十月十五日、熊本信愛女学院で催された。

同学院の聖堂で行われた記念ミサは、平田司教の司式で、邦人司祭団、地元のコロンバン会や百年前に幼きイエズス会を招いたコール師のパリ・ミッション会など十六人の司祭たちが共同司式。各地から多数の修道女、信徒たちが参列した。

パリ・ミッション会を代表して管区長のジャン・ワレ師は「ショファイユの貧しい村で誕生した幼きイエズス会の修道女は、ベトレムの幼きイエズスにならって今後も小さな人々を優先的に大切にし続けるように」と激励した。

祝賀会では百年前に同修道会のシスターたちがパリ・ミッション会のコール師によって招かれ、師と共に働いた初期の活動を演劇形式で紹介したり、熊本天使園の子供たちの合唱や合奏が披露されるなど、和やかなひとときを過ごした。

ショファイユの幼きイエズス会は、一般に『幼きイエズス会』として知られ、一八五九年レーヌ・アンティエによって創立された。

明治二十二年にコール師によって招かれて来熊した修道女四名は早速、貧しい子供たちや病人の世話を始めたが、地域の人々から誤解を受けるなど辛い時代もあった。しかし困難を乗り越え、今日の時代を築いた。

コール神父の時代を演じる修道女と熊本天使園の子供たち

ビリングズ夫妻来日講演
『自然な家族計画』は神の愛と摂理の恵み
明るい家庭を築く会

『自然な家族計画』の世界的権威として有名なビリングズ医学博士夫妻とオーデブライト博士が初来日。九月二十六、二十七、三十日にそれぞれ熊本市、福岡市、久留米市で講演会を行った。

現代は性といのちが粗末にされるため、人間の心身がむしばまれ、関係の歪みが生じていると言われるが、『自然な家族計画』の運動は、「人の性といのちにおける神の深い愛と摂理」を思い起こさせる。

NHKの全国放送でビリングズ夫人が紹介された直後から「明るい家庭を築く会」の事務所があるカトリックファミリーセンター（福岡市皿山）には問合せの電話が殺到。また「新聞によって知った」と、質問の手紙や電話も相次いでいる。

不妊で悩む夫婦、人工的な家族計画でいきづまって苦しんでいる夫婦からの相談があったり、「婚期を迎えた娘のために早速」と喜ぶ母親、「自然な良い家族計画を求めていました」と語る人など。

また中学、高校など学校現場からの問合せも多く、「性教育に役立てたい」との教師の発言もあり、関心の大きさをうかがわせている。

講演会の実行委員の一人は今回の来日を「ビリングズ夫妻は、自然な家族計画を紹介しただけでなく、キリスト者としての愛の証しもして下さった。いのちと性の尊さと、いのちと性が大切にされることの素晴らしさに大きな希望の灯を掲げてくださった」と振り返り、「自然な家族計画『ビリングズ・メソッド』によって、健康で明るい幸せな家庭、社会が築かれるよう、教会共同体の中で力を合わせて社会に向かっていきたい」と語っている。

問合せ先
カトリックファミリーセンター「明るい家庭を築く会」
☎092-541-6207

シリーズ　ここが聞きたい
公害問題②
今一番身近な公害問題は何でしょう
ゴミは怒っている

ゴミです。ゴミは、闇から闇へと葬られてしまいますので、公害として捉えにくいのですが、毎日、すごい量です。現在、福岡市とその近郊で、一日に約一四五〇トンの燃えるゴミが出ていて、他に、燃えないゴミもあり、清掃行政も頭を痛めています。『黒頭巾のおじさんは怒ってるんだぞ』という言葉の中にゴミへの不安と怒りが込められているようですね。

昔から日本人は物を最後まで無駄なく使いこなす知恵を生活の中で発揮していました。しかし、昭和三十年代に『使い捨てがナウイ！』と流行語を生むほどになり、片付けは、ゴミを捨てることに始まり、ゴミを捨てることで終わると言えるほど、どんなものでも捨てることに重点がおかれています。

確かに捨てれば家の中はすっきりしますが、消えたわけではなく、ゴミは地球上をわずかに移動しただけです。

ゴミの増加を数字で見てみましょう。昭和六十年まで二～四％の割でふえ続けていたゴミは、六十一年に十四・三％、六十二年に九・九％と急増し十年後には現在の二倍の量に増加するという予測が出されています。

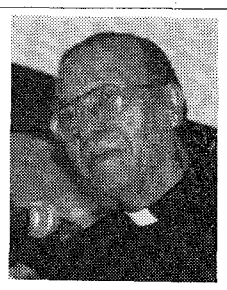
二百億の費用をかけた清掃工場の焼却能力をはるかに超えるわけですから新たに清掃工場を今の二倍に増やすか、町がゴミで溢れるかの競争です。

福岡市は、「あと百グラム、ゴミを減らしてください」と訴えています。百グラムの減量で、年間二トン積の収集車二一九〇〇台分のゴミが減るそうです。加えて、燃えないゴミの増加にも着眼してください。

今の子供たちが大人になる頃に地球が宇宙に悪臭を放つゴミの星にならない為に毎日小さな努力を続けましょう！

回答者　坂口淳子（老司教会）

フォルティッチ司教
ネグロス島の窮状を訴える



カトリック福岡教区正義と平和委員会は、フィリピン・ネグロス島のフォルティッチ司教を迎え、十月二十二日（日）カテドラル・センターで、講演会を開催した。

参加者約百三十名は、政府軍や自警団、新人民軍の争いの狭間で被害を受けるのは、いつも弱い住民であり子供たちであること、フィリピン政府の無政策、日本の的はずれな援助の問題、今後の展開など司教の考えを聞いた。

特に司教は、金品の援助のみではなく、キリスト教信者の愛の行いと祈りの励ましを強く希望していた。

講演の後は、英語のミサを司式、さらにフィリピンの姉妹兄弟が準備してくれた軽食を共にして歓談した。

正義と平和委員会では、「今後も事実を知ってもらうため、講演会を催したり、ニュースをお配りしたり頑張ります。とにかくぜひ目を向け足を向けてください」と要望している。

信仰教育 (2)
山元神父のワンポイント教会法

信仰教育に関して、主任司祭の守るべき規定が以下のように定められている。

「主任司祭は、教区司教が定めた規定を考慮したうえで、特に次の事項について配慮しなければならない。

一、諸秘跡の祭儀に適した信仰教育が施されること。

二、適切な期間の信仰教育によって、児童を初告解、初聖体および堅信の秘跡のためにふさわしく準備させること。

三、児童が初聖体後、さらに広く深い信仰育成を受けるようにすること。

四、肉体的または精神的障害を持っている人にも、その人の状況の許すかぎり信仰教育を施すこと。

五、青年および成人の信仰が種々の手段および企てによって強められ、照らされ、成長していくようにすること。」（第七七七条）

信仰は、成長していくものであり、また、そうでなければならない。しかし、じっとしていては成長しない。

幼児の時に洗礼を受けた人を例にとって考えてみよう。

洗礼は信仰生活の入門、入口にすぎない。「もう、これでいい」というものではない。これから、その子の信仰が成長していく。

初告解、初聖体の秘跡を受ける前は、両親、代父母や家族の信仰の中で育っていく。そこで大切なのは、祈りの雰囲気である。祈らない家庭では子供も祈らない。

小学生には小学生なりの、中・高生には中・高生なりの、青年には青年なりの理解の仕方があり、その年齢に応じた信仰教育がなされねばならない。先に挙げた規定は、全信者も知っておかねばならないものである。

（小倉教会）

今回で終了です。

アウシュヴィッツ展
子どもの目に映った戦争の悲惨な傷跡

「子どもの目に映った戦争展Ⅱ　写真と遺品でつづる最後のアウシュヴィッツ展」が十月十日～十八日、福岡県立美術館で開催された。

開催期間中、老若男女を問わず多くの人が訪れ、戦争の悲惨な傷跡をかいま見た。それは正視に耐えない狂気の世界であり、決して忘れてはならない現実であった。

このアウシュヴィッツ展を観た女性信徒は「アウシュヴィッツのあの出来事は、真に人間のなせる業かと思われるほどの悲惨さがある。しかし、私たちがあの出来事を遠い過去のもの、記録としてだけの関心をもってしまっているなら、それこそが最も悲惨なことである」と語った。

BOOK 読みま専科

☆木を植えた人
ジャン・ジオノ著

たったひとりで希望の実を植え続け、荒れ地から森を蘇らせた孤高の人の話。『木を植えた人』の簡潔で力強い、それでいて実に叙情的な叙述は、聖書の文体を連想させる。

この本は各国で多くの人に励ましを与え、繰り返し読むという人、読んだ後何ともいえない不思議な平安につつまれていることを感じる人も少なくない。

（こぐま社　八〇〇円）

☆歩きながら
山根基世著

「私を感動させてくれた人びと、私の出会いを伝えたい……。小さな旅の取材で各地を歩きながら、私は、様々な人に出会い、その人たちの日常の暮らしを見、その暮らしの中に多くの感動を発見することができた。私はその感動を何とかして伝えたいと思った。そしてどうしても書きたいという気持ちにさせてくれる人々がいたからこそ私は書き続けた……。」あとがきから。

（文化出版局　一二〇〇円）

お知らせ
二十五日（月曜日）と年末二十九日より一月三日までお休み致します。
福岡・パウロ書院

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092—761—8800
代表取締役マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092—711—0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材素材
石の理想
石の影響
他の大御所
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

十二月の行事

※ゴチックは司教日程

3日　カノッサ会永久誓願式
宣教地司祭育成の日
8日　パリ・ミッション会総長来福
10日　司牧評議会
11日　福岡市民クリスマス（福岡市民会館）午後6時15分開演
12～15日　臨時司教会議
16日　聖書委員会
17日　横浜保土谷教会聖書週間講演
20日　熊本市民クリスマス（熊本市民会館）午後6時開演
24日　クリスマス前夜ミサ（カテドラル）
25日　主の降誕の祭日

福岡黙想の家

2～3日　御受難会士ガブリエル神父指導による黙想会（受付け中）
8～9日　個人黙想者
9～10日　御受難会士鈴木忠一神父指導による黙想会（受付け中）
27～1月5日　幼きイエズス会黙想会

※24日・31日の日曜のミサ時間は各教会におたずね下さい。

教会	クリスマスのミサ 前夜ミサ(24日夜)		降誕ミサ(25日)		元旦のミサ 大晦日	元日
大名町	18：00	20：30	0：00	9：00	0：00	10：00
小倉	19：00	23：00	10：00	14：00	0：00	10：30
久留米	19：30	23：30	9：00			9：00
佐賀		20：00	7：00 18：00	9：00	0：00	11：00
手取	19：00	23：00	10：00		0：00	10：00

市民クリスマス

〈福岡〉
日時　12月11日（月）午後6時30分開演
メッセージ　山城順牧師（日キ団春日東教会）
歌と証　本田路津子氏
映像　藤城清治氏のきりえ
演奏　福岡女学院短大聖歌隊
場所　福岡市民会館大ホール
主催　福岡市民クリスマス実行委員会

〈熊本〉
日時　12月20日（水）午後6時開演
講演　心を問い続けて
講師　谷昌恒氏（北海道家庭学校長）
入場料　大人　七〇〇円（前売　六〇〇円）
子供　四〇〇円（前売　三〇〇円）
場所　熊本市民会館大ホール
主催　熊本キリスト教連合

一九九〇年度第一回結婚セミナー

〈福岡会場〉
会場　カテドラル・センター
時間　午後7時～9時20分
日程　1月18日（木）から2月8日（木）まで毎週（木・土）2回の計7回
申込　ファミリーセンター　☎092-541-6207

〈熊本会場〉
会場　手取教会
時間　午後7時～9時20分
日程　1月17日（水）より2月7日（水）まで毎週（水・月）2回の計7回
申込　手取教会　☎096-352-3030

日韓青年交流会

主催　教区青年委員会
日時　1990年5月3日～6日
目的　日韓青年の信仰の交わり
費用　5万円程度
申込　手取教会（青木悟師）
TEL　096-352-3030

十二月命日の司祭

＊アンドレ・ベニエ師（パリ外国宣教会）一九八三年十二月二十三日元飯塚教会主任
＊ジェームス・マグラ師（聖コロンバン会）一九七六年十二月十八日元荒尾教会主任
＊パウロ青木功師一九七三年十二月十九日元行橋教会主任
＊ミシェル・フーレ師（パリ外国宣教会）一九一七年十二月二十日元久留米教会主任

乾ハナエさん

乾盛矢師（古賀教会）の母堂で享年八十四歳。十月十九日、徳島県鳴門で葬儀・告別式が執り行われた。

マリア竹森タヅノさん

竹森勇師（老司教会）の母堂で享年七十九歳。十月二十五日、長崎県滑石教会で葬儀・告別式が執り行われた。

香典返しを小神学校へ

◎ユリオ磯邊澤次郎様
◎竹森勇師（老司教会）のご母堂、マリア竹森タヅノ様の香典返しとして、司祭養成のため金一封をいただきました。永遠の安息をお祈りし、ご報告申し上げます。
福岡小神学校　松井忠之神父

編集室から

▽『福岡教区報』編集員一同は、元気にこの一年を乗り切りました。厚く御礼申し上げますとともに、来年度もどうぞ宜しくお願いいたします。よいクリスマスと新年を。
編集長　渡辺隆義（司教館）
編集員　杉原寛信（パウロ）
田町節子（笹丘）
深堀邦枝（大名町）

来ーかげ

〝け〟ち〝は〟損だ

徳山　登

こんな物語があります。一人の貧しい男が乞食をして家々を回っていました。ある日、遠くに王様の車が見えました。男は喜び希望を持ちました。『私の不幸な日々も終わりだ。』と思ったのです。施しを待ち構え期待でいっぱいでした。王様の車がその男の前で止まりました。王様はその貧しい男を眺め、ほほえみながら降りて来られました。そして、突然、王様は男に右手を差出し、こう言いました。「私に何かくださる物を持っていませんか。」と。『乞食に向かって、施しを請うのが王様の遊びかな？』と思いながら、当惑しました。それでも男は自分のずた袋から、小さな麦の一つぶを取り出し王様に与えました。その夜、自分の袋を開けた時、貧しい麦の粒の中にまったく小さな一つぶの黄金を見つけました。男は驚きがっかりしながらこう考えました。『私はどうして全部あげる気持ちにならなかったのだろうか』。

私たちも臨終のときにこの男と同じ後悔をするのではないでしょうか。

マルコ福音（10・17～22）に金持ちの青年のエピソードが出ています。彼は多くの財産に心を奪われていて〝イエズスの呼び掛けに答える〟勇気がありませんでした。

私たちはこの青年のような財産家ではないかもしれませんが、仕事、事業、計画、活動、また時間や名誉などを自分のものとして握り、その安全を確保していたいという傾向があります。

全能の神でいらっしゃるキリスト様も物語の王様のように人間に近づき、なお人間の中に留まられました。しかも上から、施しを与えるような態度はお見せになりません。むしろ、キリスト様は恩人としてでなく、友人として私たち一人ひとりに近づいてくださいます。そして、一人ひとりに「すべてを置いて私について来なさい。私があなたを幸せにしてあげられる事を信じなさい。」と言われます。

私たちはあの男のようにけちな者です。僅かに持っているものを一生懸命に、握りしめ決して手を空にしません。そして一番貴重な宝を見失っています。この王様も男に友情を求めていたのに、物に囚われた男は、それに気づきませんでした。その男は貧しいと言っても心の面では少しも貧しくなかったのです。

そうです！すべてを手放すような貧しさ、言い換えれば心の自由さは、ほかでもなくキリストに出会い、キリストと共に生きるもっとも確実な喜びなのです。「手ぶらで私について来ませんか。」という呼びかけこそ神キリストの心をよく表しています。神は私たちの信頼と愛情に飢えていらっしゃるのです。主イエズスのあの青年に対する態度に注目しましょう。『イエズスは彼をじっと見詰めて、愛情を込めて仰せになった。――あなたに欠けている事が一つある――。』（マルコ10・31）キリスト者はこの世の物を必要に応じて用いながら、それらの物に捕らわれる事なく、空手で主に向かう信頼の心を最大の恵みとして、求めたいものです。

『すべてを手放して』という時それは、すべてを主の手に委ねるという事です。自分のものだと思っている持ち物だけでなく、自分の時間も名誉も、とりわけ自分の失敗、過ちも主の御手にお捧げするのです。主がその全てを黄金の粒のように、変容してくださいます。

キリスト者とは、信頼してキリストについて行こうと努める人のことです。キリスト者はたとえ弱い者であっても目に見えない神の存在の立派な証となりえます。

小さいテレーズの言葉で終わりましょう。『私は弱いために過失を犯す事がよくあります。その時、私は少しも進歩していないなあと思います。しかし、私はそれを悲しむことなくかえって喜びをもってそれを認めるのです。自分の小ささと自分の弱さを感じることはなんと爽やかなこと！』

キリスト者よ、新しい年を迎えるにあたり、あなたの力を悟れ！

（パリ外国宣教会司祭　八王寺教会）

世間虚仮（こけ）唯仏是真

聖徳太子

かのときのことのは

森山　敬三

『天寿国繍帳』満願という九十五日の暁に所収。太子は に、太子が偈（げ）を作って姿を あらゆる意味に 現わした。それから後世（ごせ）が おいて、日本の 助かるという上人、親鸞が 国の基礎をつく 「よき人」といった法然に った人であるが 会い、その回心のきっかけ、それは仏教 となる。『歎異抄』は弟子 についてもいえ の唯円が、異端を歎いて、 る。太子の信仰 なくなく書いた、稀代の名 は、その後たえ 文で、何回読んでも感歎こ ず継承される中 れ久しうするものである で、特に親鸞に が、その末尾のところの、 おいて顕著とな よろづのこと、みなもて、 る。親鸞二十九 そらごと、たわごと、実（まこと）あ 歳のとき京都の ることなきに、ただ念仏の 六角堂にこもっ みぞまことにおわします。 て修行している は、そのまま前掲の和文で と、あと五日で ある。

入試説明会
●福岡会場
・12月17日（日）〔午前10時～12時〕
・大名町教会
福岡市中央区大名2－7－7（西鉄グランドホテル前）
TEL 092-741-3687　092-721-1490

聖母マリアの愛と奉仕の精神を鑑とする
純心女子短期大学
・社会科　人文社会専攻　社会福祉専攻
・保育科
・英米文化科

入学試験　福岡試験場
■出願期間　1月22日（月）～2月5日（月）
■試験期日　2月14日（水）
■試験場　大名町教会
入試係　――　〒852 長崎市三ッ山町235番地　TEL 0958-46-0084

中央出版　福岡支部
■キリスト教関係、書籍、家庭の友
■典礼聖具
■ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2―0646
行橋市駅前5秒店　☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922―5637

未来へ――安心を創る
FUJKI　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ッ角　TEL 092―521―0568